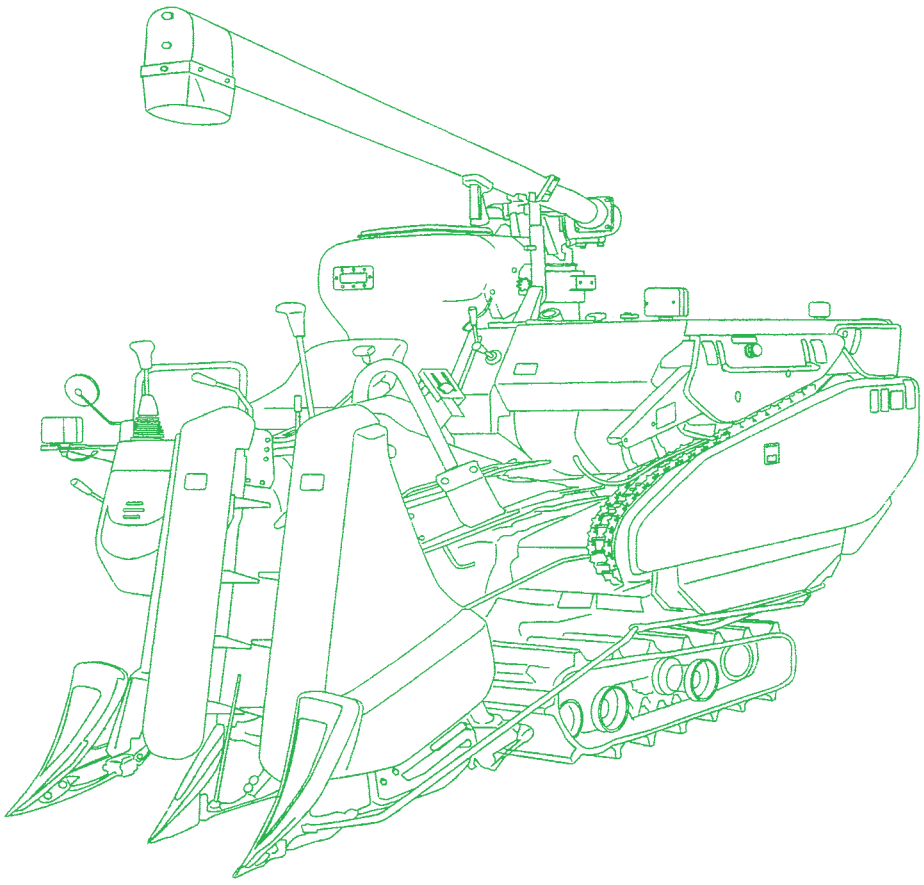
コンバイン

取扱説明書

VMA211



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

コンバイン重要ポイント

１．カッタや回転部の掃除は、

必ずエンジンを止めてから行います。

２．手こぎのときは、停車し、駐車ブレーキをかけ

手や袖口がフィードチェンに触れないようにします。

３．ほ場への出入りや、積み・降ろしするときは、

スピードを落とし、周囲の状況を確かめて行います。

４．コンバインや作業機を点検調整するときは、

必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、刈取ロックをします。

５．補助者と共同作業を行うときは、

ホーンで合図をし、周囲の安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

正しく作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で作業上ぜひ守っていただきたい事項を ⚠ を付して説明のつどとり上げております。
よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

重要なお知らせ

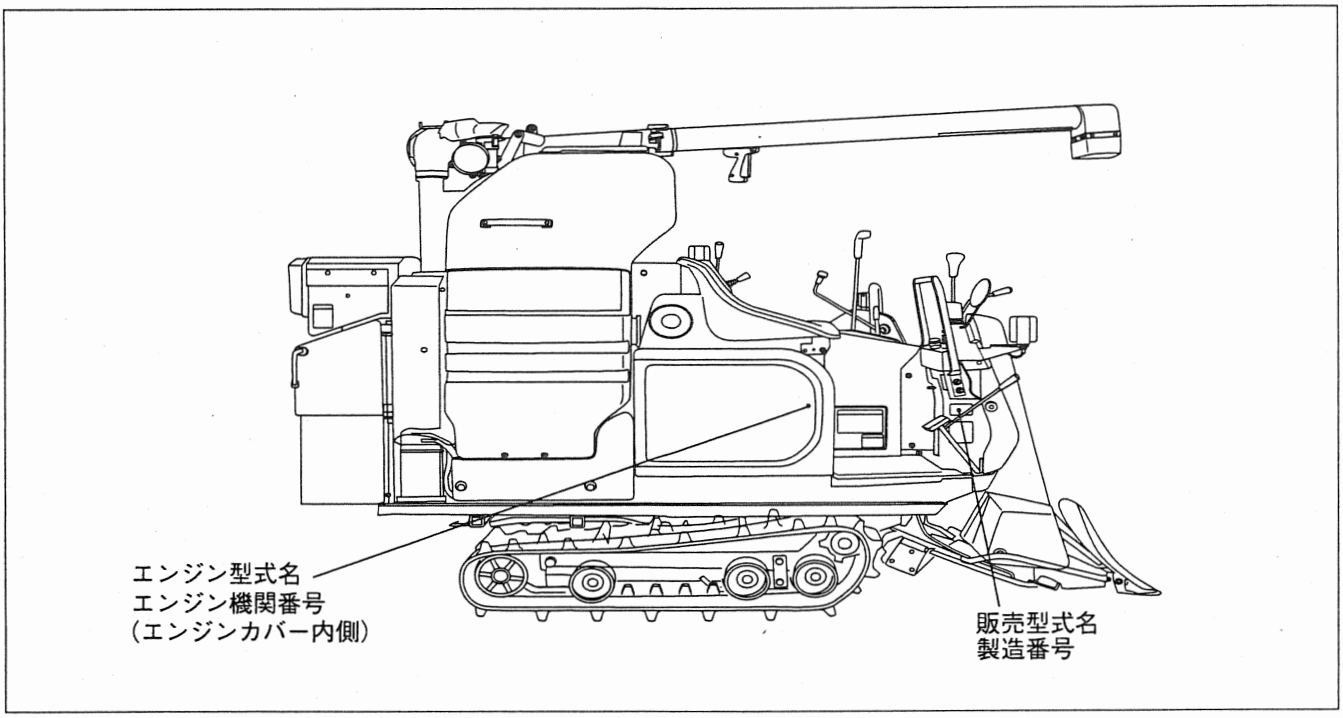
- このたびは、三菱コンバインをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、稲、麦の収穫作業機として使用してください。
  改造や使用目的以外の作業はしないでください。
  改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。
  （詳細は保証書をご覧ください。）
- 三菱農機株式会社（以降当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、三菱コンバイン（以降コンバインと記す）を改造したり、あるいは、運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- このコンバインの取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記事事項やコンバインに表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
  よって、コンバインの操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載およびコンバイン本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。
- コンバインの性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいうまでもありませんが、他方、日常の取り扱い、整備いかんによることも、また看過できません。
- コンバインは、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。このコンバインを国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外のコンバインの使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業は行わないでください。
- 本コンバインを譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書をコンバインに添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を「当社または、お買い上げ先」へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容はコンバインの改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本コンバインとこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は版権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買い上げ先」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買い上げ先」へお問い合わせください。

型式と装備内容について

■商品の使用にあたって

この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分のコンバインについて併記してあります。
お買い上げいただきました、コンバインの型式・区分を機体に貼付してあります銘板で確認され、該当する部分をお読みください。

■銘板の位置



VMA-0001

仕　様　内　容		型式区分
穀粒タンク（排出）	ホッパ	ー
	手動のびーるオーガ	G型
本　機　装　備	自動こぎ深さ制御	K型
	マルチステアリング	K型
	レセルダマチック	K型
クローラ	標準	ー
	湿田用	W型
刈　取　部	手もとデバイダ	K型
作　業　機	標準カッタ	C型

警告表示について

本コンバインを正しくお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。
また、コンバインで危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルを貼付しています。取扱説明書および警告ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

■表示の説明

⚠ 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれのあるものを示します。
注意	その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。
補足	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

⚠	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。 （右図の場合は爆発注意）	（例）
⊘	禁止行為	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。 （右図の場合は火気厳禁）	（例）
❗	強制行為	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。 （右図の場合はメガネ着用）	（例） （メガネ着用）

目　次

重要なお知らせ……i
型式と装備内容について……ii
警告表示について……iii
目次……iv

1. 使用上のポイント

1.1　使用上のご注意……1
1.1.1　運転者の条件……1
1.1.2　作業をする前に……2
1.1.3　走行する場合には……4
1.1.4　運搬時の注意事項……6
1.1.5　作業中は……7
1.1.6　毎日の作業後は……9
1.1.7　定期点検・整備について……9
1.1.8　電気配線点検時の注意事項…12
1.1.9　格納・保管時は……13
1.1.10　バッテリ取り扱い時の注意事項……14
1.1.11　ブースタケーブル使用時の注意事項……15
1.2　公道走行とナンバープレートについて…16
1.2.1　運転免許証の携帯……16
1.2.2　小型特殊自動車……16
1.2.3　市町村役場への届出と標識（ナンバープレート）の取り付け…17
1.2.4　保険について……17
1.2.5　点検整備……17
1.3　警告ラベルについて……18
1.4　警告ラベル貼付箇所……19

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証……26

3. 各部の名称とはたらき

3.1 各部の名称……27
3.1.1　全体（G型）……27
3.1.2　全体（ホッパ型）……28
3.1.3　レバー・ペダル関係……29
3.1.4　レバー・ノブ関係……30
3.1.5　スイッチ関係……31
3.1.6　レバー、スイッチ関係（G型）……32
3.1.7　メーターパネル……33

4. 作業前点検

4.1　運転席にすわる前に……34
4.2　運転席でメインスイッチを「入」にして…36

5. 運転のしかた

5.1　運転席の調節のしかた……37
5.2　エンジン始動と停止のしかた……38
5.2.1　エンジン始動のしかた……38
5.2.2　エンジン停止のしかた……40
5.2.3　燃料のエアー抜きのしかた…40
5.3　走行のしかた……41
5.3.1　マルチステアリングレバーの使いかた……42
5.3.2　走行のしかた……43
5.3.3　停車・駐車のしかた……45
5.3.4　駐車ブレーキの解除のしかた46
5.4　自動車等への積み・降ろしのしかた……47

6. 作業前の準備

6.1　コンバイン作業ができる作物とほ場……50
6.1.1　作物の条件……50
6.1.2　ほ場条件……50
6.2　コンバインの準備……51
6.2.1　ナローガイドの準備……51
6.2.2　グレンタンクの準備（G型）……51
6.2.3　オーガ受けの準備（G型）……52
6.2.4　ホッパの準備（ホッパ型）…53
6.3　作業前の注油……54
6.4　ほ場での準備……55
6.4.1　四すみの手刈り……55

7. 作業前に必要な調節

7.1 シーブ角度の調節のしかた……56
7.2 吸引ファン回転数の調節のしかた……57
7.3 排じん量の調節のしかた……58
7.4 こぎ深さ調節（手動）のしかた……58
7.5 刈取定点停止ストッパの調節のしかた…59
7.6 刈刃高さの調節のしかた（G型）……60
7.7 デバイダの調節のしかた……62
7.8 短稈作物作業時の調節のしかた……63
7.8.1 引起しチェンの調節のしかた…63
7.8.2 供給株元チェンの調節のしかた64
7.9 カッタ作業のしかた……65
7.10 バラ落とし・ドロッパ作業のしかた…66
7.11 ナローガイド（左）の調節のしかた…67
7.12 エンジン回転の合わせかた……67
7.13 作業速度の選び方……68

8. 作業のしかた

8.1 刈取作業のしかた……69
8.1.1 ほ場への乗り入れ……70
8.1.2 ほ場の刈りかた……70
8.1.3 湿田ほ場の刈りかた……71
8.1.4 倒伏作物の刈りかた……72
8.1.5 条合わせのしかた……73
8.1.6 刈高さの合わせかた……73
8.1.7 回行のしかた……74
8.1.8 緊急エンジン停止のしかた…74
8.2 籾の排出のしかた……75
8.2.1 籾の排出のしかた（G型）……76
8.2.2 グレンタンク補助取り出し口の使いかた（G型）……78
8.2.3 籾袋の交換のしかた（ホッパ型）……79
8.2.4 手こぎのしかた……80

9. 自動装置について

9.1 自動装置センサとスイッチ……82
9.2 自動こぎ深さ制御の使いかた……84
9.2.1 機能……84
9.2.2 取り扱い時の注意事項……84
9.2.3 操作のしかた……84
9.2.4 センサ位置の調節のしかた…85

10. 各部の開閉・脱着のしかた

10.1 エンジンカバーの開閉のしかた……86
10.2 供給搬送部の脱着のしかた……87
10.3 引起しカバーの脱着のしかた……88
10.4 こぎ胴カバーの開閉のしかた……90
10.5 グレンタンクの脱着のしかた（G型）……91
10.6 フィードチェンの脱着のしかた……92
10.7 カッタオープンのしかた……93

11. 点検整備

11.1 定期点検一覧表……95
11.2 オイルの点検と交換のしかた……97
11.2.1 給油一覧表……97
11.2.2 エンジンオイル……97
11.2.3 走行メインギヤーケースオイル …98
11.2.4 こぎ胴ギヤーケースオイル…100
11.3 ベルトの点検と調整のしかた……101
11.3.1 ベルトの点検と調整一覧表101
11.3.2 ファンベルト……102
11.3.3 走行ベルト……103
11.3.4 刈取ベルト……104
11.3.5 かき込みベルト……105
11.3.6 脱穀ベルト……105
11.3.7 グレンタンクベルト（G型）……106
11.3.8 グレンタンクカウンタベルト（G型）……106
11.3.9 その他の脱穀部のベルト…107

11.4 チェンの点検と調整のしかた……108
11.4.1 チェンの点検と調整一覧表 ……108
11.4.2 引起しチェン……109
11.4.3 供給株元チェン……110
11.4.4 供給穂先チェン……111
11.4.5 フィードチェン……112
11.4.6 排ワラチェン（株元）……113
11.5 ワイヤ・ロッドの点検と調整のしかた……114
11.5.1 ワイヤ一覧表……114
11.5.2 駐車ブレーキワイヤ……115
11.5.3 駐車ブレーキ……116
11.5.4 駐車ブレーキ解除……116
11.5.5 マルチステアリングロッド ……116
11.5.6 アクセルワイヤ……116
11.5.7 手もとデバイダワイヤ……117
11.5.8 穀粒排出クラッチワイヤ（G型）……118
11.5.9 刈取クラッチワイヤ……118
11.5.10 主変速（HST）レバー…118
11.5.11 副変速レバー……118
11.6 その他の点検と調整のしかた……119
11.6.1 燃料フィルタの清掃と交換119
11.6.2 エンジンオイルフィルタの交換 ……120
11.6.3 転輪・アイドルローラのグリースアップ……120
11.6.4 油圧オイルフィルタの交換 ……121
11.6.5 エアクリーナ（エレメント）の清掃と交換……122
11.6.6 ラジエータの清掃……123
11.6.7 刈取回動軸部の注油……123
11.6.8 ホース類の点検と交換……124
11.6.9 バッテリの点検……127
11.6.10 配線類、ヒューズの点検と交換……129
11.6.11 クローラの点検と調整…131
11.6.12 冷却水の点検と交換……132
11.6.13 刈刃の点検と調整……133
11.6.14 かき込みスターホイルの調整と交換……135
11.6.15 脱穀切刃の点検と交換…136
11.6.16 伸縮ラセンの点検と清掃（G型）……137
11.6.17 滑り止めゴムの清掃（G型）……139
11.6.18 カッタ刃の交換……140

12. 格納時の手入れ

12.1 日常の格納……142
12.1.1 清掃について……142
12.2 脱穀部の清掃のしかた……143
12.2.1 こぎ胴受網の抜きかた……143
12.2.2 掃除口一覧……144
12.3 長期の格納……146
12.3.1 エンジン関係の手入れのしかた……146
12.3.2 バッテリの保管……146
12.3.3 長期格納時の注油……146
12.3.4 長期格納時のグリースアップ147
12.3.5 格納のしかた……147

13. 不調時の診断と処置

……148
13.1 カッタが不調のとき……153
13.2 バラ落としが不調のとき……154

14. 付表

14.1 推奨潤滑油一覧表……155
14.2 純正オイル一覧……155
14.3 主要諸元……156
14.4 付属品一覧表……158
14.5 主要消耗部品……159
14.6 オプション一覧……162
14.7 注文部品の紹介……163

1. 使用上のポイント

このコンバインを正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。

1.1 使用上のご注意

このコンバインを正しくお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んで理解し、正しく活用してください。記号の説明については「警告表示について」の説明を参照してください。

1.1.1 運転者の条件

⚠警告

こんなときは、運転をしないでください。

- **過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき**
- **18才未満の人**
- **妊娠しているとき**
- **酒を飲んだとき**

※ 守らないと、誤操作しやすく、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



運転中は、必ず運転免許証を携帯してください。

このコンバインは道路運送車両の保安基準を満たしています。
このコンバインを運転し、道路を走行する場合は、小型特殊自動車運転免許が必要です。

作業に適した服装を着用してください。

はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具等をつけて、だぶつきのない服装をしてください。

※ 機械に巻き込まれたり、すべって転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



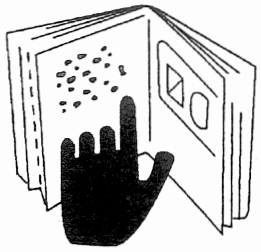


⚠警告

機械を貸すときは正しい使い方を指導してください。

取り扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

※　借りた人が機械の運転に不慣れなため、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

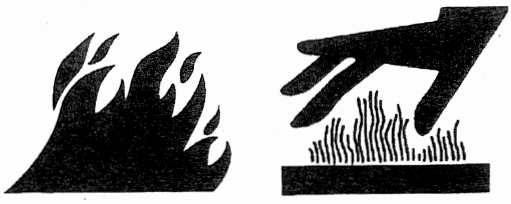


1.1.2　作業をする前に

⚠危険

燃料補給は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
また、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

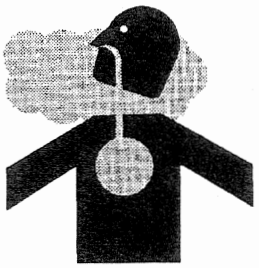
※　守らないと、燃料に引火し、やけどや火災の原因になります。



閉め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。

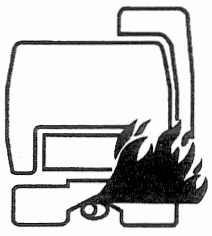
エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

※　守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故の原因になります。



エンジン本体、マフラ周辺、ベルトおよびプーリ周辺、バッテリ周辺にたまっているワラくずは、きれいに取り除いてください。

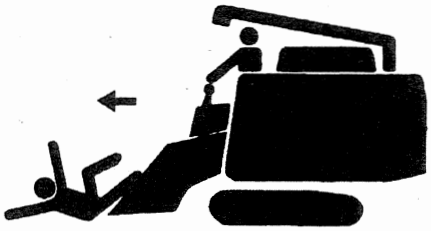
※　守らないと、火災の原因になります。



⚠警告

エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



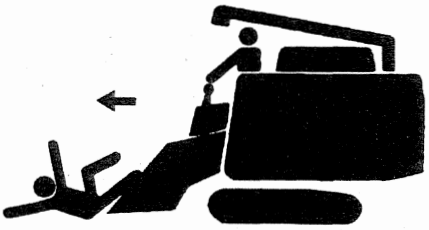
コンバインを運転する前に保護カバー類をすべて取り付けてください。

※ 守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



無理、無駄のないゆとりある作業計画をたててください。

※ 守らないと、あせり等から傷害事故を引き起こすおそれがあります。



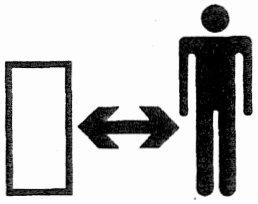
必ず点検・整備を行ってください。

※ 守らないと、傷害事故や、機械の故障を引き起こすおそれがあります。



コンバインを発進するときは、周囲の状況を確認し、コンバインの近辺に人を近づけないようにして、ゆっくり発進してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



夜間作業は危険ですからしないでください。

※ 転倒や傷害事故の恐れがありますので早めに作業を切り上げてください。

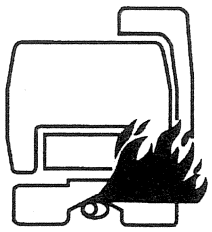


1.1.3 走行する場合には

⚠危険

コンバインを草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、高回転にしたりしないでください。

※ 守らないと、排気管の熱や排気ガスにより、ワラ等に着火し火災の原因になります。

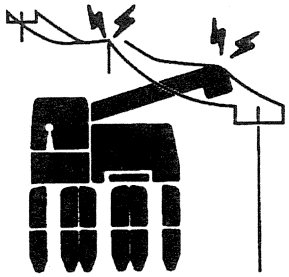


⚠警告

道路走行するときは、「収納」指示部は必ず収納してください。

- バンパをつけてください。
- ナローガイドを収納してください。
- 排出オーガは、オーガ受けに収納してください。

※ 守らないと、衝突し、傷害事故等を引き起こすおそれがあります。



必要以上の高速運転、急発進、急停車および急旋回はしないでください。
凹凸の激しい路面での高速走行は、しないでください。
路面状態に応じた適切な速度で走行してください。

※ 守らないと、衝突・転倒・転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 警告

農道では路肩に注意してください。
側溝のある農道や、両側が傾斜している農道を走行するときには、速度を落として十分注意して走行してください。

※ 守らないと、路肩が崩れて、転倒・転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



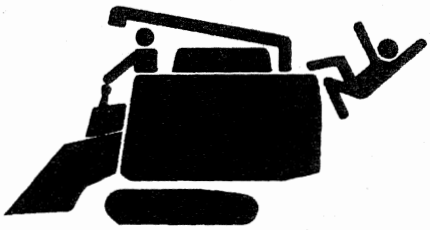
運転者は座席に座って運転してください。

※ 守らないと、転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

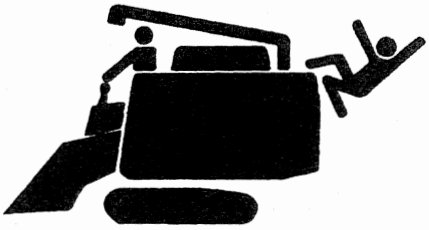


非常の場合を除いて通行中または作業中のコンバインに飛び乗り、または飛び降りをしないでください。

※ 守らないと、転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



座席には、運転者以外は乗せないでください。
また、機体の上には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。
※ 守らないと、転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



坂道では、刈取部をできるだけ下げ、必ず、ゆっくりと上り・下り旋回してください。
※ 守らないと、転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



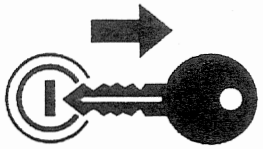
コンバインを駐車する場所は、平たんで広い地面の硬い場所を選んでください。やむを得ず坂道で駐車するときは、駐車ブレーキをかけ、さらに木片等で車止めをしてください。
※ 守らないと、コンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 警告

コンバインから離れるときは、エンジンを停止し、メインスイッチキーを抜き取り、駐車ブレーキをかけてください。

※ 守らないと、コンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

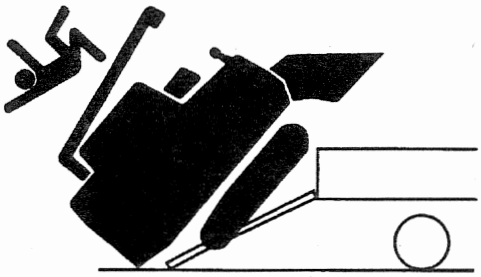


1.1.4 運搬時の注意事項

⚠ 警告

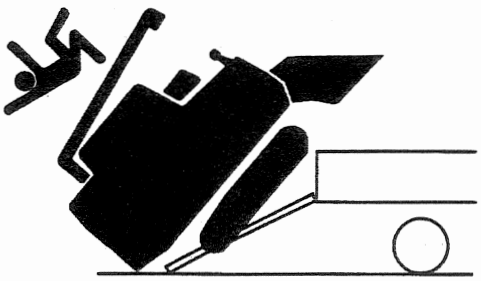
積み・降ろし時、トラックは、エンジンを止めて、変速を「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行ってください。

※ 守らないと、積み・降ろし時、トラックが動いて転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



トラックへの積み・降ろしは、長さ・強度・幅の十分あるアユミを使用してください。アユミは丈夫ですべり止めのある、基準に合ったものを使ってください。

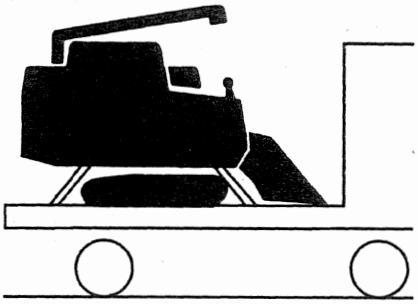
※ 守らないと、アユミが折れて転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

トラック等で運搬するときは、必ず機械に駐車ブレーキをかけロープで荷台に固定してください。
また、運搬中は不用意な急発進・急旋回・急ブレーキをしないでください。

※　守らないと、コンバインが動き出し、転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



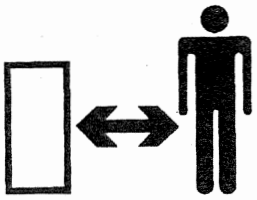
積み・降ろし途中ではブレーキペダル、副変速レバー、マルチステアリングレバーは操作しないでください。

※　守らないと、バランスがくずれて、転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



積み・降ろし時は、誘導者を付け、周囲の状況を十分に確認してください。機械の直前や直後、真横には、絶対に立たないでください。

※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



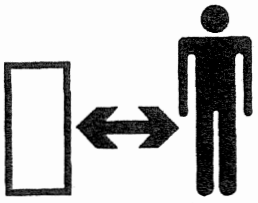
1.1.5　作業中は

気象条件等に注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。

⚠警告

作業中は回りの人に注意（特に子供）してください。
作業中は、作業者以外の人を機械に近づけないでください。
作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、ホーン等で合図してから行ってください。

※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

- **あぜを横断するときは、脱穀部を止めて、低速で、あぜと直角にゆっくり走行してください。**
- **あぜの高さが高いところ（段差が10cm以上）でのほ場の出入りでは、必ずアユミを使用してください。**
- **グレンタンク内の穀粒はすべて排出してください。**

※ 守らないと、バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



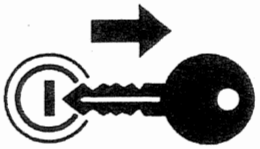
手こぎのときは、指さきや作業服の袖がフィードチェンに巻き込まれないように注意してください。
手こぎ時には、刈取部、走行部を停止して作業をしてください。

※ 守らないと、巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



詰まりの除去時は、必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。

※ 守らないと、傷害事故をを引き起こすおそれがあります。



回転部や作業部・マフラ・ラジエータ・エンジン等の過熱部、バッテリ端子等の通電部等危険な箇所には、手を触れないでください。

※ 守らないと、傷害事故をを引き起こすおそれがあります。



1.1.6 毎日の作業後は

⚠危険

エンジン本体、マフラ周辺、ベルトおよびプーリ周辺、バッテリ周辺にたまっているワラくずは、きれいに取り除いてください。

※ 守らないと、火災の原因になります。



1.1.7 定期点検・整備について

⚠危険

過熱部分の点検・整備は十分冷えてから行ってください。

- エンジン停止後すぐに、点検・整備をしないでください。エンジン等の過熱部分が十分に冷えてから行ってください。
- ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後十分冷えてから注意して開けてください。

※ 守らないと、熱湯が噴出してやけど等、傷害事故の原因になります。



刈刃の調整後、本機取付前に刈刃を手で動かし、作動が重くないことを確認してください。

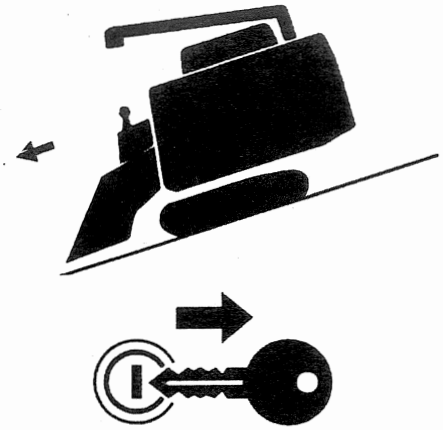
※ 守らないと、発熱してワラ等に着火し、火災の原因になります。



⚠ 警告

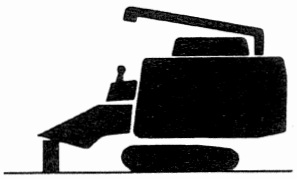
- **点検・整備は明るく、地面が平たんで硬く、広い場所を選び、刈取部を地面に降ろし、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチを抜いて行ってください。**
- **各レバーを「切」にし、エンジンやその他可動物が完全に停止してから行ってください。**

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



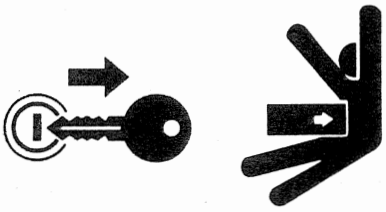
刈取部を上げて点検・整備する場合には、必ず刈取ロック装置を「ロック」位置にし、さらに刈刃の下に木片、ブロック等のしっかりした台を敷いて固定してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



グレンタンクを開くときは、エンジンを停止しメインスイッチキーを抜いて、平たんな場所で行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は絶対にしないでください。

※ 守らないと、傷害事故や機械の故障を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。

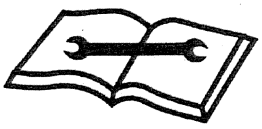
※　守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠注意

点検・整備は適正な工具を正しく使用して行ってください。
また、コンバインには、点検・整備に必要な工具類を常備してください。

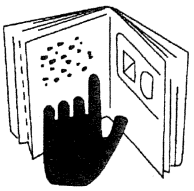
※　守らないと、整備中の傷害事故や整備不良による傷害事故を引き起こすおそれがあります。



注意

取扱説明書に従って定期点検を実施してください。

※　機械を長持ちさせるとともに、効率的な作業が行える第一歩です。

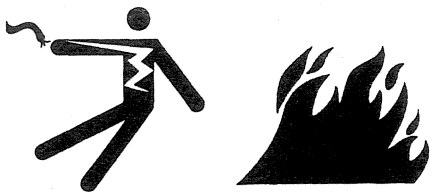


1.1.8 電気配線点検時の注意事項

⚠危険

配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、早めに交換・修理してください。

※ 守らないと、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電し、火災・傷害事故の原因になります。



バッテリ、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミ等は、きれいに取り除いてください。

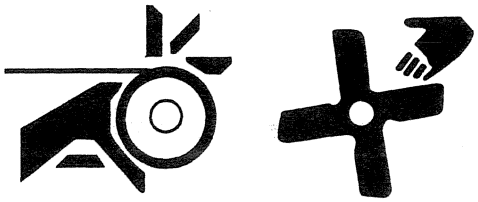
※ 守らないと、火災の原因になります。



⚠警告

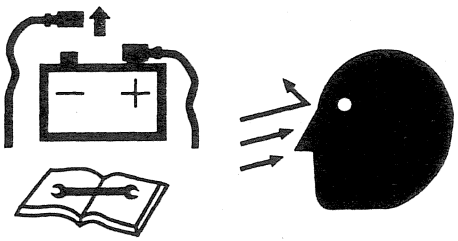
電気配線の点検は、必ずエンジンを停止しメインスイッチキーを抜いて行ってください。

※ 守らないと、手や衣服を回転部に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



接続部の点検は、メインスイッチを「切」にし、バッテリの㊀コードを外して行ってください。

※ 守らないと、スパーク（火花がとぶ）感電し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1.1.9　格納・保管時は

バンパを取り付け、刈取部はいっぱい下げておいてください。

⚠危険

エンジンが過熱している間に、シートをかけないでください。

※　守らないと、火災の原因になります。



マフラ周辺部、ベルトカバー内、バッテリ周辺にたまっているワラくずは、きれいに取り除いてください。

※　守らないと、火災の原因になります。



- **燃料パイプの破損や、燃料漏れがないか必ず点検してください。**
- **長期格納するときは、燃料タンクを満タンにしてサビや水の発生を防いでください。**

※　守らないと、やけどや火災の原因になります。



長期格納する場合は、バッテリケーブルを取りはずしてください。
取りはずすときは㊀コードから取りはずしてください。

※　守らないと、ネズミ等がかじったりしたとき、ケーブルがショートして発火し、火災の原因になります。



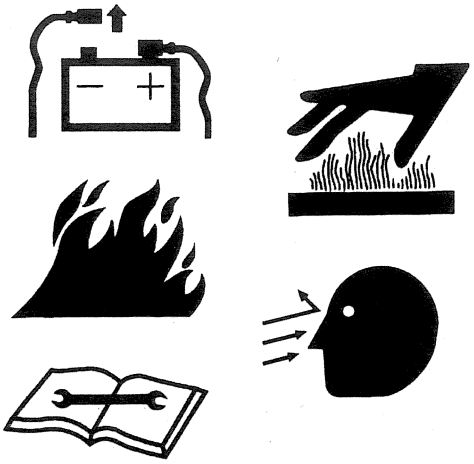
1.1.10 バッテリ取り扱い時の注意事項

⚠ 危険

バッテリの取り付け・取り外しは、正しい手順で行ってください。

バッテリの取りはずしは ㊀ コードを取りはずした後、㊉ コードを取りはずしてください。取り付けは㊉コードを付けた後、㊀コードを取り付けてください。

※ 守らないと、ショートやスパークして、やけどや火災の原因になります。



バッテリ液（電解液）は希硫酸で劇物です。バッテリ液を身体や衣服に付けないようにしてください。

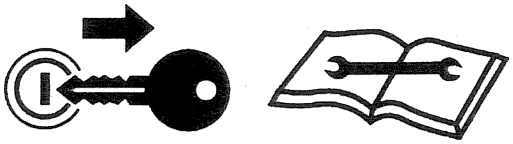
もし、目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

※ 守らないと、失明ややけど等、傷害事故の原因になります。



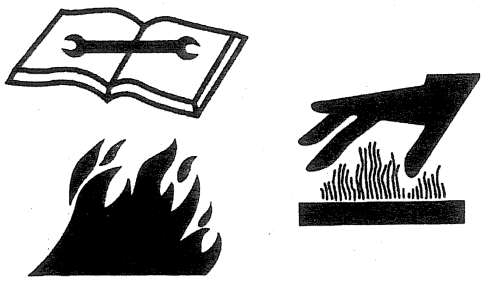
バッテリの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。

※ 守らないと、電気部品を損傷したり、傷害事故の原因になります。



バッテリの交換は、指定された型式のバッテリ44B19Lを使用してください。

※ 守らないと、ショートして、やけどや火災の原因になります。



⚠ 危険

バッテリの吸気孔は、ふさがないでください。
※ 守らないと、爆発して、やけどや火災の原因になります。




バッテリの点検時に、ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。
※ 守らないと、引火爆発の原因になります。




バッテリの充電は通風のよいところで行ってください。
※ 守らないと、引火爆発の原因になります。



1.1.11 ブースタケーブル使用時の注意事項

ブースタケーブル使用時には、危険のないように取り扱ってください。

⚠ 危険

ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。
※ 守らないと、ブースタケーブルが熱をもったり、火災や焼損するおそれがあります。



⚠ 警告

ブースタケーブル接続前に、エンジンを停止してください。
※ 守らないと、電気部品を損傷したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1.2 公道走行とナンバープレートについて

⚠注意

このコンバインは小型特殊自動車（刈取脱穀作業車）として、道路運送車両の保安基準を満たしています。
ご使用の際は以下の点を遵守してください。

1.2.1 運転免許証の携帯

このコンバインを運転し、道路走行する場合は、小型特殊自動車の運転免許が必要です。運転中は、必ず運転免許証を携帯し、道路交通法の定めに従って、安全で正しい運転をしてください。

1.2.2 小型特殊自動車

(1) 道路走行時「取り外し」指示のある作業機および、「収納」指示のある部分は必ずその指示に従ってください。

(2) 次のようなことは絶対にしないでください。
①走行装置などの構造の改造
②型式の異なるエンジンの搭載
③各封印部分の開封
これらの改造変更は、「不法改造」に該当し、違法行為となり、一切の保証はいたしませんのでご注意ください。

(3) 作業灯を点灯させたまま道路を走行することは違法行為になるとともに、他の車両の交通を阻害し危険です。
道路走行中、作業灯は必ず消灯してください。

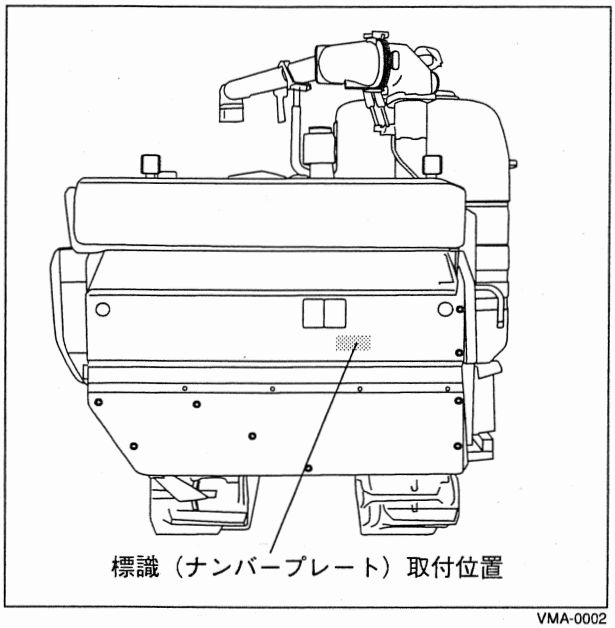
1.2.3 市町村役場への届出と標識（ナンバープレート）の取り付け

(1) このコンバインの所有者となられた方は、市町村条令の定めにより市町村役場に届出て、標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。

(2) 届出には、小型特殊自動車取得証明書（「お買い上げ先」で準備いたします）と、軽自動車税及び印鑑を添えて提出してください。なお、届出の手続きは、市町村により多少異なることがありますので、詳細はお買い上げ先にご相談ください。

(3) 交付された標識（ナンバープレート）は、コンバイン後部の標識（ナンバープレート）取付場所に確実に取り付けてください。

(4) 市町村役場より年一回、納税通知が郵送されますので、軽自動車税を納税してください。



標識（ナンバープレート）取付位置

VMA-0002

1.2.4 保険について

農作業用の小型特殊自動車は、自動車損害賠償責任保険に加入することができません。
万一の交通事故補償に備えて、任意保険に加入しておかれることをお勧めします。

1.2.5 点検整備

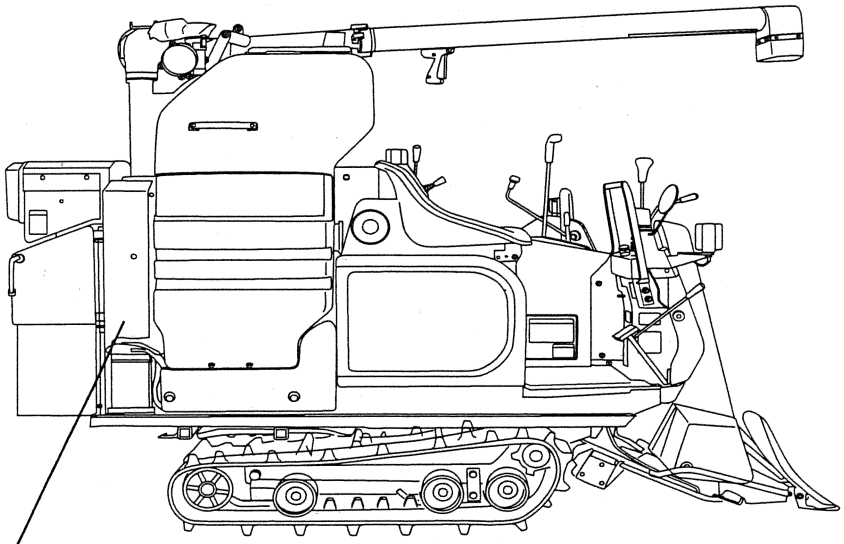
このコンバインは、必要に応じて点検整備を実施し、常に保安基準に適合するよう維持することが求められます。また、灯火類の点灯、ブレーキのききなどは、日常的に点検整備する必要があります。
点検整備は、「お買い上げ先」にお申し付けください。

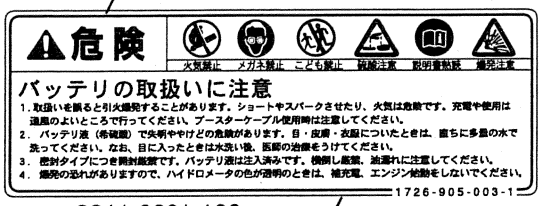
1.3 警告ラベルについて

- 本機には、安全に作業をしていただくため、「警告ラベル」が貼付してあります。
  必ずよく読み、これらの注意に従ってください。
- 警告ラベルが破けたり、剥れたり、読めなくなったときは、新しいラベルに貼り替えてください。
- 警告ラベルには洗車時、直接圧力水をかけないでください。剥がれやすくなる場合があります。
- 泥等が付いた場合は、きれいに拭きとり、いつでも読めるようにしてください。
- 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同じラベルを貼付した部品に交換してください。
- 警告ラベルは、お買い上げ先にご注文ください。

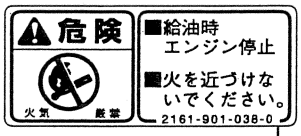
1.4 警告ラベル貼付箇所

⚠危険

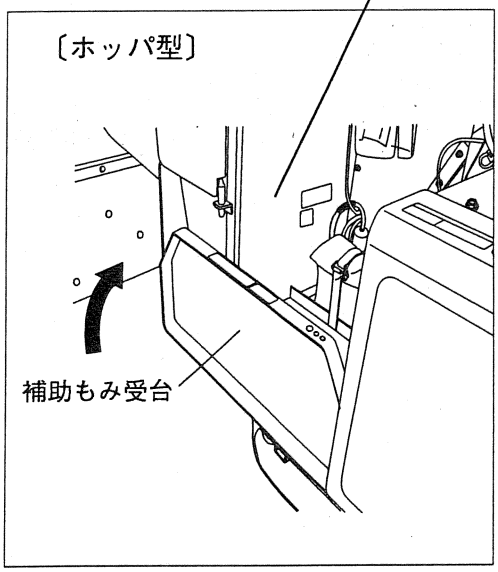


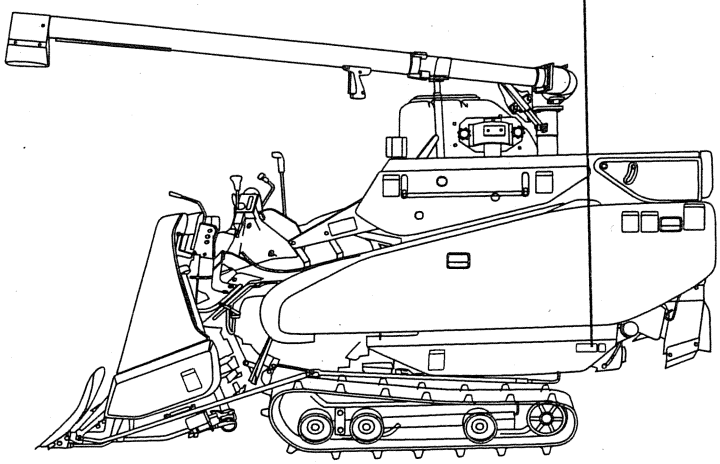


9911-0001-100



9020-7153-860





VMA-0003

⚠警告

2694-6010-350

⚠ 警 告

エンジンが高温のときには熱い蒸気が出るのでキャップをあけないでください。

1668-904-007-1

9911-0000-960

⚠警 告

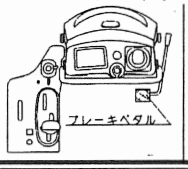
ファンが回転しています。
エンジンが動いている時は、回転部に近づかないでください。

1668-904-002-1

9731-0000-670

⚠ 警 告

ブレーキレバー操作の注意



ブレーキペダルは、ロックするまで、すばやく踏み込んでください。機械が急発進したり、左右に振られることがありますので、途中で止めたり、ゆっくり踏み込まないでください。

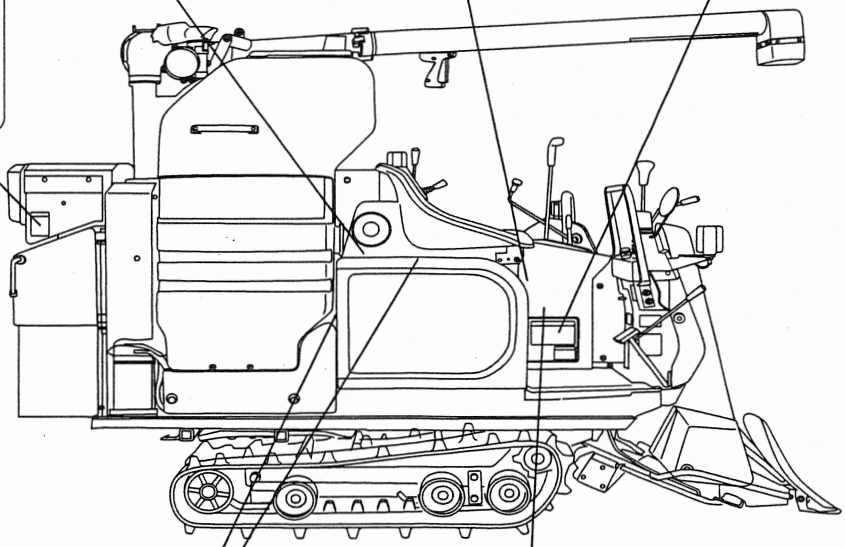
3843-901-005-0

9731-0000-170

⚠ 警 告

回転刃に接触し、ケガをする危険性があります。手を近づけないでください。

3880-901-006-0



⚠ 警 告



やけどをするのでマフラーにさわらないでください。

1675-905-007-0

9020-7153-870

⚠ 警 告

安全にほ場作業するために、次のことを必ず守ってください。転倒などのおそれがあります。

〔湿田・うね〕
- タンク内の穀粒を減らし作業してください。
- 急発進・急旋回をしないでください。

〔畦越え〕
- タンク内の穀粒をすべて排出してください。
- 低速でゆっくり走行してください。
- 運転者は下車してください。
- コンバインは畦に対して直角に進行させ、10cm以上の段差のある場合は、必ずアユミを使用してください。

〔ほ場間移動〕
- タンク内の穀粒をすべて排出して移動してください。

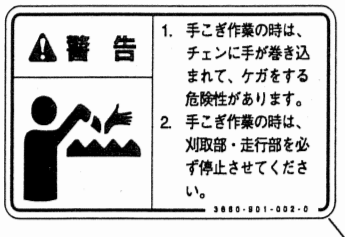
3814-901-024-0

(G型)
9731-0000-350

VMA-0004

⚠警告

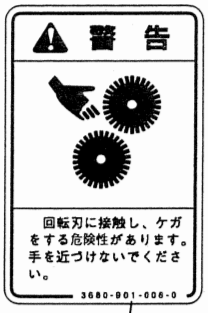
9731-0000-130

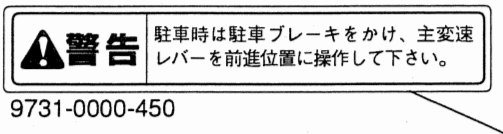


9731-0000-160



9731-0000-170

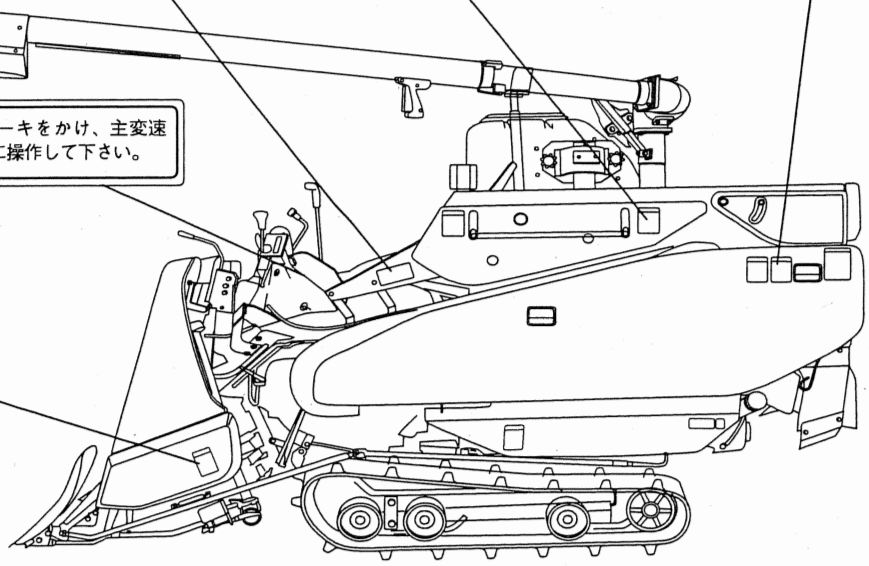


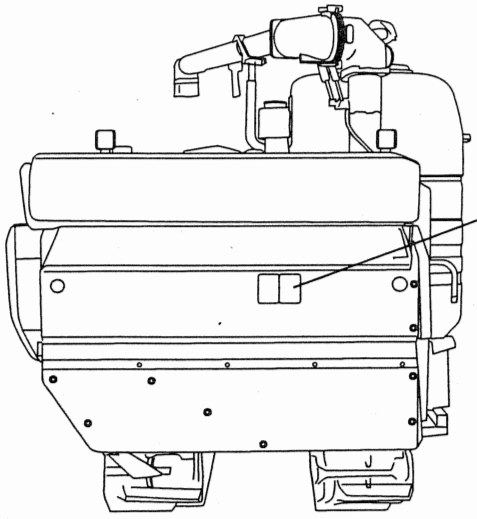


9731-0000-450



9731-0000-140







9731-0000-690

VMA-0005

⚠注意

9731-0000-220

⚠注意

安全で正しい運転をするために取扱説明書をよく読んで下さい。

1．保護カバー類はすべて所定の位置に取付けてください。
2．機械から離れたり、点検調整したりする前にはエンジンを停止し、機械が動かないようにしてください。（特に刈取上下ロックは確実にしてください。）
3．機械の手入れは各部の動きが止ってからしてください。
4．動力の伝導部・回転部・作動部には、手足や衣服等を近づけないでください。
5．機械には他の人を近づけないでください。
6．エンジンの始動前・機械の運転開始前にはまわりに人がいないことを確認してください。
7．土手の上り下り畦越え等の移動は注意してください。
8．バンパ・ナローガイド・補助もみ受台（ホッパ仕様）等は所定の位置で走行してください。
9．駐車ブレーキペダルは、走行中及び、トラックへの積み降ろし中は踏まないでください。
10．路肩の軟弱な道路、ガケ際等は転落等の重大事故につながるので、走行しないでください。
11．道路交通法の規定により、トラック運搬時は地上高 3.8m 以下（特にキャビン付）で運行してください。

3873-901-002-0

9731-0000-180
（G型）

⚠注意

スクリュに接触し、ケガをするおそれがあります。
エンジン運転中は、手を近づけないでください。

3680-901-007-0

⚠注意

排出作業時以外はオーガを縮めてロックをピンに引っ掛けてください。
オーガを伸ばしたままだと、障害物にぶつけたり故障の原因になります。

ロック
ピン

3814-902-026-0

9731-0000-370
（G型）

9911-0000-970

⚠注意

バッテリーを外すときには、必らず、アース側をさきに外してください。

1668-904-003-0
3704 569 M1

（G型）

9731-0000-250

⚠注意

刈取部を上げて、点検整備を行う時には、必ずロックしてください。

3805-901-035-0

911-0000-920

⚠注意

カバーを外したまま使用すると、ケガをする恐れがあります。必ず取付けて使用してください。

1675-905-012-0

（G型）

⚠注意

ギヤーに巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。
メインスイッチを「切」にして点検してください。

3680-901-011-0

9731-0000-200

⚠注意

ケガをするおそれがありますので運転中は手を入れないでください。

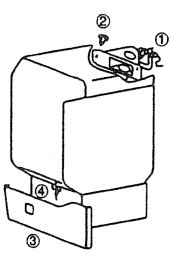
3533-901-015-0

9731-0000-070

（G型）

⚠注意 タンクを脱着する時は、エンジンを停止してください。

グレンタンク脱着のしかた



○タンク内に穀粒が入っているときは穀粒を取出した後取り外してください。
1．カプラ①を外してください。
2．タンク上部のノブボルト 2ヵ所を外してください。
3．ロワータンクカバー③を外してください。
4．タンク下部のロック④を外してください。

◎タンクを取り付ける時は、上部のノブボルト②を取り付けた後に下部のロック④をし、ロワータンクカバー③とカプラ①を取り付けてください

3873-901-013-0

9731-0000-360

（G型）

⚠注意

駆動しているベルトに接触しケガをするおそれがあります。
エンジン運転中は、カバーを開けないでください。
カバーは必ず取付けて使用ください。

3823-901-001-0

9731-0000-600

VMA-0006

⚠注意

9731-0000-610

⚠ 注 意

駆動しているチェンに接触しケガをするおそれがあります。
エンジン運転中は、カバーを開けないでください。
カバーは必ず取付けて使用ください。

3823-901-002-0

9731-0000-620

⚠ 注 意

駆動しているベルトに接触しケガをするおそれがあります。
エンジン運転中は、カバーを開けないでください。
カバーは必ず取付けて使用ください。

カッタをオープンする時は、
○必ずエンジンを停止してからこのカバーを開けてください。
○傾斜地ではオープンしないでください。

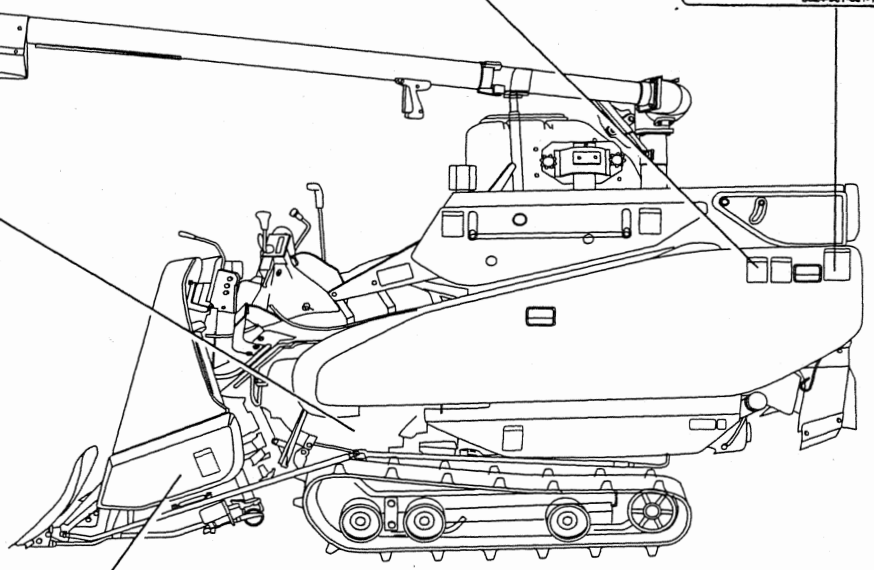
3824-901-001-1

⚠注 意

移動時は収納してください。

3662-901-121-0

9731-0000-110



9911-0000-920

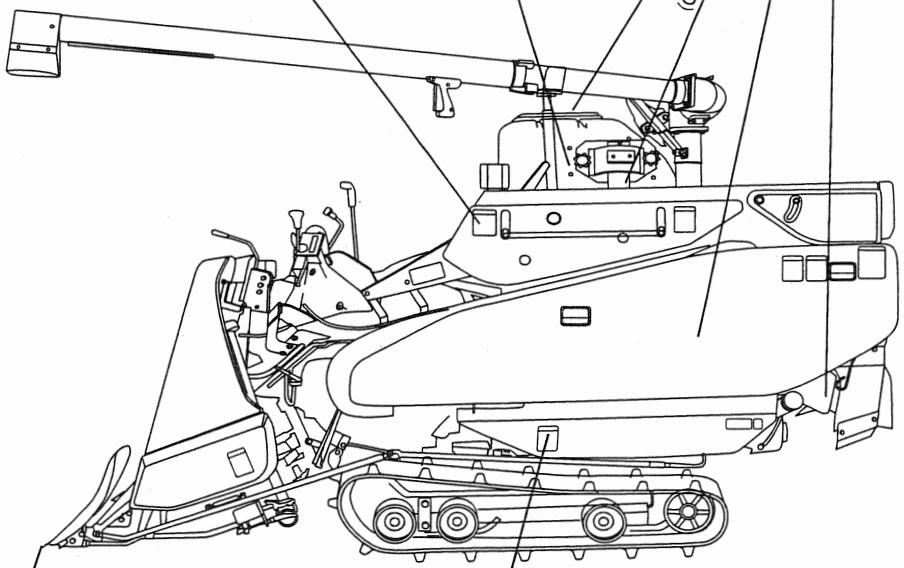
⚠ 注 意

カバーを外したまま使用すると、ケガをする恐れがあります。必ず取付けて使用してください。

1675-905-012-0

VMA-0007

⚠注意



⚠ 注 意

回転部に接触し、ケガをするおそれがあります。
エンジン運転中は、カバーを開けないでください。
3580-901-004-0

9731-0000-150

⚠ 注 意
脱穀部の上には乗らないでください。
3580-901-009-0

9731-0000-190

⚠ 注 意

ケガをするおそれがありますので運転中は手を入れないでください。
3533-901-015-0

9731-0000-070

9731-0000-080

⚠注意 移動時は装着してください
3533-901-028-0

⚠ 注 意

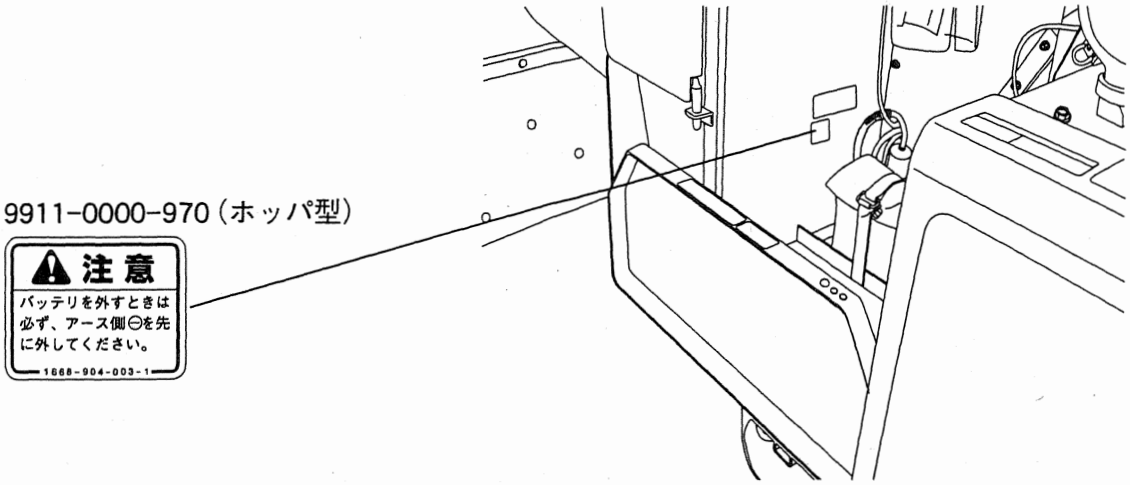
駆動しているベルトに接触しケガをするおそれがあります。
エンジン運転中は、カバーを開けないでください。
カバーは必ず取付けて使用ください。
3823-901-001-0

9731-0000-600

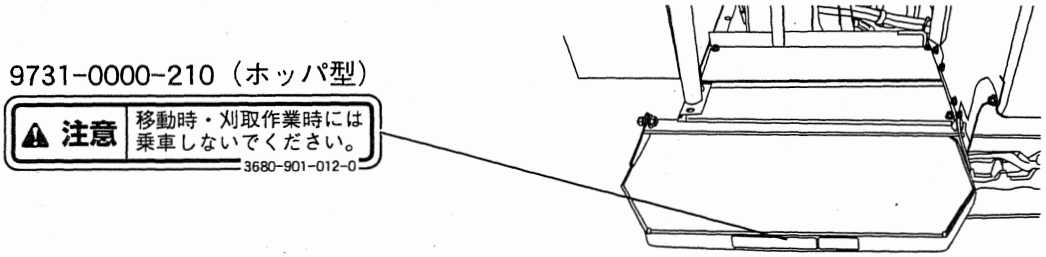
VMA-0008

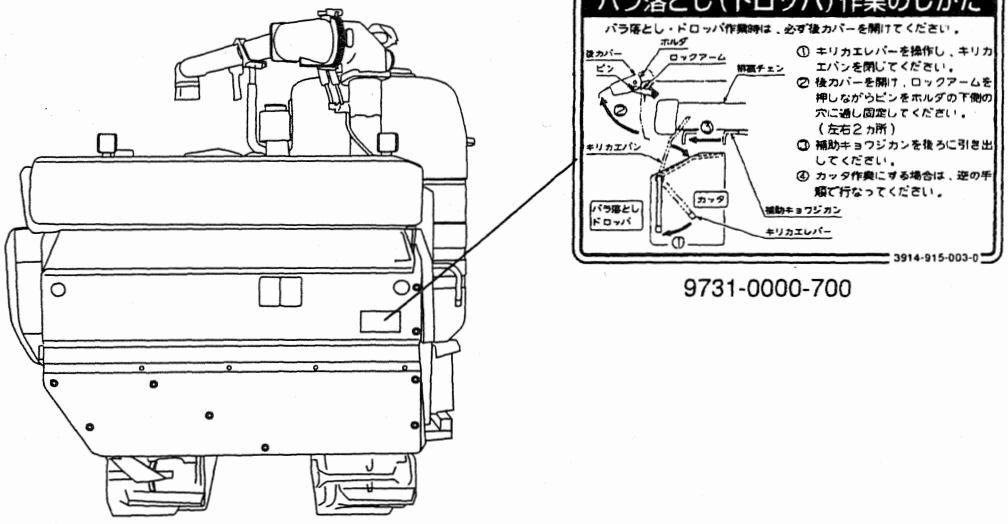
⚠注 意

9911-0000-970（ホッパ型）



9731-0000-210（ホッパ型）





9731-0000-700

VMA-0009

2. 保証とサービスについて

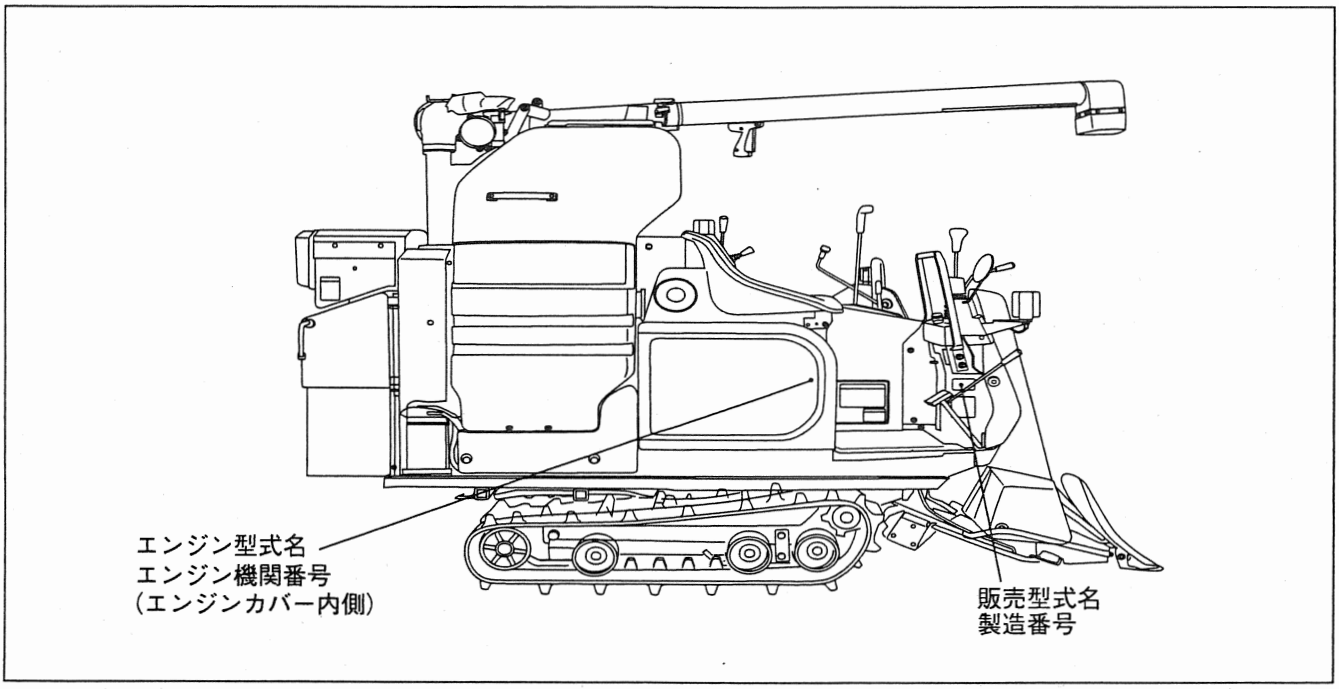
2.1 商品の保証

この商品には、三菱保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げ先へお気軽にご相談ください。その際、

(1) 販売型式名と製造番号
(2) エンジン型式とエンジン機関番号

をご連絡ください。



VMA-0001

■補修用部品供給年限について

- この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。
  ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。
- 補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

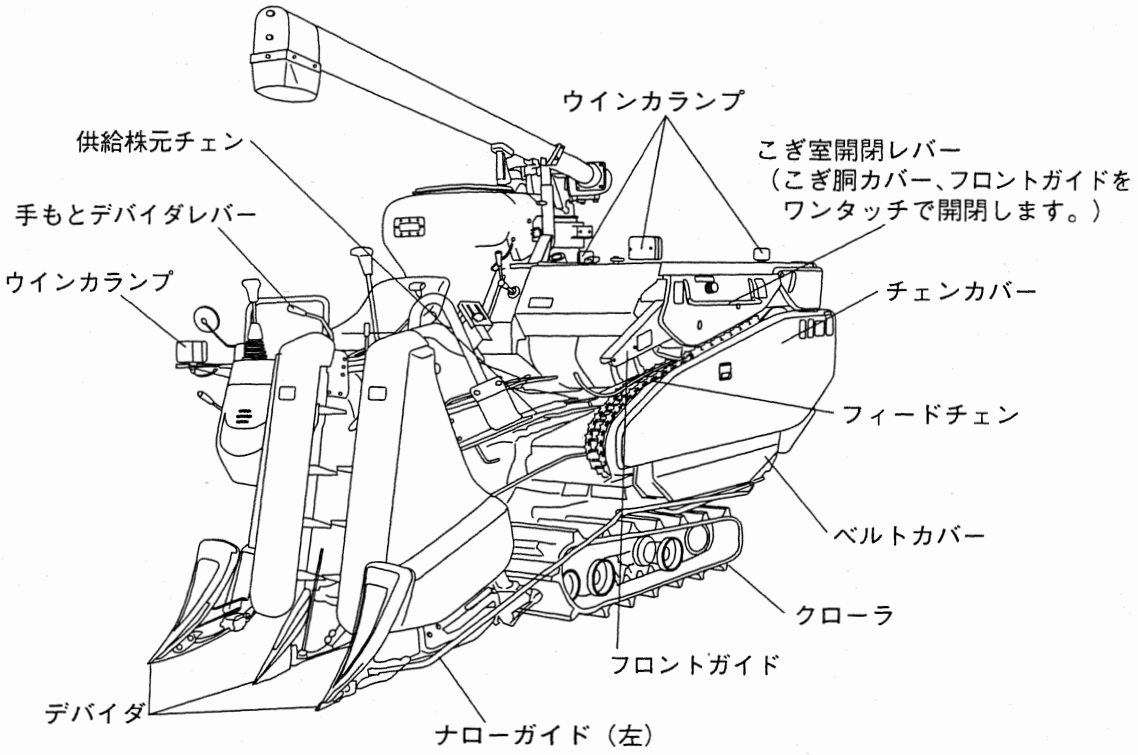
■塗装について

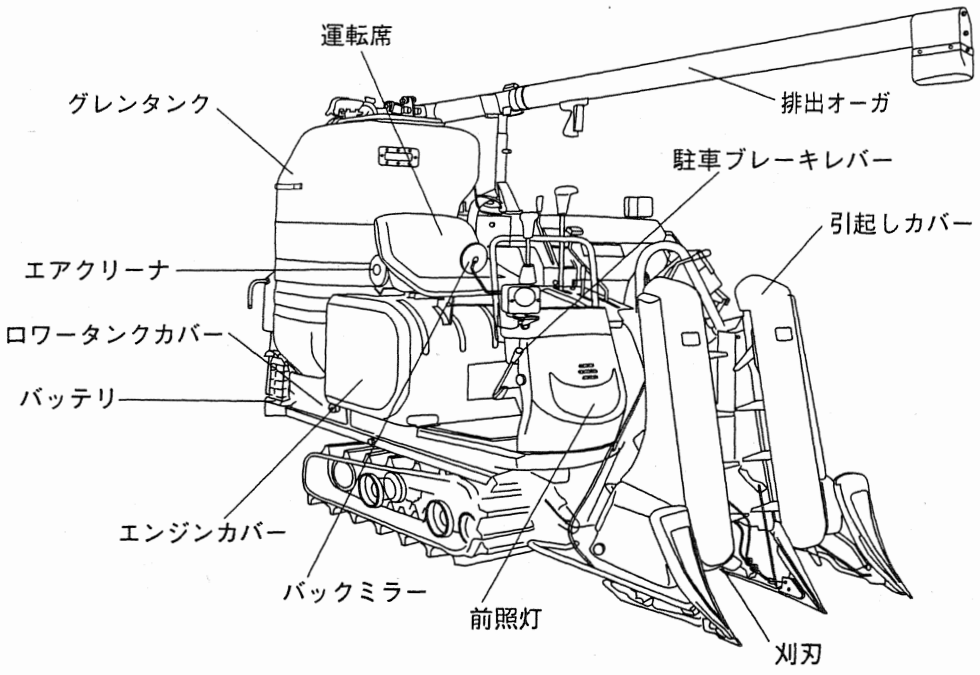
本商品は、作業時間の経過と共に塗装表面が摩耗して下地が見えてくる場合がありますが、品質上何ら支障ありませんので、ご了承ください。

3. 各部の名称とはたらき

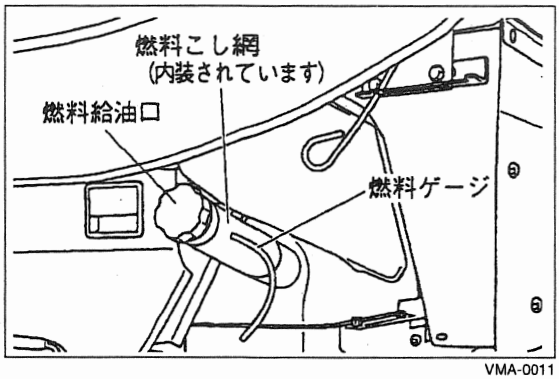
3.1 各部の名称

3.1.1 全体（G型）



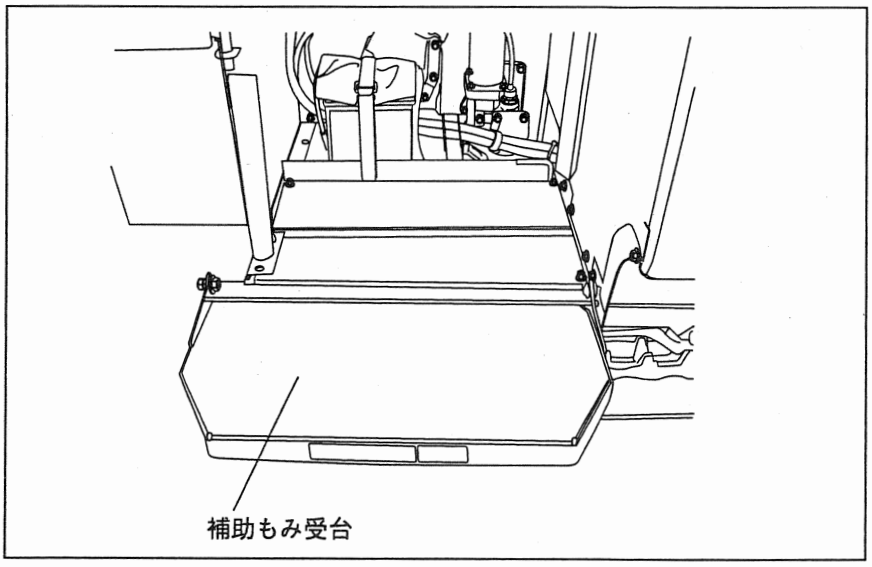


VMA-0010



VMA-0011

3.1.2 全体（ホッパ型）



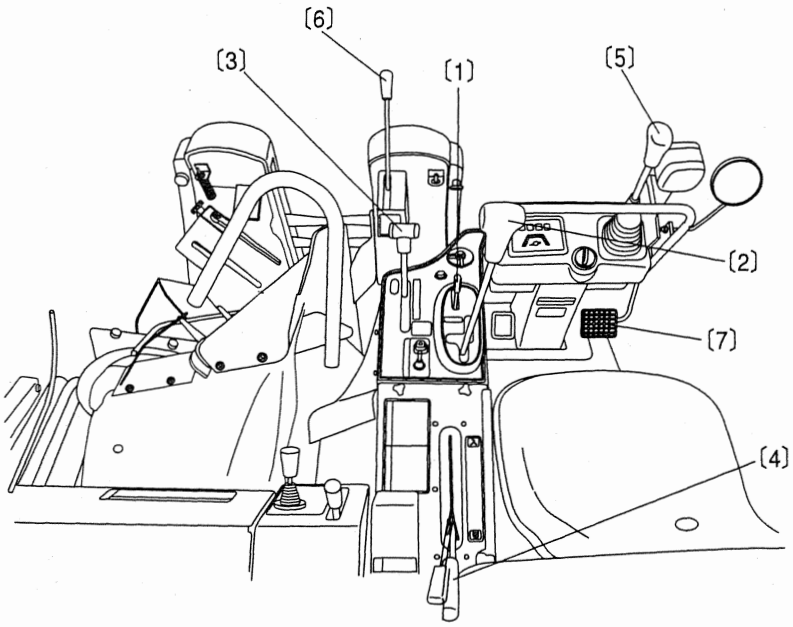
VMA-0012

3.1.3 レバー・ペダル関係

⚠ 警 告

ブレーキペダルは、エンジン始動時と緊急停止用です。それ以外では使用しないでください。

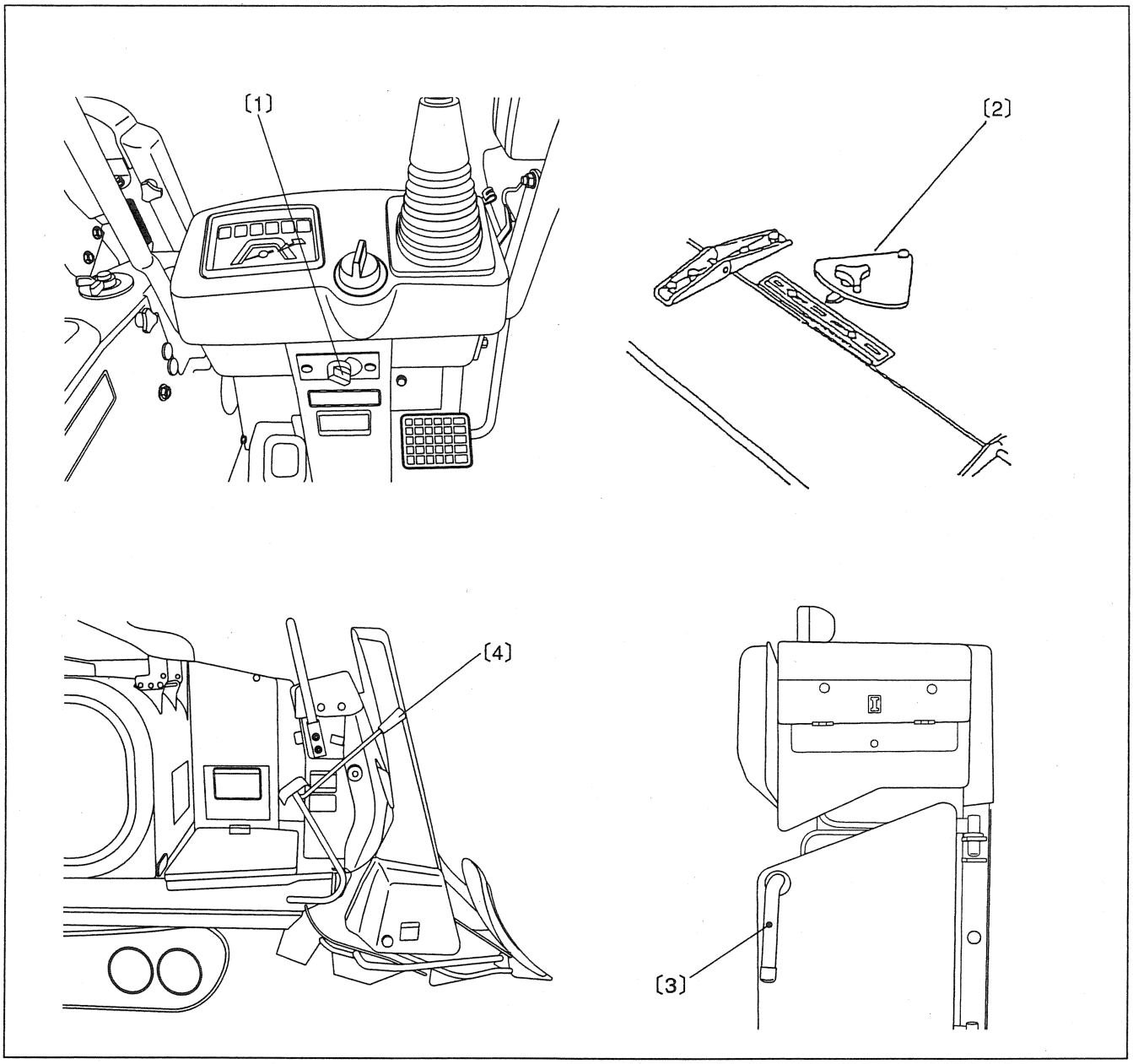
※ 途中で止めたり、ゆっくりと踏み込むと、機械が急発進したり、左右に振れることがあり転倒、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



VMA-0014

番号	名　称	機　能
[1]	アクセルレバー	レバーを後方に引くと、エンジン回転が上がり、前方に押すと、エンジン回転が下がります。
[2]	主変速レバー	レバーを前方に押すと「前進」、後方に引くと「後進」します。 中立位置で左に倒すと駐車ブレーキの解除ができます。
[3]	副変速レバー	「標準」「走行」の速度が選べます。
[4]	脱穀・刈取クラッチレバー	レバーを「脱穀·入」にすると、脱穀部が回ります。さらに「刈取·入」にし、主変速レバーを前方に押すと刈取部も回ります。
[5]	マルチステアリングレバー	レバーを前後に操作すると、刈取部が上下し、左右に操作すると、倒し量に応じて機体の方向修正と旋回ができます。
[6]	手もとデバイダレバー	レバーを手前に引き、刈幅を広げ、中割り、回り刈りを行います。通常は、レバーを前に倒し、刈幅を狭めて使用します。
[7]	ブレーキペダル	踏みこむとブレーキがかかり、ブレーキペダルがロックされます。 解除するときは、主変速レバーを中立「●位置」で左に倒します。

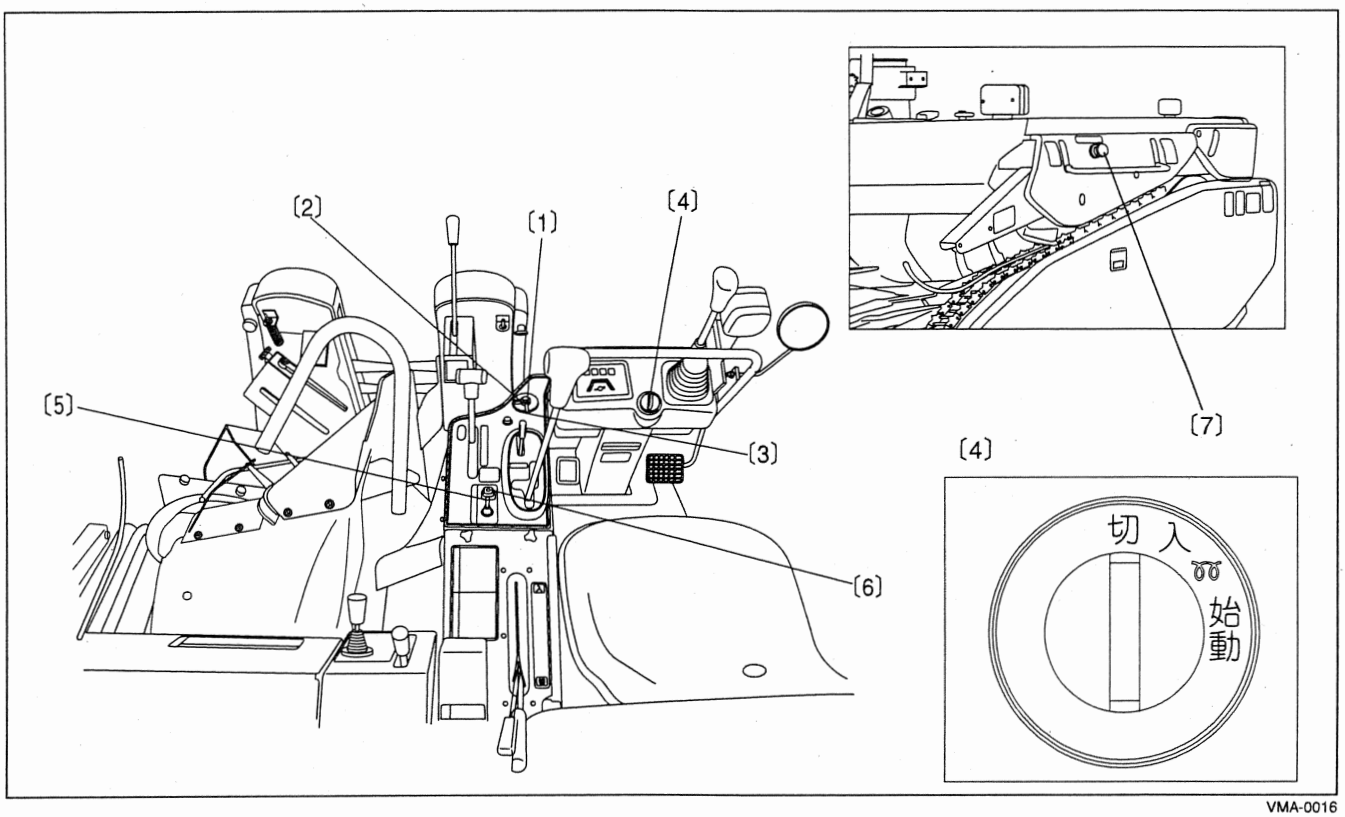
3.1.4 レバー・ノブ関係



VMA-0015

番号	名　称	機　能
[1]	刈取ロックノブ	ノブを「ロック」側にすると、刈取部は下がりません。マルチステアリングレバーが前後方向（刈取上下方向）に動かなくなります。
[2]	排じん量調節ノブ	こぎ室内のワラ屑の送りを調節します。作物の条件に応じて調節できます。
[3]	作業機切換レバー	カッタ作業とドロッパ作業の切り換えができます。
[4]	駐車ブレーキレバー	レバーを前方へ一杯に倒すと、駐車ブレーキがかかります。解除するときは、主変速レバーを中立「●位置」で左に倒します。

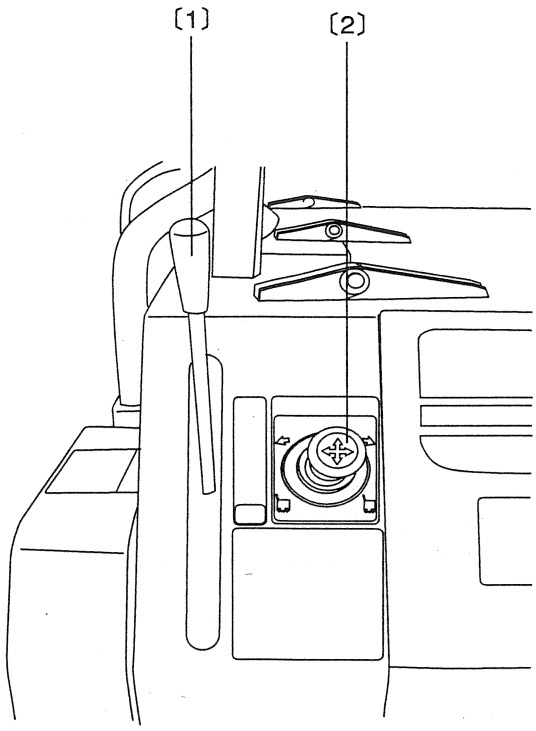
3.1.5 スイッチ関係



VMA-0016

番号	名　称	機　能
[1]	ホーンボタン (ホーン停止ボタン)	ボタンを押すと、ホーンが鳴ります。又警報ブザーが鳴ったとき、このボタンを押すと鳴りやみます。
[2]	前照灯スイッチ	スイッチを「 ≡D 」にするとパネルと前照灯が点灯します。
[3]	ウインカスイッチ	スイッチを右に回すと右の、左に回すと左のウインカが点滅します。右折又は左折が終ったらすぐにスイッチを中央の位置に戻してください。
[4]	メインスイッチ	「切」……エンジンを停止するとき使用します。 「入」……電装品が作動します。 「ᔓᔓ(予熱)」……エンジンを予熱します。 「始動」……エンジンを始動するときに使用します。 セルモータが回転し、エンジンが始動します。
[5]	手動こぎ深さ調節スイッチ	表示マークの方向にスイッチを操作し、こぎ深さを手動調節できます。
[6]	自動こぎ深さ制御スイッチ	スイッチを押すとスイッチが点灯し、こぎ深さが自動的に調節されます。
[7]	緊急エンジン停止スイッチ	作業中、スイッチを押すと、エンジンが止まります。(脱穀クラッチレバー「入」時のみエンジンが停止します。)

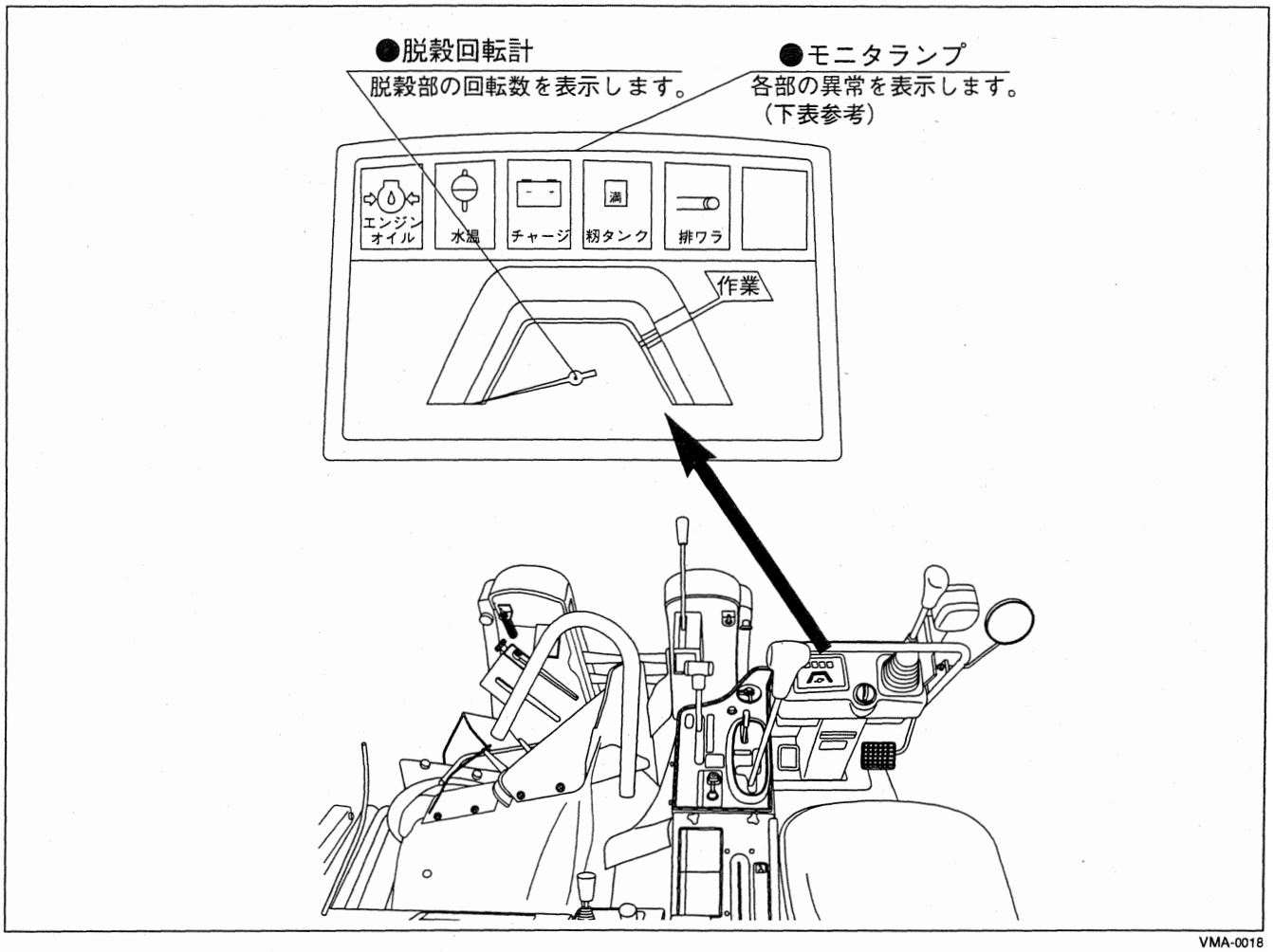
3.1.6 レバー、スイッチ関係（G型）



VMA-0017

番号	名　称	機　能
[1]	籾排出レバー	レバーを「排出」にすると、タンク内の穀粒が排出されます。
[2]	オーガ操作レバー	排出オーガ位置を手動で操作するときに使用します。 排出オーガを上下、左右に動かせます。

3.1.7 メータパネル



〔モニタランプのはたらき〕

モニタ名称	表示・警報			異常の内容
	点灯	ブザー	エンジン停止	
エンジンオイル	○	―	―	エンジンオイルが不足です。
水温	○	○	―	エンジンが過熱しています。
チャージ	○	―	―	エンジン運転中、充電していません。
籾タンク	○	○（断続）	―	籾タンクが満杯です。
排ワラ	○	○	○	排ワラ搬送が詰まっています。

補　足

- **警報ブザーを止めるときはホーンボタンを押してください。**
- **警報ブザーは脱穀クラッチ「入」のときのみ鳴ります。**

4. 作業前点検

⚠警告

駐車ブレーキをかけ、平たんな広く地面の硬い場所を選んでください。
※　守らないと、機体が動き出し、衝突事故などを引き起こすおそれがあります。

燃料を補給するときは火気厳禁です。くわえタバコ等をしないでください。
※　守らないと、爆発や火災などを引き起こすおそれがあります。

給油、注油および回転部等の点検は、必ずエンジンを止め、メインスイッチキーを抜いてから行ってください。
※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

燃料、オイルがこぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
※　守らないと、爆発や火災などを引き起こすおそれがあります。

点検時にカバーを開けたり、取り外したりした場合は、必ず元に戻して作業してください。
※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

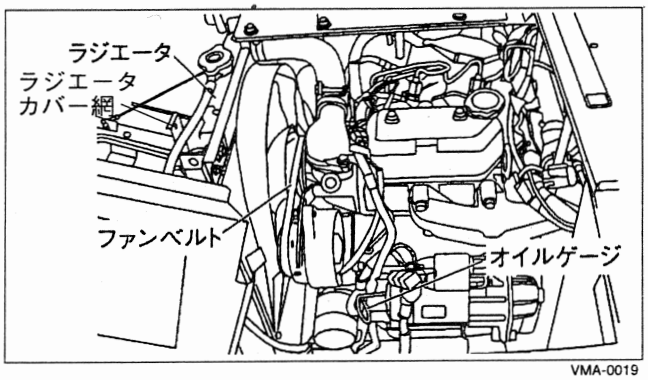
補　足

- **処置しても異常が直らないときはお買い上げ先に調整の依頼をしてください。**

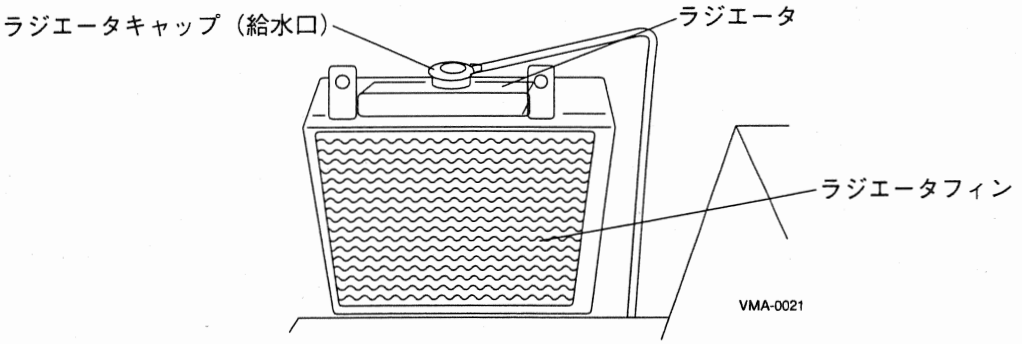
4.1　運転席にすわる前に

点検箇所	点検項目	処　置	参照ページ
エンジンオイル	オイルゲージの上下限線の間に油量がありますか。	補給します。 ディーゼルエンジンオイル 10W−30（CC級以上）	97
冷却水	ラジエータキャップを外して冷却水が見えますか。	吸水口いっぱいまで冷却水を補給します。	132
ラジエータの防塵装置 （エンジンカバーをオープンして）	ラジエータカバー網が目づまりしていませんか。	網面についているホコリなどを清掃します。	35，123
	ラジエータフィンは目づまりしていませんか。	フィンについているホコリなどを清掃します。	35，123
標識（ナンバープレート） 反射器・バックミラー	汚れはありませんか。	汚れをふきとります。	17，35
燃料タンク	作業に必要な量がありますか。 （燃料ゲージを見てください）	ディーゼル軽油を補給します。 （JIS2号）（寒冷地はJIS3号） 燃料ゲージに油面が見えない場合は、早めに燃料を補給してください。 燃料タンク内に水、ゴミ等が入らないよう給油時は燃料こし網を取らないでください。 給油後は燃料キャップを確実に締めてください。	35
エンジン・マフラ周辺	ワラ屑・ホコリが溜まっていませんか。	エンジンカバー、グレンタンクを開きホコリなどを清掃します。	86，91

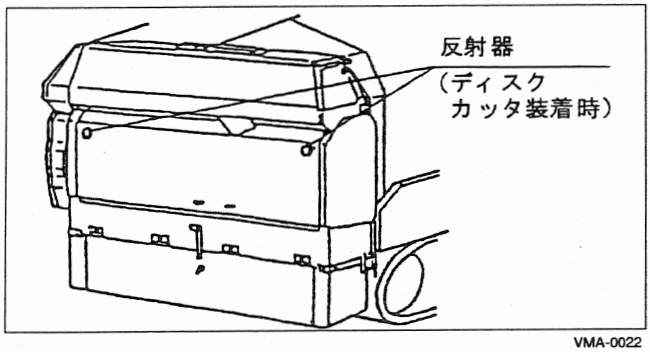
点検箇所	点検項目	処　置	参照ページ
クローラ (☞ 27ページ)	亀裂はありませんか。	交換はお買い上げ先に相談してください。	131
	たるみはありませんか。	張り量を調節します。(転輪とクローラのスキマ10～15mm)	
刈刃、チェン	チェン等が乾いていませんか。	油さしで注油します。 エンジンオイル30＃	54
ファンベルト	指で押したときのたわみ量は適正ですか。	張り量を調節します。 (たわみ量14～15mm程度)	102
マルチステアリングレバー (☞ 29ページ)	操作したときに、旋回しなかったりレバーの遊びが大きくないですか。(☞ 42ページ)	お買い上げ先に調整を依頼してください。	―
ブレーキペダル (☞ 29ページ)	駐車ブレーキの効きは悪くないですか。(☞ 45ページ)	お買い上げ先に調整を依頼してください。	―



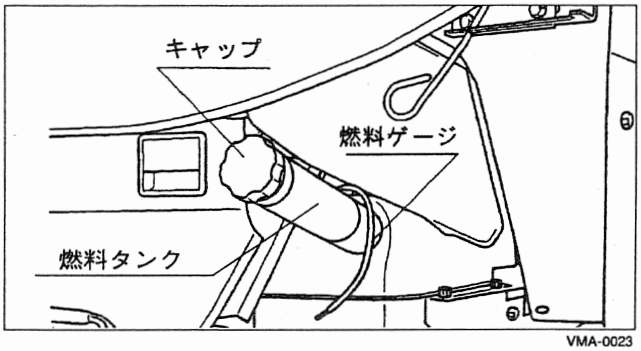
VMA-0019



VMA-0021



VMA-0022



VMA-0023

4.2 運転席でメインスイッチを「入」にして

点検箇所	点検項目	処　置	参照ページ
前照灯・ウインカランプ (☞ 27ページ)	前照灯スイッチ、ウインカスイッチを操作すると、点灯、点滅しますか。 (☞ 31ページ)	球切れ、ヒューズ切れ、配線のはずれを処置します。	129
ホーン	ホーンボタンを押せば鳴りますか。(☞ 31ページ)	ヒューズ切れ、配線のはずれを処置します。	129
バックブザー	エンジンを始動して主変速レバーを「後進」にすると、ブザーが鳴りますか。(☞ 38ページ)	ヒューズ切れ、配線のはずれを処置します。	129

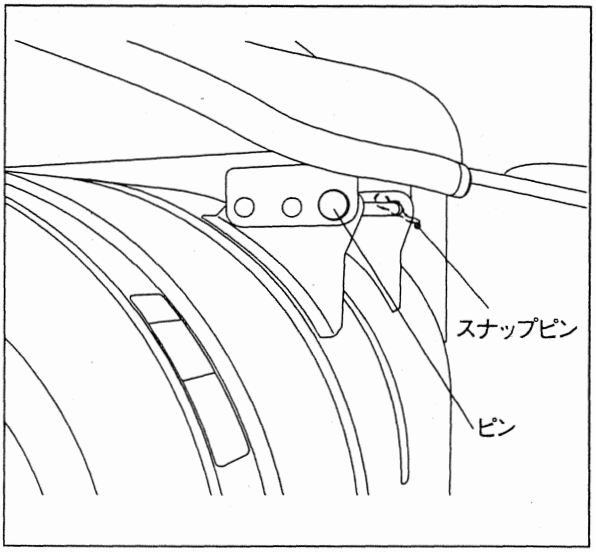
5. 運転のしかた

5.1 運転席の調節のしかた

運転席は前後に調節できます。体形に合わせて調節してください。

1 スナップピンを取り外してピンを抜き取り、体形に合った位置に穴を合わせて、ピンを差込みます。

2 スナップピンを差し込み固定します。



VMA-0025

5.2 エンジン始動と停止のしかた

⚠警告

保護カバー類が取り付けてあるか確認してください。
※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

主変速レバー・副変速レバーを「中立」、各クラッチレバーを「切」にして始動してください。
※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

始動する前に、周囲の人にホーンで合図してください。
※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

室内で始動する場合は、十分に換気をしてください。
閉め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。
※　守らないと、排気ガスなどによる中毒を引き起こすおそれがあります。

5.2.1 エンジン始動のしかた

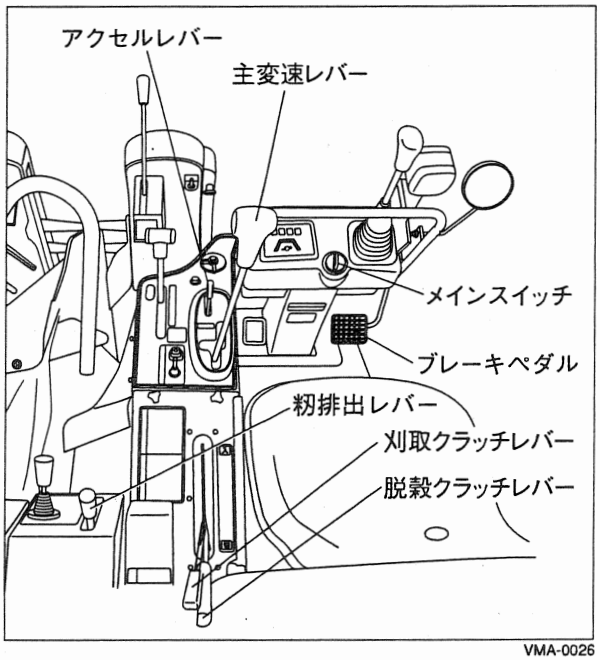
1 主変速レバーを「中立」(「●」位置) にします。

2 刈取・脱穀クラッチレバーを「切」にします。(G型は、籾排出レバーも「切」にします。)

3 駐車ブレーキをかけます。(駐車ブレーキペダルを踏み、ロックする。)

4 アクセルレバーを一杯引きます。

5 メインスイッチを「 ⁰⁰ (予熱)」位置に回し、5～10秒間予熱します。(☞31ページ)



VMA-0026

6 メインスイッチを「始動」位置に回し、エンジンを始動します。

補　足

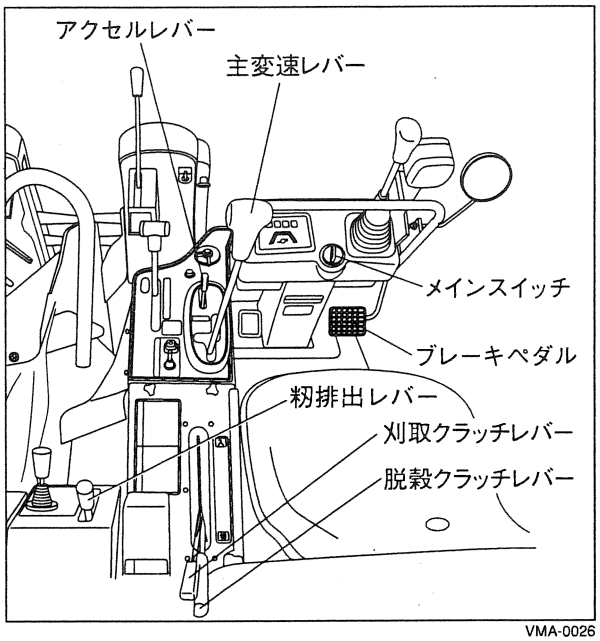
- 10秒程スタート操作をしてもエンジンが始動しない場合はメインスイッチを「切」にし、20秒以上休止してから再び操作してください。
- 脱穀クラッチレバーが「入」のときはエンジンが始動できません。
- エンジン始動時に主変速レバーが「中立」（「●」位置）になっていない場合は、必ず主変速レバーを「中立」（「●」位置）にしてから、操作してください。
- 駐車ブレーキがロックされていないときは、エンジンが始動できません。

5.2.2 エンジン停止のしかた

1 主変速レバーを「中立」(「●」位置) にします。

2 脱穀、刈取クラッチレバーを「切」にします。(G型は、籾排出レバーも「切」にします。)

3 メインスイッチを「切」にすると、エンジンは止ります。



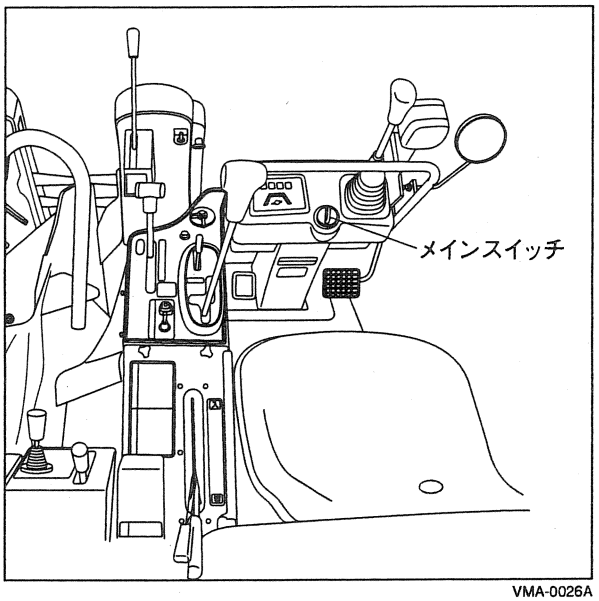
VMA-0026

5.2.3 燃料のエアー抜きのしかた

燃料タンクが空になり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まってしまいます。もし、このようなことが起こったら燃料を満タンにしたうえで、メインスイッチを「入」位置のままで20～30秒待ってから「始動」位置にしてください。自動的にエアー抜きが行われ、エンジンがかかります。

1 エンジンの始動手順に従って、メインスイッチを「入」の位置にし、20～30秒待った後、メインスイッチを「始動」にします。

2 エンジンが始動するまで数回「始動」操作をします。



VMA-0026A

5.3 走行のしかた

⚠警告

急発進、急制動、急旋回はしないでください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

機体の上には、人、穀粒、物等を乗せないでください
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

機械の周囲に人がいないことを必ず確認し「ホーン」で合図してください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

道路で右・左折するときは、ウインカで合図し、低速で行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

必ず減速してからゆるやかに旋回してください。
※　守らないと、衝突・転倒・転落事故のおそれがあります。

コンバインから離れるときは、平たんな場所に駐車し、駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めて、メインスイッチキーを抜いてください。
※　守らないと、機体が動き出し、衝突事故を引き起こすおそれがあります。

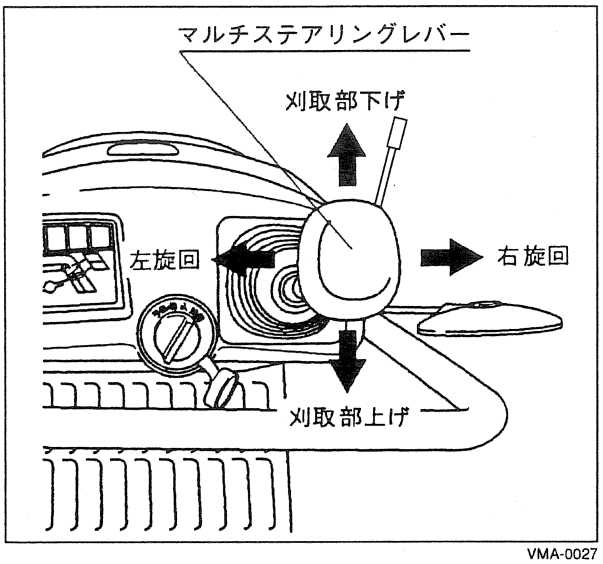
坂道で駐車しないでください。やむを得ず坂道で駐車するときは、駐車ブレーキをすばやくかけ、さらに木片等で車止めをしてください。
※　守らないと、機体が動き出し、衝突事故を引き起こすおそれがあります。

穀粒タンク内の穀粒を必ず排出してから走行してください。
※　守らないと、転倒・転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

側溝のある農道や両側が傾斜しているあぜ道を走行する時は、速度を落として十分注意してください。
※　守らないと、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。

5.3.1 マルチステアリングレバーの使いかた

マルチステアリングレバーで刈取部の上下と、機体の方向修正、旋回ができます。



VMA-0027

(1) レバーを前、後に操作すると、刈取部の上下ができます。
(2) レバーを左、右に操作すると、方向修正から旋回までできます。
レバーの倒し量に応じて、ブレーキ力が変わります。ゆるやかな方向修正から、コーナー旋回まで、条件に合わせて操作してください。
- ゆるやかな方向修正
左、右に軽く倒します。
- コーナー旋回
左、右にいっぱい倒します。

5.3.2 走行のしかた

⚠警告

道路を走行するときは常にバンパを付けてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

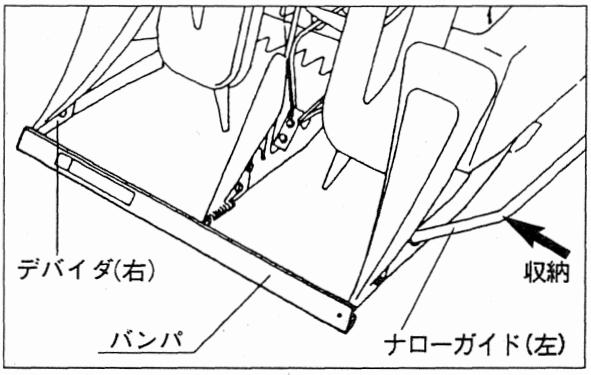
傾斜地では、副変速レバーの切換えはしないでください。
※ 守らないと、コンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

必ず減速してから、ゆるやかに旋回してください。
※ 守らないと、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。

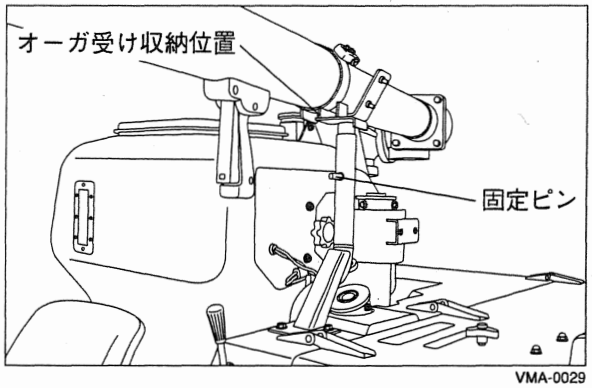
1 手もとデバイダレバーを操作して右側の分草杆を収納し、バンパをつけます。

2 ナローガイド（左）を収納します。



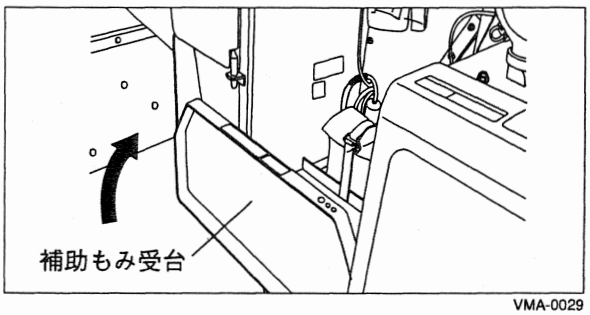
VMA-0028

3 オーガ受けを収納位置にし、固定ピンで固定し（☞ 52ページ）排出オーガをオーガ受けに収納します。（G型）



VMA-0029

4 補助もみ受台を収納します。（ホッパ型）



VMA-0029

5 メインスイッチを操作して、エンジンをかけます。

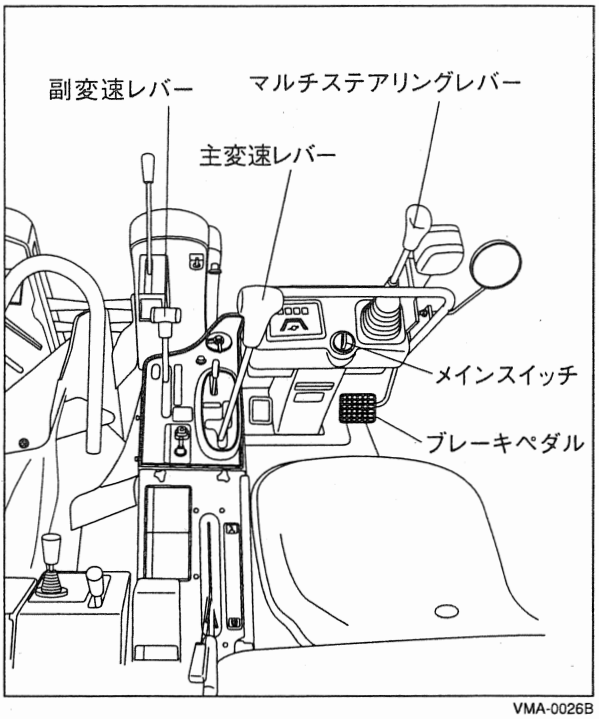
6 マルチステアリングレバーを操作して、刈取部を上げます。（☞ 29ページ）

7 副変速レバーを「標準」または「走行」にします。

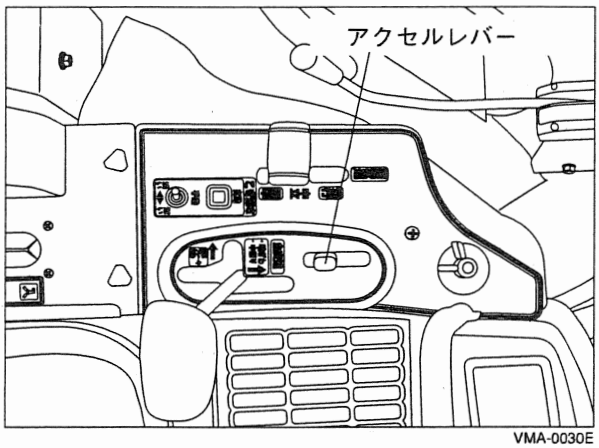
8 駐車ブレーキを解除します。（☞ 46ページ）

9 主変速レバーを前方に押すと前進します。また、主変速レバーを後方に引くと後進します。

10 主変速レバーの倒し量に応じて、無段階に走行速度を調節できます。



VMA-0026B



VMA-0030E

補　足

- **副変速レバーを操作する時は、主変速レバーを「中立」（「●」位置）にしてください。**
- **主変速レバーは、アクセルレバーを移動位置まで後方に引き、エンジン回転数を十分上げて走行してください。**
  低いエンジン回転数で使用すると油圧無段変速装置（HST）の寿命が低下します。

5.3.3 停車・駐車のしかた

⚠警告

停車のときは必ず主変速レバーを「中立」(「●」位置) に戻してから、ブレーキペダルを踏んでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

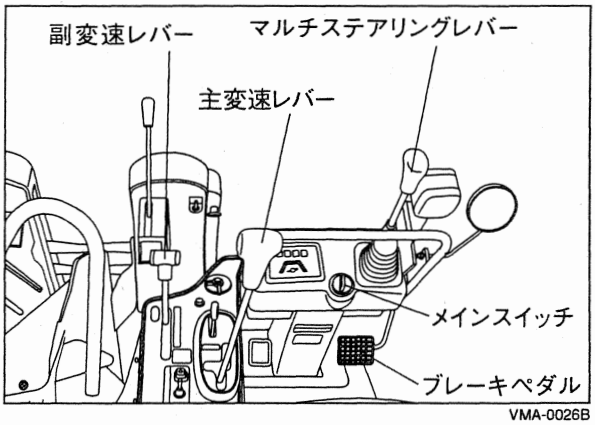
コンバインから離れるときは、平坦で水平な場所に駐車し、駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めて、メインスイッチキーを抜いてください。
駐車ブレーキをかけたときは、主変速レバーを前進位置に操作してください。
※ 守らないと、機体が動き出し、衝突事故を引き起こすおそれがあります。

駐車ブレーキレバー・ブレーキペダルは途中で止めたりせず、すばやく操作してください。
※ 守らないと、機体が左右に振れたり、下がったり、転倒や傷害事故を引き起こすおそれがあります。

坂道で駐車しないでください。
やむを得ず駐車する場合は、駐車ブレーキをすばやくかけ、さらに木片等で車止めをしてください。
※ 守らないと、機体が動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

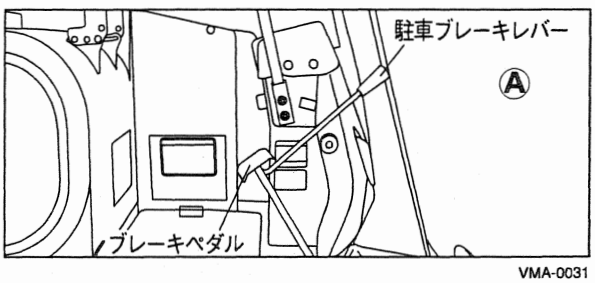
駐車ブレーキをかけた状態で更に駐車ブレーキレバーを押し下げないでください。
※ 守らないと、部品が変形して駐車ブレーキが効かなくなります。

1 主変速レバーを「中立」(「●」位置) にします。



VMA-0026B

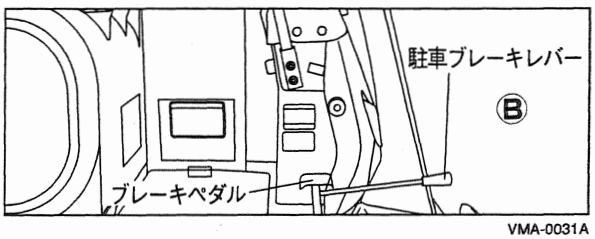
2 駐車ブレーキをかけます。
Ⓐ→Ⓑにします。
(駐車ブレーキレバーとブレーキペダルは一体になって います。)



VMA-0031

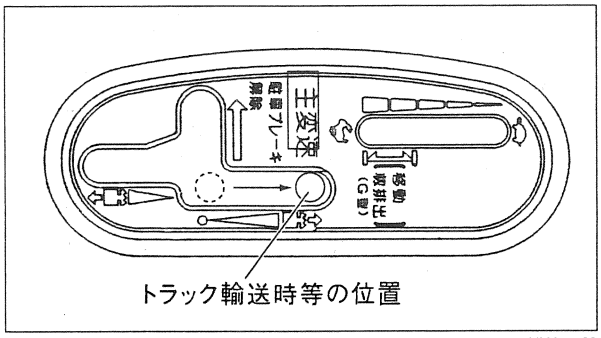
3 マルチステアリングレバーで、刈取部を地面まで下げます。

4 メインスイッチを「切」にして、エンジンを止め、キーを抜きます。



VMA-0031A

5 トラック輸送時等は、主変速レバーを前進位置にします。
トラック輸送時の振動により駐車ブレーキが解除される恐れがあります。
駐車時にも同様に主変速レバーを前進位置にします。



トラック輸送時等の位置

VMA-0032

5.3.4 駐車ブレーキの解除のしかた

⚠警告

坂道で駐車ブレーキを解除する場合はエンジンをかけ、副変速レバーを「倒伏」に入れた後、すばやく解除し、車止めを外してください。
※ 守らないと、機体が動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

駐車ブレーキレバーは途中で止めたりせず、すばやく操作してください。
※ 守らないと、機体が左右に振れたり、下がったり、転倒や傷害事故を引き起こすおそれがあります。

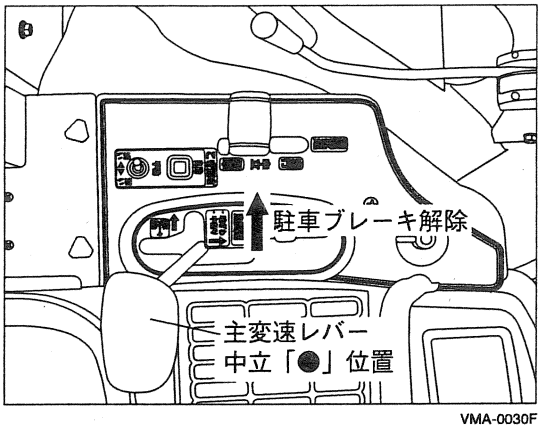
駐車ブレーキを解除するときは付近に人がいないことを確認してから解除してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

駐車ブレーキ解除時は、ブレーキペダルの上に足を乗せないでください。
※ 守らないと、機体が動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

駐車ブレーキ解除時、駐車ブレーキレバーが勢いよく戻りますのでレバーに触れないでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1 主変速レバーを「中立」(「●位置」) で矢印方向に倒すと、駐車ブレーキは解除されます。



VMA-0030F

5.4 自動車等への積み・降ろしのしかた

⚠危険

アユミの上では、マルチステアリングレバー、副変速レバー、ブレーキペダル、駐車ブレーキレバーを操作しないでください。
※ 守らないと、クローラがすべり、傷害事故の原因になります。方向を変えるときはいったん地上又は荷台の上に戻って方向を修正し、再度上がり下がりをし直してください。

積み降ろしの時は、機体の前後・左右には立たないでください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

周囲に危険のない平たんで、地面のかたい場所を選んでください。
※ 守らないと、衝突・転倒・転落事故の原因となります。

アユミは、すべり止めのついたものを使用し、荷台に段差のないよう確実にかけてください。(アユミの基準：☞48ページ)
※ 守らないと、衝突・転倒・転落し傷害事故の原因となります。

積込むトラックはエンジンを止めて、変速を「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

積込みは、グレンタンクを空にしてから行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

アユミから荷台に移るときや荷台からアユミに移るときは急に機体の角度が変わりますので十分注意してください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

⚠警告

刈取部はいっぱい上げてください。
※ 守らないと、アユミに刈取部が引掛り転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。

積込みは前進で、積降ろしは後進で行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

アユミの上では、刈取部の上下操作をしないでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

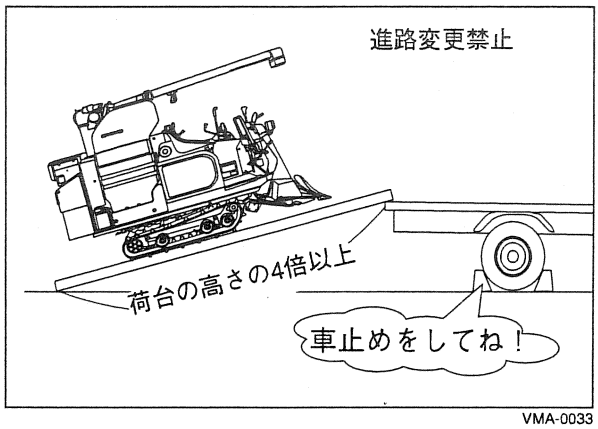
注意

ロープは所定のフック以外には掛けないでください。
※ 守らないと、コンバインの破損や故障を引き起こすおそれがあります。

1 基準に合ったアユミを用意してください。

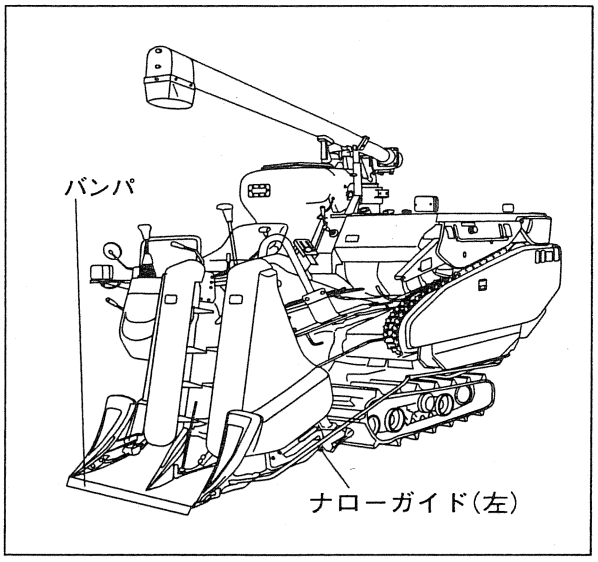
補　足

- **アユミの基準**
  - a）長さ……車の荷台高さの 4 倍以上。
  - b）幅……40cm以上。
  - c）強度……750kg以上。（片側 1 枚）
  - d）数量…… 2 枚使用。
  - e）すべらないよう処理してあること。
  - f ）一方の端にトラックの荷台に引掛けるフックがあること。



VMA-0033

2 バンパを取付け、ナローガイド（左）を収納します。



VMA-0034

3 補助もみ受台を収納します。（ホッパ型）
（☞ 28ページ）
オーガ受けを収納位置にし、排出オーガをオーガ受けに収納します。
（G型）（☞ 52ページ）

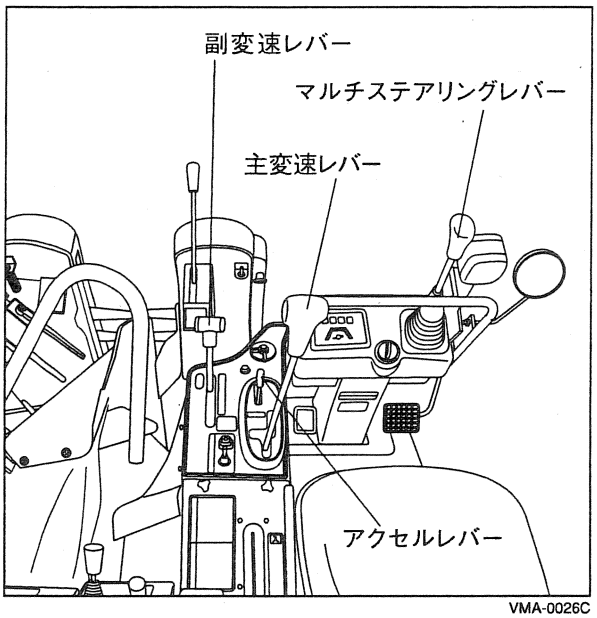
4 マルチステアリングレバーで、刈取部をいっぱい上げます。

5 アユミの前でいったん停止し、左右のクローラを合わせ、機体から降りてアユミと平行になっているか確認します。

6 副変速レバーは、「標準」位置にして、主変速レバーを前進方向にゆっくり動かし微速にて積み込みます。
（1）積込みは「前進」で行います。
（2）降ろすときは、「後進」で行います。

補　足

- **アクセルレバーを移動位置まで後方に引いて、エンジン回転を上げてください。**

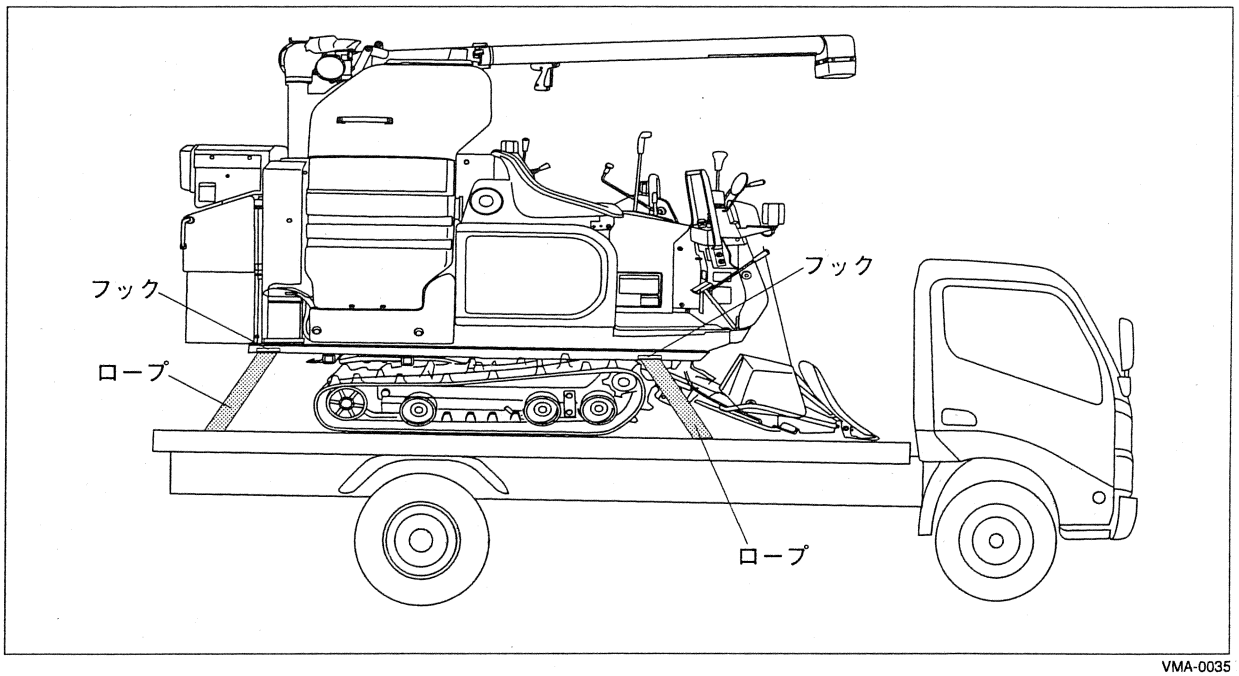


VMA-0026C

7 荷台に載せ終ったら刈取部を接地するまでおろして、駐車ブレーキをかけます。

8 メインスイッチを「切」にします。

9 4本のフックをロープで引っ張り、コンバインを固定します。
（フックは走行フレームの左右の前後にあります。）



VMA-0035

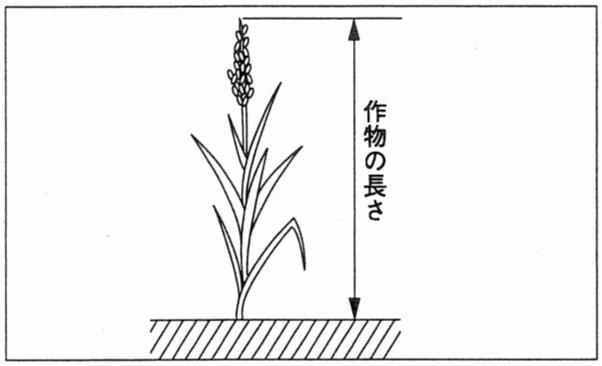
6. 作業前の準備

6.1 コンバイン作業ができる作物とほ場

作物とほ場の状態が下記条件より悪いときは、正常なコンバイン作業はできません。

6.1.1 作物の条件

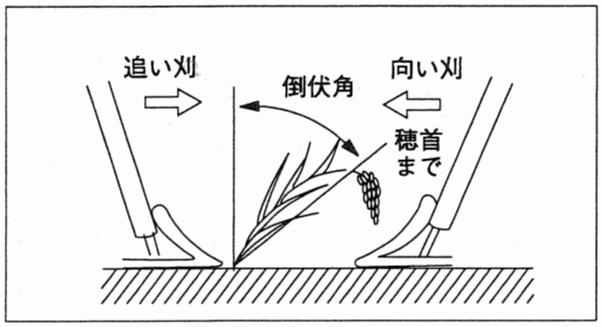
(1) 作物の長さ
55cm～120cm



VMA-0036

(2) 作物の倒れ（倒伏角）
追い刈……85° 以内
向い刈……70° 以内

(3) 作物のぬれ
にぎって手がぬれない状態まで乾燥させます。



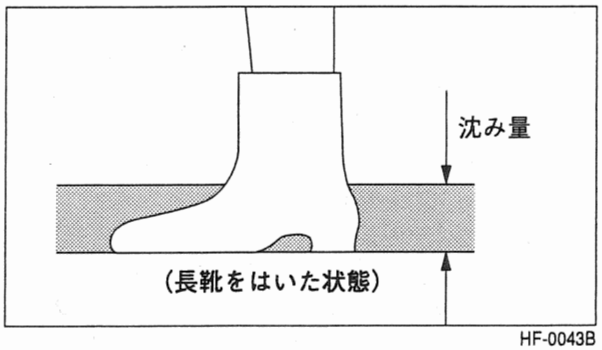
VMA-0037

6.1.2 ほ場の条件

(1) ほ場のぬかるみ度合い

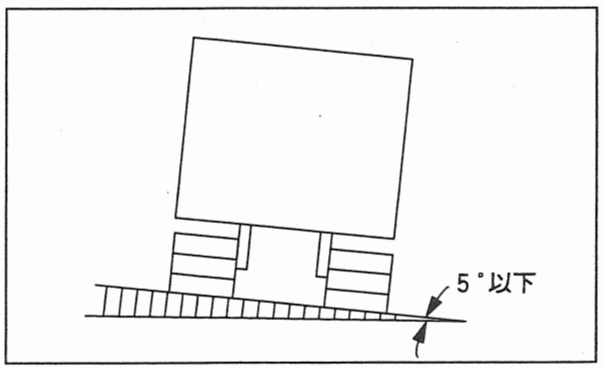
足の沈み量の目安

標　準	15cm以下
W　型	20cm以下



HF-0043B

(2) ほ場の傾き
コンバインの左右の傾き……5° 以下



HF-0044

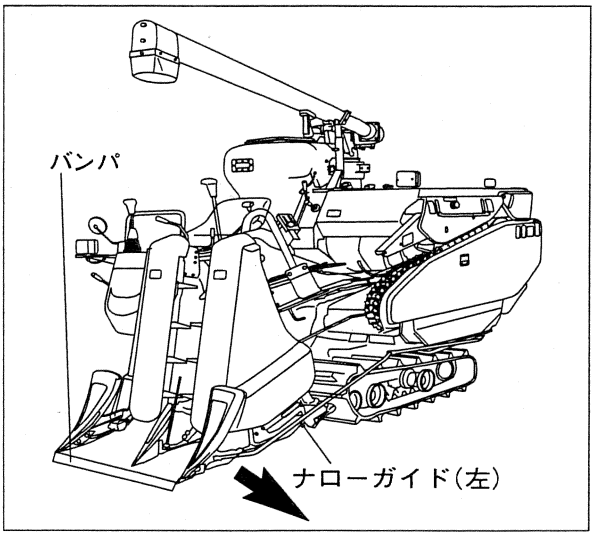
6.2 コンバインの準備

6.2.1 ナローガイドの準備

(1) バンパを取り外します。
(2) ナローガイド（左）を、一杯引き出します。

補 足

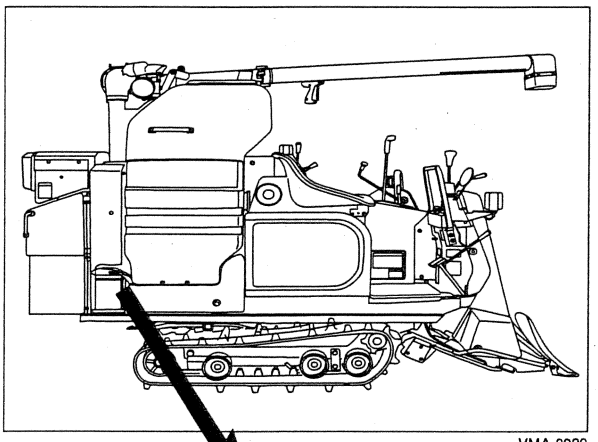
- **ナローガイド（左）を一杯引き出さないと、搬送作物の詰まりの原因となります。**



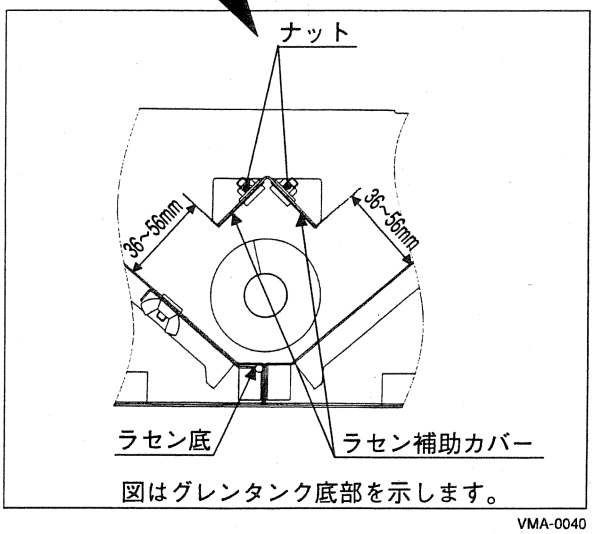
VMA-0035A

6.2.2 グレンタンクの準備（G型）

(1) 標準出荷位置のラセン補助カバーとラセン底とのスキマは、56mmとなっています。
※脱プの多い場合や､詰まりが発生する場合には、ラセン補助カバーのナットをゆるめてラセン補助カバーとラセン底とのスキマが少なくなるよう調整します。ラセン補助カバーとラセン底のスキマは、36～56mmの範囲で調整してください。



VMA-0039



VMA-0040

6.2.3 オーガ受けの準備（G型）

⚠注意

道路走行、あぜ越え・自動車への積み降ろしのときは、オーガ受けを収納位置にして排出オーガを縮めてから収納してください。

※ 守らないと、衝突・転倒・転落事故などのおそれがあります。

補 足

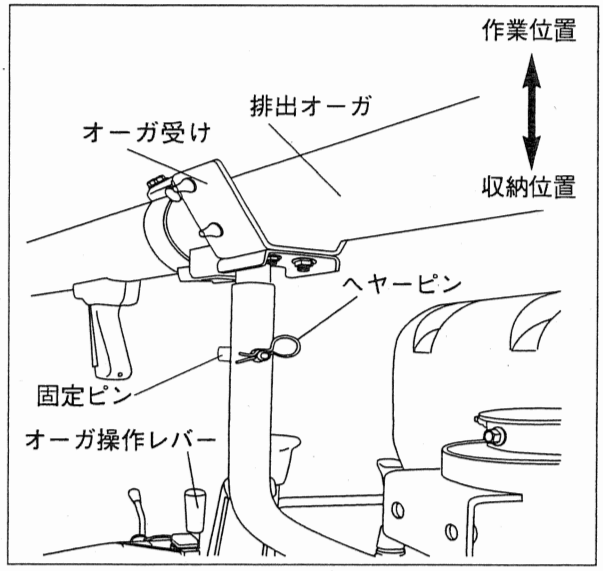
- **収納位置で作業すると、オーガ籾出口から籾がこぼれる場合があります。**

1 オーガ操作レバー（☞ 32ページ）を操作して、排出オーガをオーガ受けより上昇させます。

2 ヘヤーピンを抜いて、さらに固定ピンを抜きます。

3 オーガ受けを作業位置に調節します。

4 固定ピンを差し込み、ヘヤーピンを取付けて排出オーガをオーガ受けに収納します。



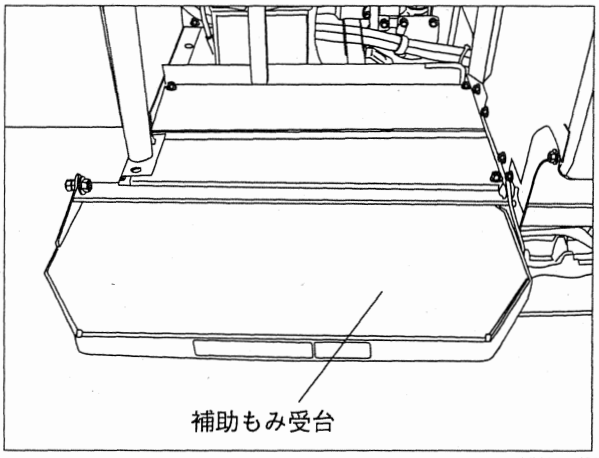
VMA-0029A

6.2.4 ホッパの準備（ホッパ型）

1 補助もみ受台を広げます。

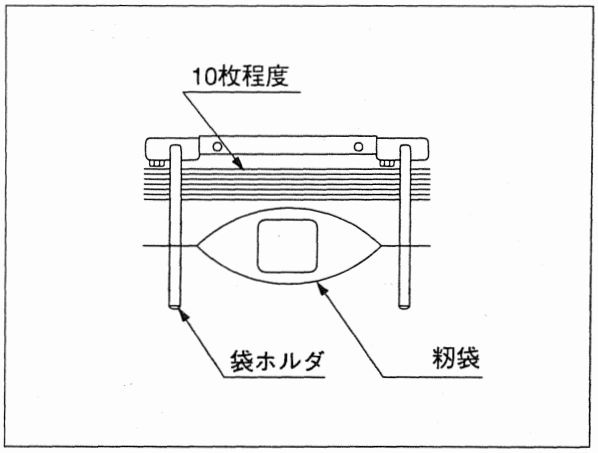
補　足

- **中割り作業、あぜの高い回り刈り時は折りたたんでください。**



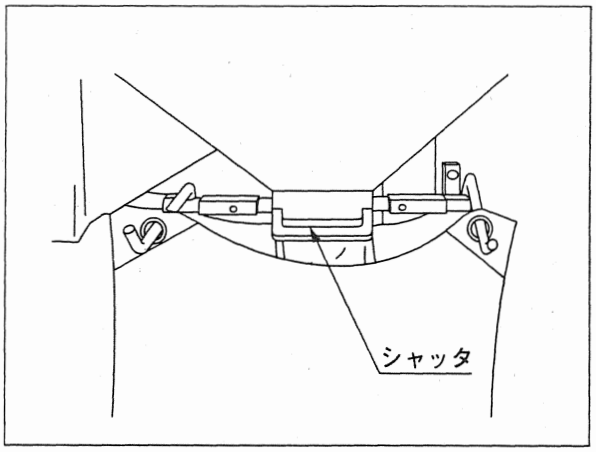
VMA-0042

2 ファスナーを開けた籾袋を、籾ホルダに10枚程度装着し、穀粒出口に1枚ずつ取り付けます。



VMA-0043

3 シャッタを引き出します。



VMA-0044

6.3 作業前の注油

⚠警告

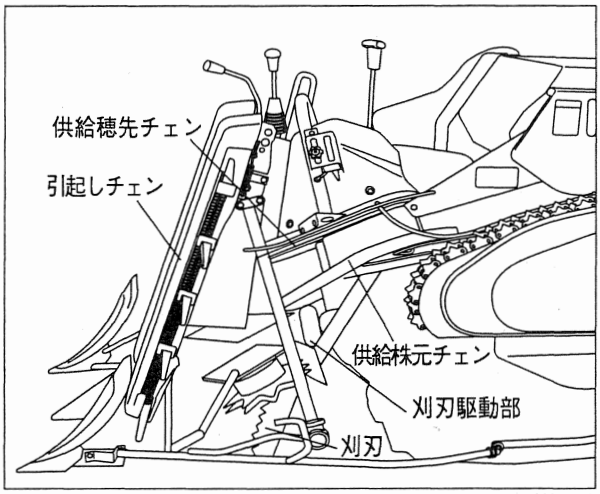
各部に注油を行うときは、必ずエンジンを止めて、メインスイッチキーを抜いてから行ってください。

※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

補 足 ● **作業前は注油してください。**

■刈取部の注油

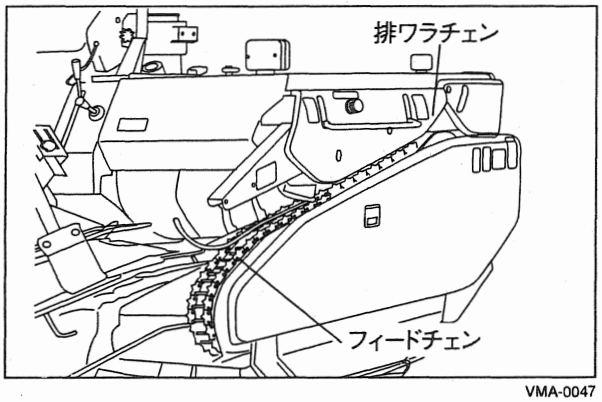
オイル差しで、引起しチェン、供給穂先チェン、供給株元チェン、刈刃、刈刃駆動部に注油します。



VMA-0045

■脱穀部の注油

オイル差しで、フィードチェン・排ワラチェンに注油します。



VMA-0047

6.4 ほ場での準備

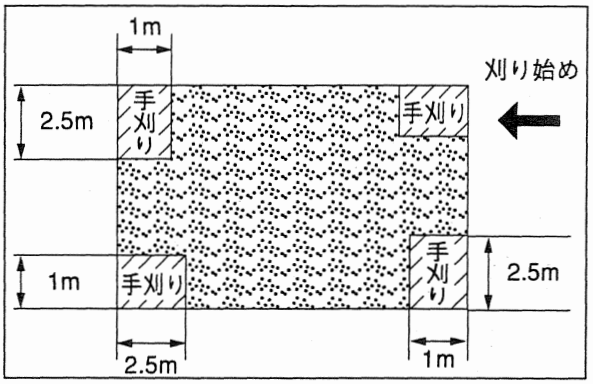
6.4.1 四すみの手刈り

(1) 能率よく作業をするため、四すみを回行できるよう手刈りします。

補 足

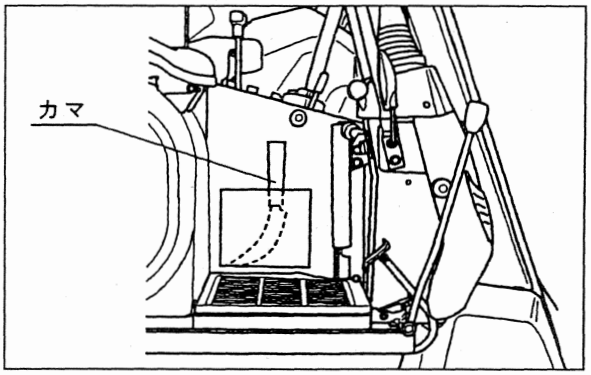
【一般的なほ場の刈りかた】

- **ほ場の端から左回り刈りをします。**



VMA-0048

(2) カマの収納場所：
ステップ左のカバーに収納します。



HP-0044

7. 作業前に必要な調節

⚠警告

調節するときは必ずエンジンを停止して、メインスイッチキーを抜いてから行ってください。

※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

取り外したカバーは、調節後、必ず元の位置に組み付けてください。

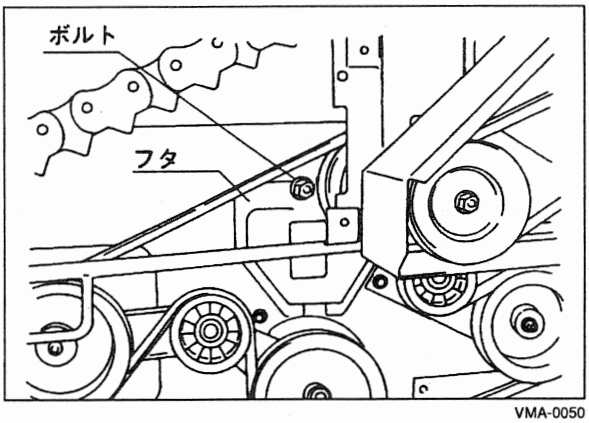
※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

7.1　シーブ角度の調節のしかた

(1) シーブ調節レバーは、刈取作業でのロスをなくして良い選別を得るために、選別部のシーブの角度を調節するものです。シーブ調節レバーの標準位置は、最閉じから3段目です。

(2) 作物の種類や条件によって脱穀部のシーブ調節レバーを下表のように調節します。

レバー操作	「閉じる」⟷「開く」	
現　象 (状態)	選別が悪い	ロスが多い
	枝こう付着粒が多い	脱プが多い



VMA-0050

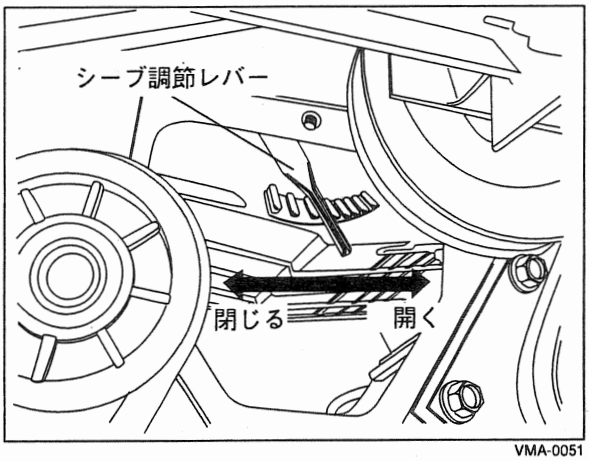
■調節のしかた

1 チェンカバー・ベルトカバーを外します。
(☞ 27ページ)

2 ボルトを外してフタを開きます。

3 シーブ調節レバーを調節します。

4 フタ、チェンカバー、ベルトカバーを取り付けます。

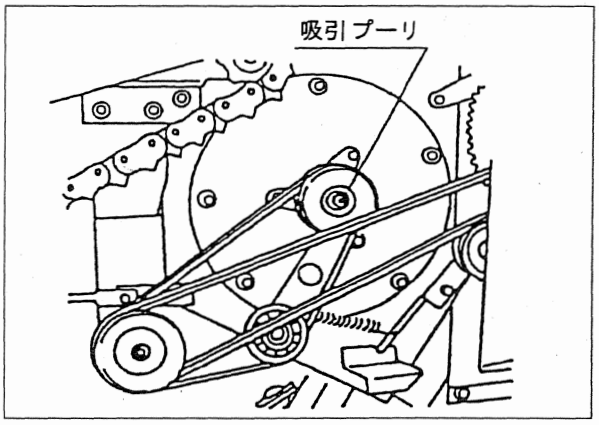


VMA-0051

7.2 吸引ファン回転数の調節のしかた

良い選別を得るためや機外への損失を少なくするために吸引ファンの回転数を変え、風力を調整するものです。下記のような状態を除いては、標準（工場出荷時状態）で使用します。

作物の状態	機械の状態	回転数の調節
●早朝、雨の後などでぬれた作物 ●青葉が多い作物 ●雑草の多いほ場	●二番や揺動棚に詰まりが生じる ●選別が悪い	●吸引回転数を上げる
●過熟の作物 ●作柄の悪い作物	●三番飛散が多い	●吸引回転数を下げる



VMA-0053

■調節のしかた

1 チェンカバーを外し、カッタベルト、吸引ベルトを外します。

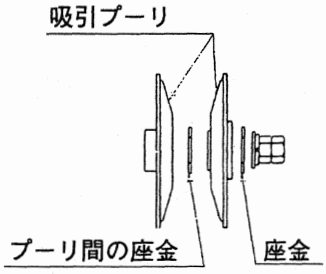
2 吸引プーリの取付ナットを外し、プーリ間の座金枚数で調節します。

補　足

- **調節後取付ナットは確実に締め付けます。**
- **調節後テンションスプリングの張りを調節します。（☞ 107ページ）**

3 吸引ベルト、カッタベルト、チェンカバーを取り付けます。

回転数の調節	座金枚数
回転数を上げる	2
標　　準	1
回転数を下げる	0

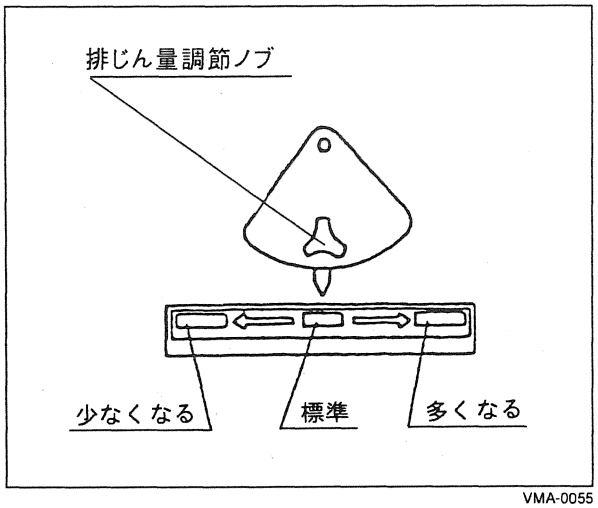


VMA-0054

7.3 排じん量の調節のしかた

「標準」（工場出荷時状態）位置で作業を始め、その後、作業の状態をみて調節します。

作業の状態	レバー位置
●枝梗付着が多い ●もみの飛散が多い	「少なくなる」側
●通常作業	「標準」
●こぎ室内で常時ゴトゴト音がする	「多くなる」側



VMA-0055

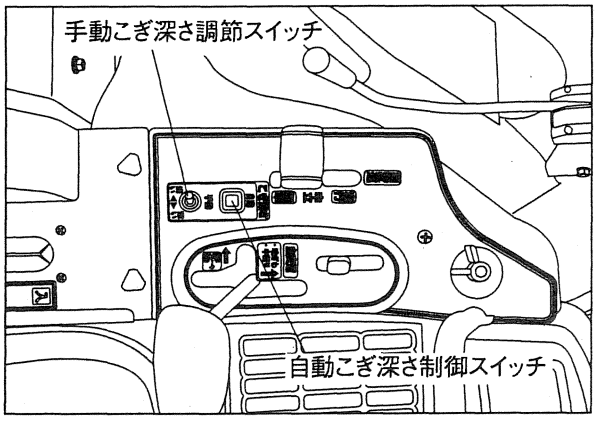
補　足

- **「少なくなる」側で作業するときは、こぎ室内でゴトゴト音がしないよう、作業速度を落とします。**

7.4 こぎ深さ調節（手動）のしかた

自動こぎ深さ制御スイッチを「切」にして手動こぎ深さ調節スイッチを、左右に操作して行います。
低速作業時、雑草が多いとき、倒伏作物の刈取り等、自動こぎ深さ制御装置では、穂先が、こぎ深さ指示マークに合わないときに操作してください。

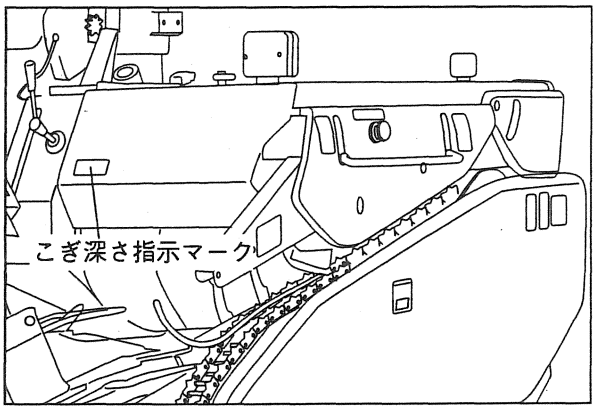
(1) 自動こぎ深さ制御スイッチを「切」にします。
(2) 手動こぎ深さ調節スイッチを左右に操作します。
　深くする……スイッチを右へ倒す。
　浅くする……スイッチを左へ倒す。



VMA-0030B

補　足

- **自動こぎ深さ制御装置で作業中でも、手動こぎ深さ調節スイッチで優先的に調節できますから、刈りはじめや作物の長さが急に変わる場合にも操作してください。**
  （主変速レバーが中立（「●」位置）に近いときは自動こぎ深さ制御装置は作動しません。このとき、自動こぎ深さ制御スイッチを「切」にする必要はありませんが、手動こぎ深さ調節スイッチでこぎ深さの調節をしてください。）
- **穂先がこぎ深さ指示マークに合うように調節してください。**



VMA-0056

7.5 刈取定点停止ストッパの調節のしかた

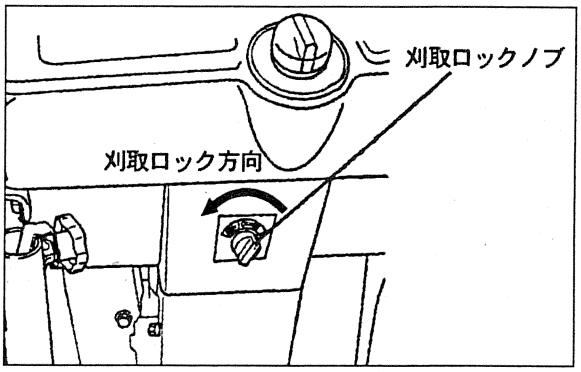
⚠警告

平たんな硬い場所でエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、メインスイッチを抜き手袋をして作業してください。
※ 守らないと、機体が動き出し、衝突事故などを引き起こすおそれがあります。
刈取部を上げて作業する場合
・刈取ロックノブを刈取ロック方向にしてください。
・刈取部の下にスタンド等の台を置き、安全を確認して行ってください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

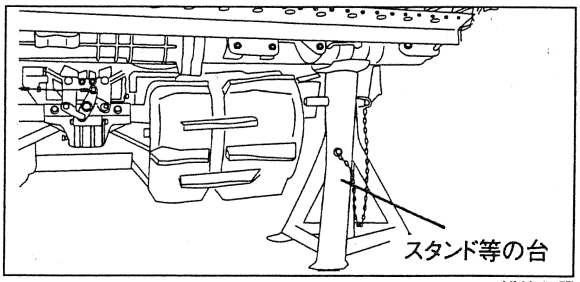
不用意に刈刃に触れないでください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

定点停止ストッパにより、刈高さを「規制」または「解除」にすることができます。ほ場や作物の条件に合わせて次のように調節してください。

定点停止位置	デバイダ先端	作物・ほ場条件
規　制	地面より高い位置で止まる	●作業になれるまで ●立毛稲 ●乾田
解　除	地面より下に下がる	●湿田 ●倒伏



VMA-0058



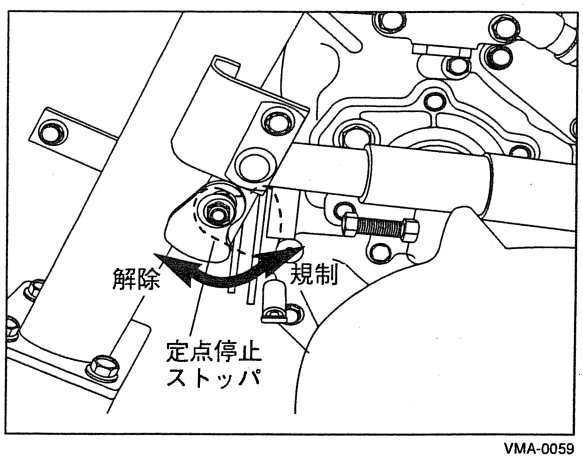
VMA-0057

■調節のしかた

(1) 刈取部を上げて、刈取ロックノブを刈取ロック方向にします。
(2) 刈取部の下にスタンド等の台をおきます。
(3) エンジンを停止します。
(4) 定点停止ストッパを「規制」または「解除」の方向に動かします。

補　足

- **機械になれるまでは、刈取部の上下操作を誤りがちで、刈刃で泥を切ったり、デバイダが土に突っ込んだりすることがありますので、定点停止ストッパは「規制」位置にして使用してください。**



VMA-0059

7.6 刈刃高さの調節のしかた（G型）

⚠警告

平たんな硬い場所でエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、メインスイッチを抜き手袋をして作業してください。

※ 守らないと、機体が動き出し、衝突事故などを引き起こすおそれがあります。

刈取部を上げて作業するときは、①刈取ロックノブを刈取ロック方向にし、②さらに刈取部の下にスタンド等の台を置き、安全を確認して行ってください。

※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

手袋を使用し、直接刈刃に触れないでください。

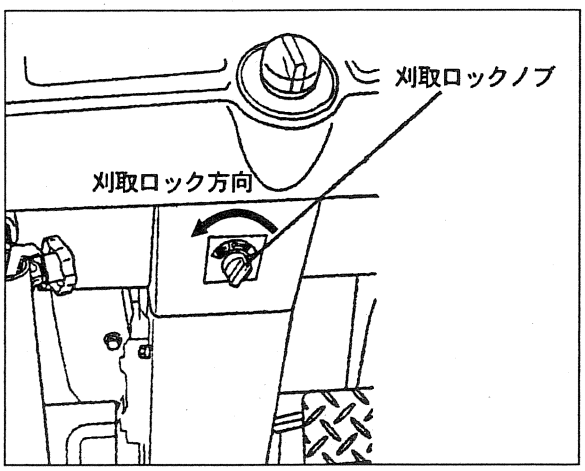
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

(1) 刈刃高さは、「標準」「高刈り」の2段の調節ができます。

(2) 工場出荷時は「標準」位置にセットされています。

(3) 雑草の多いほ場、うねのあるほ場や湿田の倒伏等での条件下の刈取り作業において搬送通路に雑草や泥がたまり、巻き付きや搬送の乱れが多い場合は「高刈り」位置にセットして作業します。

(4) 通常の刈取り作業は、「標準」位置で作業します。



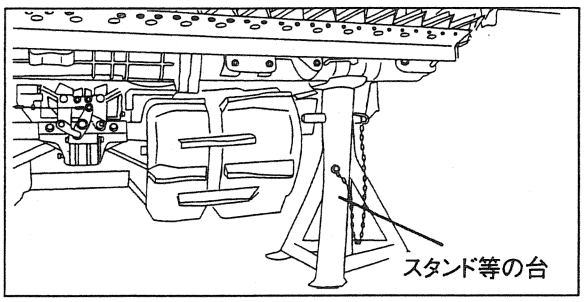
VMA-0058A

■「高刈り」の調節のしかた

1 刈取部を上げ、刈取ロックノブを刈取ロック方向にします。

2 エンジンを停止します。

3 刈取部の下にスタンドなどの台を置きます。

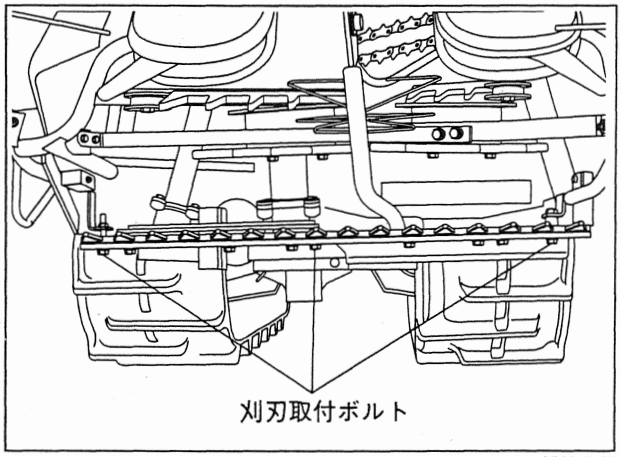


VMA-0057

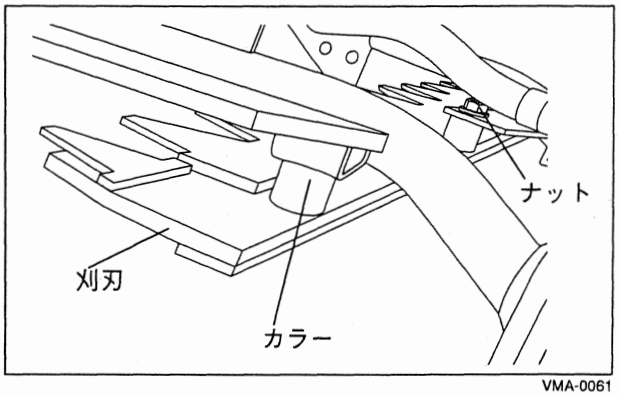
4 刈刃取付ボルト（3本）をはずします。

5 カラーを3本共、刈刃の下へ入れ替えます。

6 刈刃取付ボルト（3本）を締め付けます。



VMA-0060

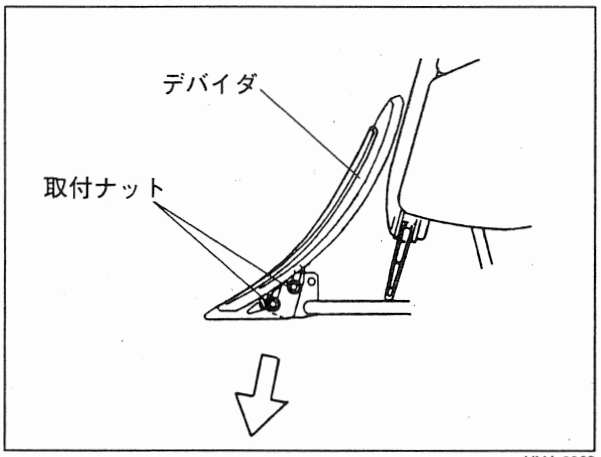


VMA-0061

7.7 デバイダの調節のしかた

■上下調節

倒伏、湿田、うねのあるほ場で調節してください。



VMA-0062

1 各デバイダ取付ナット（2個）をゆるめます。

2 うねの高さに応じて、矢印方向に適量動かします。

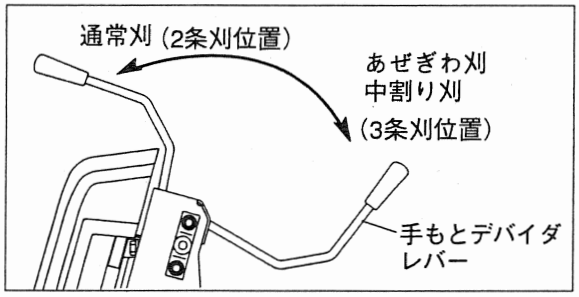
3 取付ナットを締め付けます。

補　足

- **各デバイダの地面に対する高さは、必ずそろえてください。**

■手もとデバイダの調節

植付条間の広いほ場やあぜぎわ、中割作業では、デバイダを3条刈に広げてください。



VMA-0063

1 手もとデバイダレバーを3条刈位置にします。

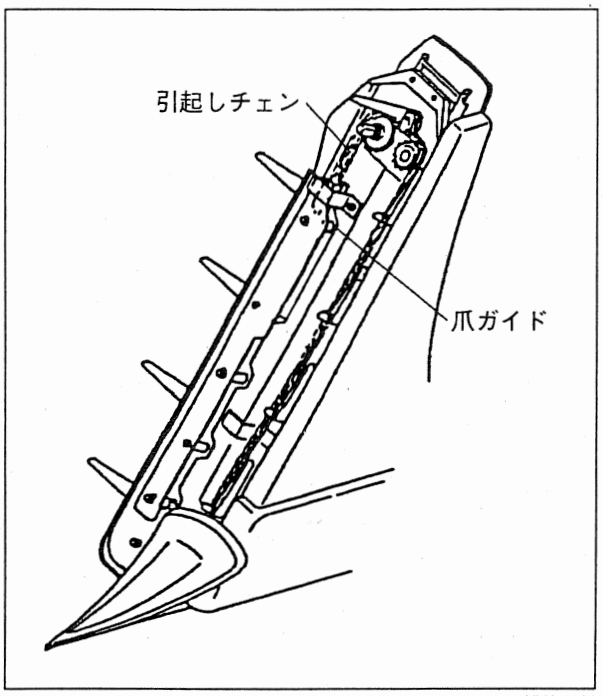
補　足

- **3条刈位置では倒伏作業は出来ません。2条刈位置で使用してください。**
- **3条刈の時は、主変速レバーを3条刈の範囲で使用してください。**

7.8 短稈作物作業時の調節のしかた

7.8.1 引起しチェンの調節のしかた

短稈作物の作業時、引起し部で穂の脱粒や稈の切れなど多く発生する場合は調節してください。
稈長80cm以下が目安です。



VMA-0064

■調節のしかた

1 引起しカバーを外します。（☞ 88ページ）

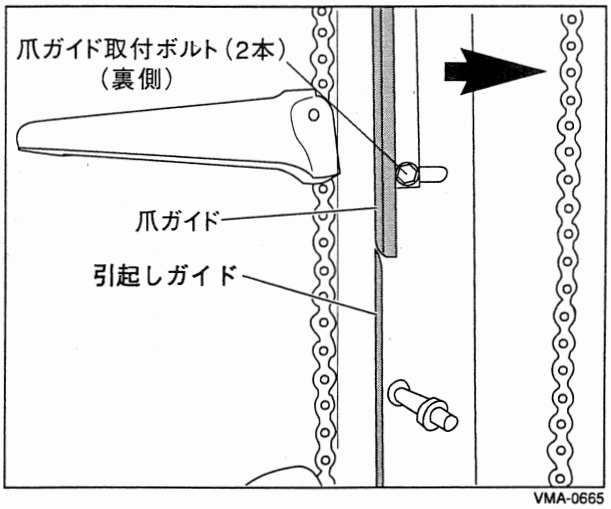
2 爪ガイド取付けボルト（2本）をゆるめ、爪ガイドを矢印方向へずらします。

3 爪ガイド取付ボルト（2本）を締め付けます。

4 引起しカバーを取り付けます。

補 足

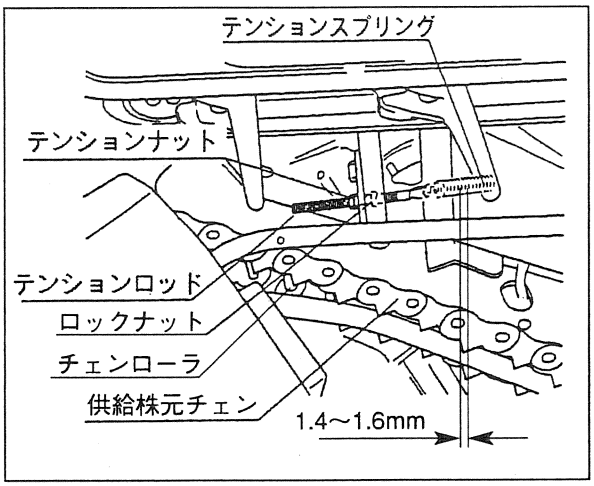
- **「標準」位置に戻す場合は、爪ガイドの先端部が引起しガイドより出ない位置で、取付けボルトを締め付けてください。**



VMA-0665

7.8.2 供給株元チェンの調節のしかた

短稈作物の作業時、こぎ残りが多い場合は、調節してください。
稈長80cm以下が目安です。



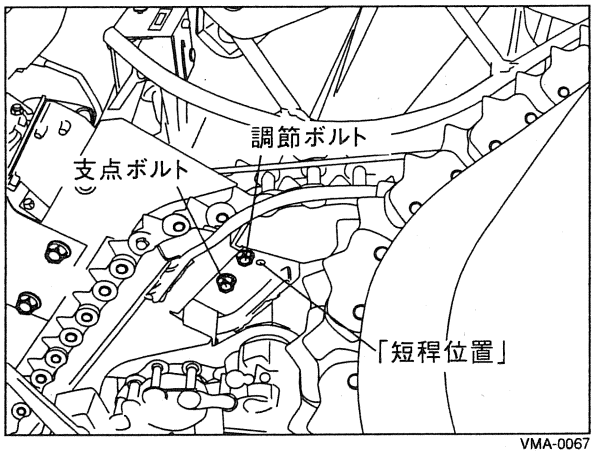
VMA-0066

■調節のしかた

1 テンションロッドのロックナットをゆるめます。

2 テンションナットをゆるめ、テンションスプリングをゆるめます。

3 支点ボルトをゆるめます。

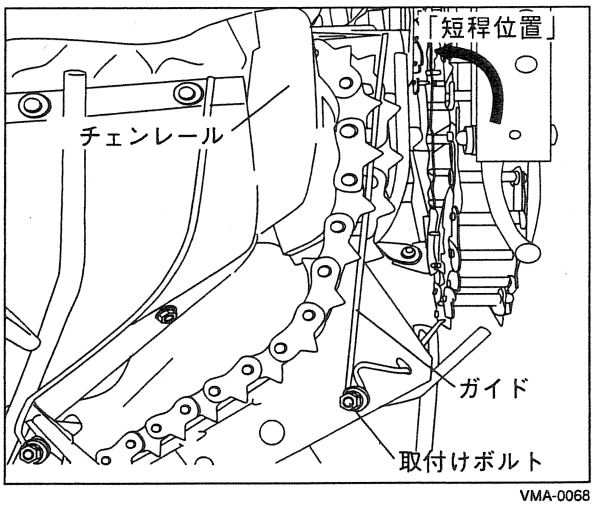


VMA-0067

4 調節ボルトを外し、チェンレールを矢印方向に押し込み、「短稈位置」にセットします。

5 支点ボルト、調節ボルトを締め付けます。

6 テンションスプリングを張り、テンションスプリングのスキマを1.4~1.6mmに調整します。



VMA-0068

7 ロックナットを締め付けます。

8 ガイドの取付ボルトをゆるめます。

9 ガイドを矢印方向に押し込み、「短稈位置」にセットし取付ボルトで固定します。

補　足

- **ガイドはできるだけチェンローラに近づけてください。**

7.9 カッタ作業のしかた

⚠警告

カッタ部の掃除や調節をするときは、必ずエンジンを停止してメインスイッチキーを抜いてから行ってください。

※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

カッタ部を掃除するときは手袋をして、カマなどを利用して直接回転刃にさわらないでください。

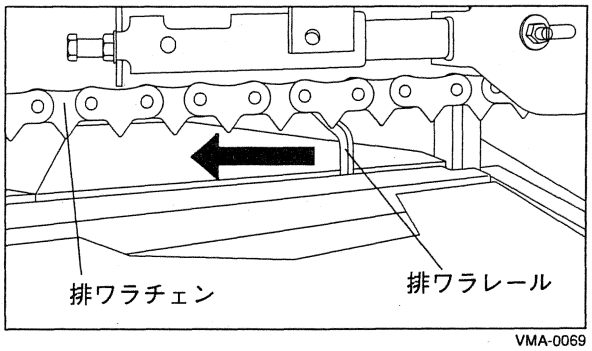
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

⚠注意

排ワラチェンでワラ搬送中は、作業機切換レバーの操作は絶対にしないでください。

※ 機体部品の破損、変形などを引き起こすおそれがあります。

1 排ワラチェン部の排ワラレールを矢印方向にいっぱい押し込みます。

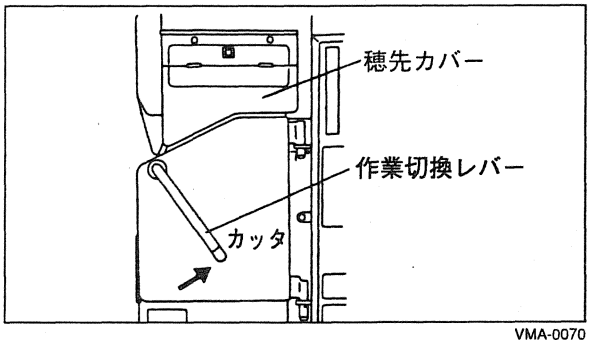


VMA-0069

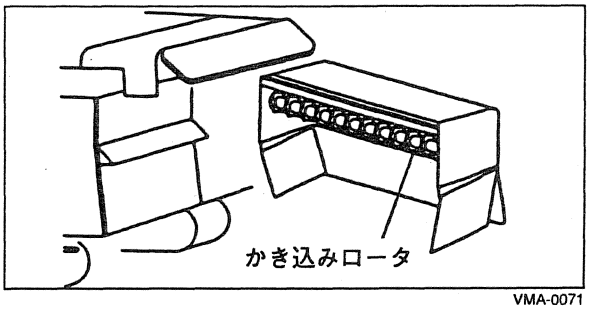
2 作業切換レバーを「カッタ」側に切換えます。

補 足

- **湿田や倒伏稲でのカッタ作業後は、早めにカッタ内部を点検し、カッタ部を開けて巻付いたワラ、泥を取り除いてください。**
- **かき込みロータにワラが巻付いたり、泥が付着したままで作業すると、カッタの切れが悪くなったり、カッタ刃の摩耗を早める原因になります。**



VMA-0070



VMA-0071

7.10 バラ落とし・ドロッパ作業のしかた

⚠注意

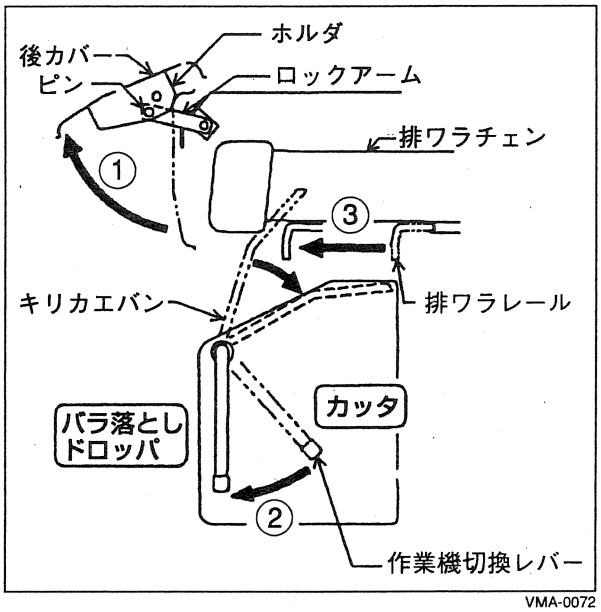
作業の切換をするときは、必ずエンジンを停止してメインスイッチキーを抜いてから行ってください。

※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1 後カバーを開け、ロックアームを押しながらピンをホルダの下側の穴に通して固定します。(左右2ケ所)

補 足

- **バラ落とし・ドロッパ作業をするときは、必ず後カバーを開けてください。後カバーを開けずに作業を行うと、ワラが詰まる恐れがあります。**

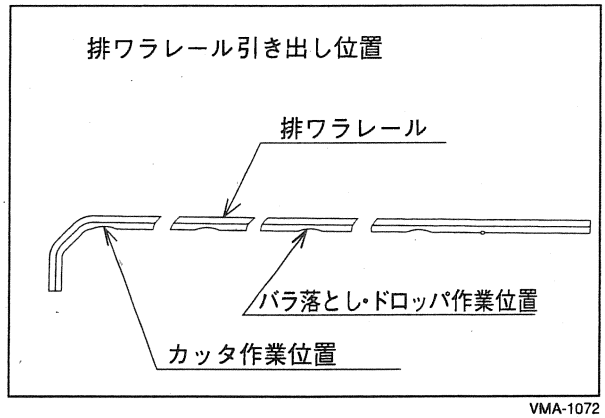


VMA-0072

2 作業機切換レバーを操作してキリカエバンを閉じます。

3 排ワラレールを後ろに引き出します。

4 穂先カバーをオープンします。
(☞65ページ)

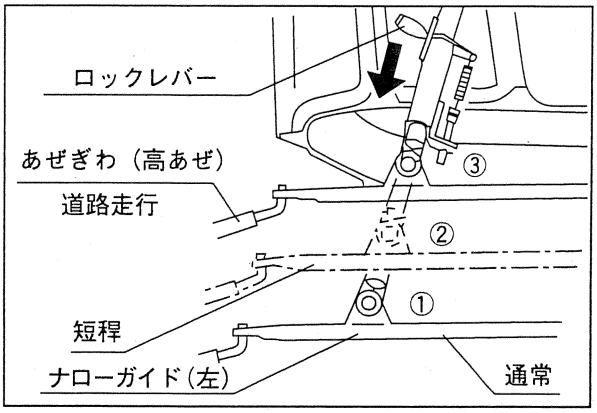


VMA-1072

7.11 ナローガイド（左）の調節のしかた

ほ場や作業の条件に合わせて次のように調節してください。

ほ場条件・作業条件	ナローガイド(左)の位置
通常の作業	①の位置
倒伏刈りの作業	①の位置で下げ
長稈刈りの作業	①の位置で上げ
短稈刈りの作業	②の位置で下げ
あぜぎわ刈（高あぜ） 道路走行時	③の位置



VMA-0074

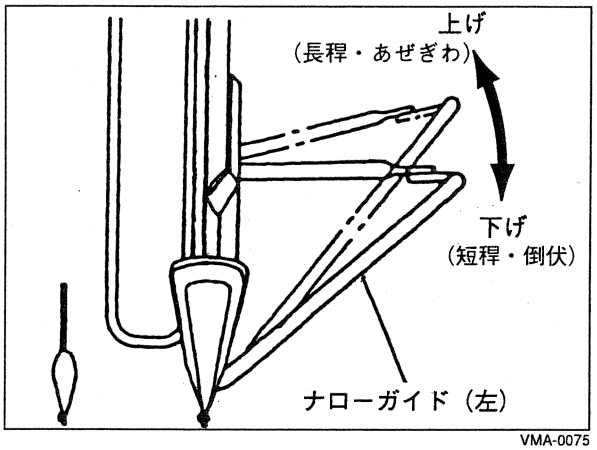
■調節のしかた

1 ロックレバーを矢印方向に引いて、ナローガイド（左）を調節します。

2 上下調節で高さを調節します。

補　足

- **短稈時はナローガイド（左）を②の位置で下げにして、未刈稈がナローガイドの中に入らないようにしてください。**



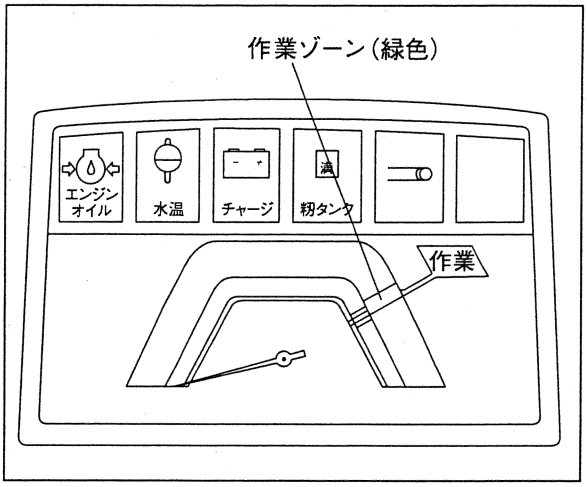
VMA-0075

7.12 エンジン回転の合わせかた

脱穀クラッチレバーを「入」にし、アクセルレバーで脱穀回転計の針が作業ゾーン（緑色）にくるように調整します。

補　足

- **回転が高すぎると脱プやロスが多くなります。**
- **回転が低すぎると選別不良、こぎ残し、脱穀内部への詰まりや、能率低下の原因になります。**
- **脱プの多い品種の場合は、作業ゾーンの下限近くで作業してください。**



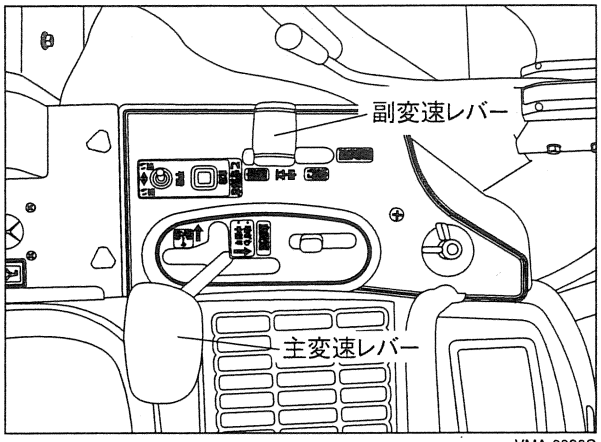
VMA-0076

7.13 作業速度の選び方

作物の条件、ほ場の条件に合わせて、作業速度を選んでください。

主変速レバー

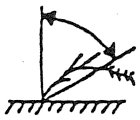
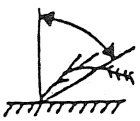
作物条件に合せて、押し量で速度を調節します。



VMA-0030C

補　足

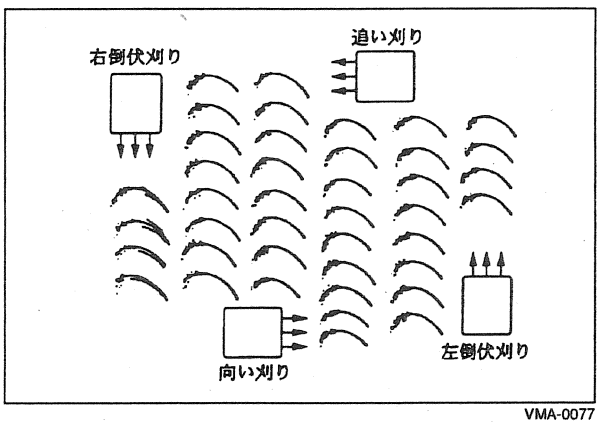
- **副変速レバー「走行」位置での刈取作業は、故障の原因となりますので、行わないでください。**

作物条件 ＼ 作物条件		立毛		倒伏	
		 倒伏角60°以下		 倒伏角60°以上	
		標準作物	脱粒しやすい稲 稈折れしやすい麦	標準作物	脱粒しやすい稲 稈折れしやすい麦
刈取方向	追い刈り	○		○（倒伏角85°以下）	
	向い刈り	○		△（倒伏角70°以下）	
	左倒伏刈り	○		○（倒伏角85°以下）	
	右倒伏刈り	○		△（倒伏角70°以下）	
副変速		標　準	標　準	標　準	標　準
主変速		作物に合わせて速度調節			

記号の見方
〔○→良好な作業ができます。
△→刈り残し、穀桿の詰まりに注意しながら作業してください。〕

補　足

- **収量・成熟度合やその他の要因で適正な作業速度は変化します。この表はあくまでも目安ですのでその作物と機体に合った速度で作業を行ってください。**
- **倒伏して、刈刃に土が詰まる場合は、刈刃を「高刈」位置にセットしてください。（☞ 60ページ）**
- **完全倒伏での向い刈りまたは右倒伏刈りは作業できません。刈取方向を変えて作業してください。**
- **3条刈、畦ぎわ、中割の時は、主変速レバーを3条刈の範囲で使用してください。**



VMA-0077

8. 作業のしかた

8.1 刈取作業のしかた

⚠危険

停止するときは、推積したワラくずの上に止めないでください。
※　守らないと、火災の原因になります。

⚠警告

後進するときは、後方の状況に十分注意をはらい、低速で後進してください。
※　守らないと、機械に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

異常が発生したときは、直ちにエンジンを止め、メインスイッチキーを抜き、点検してください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ワラくずを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

二人以上の共同作業では、補助者の状況に十分注意をはらい、運転してください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

作業に適した服装で作業してください。
※　守らないと、巻き込まれ、挟まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

全てのカバーが装着されていることを確認してください。
※　守らないと、巻き込まれ、挟まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

うねのあるほ場で作業する場合は傾斜が大きくなると転倒する恐れがありますので、速度を落し十分注意して作業してください。
※　守らないと、転倒事故、機体の破損、変形などを引き起こすおそれがあります。

刈取作業するときは、周囲の状況に十分注意をはらい、特に子供は近づけないでください。
※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

エンジン始動中は、回転部に手や身体を絶対に近づけないでください。
※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

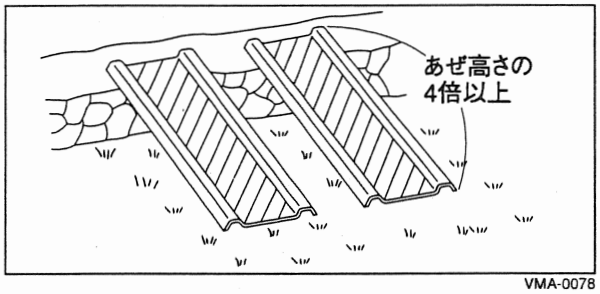
8.1.1 ほ場への乗り入れ

⚠警告

アユミを使うときや前後左右とも10度をこえる傾斜地を走行するときは、微速であぜに対して上り方向は前進、下り方向は後進で直角に走行してください。

アユミは、☞48ページに記載の〈アユミの基準〉を満足するものを使用してください。
アユミはコンバインの重量で傾かない平坦な硬い場所を選んで、使用してください。
※　守らないと、衝突・転倒・転落事故などのおそれがあります。

(1) 副変速レバーを「標準」にし、主変速レバーを「前」側に押してゆっくりした速度で、あぜに直角に前進でのり越えます。
(2) 10cm以上の高いあぜを越える場合は、アユミを使用します。



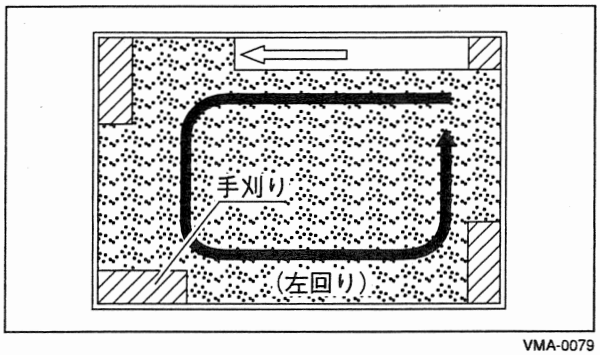
VMA-0078

8.1.2 ほ場の刈りかた

左回りが基本です

■一般的なほ場の刈りかた

(1) ほ場の端から左回り刈りをします。
(2) 能率よく作業するため、四すみを回行できるように手刈りします。
(3) カマ収納場所はステップ左のカバーにあります。



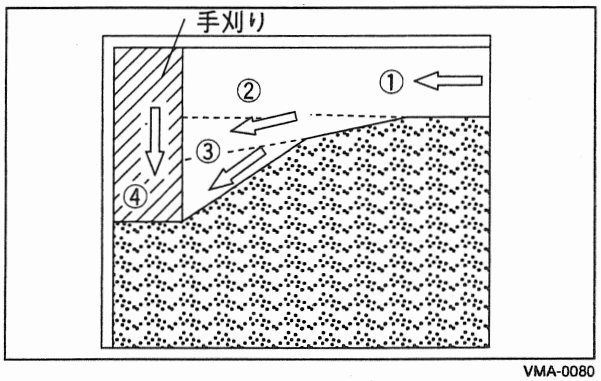
VMA-0079

■回り刈り時コーナ部の刈りかた

2～3回直進・バック②③を繰り返し、コーナ部を大きく刈取った後、回行します。

補　足

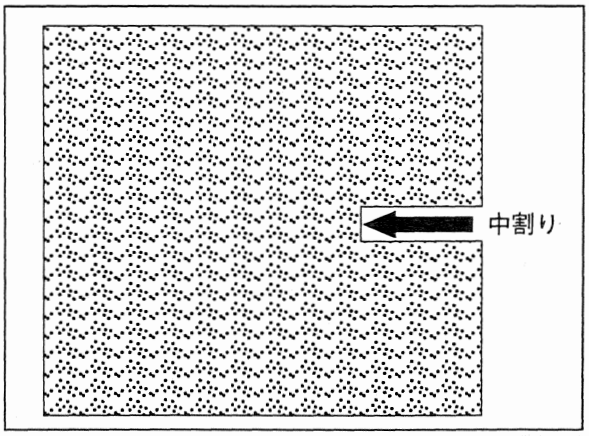
- **コーナー刈取りをするときは、刈りながらの方向修正はしないでください。**
  刈跡が不ぞろいになったり、刈り残しが発生する場合があります。



VMA-0080

■広いほ場の刈りかた

ほ場の端から左回りで5～6周刈り取った後、中割り作業をし、長手方向のみ刈ると、能率的な作業ができます。



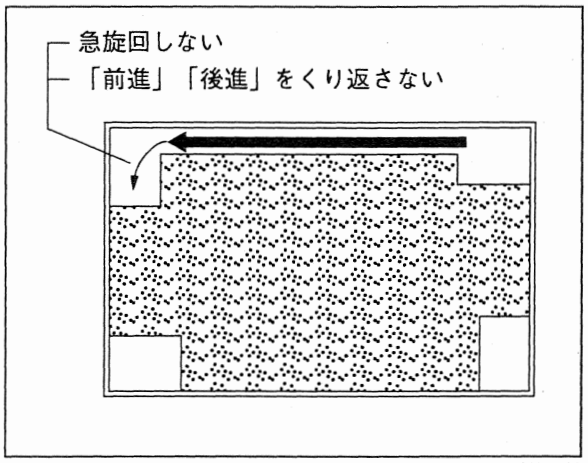
VMA-0081

8.1.3 湿田ほ場の刈りかた

(1) 四すみは、通常より広く手刈りし、急旋回や、同じ場所で何回も回行する事のないようにして、機体の沈下をさけます。

補 足

- **タンク内の籾はできるだけ早目に排出するようにしてください。**

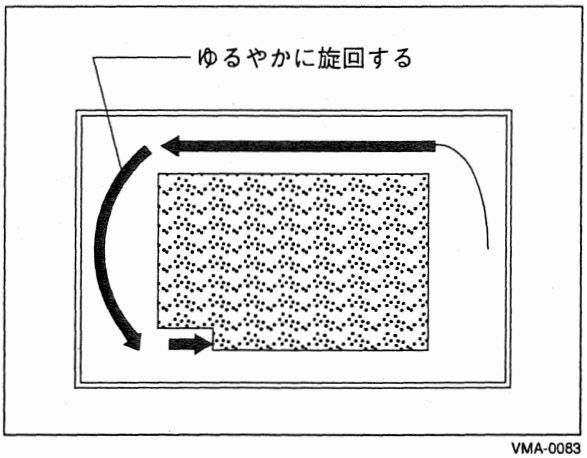


VMA-0082

(2) 左回り刈りで5～6周して、ほ場の両端で旋回できるようになったら、後は、長手方向のみ刈ります。

補 足

- **旋回はマルチステアリングレバーをこきざみに操作してください。**



VMA-0083

8.1.4 倒伏作物の刈りかた

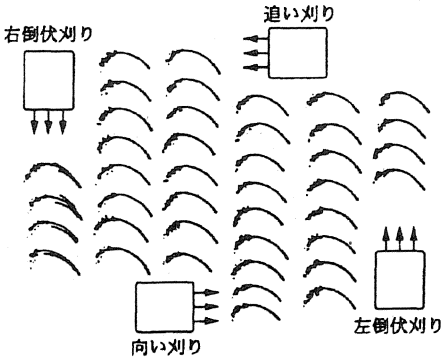
⚠注意

刈刃後方に堆積した土・ワラは、エンジンを止めてケガのないように注意しながら取り除いてください。

※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすのおそれがあります。

(1) 刈り残しがないように、マルチステアリングレバーで、デバイダが地面に接するよう調節します。
(2) できるだけ追い刈り、左倒伏刈りで作業します。
（下図参照）

倒伏度合 ＼ 刈る方向	完全倒伏	中倒伏	ほぼ立毛
追い刈り	△	○	○
向い刈り	×	△	○
左倒伏刈り	△	○	○
右倒伏刈り	×	△	○



VMA-0084

記号の見かた
○→良好な作業ができます。
△→刈り残し、穀稈の詰まりに注意しながら作業してください。
×→作業できません。

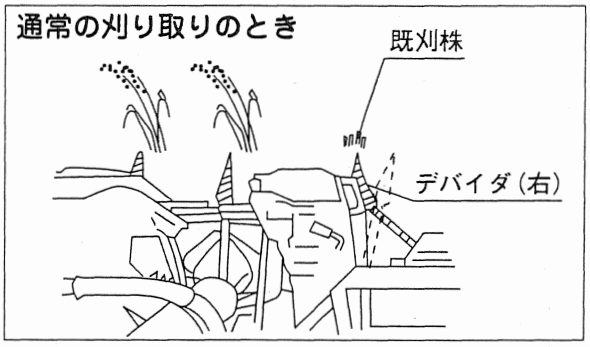
補　足

- **倒伏して刈刃に土が詰まる場合は、刈刃を「高刈り」位置にセットしてください。(G型)**
（☞ 60ページ）
- **完全倒伏での向い刈りまたは右倒伏刈りは作業できません。刈取方向を変えて作業してください。**

8.1.5 条合わせのしかた

■通常の刈り取りのとき

手もとデバイダレバーを2条刈位置にして、デバイダ（右）を狭め、デバイダ（右）を既刈り株の上に合わせます。



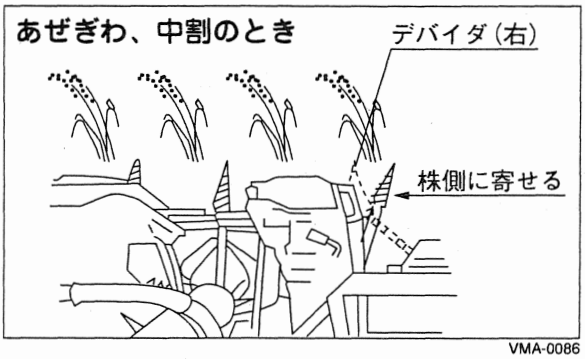
VMA-0085

■あぜぎわ、中割のとき

手もとデバイダレバーを3条刈位置（☞ 62ページ）にして、デバイダ（右）を広げ、デバイダ（右）をできるだけ株側に寄せて、3条刈ります。

補　足

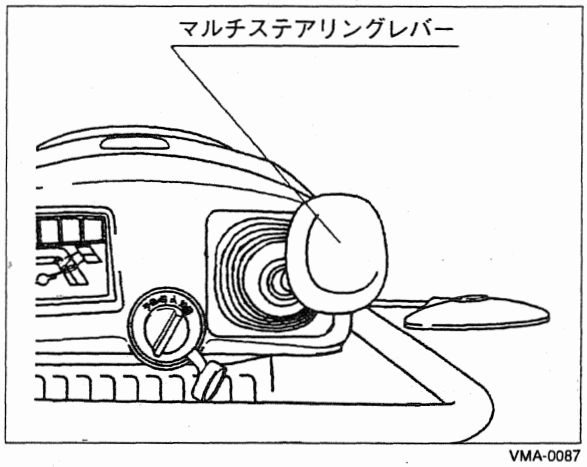
- **条合わせをするときは、マルチステアリングレバーはこきざみに操作します。**
- **あぜぎわは、デバイダが突っ込まないように低速で刈ります。**



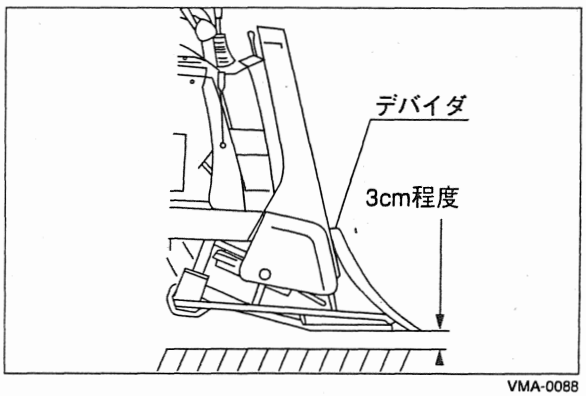
VMA-0086

8.1.6 刈高さの合わせかた

マルチステアリングレバーで、刈取部のデバイダを地面から3 cm程度の高さまで下げます。（☞ 42ページ）



VMA-0087

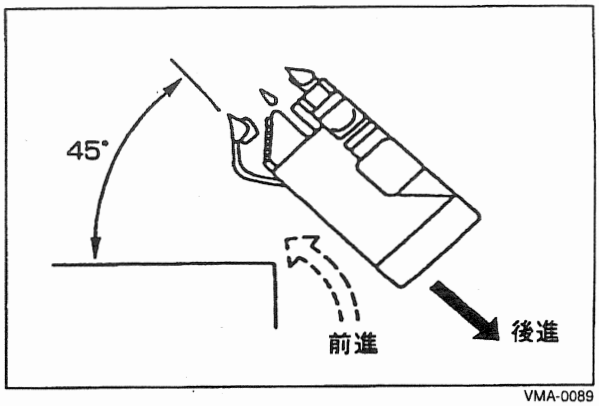


VMA-0088

8.1.7 回行のしかた

1 刈り終ると、マルチステアリングレバーで刈取部を上げます。

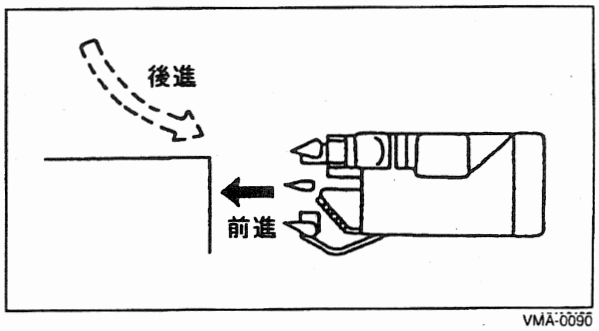
2 マルチステアリングレバーを操作し、45°程度回行した位置でストップします。



VMA-0089

3 主変速レバーを「後進」側に引き、マルチステアリングを操作して条合わせをします。

4 刈取部を下げ前進します。



VMA-0090

8.1.8 緊急エンジン停止のしかた

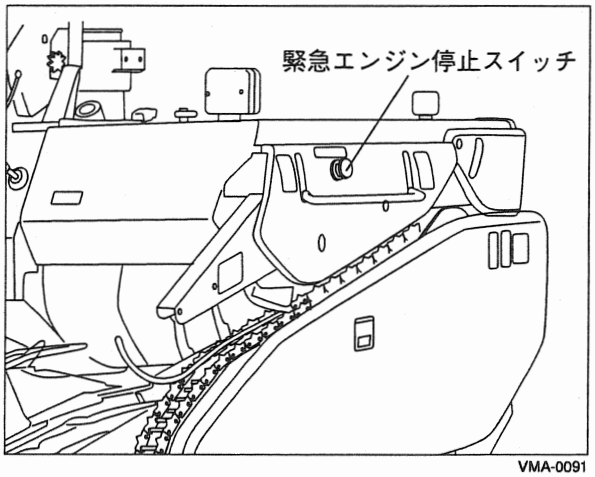
⚠注意

脱穀クラッチが入っていない時は、緊急エンジン停止スイッチを押してもエンジンは停止しません。

1 作業中（脱穀クラッチレバー「入」の時）に、緊急エンジン停止スイッチを押すとブザーが鳴ってエンジンが停止します。

2 メインスイッチを「切」にすると解除されます。

3 脱穀クラッチレバーを「切」にしてから再始動します。



VMA-0091

8.2 籾の排出のしかた

⚠注 意

籾排出時は機体を平たんな場所に停車し脱穀・刈取クラッチレバーを「切」にして駐車ブレーキをかけてから排出作業を行ってください。
オーガ旋回時は、周囲に十分注意してください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

籾排出終了後は、必ずオーガを縮めてオーガ受けに収納してください。
※ 守らないと、機体部品の破損、変形などを引き起こすおそれがあります。

オーガ排出口のビニールが破損したときは、必ず交換してください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

補助者と共同作業を行うときは、ホーンで合図をし、周囲の安全を確認してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

オーガの排出口に手を入れないでください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

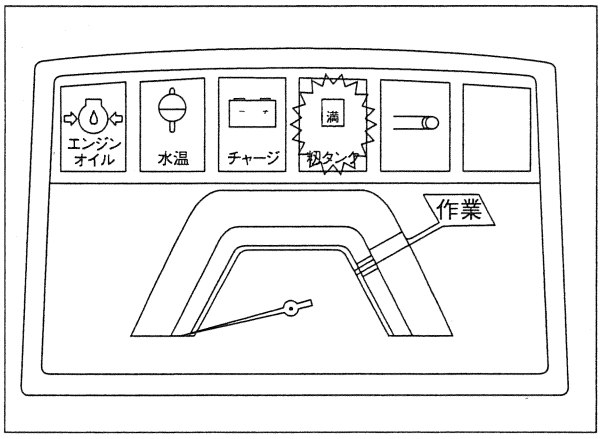
走行しながら排出オーガの操作をしないでください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

注 意

オーガを最下げにして作業する場合、扱胴カバーとウインカに干渉する場合がありますので、注意してください。
※ 守らないと、機体部品の破損、変形などを引き起こすおそれがあります。

8.2.1 籾の排出のしかた（G型）

1 タンク内に籾が満杯になるとブザーが鳴り、同時にOKモニタの籾タンクが点灯します。



VMA-0076A

2 刈取作業を中止します。

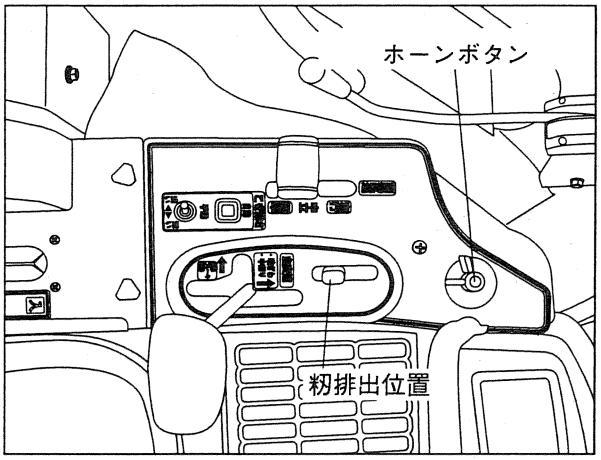
補　足

- **ブザーが鳴った後も作業を続けると、詰まりが発生し、故障の原因となります。**

3 ホーンボタンを押して、ブザーを止めます。

4 排出場所に移動します。

5 主変速レバーを「中立」（「●」位置）にして駐車ブレーキをかけます。



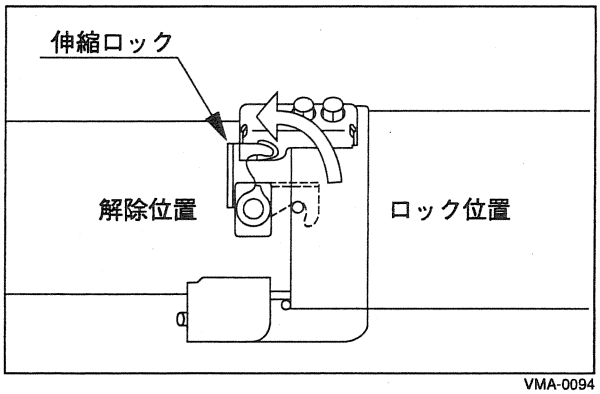
VMA-0030F

6 排出オーガの伸縮ロックを解除します。

7 解除レバーを握って、排出オーガを任意の長さまで伸ばします。

補　足

- **解除レバーを奥までしっかり握らないと、排出オーガの伸縮操作が重い場合があります。**



VMA-0094

8 オーガ操作レバーを操作して、排出オーガを排出位置に合せます。

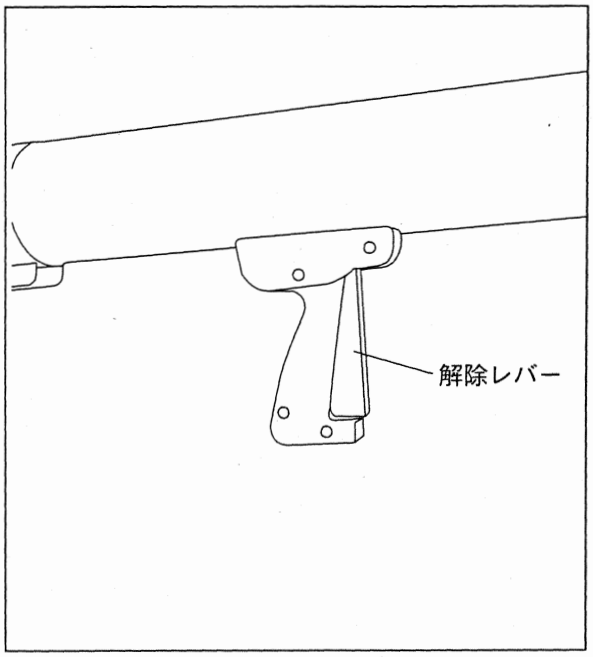
9 アクセルレバーを排出位置に合わせます。

10 籾排出レバーを「排出」にして穀粒を排出します。排出後は必ず「停止」にします。

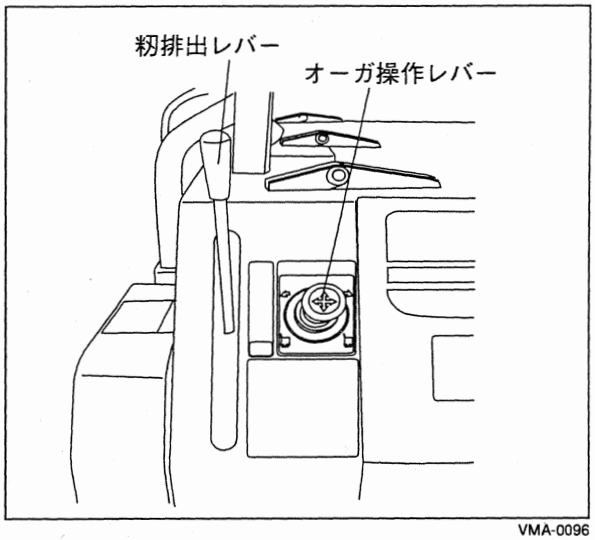
11 排出オーガをオーガ受けに収納し、排出オーガを縮め、伸縮ロックをかけます。

補　足

- 籾排出終了時には、排出オーガ内に穀粒が残らないように完全に排出してください。排出オーガ内に穀粒が残っていると、オーガの伸縮操作が重くなる場合があります。
- 排出オーガ収納時、オーガがオーガ受けに収納された状態でオーガ操作レバーを下げ操作し続けないでください。また、排出オーガを障害物に当てたまま、オーガ操作レバーを操作しないでください。ブレーカが作動して動かなくなります。ブレーカが作動時は30秒後に再操作してください。
- オーガ受け収納時、オーガ操作レバーを左右操作させないでください。ブレーカが作動したり破損するおそれがあります。
- 籾排出レバーが「排出」になっているときは、伸縮操作が重いので、伸縮させないでください。



VMA-0095



VMA-0096

8.2.2 グレンタンク補助取り出し口の使いかた（G型）

⚠注意

掃除口から籾を排出するときは必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてから行ってください。

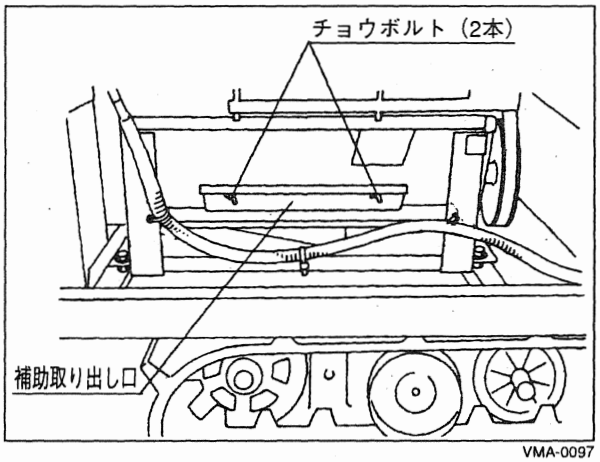
※　傷害事故などを引き起こす原因となります。

オーガでの排出ができない場合は下記要領でタンク内の穀粒を取り出してください。

1 ノブボルト（2本）を外し、ロワータンクカバーを外します。（☞ 91ページ参照）

2 チョウボルト（2本）を外し、ラセン底の掃除口を開けて穀粒を取り出します。

3 排出が終了したら、ラセン底の掃除口を閉じて、ロワータンクカバーを取り付けます。



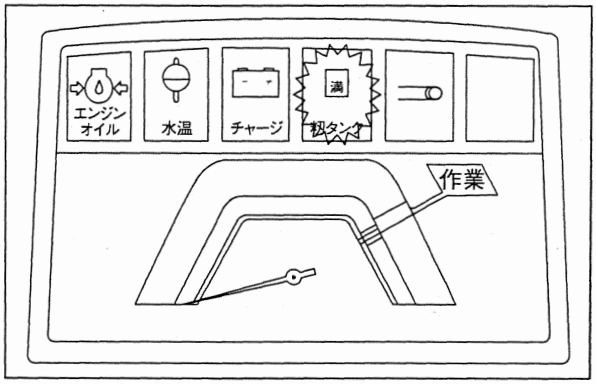
VMA-0097

8.2.3 籾袋の交換のしかた（ホッパ型）

⚠注意

刈取作業をしているとき、および走行中は補助キャリヤに乗らないでください。
※　守れないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

1 タンク内に籾が満量になるとブザーが鳴り、同時にOKモニタの籾タンクが点灯します。



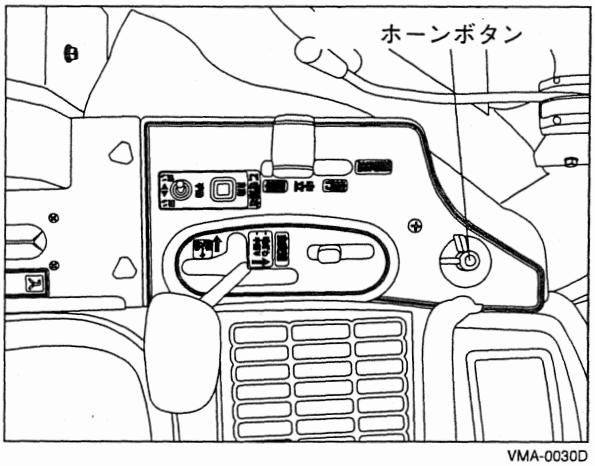
VMA-0076A

2 刈取作業を中止します。

補　足

- **警報ブザーが鳴った後、作業を続けると詰まりが発生し、故障の原因となります。**

3 ホーンボタンを押して、ブザーを止めます。

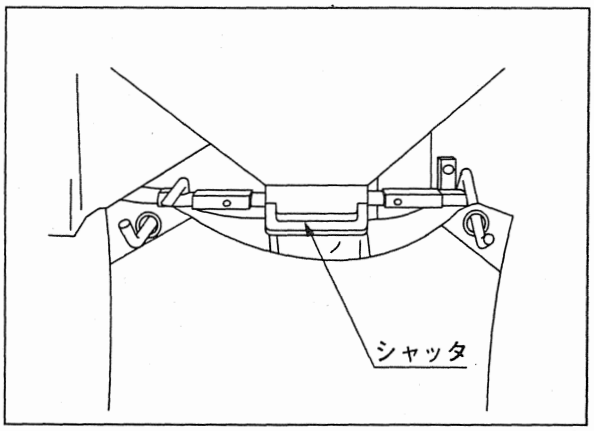


VMA-0030D

4 主変速レバーを「中立」（「●」位置）にして駐車ブレーキをかけます。

5 シャッタを「閉」位置にして籾袋を交換したあと、シャッタを「開」位置にします。

6 駐車ブレーキを解除し、作業を始めます。



VMA-0098

8.2.4 手こぎのしかた

⚠警告

手こぎ作業中万一詰まりが発生した場合は必ずエンジンを停止してから取りのぞいてください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

作業に適した服を着用してください。
※ 守らないと、巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

停車し、刈取部・走行部を必ず停止させてから作業してください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

危険な状況が発生した場合は、緊急エンジン停止スイッチを押してくだい。
緊急エンジン停止スイッチは脱穀クラッチレバー「入」のときしか作動しません。
※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

機体を再度動かす時は主変速レバーを「中立」(「●」位置) にしてから駐車ブレーキを解除してください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

手こぎの場合は一度に多量の作物を供給しないでください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

フィードチェンに手や服が触れないようにしてください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

フィードチェンより内側に手を入れないでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

脱穀入口に溜った作物は手で押し込まないでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1 機体を平たんな場所に停車してから、駐車ブレーキをかけます。(☞ 45ページ)

2 副変速を「中立」にします。

3 マルチステアリングレバーで刈取部を下げます。

4 フロントガイドを上へ開けます。

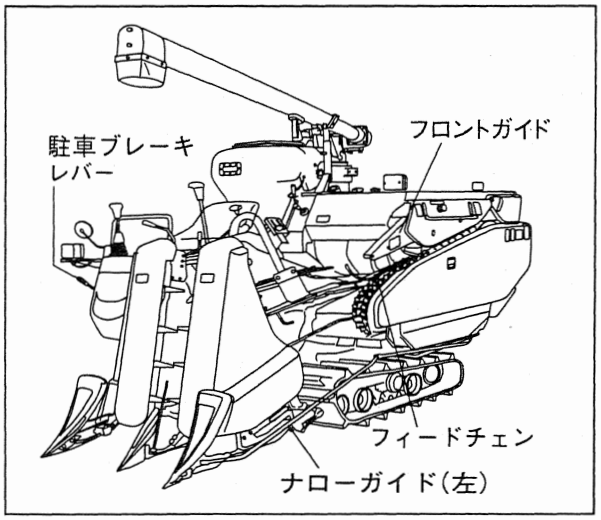
5 ナローガイド（左）を収納します。

6 脱穀クラッチレバーを「入」にして、エンジン回転数を定格にします。

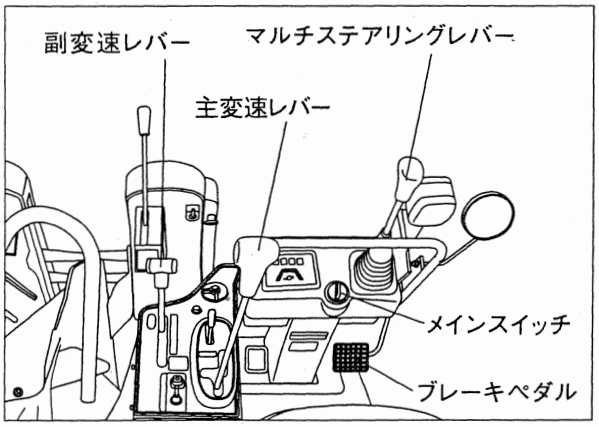
7 フィードチェンの左側面に少し離れて立ち、フィードチェンに手や身体が触れないように、作物を少量ずつフィードチェンに供給します。

補　足

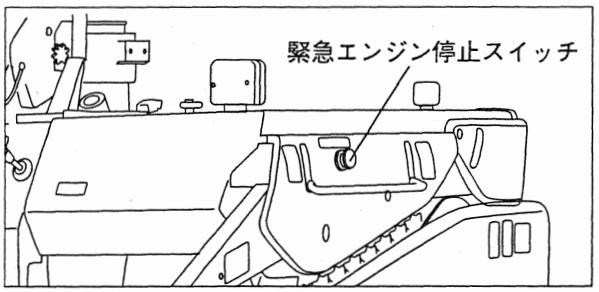
- **一カ所で多量に手こぎをすると、カッタ内部にワラが巻き付いたり、揺動棚や吸引に詰まる場合があります。時々、機体を移動させてください。**
- **手動こぎ深さ調節スイッチで刈取搬送部をいっぱい深こぎ側に下げると、作業がしやすくなります。**

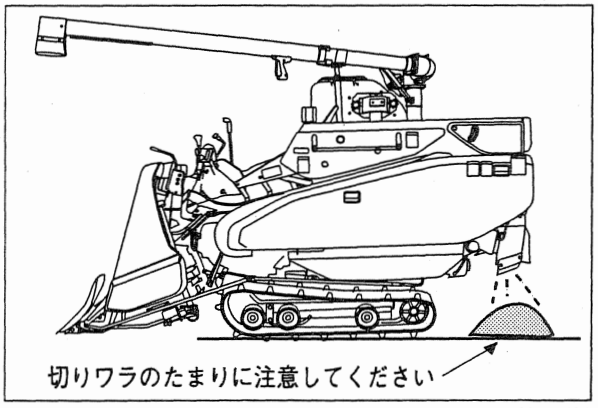


VMA-0034B



VMA-0026B





VMA-1026A

9. 自動装置について

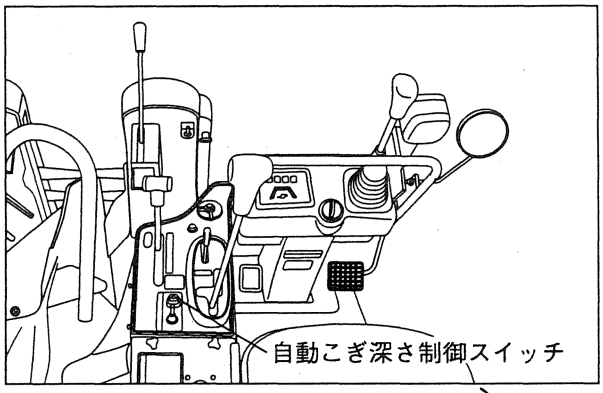
注　意

コンバインを水洗いするときは、センサ部、モータ部、ユニット格納部に水をかけないでください。(☞ 82, 83ページ)

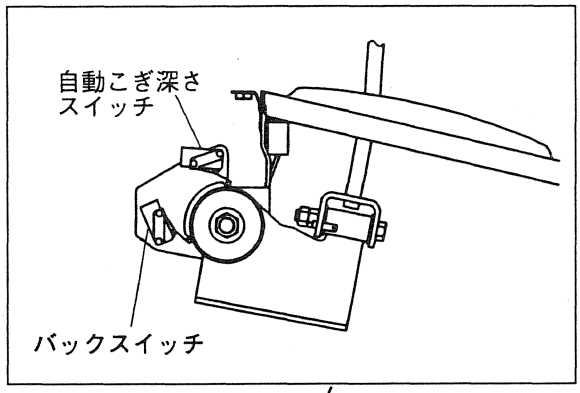
※　機械部品の破損、変形などを引き起こす原因となります。

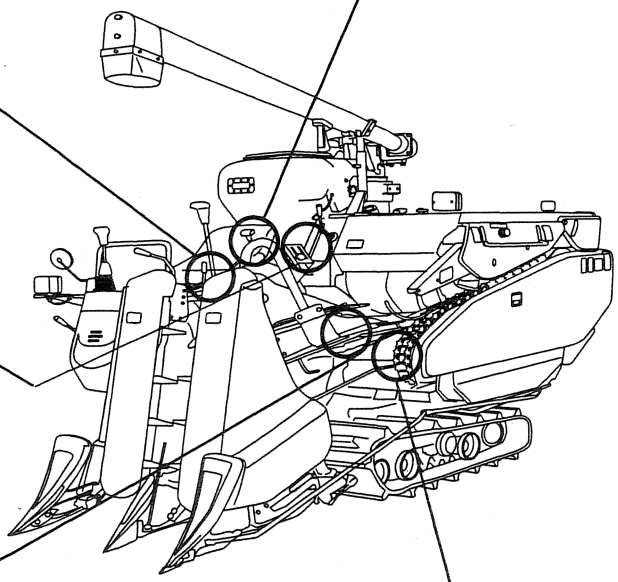
9.1 自動装置センサとスイッチ

■自動こぎ深さ制御スイッチ

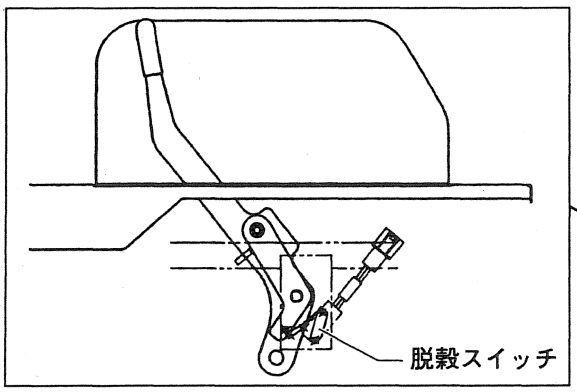


■自動こぎ深さ、バックスイッチ

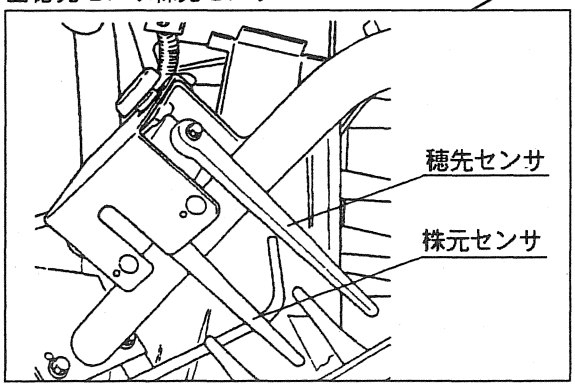




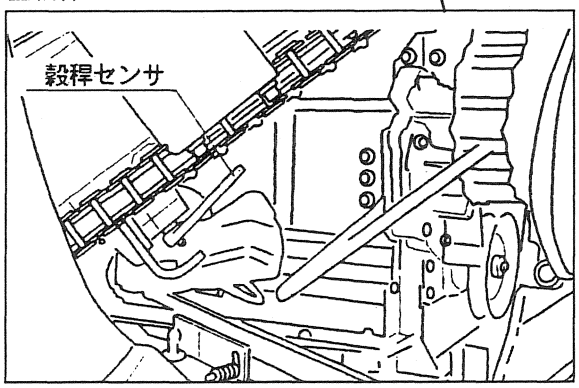
■脱穀スイッチ



■穂先センサ株元センサ



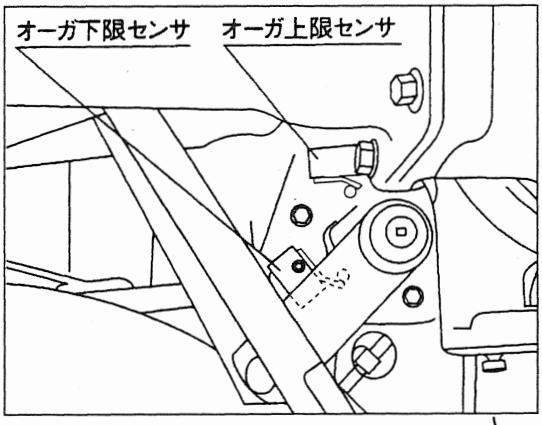
■穀稈センサ

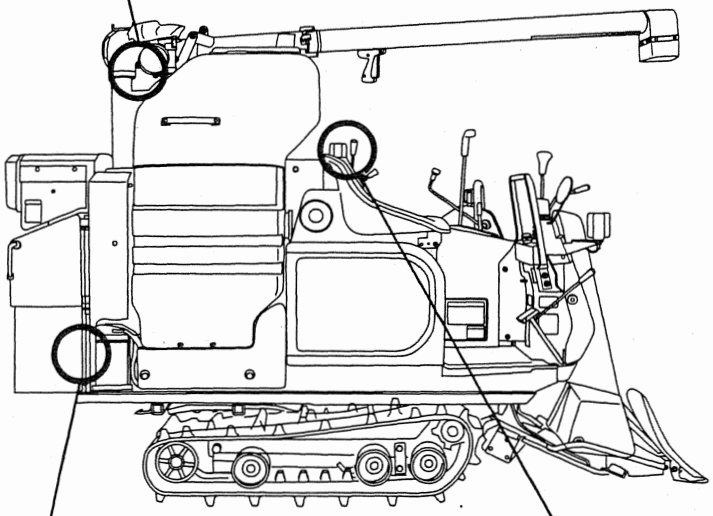


VMA-0099

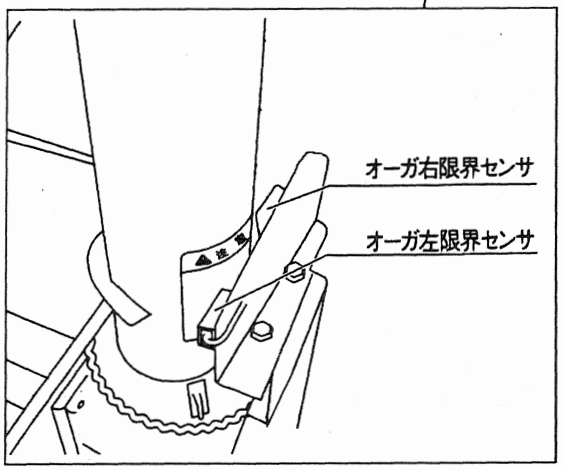
〈G型〉

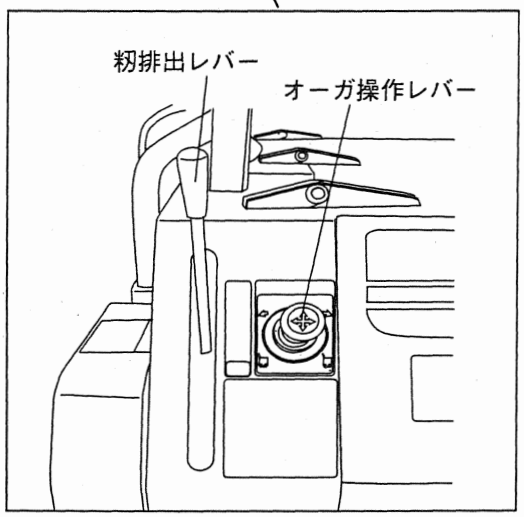
■オーガ上限センサ、オーガ下限センサ





■オーガ旋回関係センサ



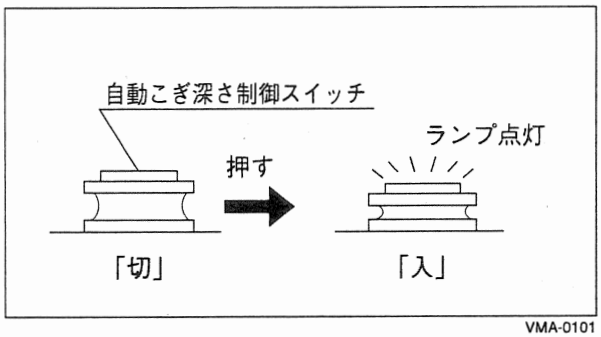


VMA-0100

9.2 自動こぎ深さ制御の使いかた

9.2.1 機能

脱穀部に供給する作物の、こぎ深さを自動的に制御する装置です。



VMA-0101

9.2.2 取り扱い時の注意事項

(1) 次のような場合は、自動こぎ深さ調節スイッチを「切」にして、手動で調節します。
- ●作物より長い雑草が多い場合
- ●軟弱稈で搬送が乱れる場合
- ●雑草の多いほ場で、センサに雑草の引っかかりが多発する場合
- ●麦作業で、センサに桿切れの引っかかりが多発する場合
- ●ほ場の刈りはじめや、作物の長さが急激に変わる場合

(2) センサにワラや雑草が引っかかっていると誤作動することがありますので、取り除きます。

(3) 主変速レバーが「中立」(「●」位置) に近いときは、自動こぎ深さ制御装置は作動しません。このとき、自動こぎ深さ制御スイッチを「切」にする必要はありませんが、手動でこぎ深さの調節をします。

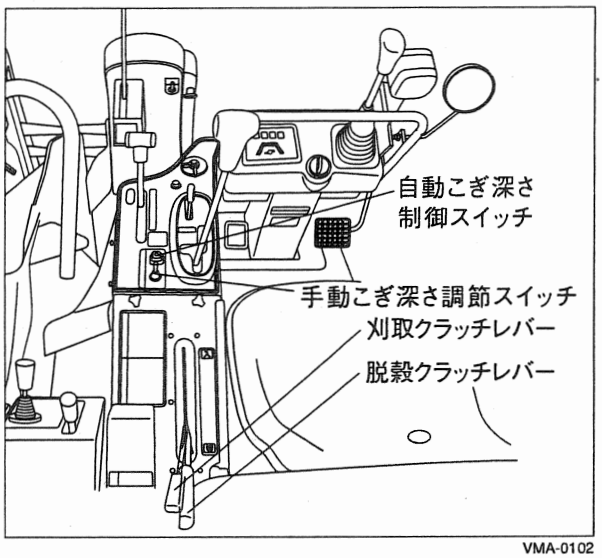
9.2.3 操作のしかた

1 自動こぎ深さ制御スイッチを押して「入」(ランプ点灯) にします。

2 こぎ深さ指示マークに穂先先端が合っていることを確認します。合っていないときは、センサ位置を調節します。

補　足

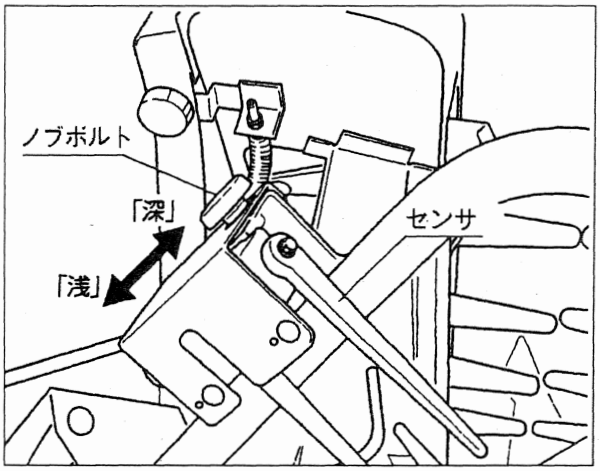
- **手動優先回路を組んでいますから、自動こぎ深さ制御スイッチが「入」の状態でも、手動こぎ深さ調節スイッチの操作が優先します。**
- **誤作動防止のため低速作業では自動こぎ深さ制御は動作しません。手動こぎ深さ調節スイッチで調節します。**



VMA-0102

9.2.4 センサ位置の調節のしかた

作物の条件によりこぎ深さが変化する時は、こぎ深さ指示マークに穂先先端が合うようにセンサ位置を調節してください。出荷位置は、「深」側になっています。



VMA-0103

■調節のしかた

（1）ノブボルトをゆるめる。

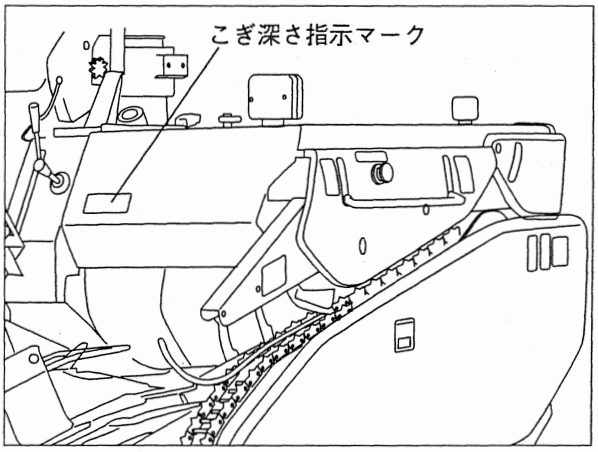
●深くしたい場合……「深」側へ

●浅くしたい場合……「浅」側へ

（2）センサを移動して、ノブボルトを締め付けます。

補　足

- **浅こぎになりすぎるとこぎ残りが発生しやすくなります。**
- **深こぎになりすぎると脱穀部の負荷が大きくなりすぎるため、ロスが多くなり、ゴトゴト音が発生して作業能率が上がりません。**



VMA-1091

10. 各部の開閉・脱着のしかた

⚠警告

各部の開閉作業時は、機体を平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、メインスイッチを抜いて、周囲の状況を確認してから行ってください。
※　守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

エンジンが冷えてから作業してください。
※　守らないと、やけどなどのおそれがあります。

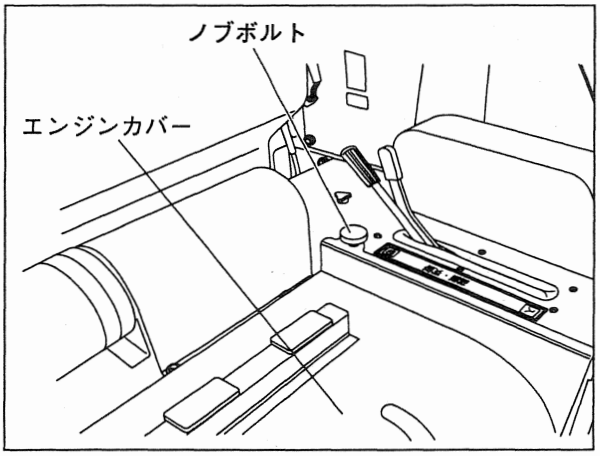
開けたカバーは必ず閉じてください。
※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

10.1　エンジンカバーの開閉のしかた

■開けかた

1 ノブボルトを外します。

2 エンジンカバーを機体右側に開けます。



VMA-0105

■閉じかた

1 エンジンカバーを閉じます。

2 ノブボルトを締めます。

10.2 供給搬送部の脱着のしかた

走行部、刈取部のベルト等を点検するときは、供給搬送部を外すと便利です。

■外しかた

1 フロントガイドを上げ、こぎ胴カバーを開けます。

2 チェンカバーを外し、ナットをゆるめ、フィードチェンを外します。
(☞92ページ)

3 手動こぎ深さ調節スイッチで、供給搬送部を一杯深こぎ側に下げます。

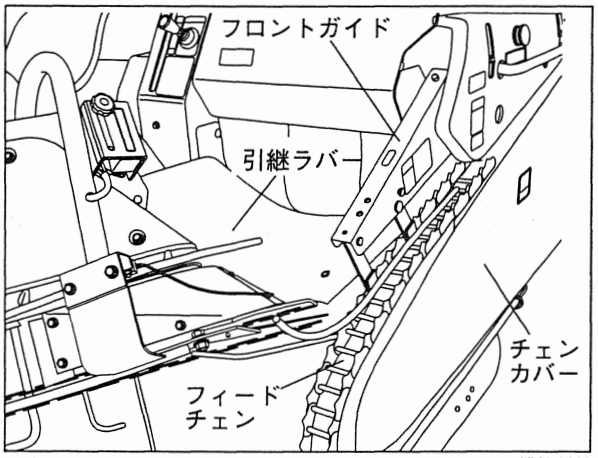
4 引継ラバーを前方へ巻き上げます。

5 配線カプラを抜きます。

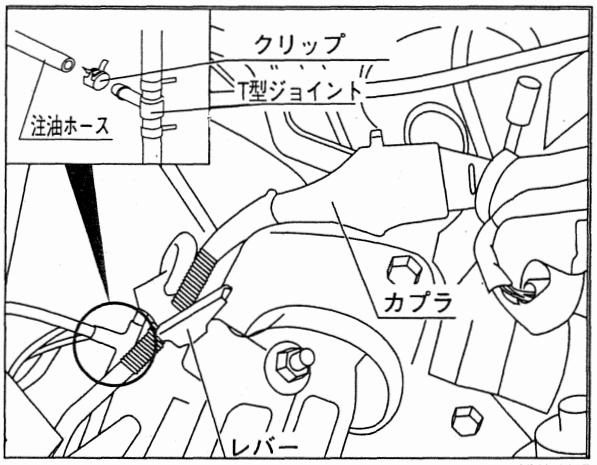
6 クリップを外し、注油ホースをT型ジョイントから抜きます。

7 レバーを引き上げ、ロックをはずし供給搬送部を手前に5cm程引き抜きます。

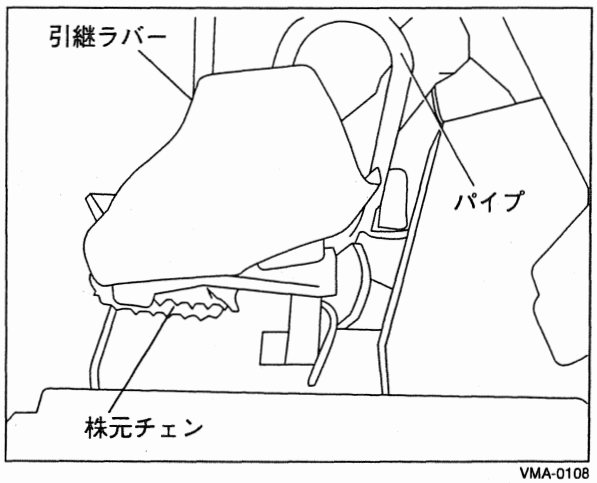
8 株元チェンとパイプを持ち、手前を少し引き下げながら上方へ持ち上げて外します。



VMA-0106



VMA-0107



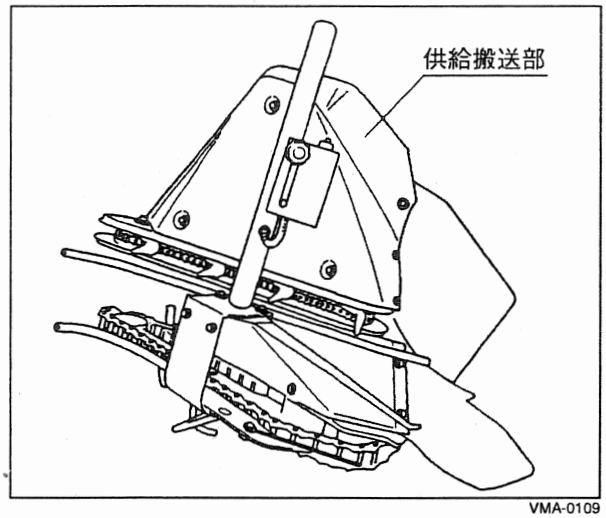
VMA-0108

■取り付けかた

注 意

供給搬送部は確実に押しこみ、引いても抜けないことを確認してください。
※ 守らないと、機体部品の破損、変形などを引き起こすおそれがあります。

1 外し方の逆の手順で行います。この際レバーを操作する必要はありません。



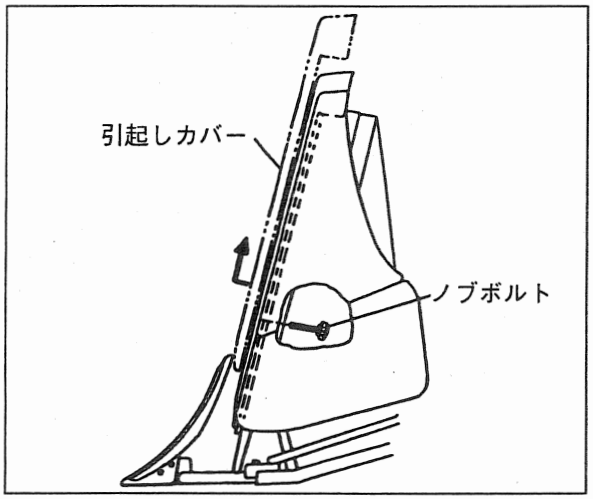
VMA-0109

10.3 引起しカバーの脱着のしかた

■外しかた

1 引起しケース後側のノブボルトを外します。

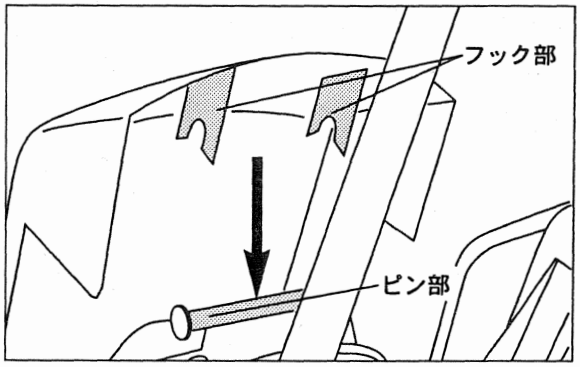
2 引起しカバーの下側を少し前に出してから、上方へ持ち上げて外します。



VMA-0110

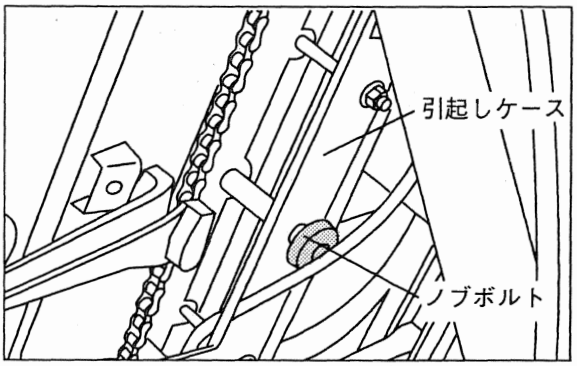
■取り付けかた

1 引起しカバーのフックを、引起しケースのピンへ確実にひっかけます。



VMA-0111

2 引起しケース後側のノブボルトで締めつけます。



VMA-0112

10.4 こぎ胴カバーの開閉のしかた

⚠警告

平たんで安全な場所で、必ずエンジンを停止してメインスイッチを抜いてから行ってください。

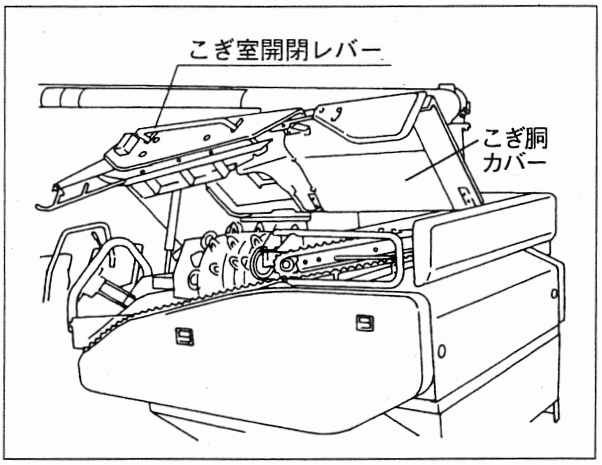
※ 守らないと、機体が動き出し、衝突事故などを引き起こすおそれがあります。

注 意

こぎ胴カバーを確実に閉めてください。

※ 守らないと、破損やこぎ室の異音発生のおそれがあります。

作業中ワラ詰まりが発生したときにオープンすると、ワラが簡単に取り除けます。



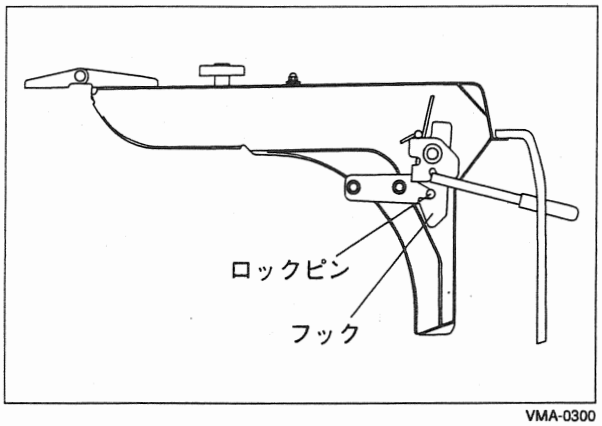
VMA-0113

■開けかた

1 こぎ室開閉レバーで、こぎ胴カバーを開きます。

■閉じかた

1 こぎ室開閉レバーで、こぎ胴カバーを閉じます。
（こぎ胴カバーのフックが確実にロックピンに掛っているか確認してください。）



VMA-0300

10.5 グレンタンクの脱着のしかた（G型）

⚠警告

必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

取り外したカバー類は必ず取り付けてください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

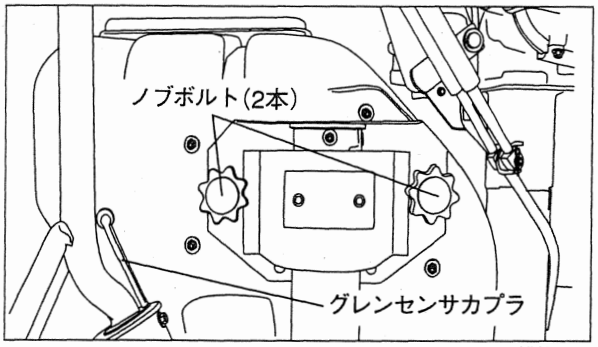
傾斜地では外さないでください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

グレンタンク内に穀粒が入っているときは、外さないでください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

■外しかた

1 グレンタンク上部のグレンセンサカプラを外します。

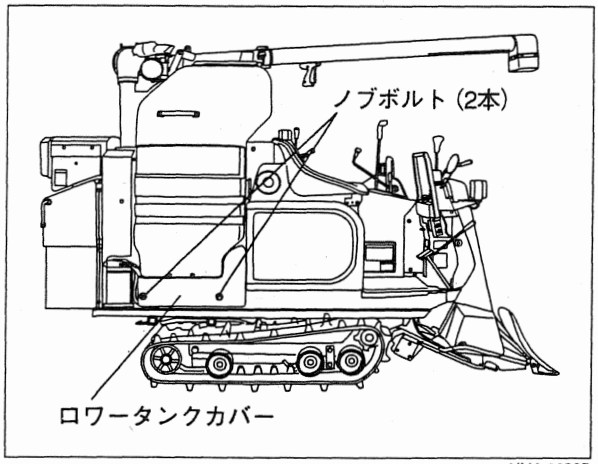
2 グレンタンク上部のノブボルト（2本）を外します。



VMA-0114

3 ノブボルト（2本）を外し、ロワータンクカバーを外します。

4 グレンタンクを上方向に引き上げながら、手前に引き出します。



VMA-0039B

■取り付けかた

1 グレンタンクを取りつけるときは、外しかたと逆の手順で取り付けます。

10.6 フィードチェンの脱着のしかた

⚠警告

平たんで安全な場所で、必ずエンジンを停止してメインスイッチを抜いてから行ってください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

傾斜地ではフィードチェンを脱着しないでください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

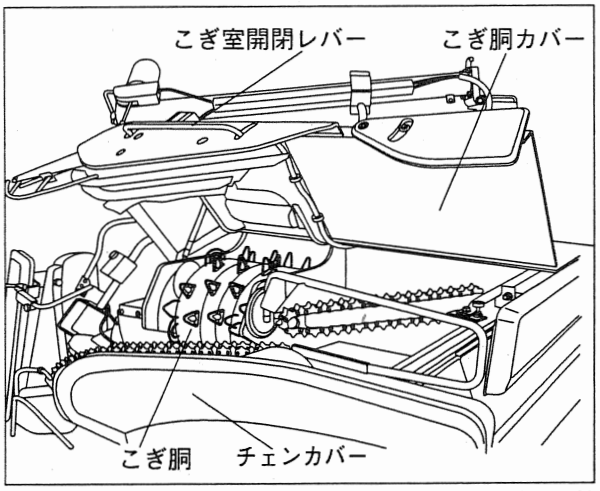
■外しかた

1 こぎ胴カバーを開けます。(☞ 90ページ)

2 チェンカバーを外します。

3 フィードチェンを止めているM12ナット(2個)を外します。

4 フィードチェンを手前に開け上方に持上げてチェンが付いたまま外します。



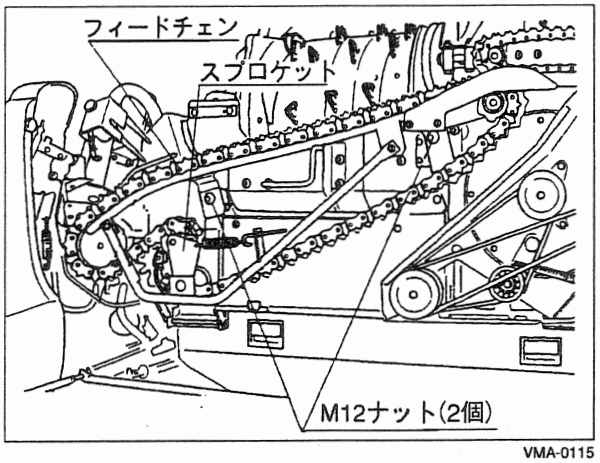
VMA-0113A

■付けかた

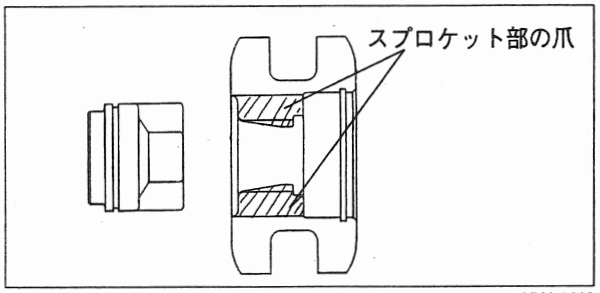
1 付けるときは外しかたと逆の手順で行います。

補 足

- **付けるときはスプロケット部の爪の位相に注意して組み付けます。(爪の位相が合って組み付かないときは、フィードチェンを手で回し位相をずらして組み付けます。)**



VMA-0115



VMA-0116

10.7 カッタオープンのしかた

⚠警告

平たんで安全な場所で、必ずエンジンを停止してメインスイッチを抜いてから行ってください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

カッタを開けて掃除やメンテナンスをするときは必ずオープンフックをホルダに差し込んでください。
※ 守らないと、カッタが自然に動き、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

取外したカバー類は必ず取付けてください。
※ 守らないと、機械に巻きこまれるなど、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

傾斜地では開けないでください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

カッタの回転刃には絶対に触れないでください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

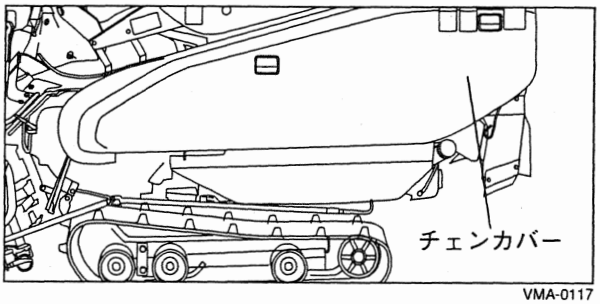
■開けかた

1 チェンカバーを取り外します。

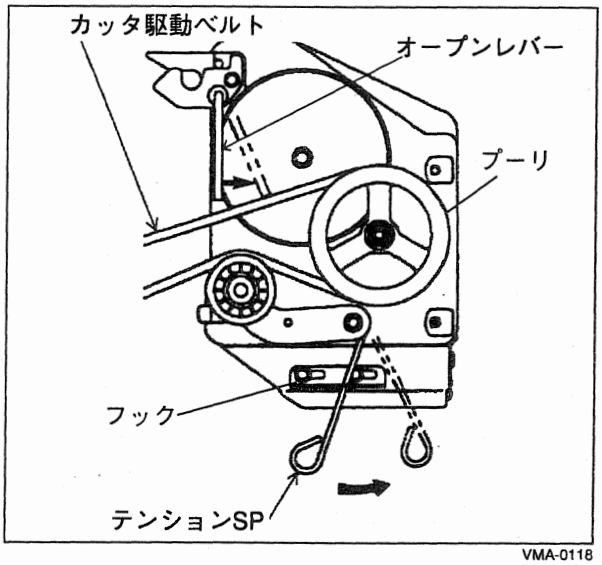
2 作業機切換レバーを操作して、キリカエバンを閉じます。(バラ落とし状態にします。)
(☞ 66ページ)

3 テンションSPをフックから外し、カッタ駆動ベルトをカッタ側のプーリから取り外します。

4 後カバー、穂先カバーを開けます。
(☞ 65, 66ページ)



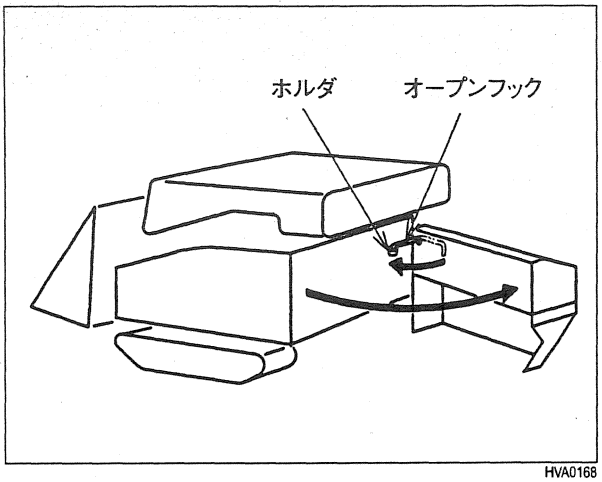
VMA-0117



VMA-0118

5 オープンレバーを矢印方向に引いて、カッタ部を開けます。

6 オープンフックをホルダーに確実に差し込みます。



HVA0168

■閉じかた

1 閉じるときは、開けかたと逆の手順で行い、チェンカバーを取り付けます。

11. 点検整備

⚠警告

点検・整備・掃除する時は平たんな場所に機械を置いて、駐車ブレーキをかけエンジンを停止し、メインスイッチを抜いて各部の回転が止まってから行ってください。
※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。
※　守らないと、排気ガスなどによる中毒を引き起こすおそれがあります。

取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。
※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

エンジン周辺で作業する時は、エンジンが十分冷えてから行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

刈取部を上げて作業する時は、必ず刈取ロックノブを「ロック」位置に回し、さらに刈取部の下にスタンド等の台を置き、刈取部が下がらないようにしてください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

運転中および停止直後は、絶対にラジエータキャップを開かないでください。
※　守らないと、熱湯がふき出して火傷等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

補　足

- **エンジンオイル量は、作業前に毎日点検してください。**
- **廃却物をみだりに廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。**
- **コンバインから廃液を抜く場合は容器で受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄または焼却するときは、「お買い上げ先」または「産業廃棄物処理業者」等に相談して、所定の規則に従って処理してください。**

11.1　定期点検一覧表

○印は点検・補給・調整　●印は交換してください。下記の時間は作業の条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。異常と思われるときは、点検してください。

点検項目		点検時間	時間					参照ページ
			シーズン前	50	100	200	300	
オイル	エンジンオイル	点検・交換	○	●	●	●	●	97
	走行メインギヤーケースオイル	点検・交換	○	●	以降100時間ごと交換			98
	こぎ胴ギヤーケースオイル	点検・交換			●	●	●	100

点検項目		点検時間	時間					参照ページ
			シーズン前	50	100	200	300	
ベルト	ファンベルト	点検・交換	○	○	○	●	○	102
	走行ベルト	点検・交換	○	○	○	●	○	103
	刈取ベルト	点検・交換	○		○	●	○	104
	かき込みベルト	点検・交換	○		○	●	○	105
	脱穀ベルト	点検・交換	○		○	●	○	105
	唐箕ベルト	点検・交換	○		○	●	○	107
	揺動ベルト	点検・交換	○		○	●	○	107
	一番ベルト	点検・交換	○		○	●	○	107
	カッタベルト	点検・交換	○		○	●	○	107
	排ワラベルト	点検・交換	○		○	●	○	107
	吸引ベルト	点検・交換	○		○	●	○	107
	グレンタンクベルト(G型)	点検・交換	○		○	●	○	106
	グレンタンクカウンタベルト(G型)	点検・交換	○		○	●	○	106

⚠注意

ベルトは初期10時間程度作業したら調整してください。チェン及びワイヤは、初期20時間程度作業したら調整してください。エアクリーナはシーズン前毎に清掃してください。エンジンオイルおよび冷却水の量は、作業前に毎日点検してください。

点検項目		点検時間	時間 シーズン前	50	100	200	300	参照ページ
チェン	引起しチェン	点検・調整	○		○	○	○	109
	供給株元チェン	点検・調整	○		○	○	○	110
	供給穂先チェン	点検・調整	○		○	○	○	111
	排ワラチェン（根元）	点検・調整	○		○	○	○	113
	フィードチェン	点検・調整	○		○	○	○	112
ワイヤ・レバー	アクセルワイヤ	点検・調整	○	○	○	○	●	116
	駐車ブレーキワイヤ	点検・調整	○	○	○	○	●	115
	穀粒排出クラッチワイヤ	調整	○	○	○	○	●	118
	手もとデバイダワイヤ	調整	○	○	○	○	●	117
	刈取クラッチワイヤ	点検・調整	○	○	○	○	●	118
	主変速（HST）レバー	点検・調整	○	作業前				118
	副変速レバー	点検・調整	○	作業前				118
	ブレーキ解除ワイヤ	点検・調整	○	○	○	○	●	115
その他	灯火類，ホーン	点検	○	作業前				31
	燃料タンク側燃料フィルタ	点検・調整	○	以後100時間ごと交換				119
	エンジン側燃料フィルタ	点検・調整	○	以後400時間ごと交換				119
	エンジンオイルフィルタ	点検・調整	○	●	以後100時間ごと交換			120
	転輪・アイドルローラ	グリースアップ	○	格納時グリースアップ				120
	油圧オイルフィルタ	点検・調整	○	●	以後100時間ごと交換			121
	エアクリーナ	点検・交換	○		●	●	●	122
	ホース類	点検・調整	○	2年ごと交換				124
	ゴム類	点検・交換	○		●	●	●	—
	ブレーキディスク板	交換	2年ごと交換					126
	クローラガイド	交換	○			●		161
	バッテリ	点検・交換	○	作業前				127
	配線類・バッテリコード	点検・交換	○	作業前				129
	ヒューズ	点検・交換	○	作業前				129
	クローラ	点検・調整	○			○		131
	冷却水	交換	○	格納時交換				132
	刈刃	点検・交換	○		○	●	○	133
	脱穀切刃	点検・交換	○		○	●	○	136
	こぎ歯	点検・交換	○		○	○	●	136
	こぎ胴受網	点検	○		○	○	○	143
	カッタ刃	点検・交換	○			●		140
	伸縮ラセン	清掃	○					137

11.2 オイルの点検と交換のしかた

⚠警告

各オイルの点検･交換は必ずエンジンを停止しメインスイッチキーを抜いてから行ってください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

取り外したカバー類は、すべて取付けてからエンジンを始動してください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

11.2.1 給油一覧表

給油箇所	規定量（ℓ）	出荷時のオイルの種類	参照ページ
エンジンオイル	2.2	ディーゼルエンジンオイル10W-30・CC級以上	97
走行メインギヤケースオイル	4.5	ギヤオイル（80W）GL-4以上	98
こぎ胴ギヤケースオイル	0.25	ギヤオイル（90＃）GL-5以上	100

補 足 ● **オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。「お買い上げ先」または「産業廃棄物処理業者」等に相談して、所定の規則に従って処理してください。**

11.2.2 エンジンオイル

⚠警告

エンジンオイルの点検・交換の際、エンジン及びマフラがよく冷えたことを確認してから点検・交換を行ってください。
※ 守らないと、やけどなどのおそれがあります。

注意

エンジンオイル量は、作業前に毎日点検してください。
エンジンオイルは、1～2回目50時間、3回目以降は100時間ごとに交換してください。
エンジンオイルは、上限以上に入れないでください。

■点検のしかた

1 エンジンカバーを開けます。（☞ 86ページ）

2 レベルゲージを抜いて先端をきれいに拭き、改めて差し込んでから再び抜き、「上限」と「下限」の間にオイルがあるか点検します。

3 「下限」以下の場合は給油キャップをはずし、給油口より、オイルを「上限」まで補給します。

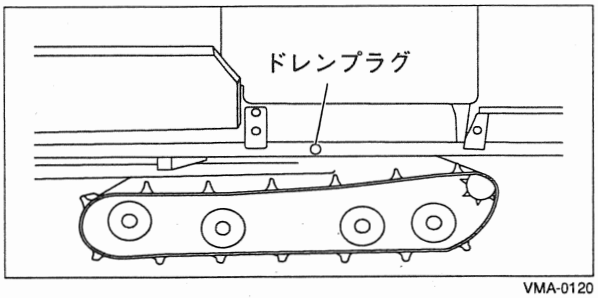
4 エンジンカバーを閉めます。

補 足

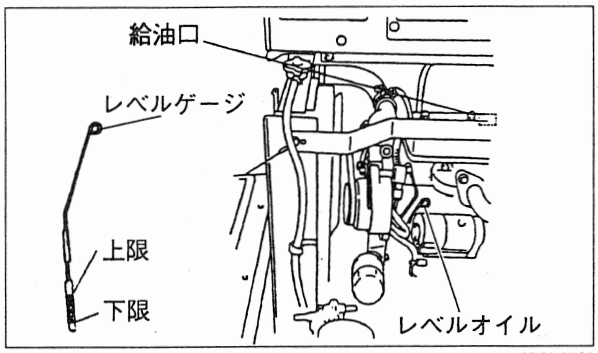
- **レベルゲージはいっぱいまで差し込んで検油してください。**
- **エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。（エンジン停止直後は約3分後に検油してください。）**
- **使用するエンジンオイルは必ず「三菱純正オイル」を使用してください。**

■交換のしかた

オイルの種類	規定量
ディーゼルエンジンオイル 10W-30・CC級以上	2.2L



VMA-0120



VMA-0121

1 コンバインを平たんな場所に停車します。

2 エンジンカバーを開けます。

3 ドレンプラグを外し、オイルを排出します。

4 排出後、ドレンプラグを締め付け、給油口よりオイルを規定量入れ、給油キャップを取り付けます。

5 交換後、約3分してレベルゲージにてオイル量を点検します。

6 エンジンカバーを閉めます。

補　足

7 ● **レベルゲージはゴムの部分まで完全に差し込んで検油してください。**

11.2.3　走行メインギヤーケースオイル

⚠警告

刈取部を上げて点検・交換を行う場合は、機体が水平になる場所で必ず刈取部をロックし、さらに刈取部の下にスタンド等の台を置いてください。
※　守らないと、刈取部が下がり思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

■点検のしかた

1 給油口にあるボルトを外し、検油口からオイルが流れるか確認します。

2 検油口以下の場合は補給が必要ですが、検油口以上に入れないでください。(油量は検油口よりオイルが流れ始めれば適量です。)

3 検油口のボルトを締め付けます。

補　足

● **使用するギヤーオイルは必ず「三菱純正オイル」を使用してください。**

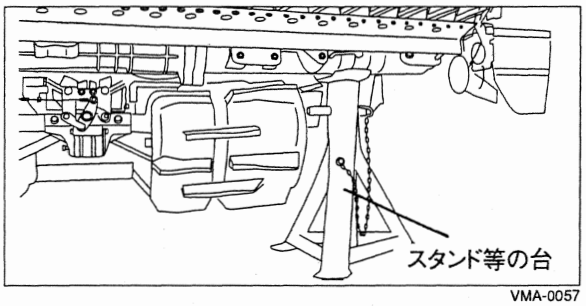
補　足

- **走行メインギヤケースオイルは、1回目50時間、2回目以降は100時間ごとに交換します。**

オイルの種類	規定量
ギヤオイルSAE80W GL-4以上	4.5 L

■交換のしかた

1 刈取部を最上げにし、刈取ロックをかけ（☞60ページ）、刈取部下にスタンド等の台を置きます。



VMA-0057

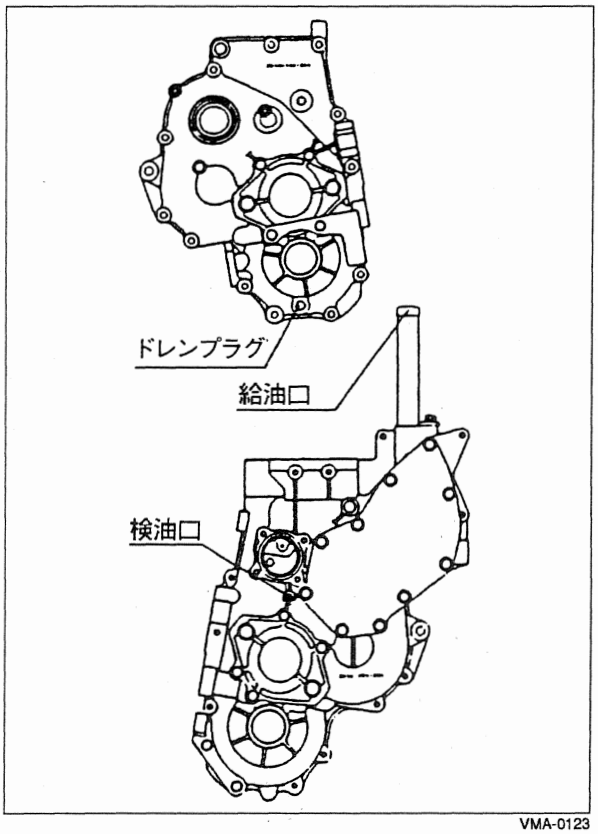
2 給油口のキャップとドレンプラグを外し、オイルを排出します。

3 排出後、ドレンプラグを締め付け、検油口のボルトを外します。

4 給油口よりオイルを給油します。検油口からオイルが流れ出しはじめれば適量です。

5 検油口のボルトを締め付けます。

6 給油口のキャップを取り付けます。



VMA-0123

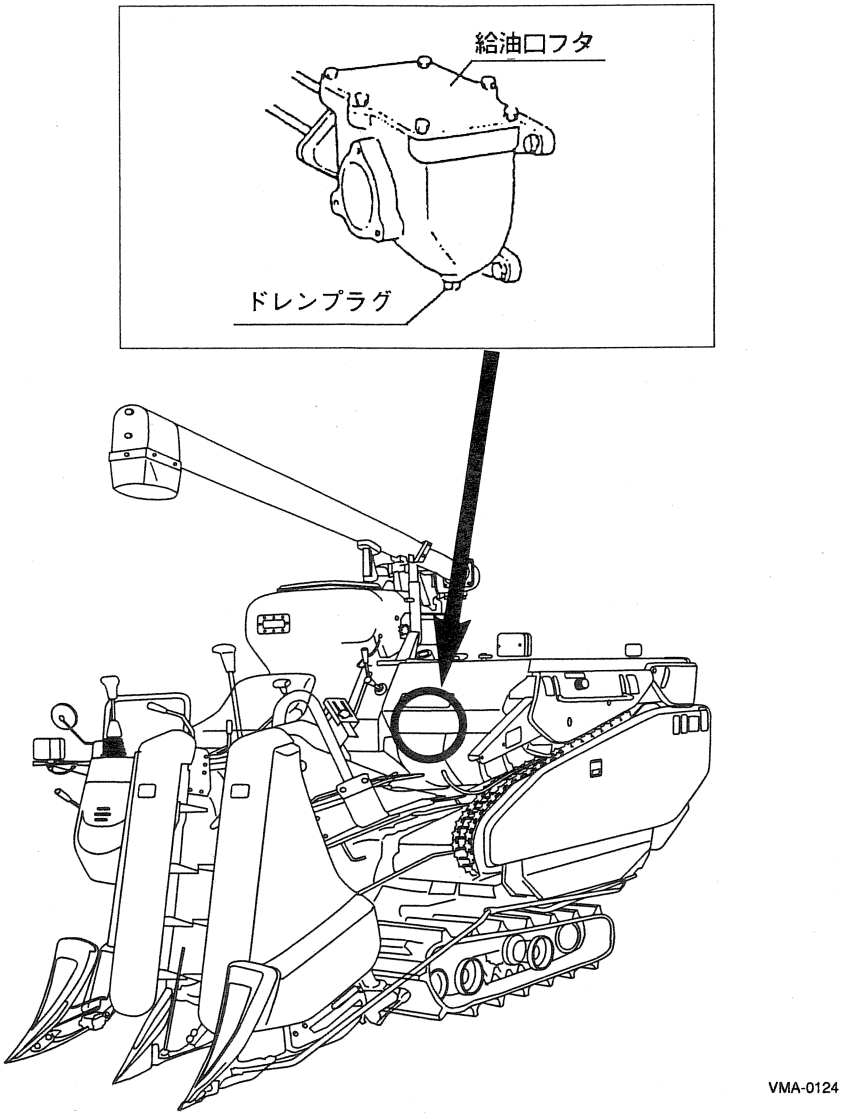
11.2.4 こぎ胴ギヤーケースオイル

ドレンプラグよりオイルを排出し、給油口より規定量を給油します。

補 足

- **こぎ胴ギヤーケースオイルは、100時間ごとに交換してください。**

	オイルの種類	規定量
こぎ胴ギヤーケース	ギヤオイル SAE90 GL-5以上	0.25L



11.3 ベルトの点検と調整のしかた

⚠警告

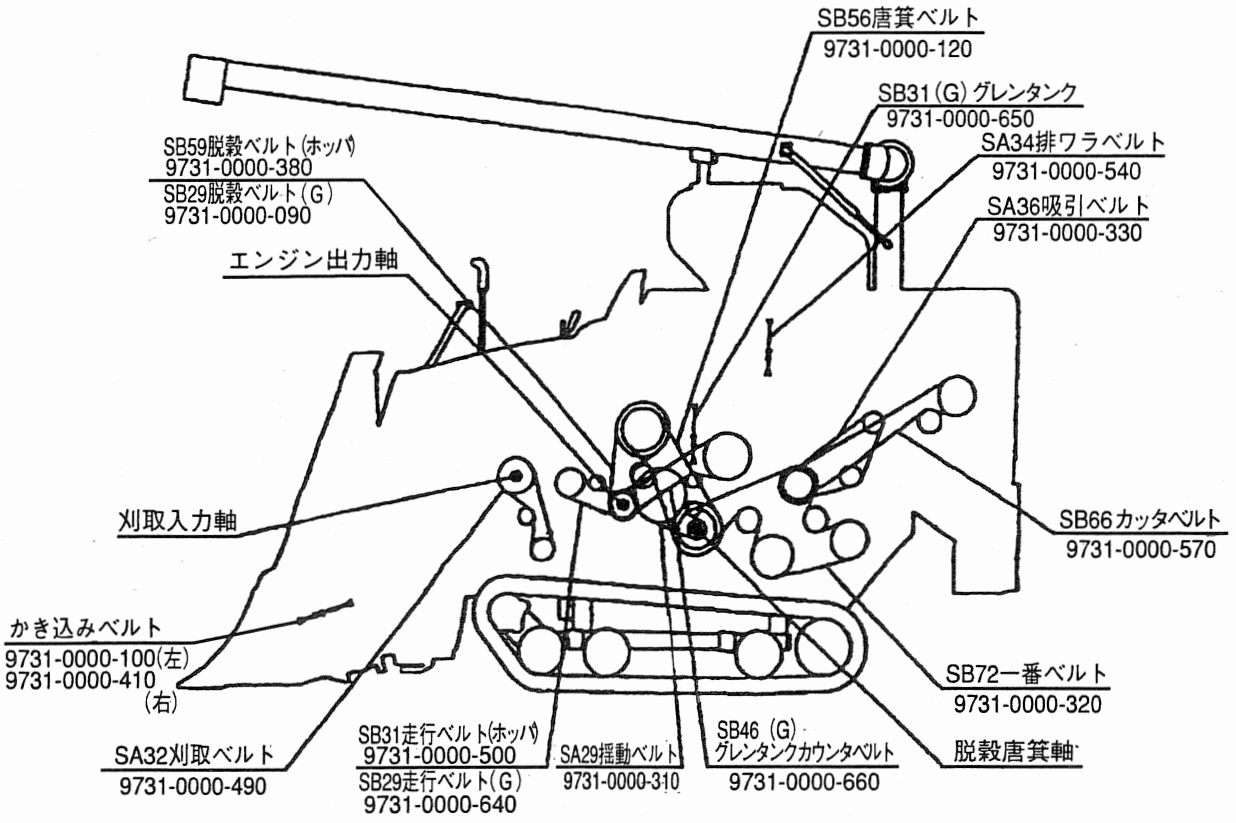
平たんな場所で必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてから回転が確実に止ったことを確認してから行ってください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

取り外したカバー類は、点検・調整後、必ず元の位置に組み付けてください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

11.3.1 ベルトの点検と調整一覧表

補 足
- 各ベルトは、作業前および100時間ごとに点検し、200時間ごとに交換してください。ファンベルト、走行ベルトは、作業前および50時間、100時間、以後100時間ごとに点検し、200時間ごとに交換してください。
- 新しいベルトは、初期伸びがありますので、10時間程度作業したら調整してください。

■ベルトの一覧表



■ベルトの点検と調整一覧表

ベルト名		点検・調整		参照ページ
		点検のしかた	規定量（mm）	
走行部	ファンベルト	ベルトを約10kgで押したときのたわみ量	14～15	102
	走行ベルト	テンションスプリングのスキマ	1.5～1.7	103
刈取部	刈取ベルト	テンションスプリングのスキマ（クラッチ入の状態）	0.4～0.6	104
	かき込みベルト	ベルトの中央を約5kgで引張ったときのたわみ量	0～5	105
脱穀部	脱穀ベルト	テンションスプリングのスキマ（クラッチ入の状態）	0.4～0.6	105
	グレンタンクベルト（G型）	テンションスプリングのスキマ	0.5～0.7	106
	唐箕ベルト	テンションスプリングのスキマ	0.6～0.8	107
	揺動ベルト	テンションスプリングのスキマ	1.0～1.2	107
	一番ベルト	テンションスプリングのスキマ	0.8～1.0	107
	排ワラベルト	テンションスプリングのスキマ	1.0～1.2	107
	吸引ベルト	テンションスプリングのスキマ	0.6～0.8	107
	グレンタンクカウンタベルト（G型）	テンションスプリングのスキマ	1.0～1.2	106
作業機	カッタベルト	ベルトの中央を約10kgで押したときのたわみ量	10～15	107

11.3.2 ファンベルト

⚠警告

エンジンがよく冷えてから点検・調整を行ってください。
※ 守らないと、やけどをするおそれがあります。

1 エンジンカバーを開けます。（☞ 86ページ）

2 ベルトの中央部を約10kgで押して14～15mmたわむか点検します。規定量でない場合は、調整します。

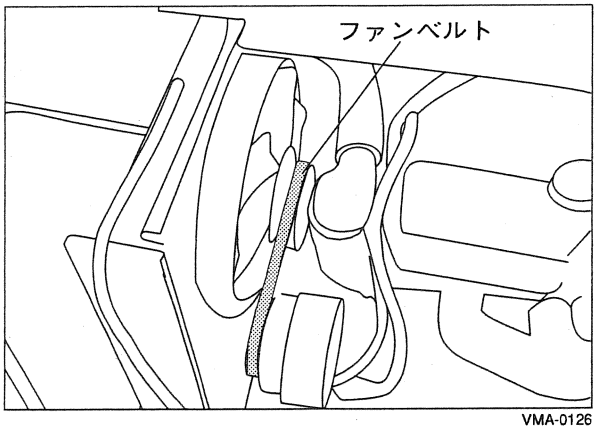
3 ゼネレータ取付ボルトをゆるめます。

4 ゼネレータを傾けてベルトを張り、取付ボルトを締め付けます。

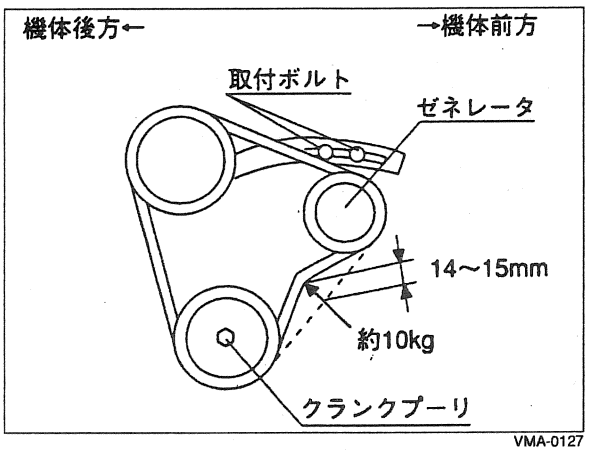
5 エンジンカバーを閉じます。

補足

- **ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。**



VMA-0126



VMA-0127

11.3.3 走行ベルト

1 エンジンカバーを開けます。（☞ 86ページ）

2 ステップ左のカバーをノブボルトをゆるめて外します。

3 テンションスプリングのスキマが1.5～1.7mmあるか点検します。規定量でない場合は、調整します。

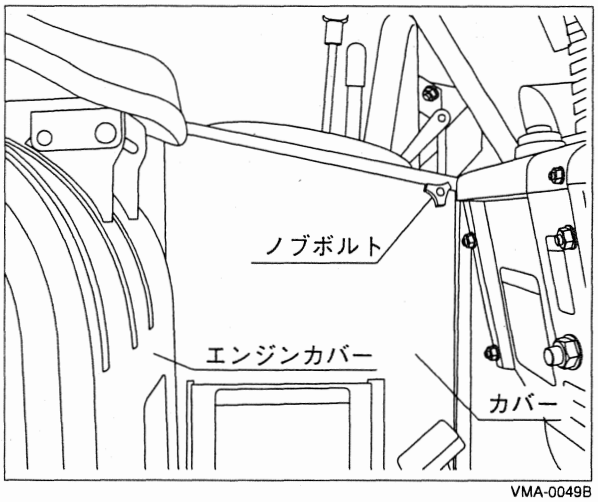
4 ロックナットをゆるめます。

5 テンションナットをまわし、テンションスプリングのスキマを1.5～1.7mmに調整します。

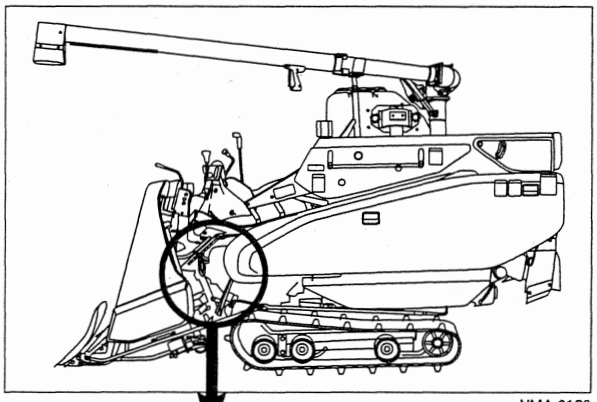
6 ロックナットを締め付けます。

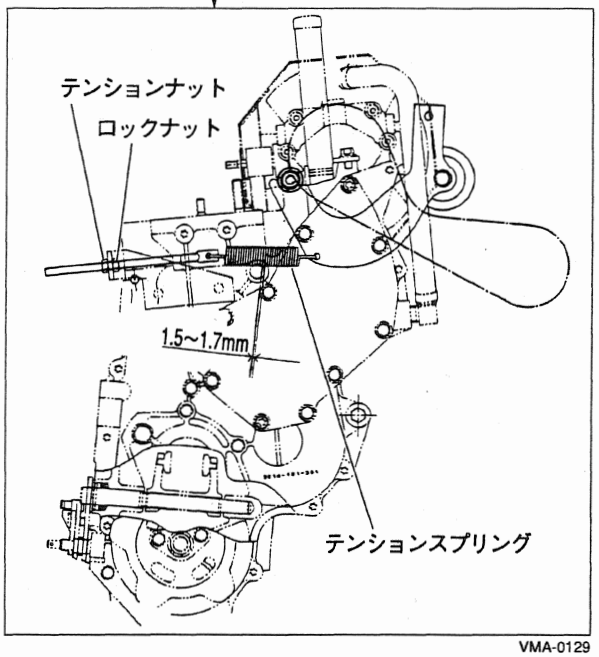
7 ステップ左のカバーをノブボルトで締め付けて取り付けます。

8 エンジンカバーを閉じます。



VMA-0049B


VMA-0128



VMA-0129

11.3.4 刈取ベルト

注意

テンションスプリングを張りすぎてベルトがつき回りしないようにしてください。
※ 守らないと、機体部品の破損、変形などを引き起こすおそれがあります。

1 刈取クラッチレバーを「入」にします。

2 テンションスプリングのスキマが0.4～0.6mmあるか点検します。規定量でない場合は、調整します。

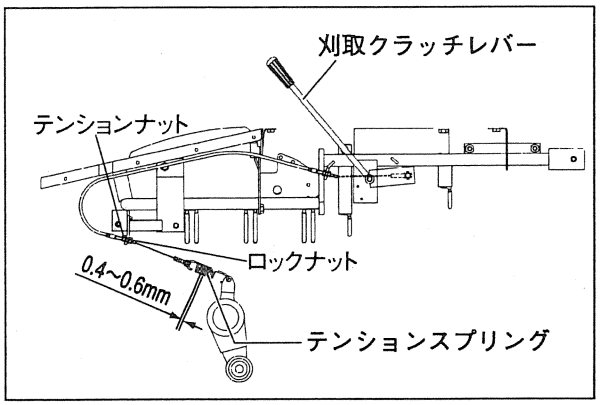
3 ロックナットをゆるめます。

4 テンションスプリングのスキマが0.4～0.6mmになるように、テンションナットを回し、ケーブルの調整をします。

5 ロックナットを締め付けます。

6 刈取クラッチレバーを「切」にします。

7 脱穀クラッチレバーを「切」にします。



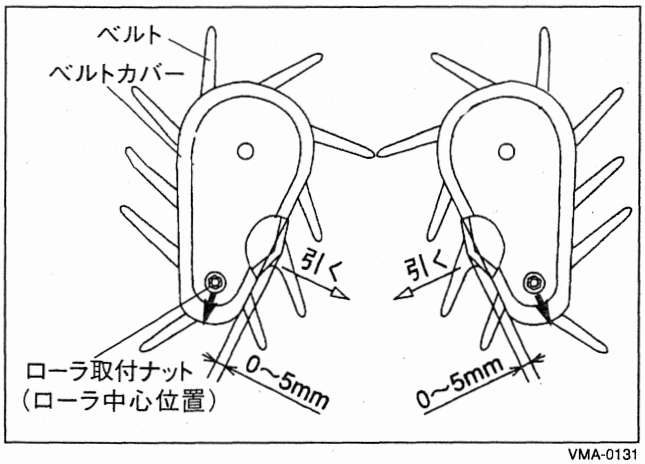
VMA-0130

11.3.5 かき込みベルト

ベルトの中央部を引張ったとき（約5kg）に、ベルトカバーとベルト内面のスキマが0～5mmあるか点検します。規定量でない場合は、調整します。

1 先端のローラ取付ナットをゆるめます。

2 ローラ中心位置を矢印方向にずらして、ベルト中央のたわみ量が0～5mmになるよう張り、ローラ取付ナットを締め付けます。



VMA-0131

11.3.6 脱穀ベルト

脱穀駆動ベルトがスリップしたり、脱穀クラッチレバー「入」のときの重さが以前より軽くなった場合には、調整します。
脱穀クラッチレバーを「入」にしたとき、テンションスプリングのスキマが0.4～0.6mmになるよう調整します。

1 刈・脱入切カバーを外します。（ノブボルト3本）

2 メインスイッチを「入」に手動こぎ深さ調節スイッチを操作して刈取供給部をいっぱい「深こぎ」側にし、メインスイッチを「切」にします。

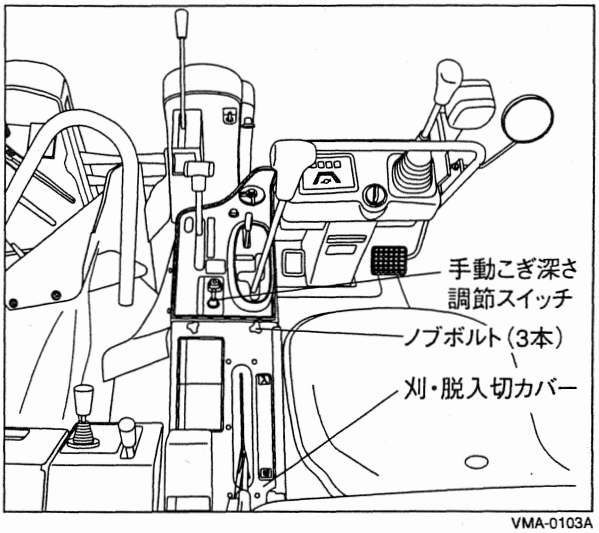
3 脱穀クラッチレバーを「入」にします。

4 刈取部側から手を入れて点検します。
テンションスプリングのスキマが0.4～0.6mmあるか点検します。規定量でない場合は、調整します。

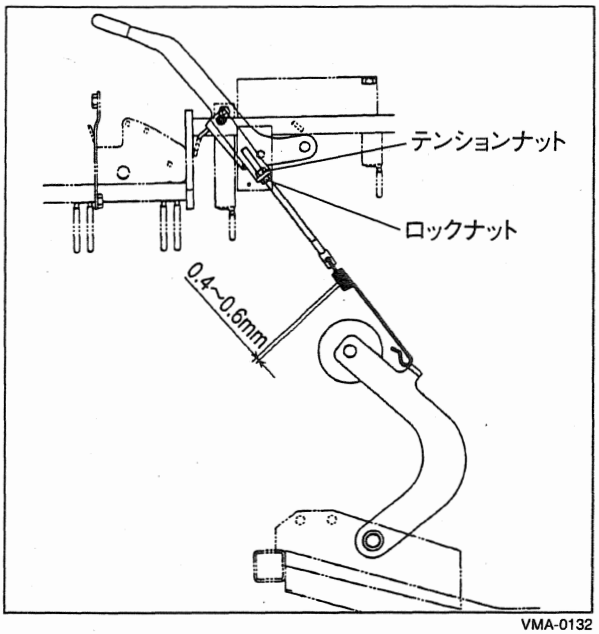
5 テンションスプリングのスキマが0.4～0.6mmになるようにロックナットをゆるめて、テンションナットで調整します。

6 ロックナットを締め付けます。

7 脱穀クラッチレバーを「切」にし、刈・脱入切カバーを取り付けます。



VMA-0103A



VMA-0132

11.3.7 グレンタンクベルト（G型）

1 ロワータンクカバーをノブボルト（2本）で外します。

2 グレンタンクを外します。（☞ 91ページ）

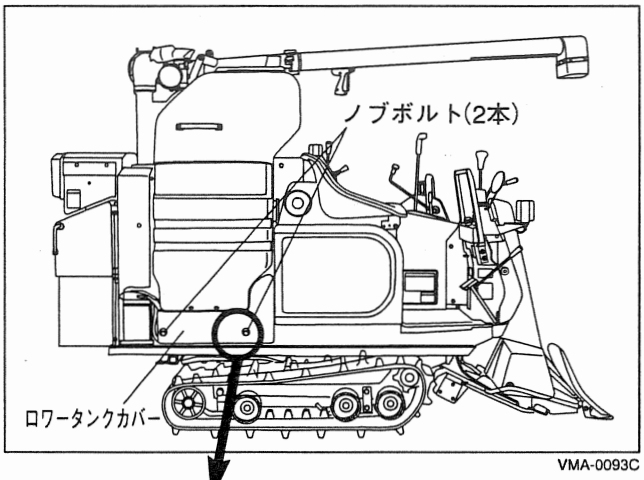
3 籾排出レバーを「排出」にします。

4 スプリングのスキマが0.5～0.7mmあるか点検します。規定量でない場合は調整します。

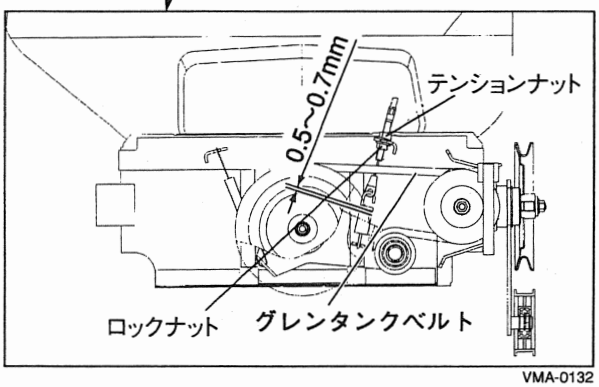
5 スプリングのスキマが0.5～0.7mmになるようにロックナツトをゆるめて、テンションナットで調整します。

6 ロックナットを締め付けます。

7 グレンタンク、ロワータンクカバーをを取り付けます。



VMA-0093C



VMA-0132

11.3.8 グレンタンクカウンタベルト（G型）

1 ロワータンクカバーをノブボルト（2本）で外します。

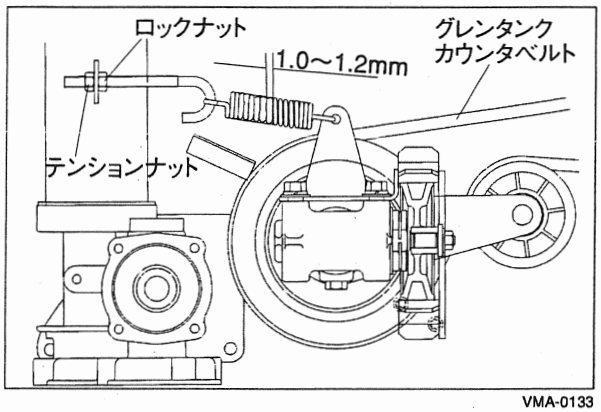
2 グレンタンクを外します。（☞ 91ページ）

3 スプリングのスキマが1.0～1.2mmあるか点検します。規定量でない場合は調整します。

4 テンションナットでスプリングのスキマが1.0～1.2mmになるよう調整します。

5 ロックナットを締め付けます。

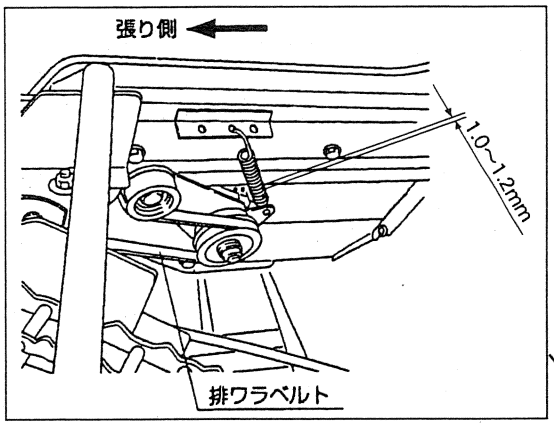
6 グレンタンクを取り付けます。



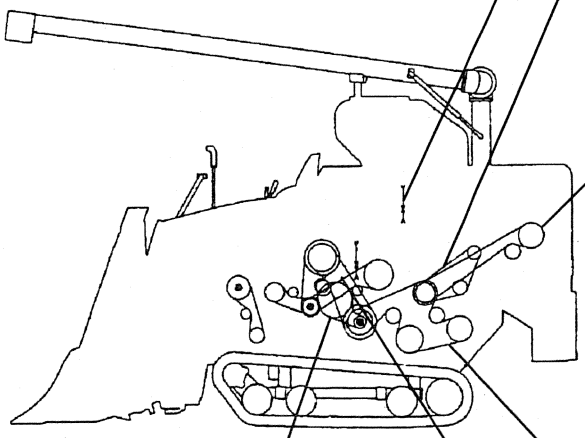
VMA-0133

11.3.9 その他の脱穀部のベルト

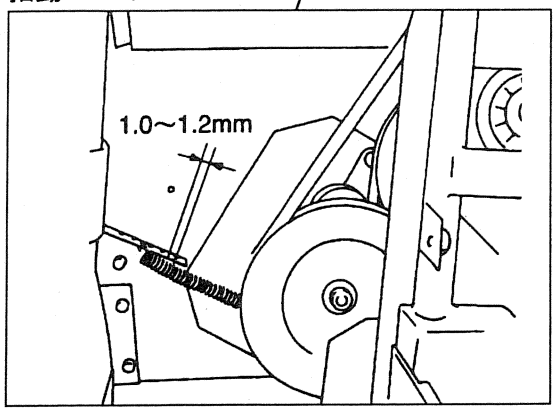
排ワラベルト



●テンションスプリングのスキマが1.0mm以下になった場合には、スプリングフックを張り側の穴へ掛け替えます。



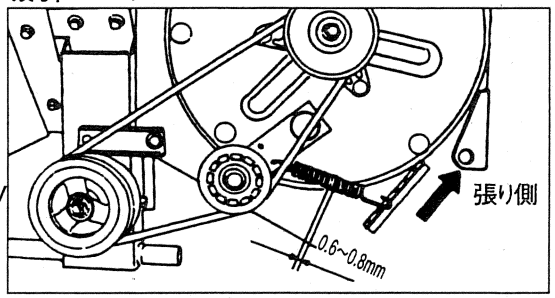
揺動ベルト



●テンションスプリングのスキマが1mm以下になった場合には、スプリングフックを張り側の穴へ掛け替えます。

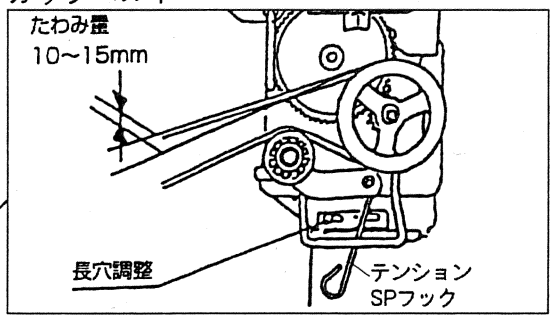
VMA-0134

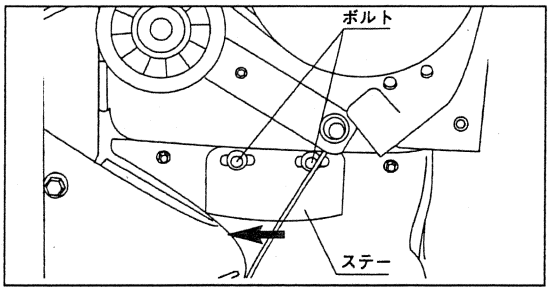
吸引ベルト



●テンションスプリングのスキマが0.6mm以下になった場合には、スプリングフックを張り側の穴へ掛け替えます。

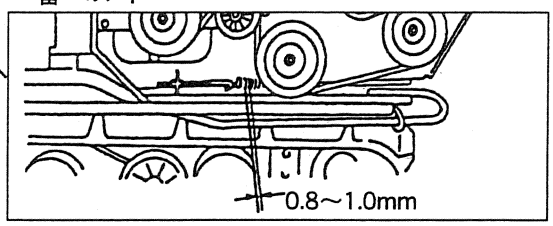
カッタベルト



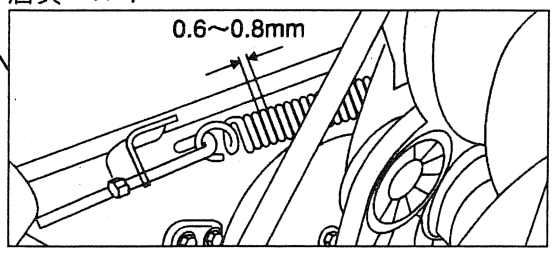


●ベルトの中央を約10kgで押して、たわみ量が10～15mm程度になるように、ステーを矢印の方向に移動させて調節します。

一番ベルト



唐箕ベルト



11.4 チェンの点検と調整のしかた

⚠警告

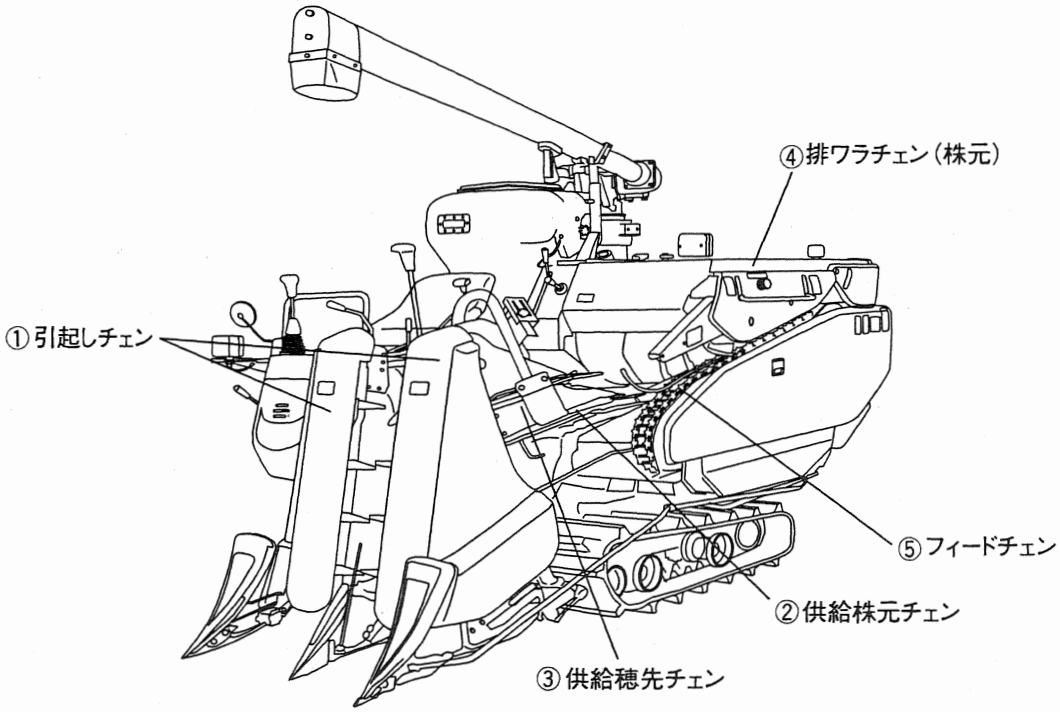
平たんな場所で必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検・整備のため、取り外したカバー類は、必ず元の位置に組み付けてください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

11.4.1 チェンの点検と調整一覧表

補 足

- **各チェンは、シーズン前および100時間ごとに点検します。**



■チェンの点検と調整一覧表

チェン名		点検・調整		参照ページ
		点検のしかた	規定量（mm）	
刈取部	①引起しチェン	テンションスプリングのスキマ	0.7～0.9	109
	②供給株元チェン	テンションスプリングのスキマ	1.4～1.6	110
	③供給穂先チェン	チェンを軽く指で押す	元に戻ること	111
脱穀部	④排ワラチェン（株元）	チェンを手で下に引いた時のテンションアームの動き	0.5～1.5	113
	⑤フィードチェン	テンションスプリングのスキマ	0.4～0.6	112

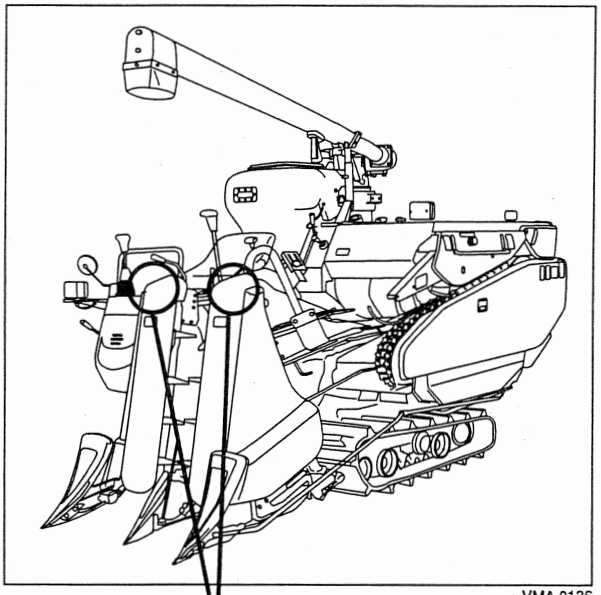
11.4.2 引起しチェン

1 テンションスプリングのスキマが0.7～0.9mmあるか点検します。規定量でない場合は調整します。

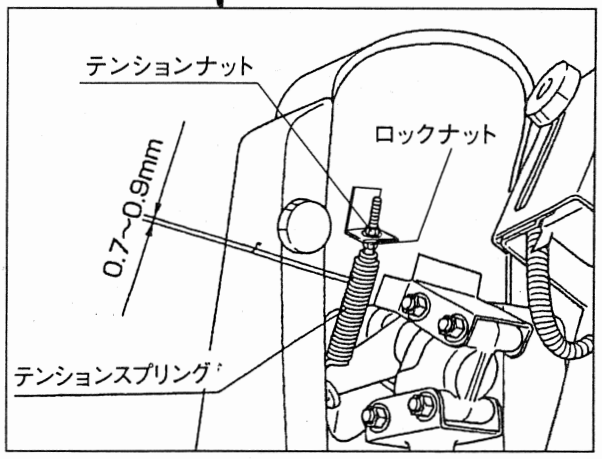
2 テンションロッドのロックナットをゆるめます。

3 テンションナットを回して、テンションスプリングのスキマが0.7～0.9mmになるように調整します。

4 ロックナットを締め付けます。



VMA-0136



VMA-0137

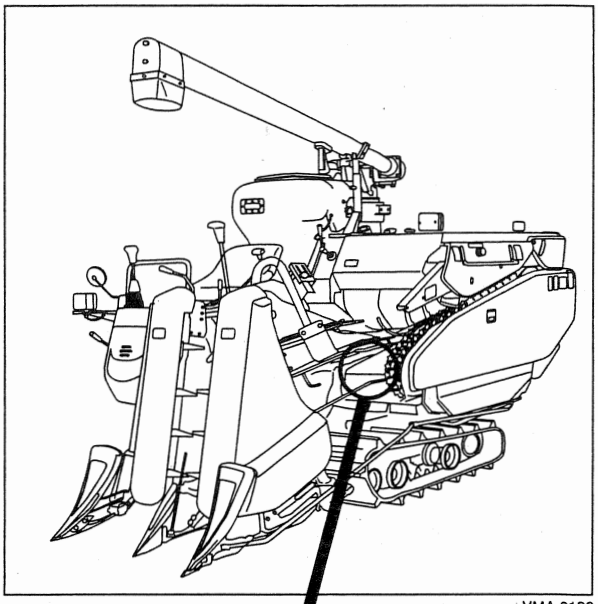
11.4.3 供給株元チェン

1 テンションスプリングのスキマが1.4～1.6mmあるか点検します。規定量でない場合は調整します。

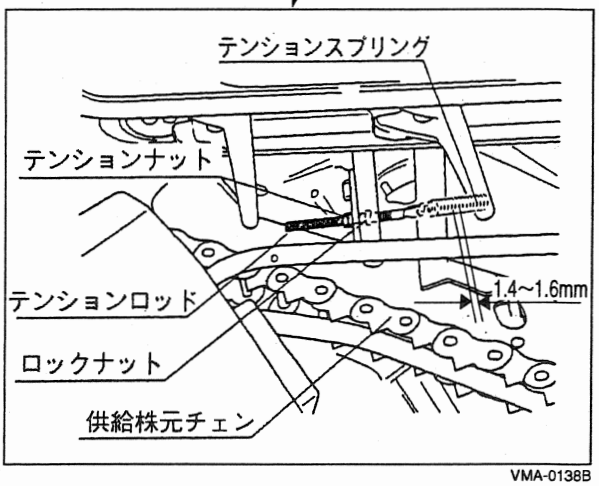
2 テンションロッドのロックナットをゆるめます。

3 テンションナットを回して、テンションスプリングのスキマが1.4～1.6mmになるように調整します。

4 ロックナットを締め付けます。



VMA-0136



VMA-0138B

11.4.4 供給穂先チェン

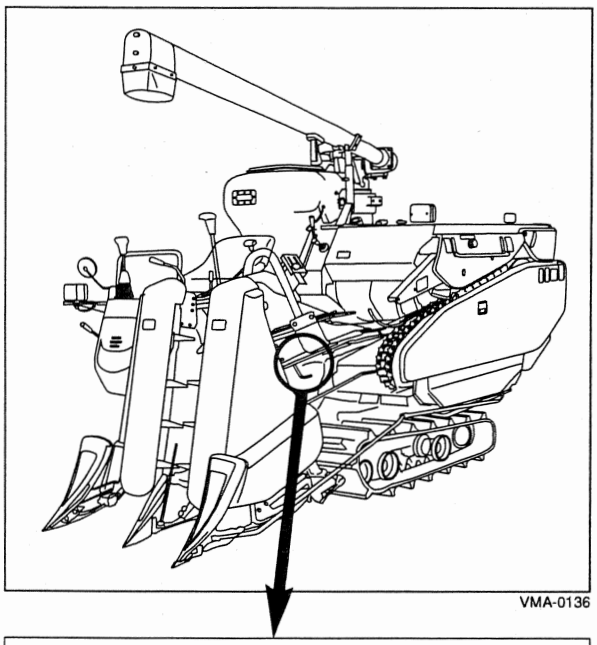
1 ラグの出口部（A部）からチェンを指で軽く押し、チェンが元に戻るか点検します。戻らない場合は調整します。

2 先端ローラ部の締付ナット（上下2個）をゆるめます。

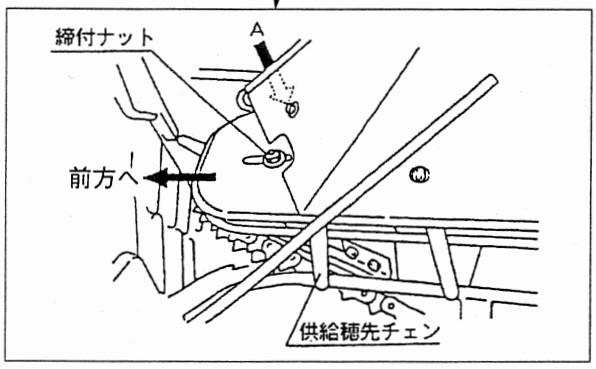
3 上下締付ナット部を矢印方向へ引き出します。

4 ラグ出口部（A部）からチェンを指で押したとき、チェンのたわみが10～15mmになり、指をはなすと元に戻ることを確認します。

5 締付ナット（2個）を締め付けます。



VMA-0136



VMA-0139

11.4.5 フィードチェン

1 こぎ胴カバーを開け、チェンカバーを取り外します。(☞ 90ページ)

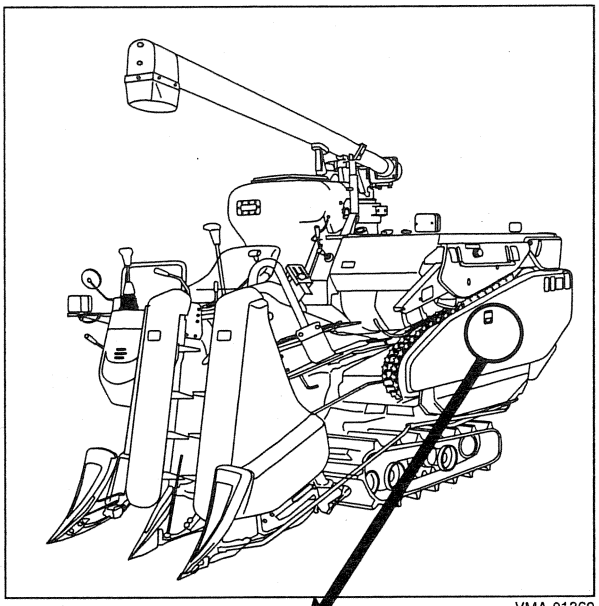
2 テンションスプリングのスキマが0.4～0.6mmあるか点検します。規定量でない場合は調整します。

3 ロックナットをゆるめます。

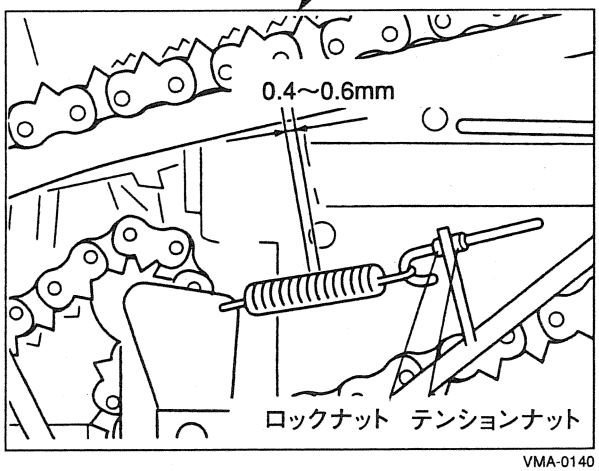
4 テンションナットを回して、テンションスプリングのスキマが0.4～0.6mmになるように調整します。

5 ロックナットを締め付けます。

6 チェンカバーを取り付け、こぎ胴カバーを閉じます。



VMA-01360



VMA-0140

11.4.6 排ワラチェン（株元）

1 チェンを手で下に引いたときのテンションアームの動き量が0.5～1.5mmあるか点検します。規定量でない場合は調整します。

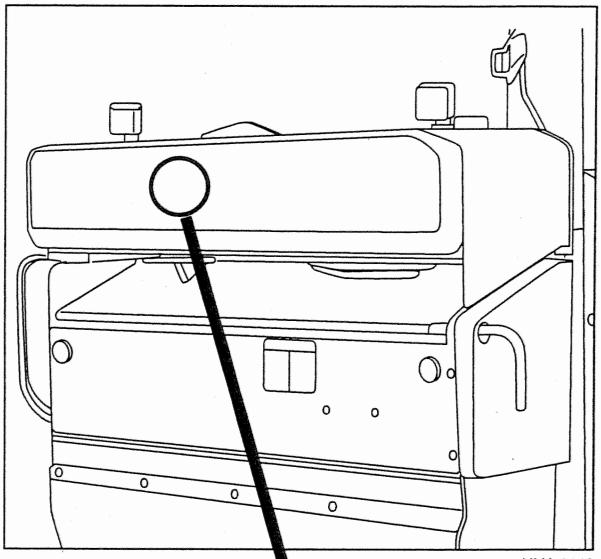
2 ロックナットをゆるめます。

3 チェンを下に引っ張ったとき、テンションアームの動き量が0.5～1.5mmになるようにテンションボルトを回して調整します。

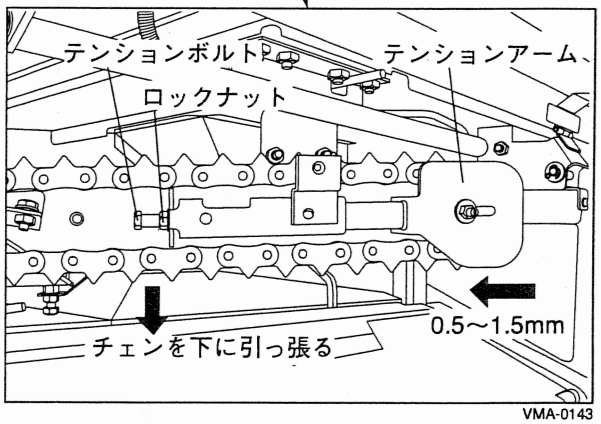
4 ロックナットを締め付けます。

補　足

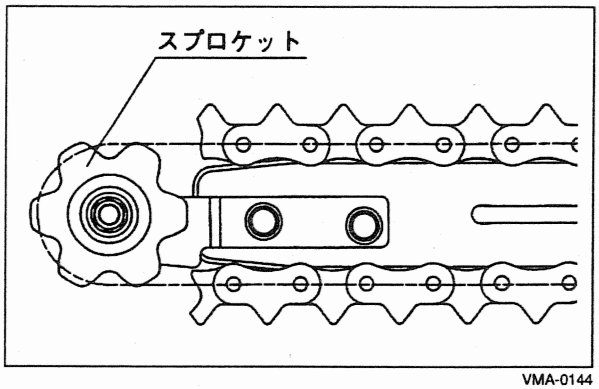
- **チェンの調節をするときは、前側のスプロケットを右図の位置にして行います。**



VMA-0142



VMA-0143



VMA-0144

11.5 ワイヤ・ロッドの点検と調整のしかた

⚠警告

平たんな場所で必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

取り外したカバー類は、必ず元の位置に組み付けてください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ワイヤ・ロッドは、シーズン前に点検してください。
駐車ブレーキワイヤ、アクセルワイヤ、ブレーキ解除ワイヤは300時間ごとに交換してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

11.5.1 ワイヤー覧表

ワイヤの種類	ワイヤの色	使用型式
駐車ブレーキワイヤ	赤	全型式
アクセルワイヤ	黒	全型式
手もとデバイダワイヤ	シルバー	全型式
刈取クラッチワイヤ	白	全型式
穀粒排出クラッチワイヤ	白	G型
ブレーキ解除ワイヤ	黒	全型式

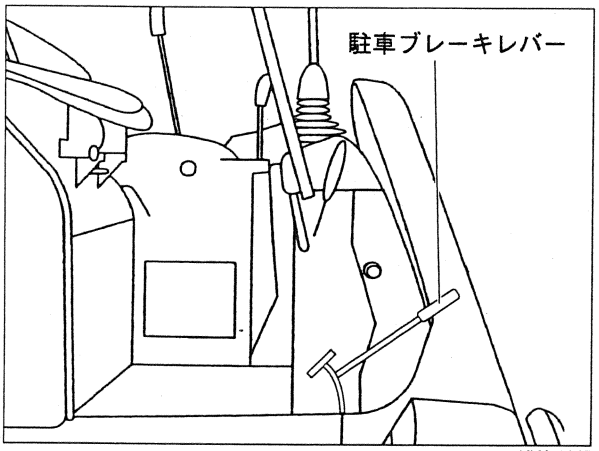
11.5.2 駐車ブレーキワイヤ

⚠ 警告

坂道では駐車ブレーキワイヤの点検を行なわないでください。
※ 守らないと、機体が動き出し、衝突事故などを引き起こすおそれがあります。

■点検のしかた

1 駐車ブレーキレバーを「入」にするとブレーキが効きます。(☞ 45ページ)
ブレーキの効きが悪い場合は、お買い上げ先に調整を依頼してください。

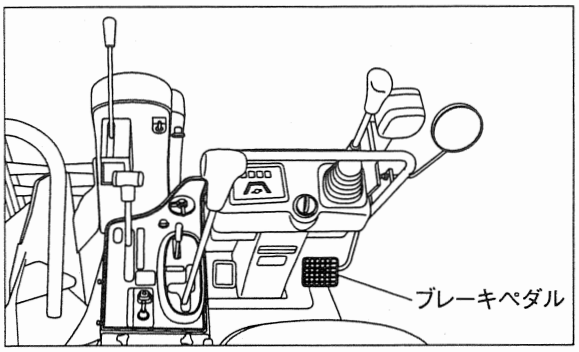


VMA-0145

11.5.3 駐車ブレーキ

(1) ブレーキペダルを踏み込むとブレーキが効きます。ブレーキの効きが悪い場合はお買い上げ先に調整を依頼してください。

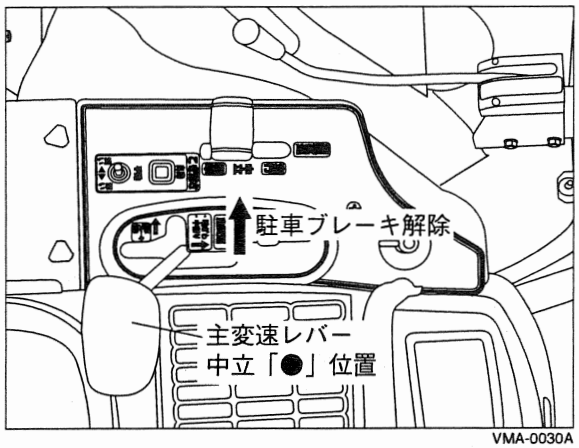
(2) ブレーキペダルを踏み込んだとき片効きになり左右に振られる場合、お買い上げ先に調整を依頼してください。



VMA-0026D

11.5.4 駐車ブレーキ解除

駐車ブレーキをかけた後、主変速レバー操作で、駐車ブレーキの解除（☞ 46ページ）が出来ない場合は、お買い上げ先に調整を依頼してください。



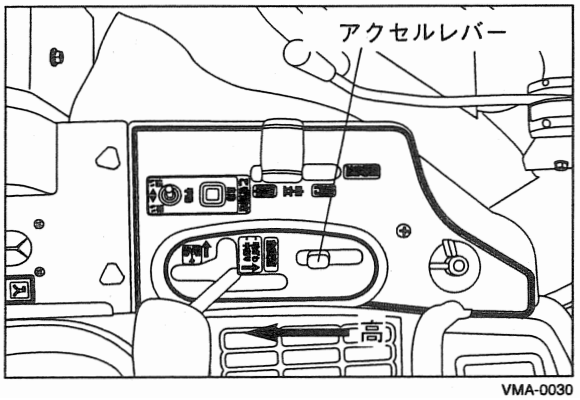
VMA-0030A

11.5.5 マルチステアリングロッド

マルチステアリングレバーを操作すると、クラッチが作動し、ブレーキがきいて左右に旋回します。クラッチのききが悪いときは、お買い上げ先に調整を依頼してください。

11.5.6 アクセルワイヤ

脱穀クラッチレバーを「入」にした状態で、アクセルレバーを一杯「高」にしても、メータの針が作業ゾーンまで上がらない場合には、調整が必要です。
お買い上げ先に調整を依頼してください。



VMA-0030

11.5.7 手もとデバイダワイヤ

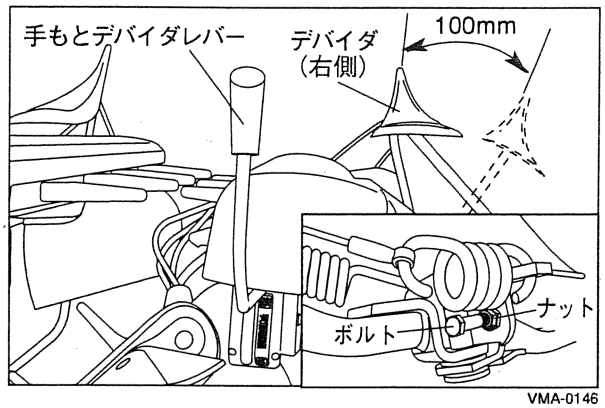
■点検のしかた

1 手もとデバイダレバーを操作すると、デバイダ（右側）先端が左右に100mm回動することを確認します。

2 デバイダ（右側）先端がガタ付いたり、100mm確保できないときは、手もとデバイダワイヤのナットをゆるめ、レバーを3条刈位置にしたとき、スプリングのスキマを0.4～0.5mmになるように調整します。

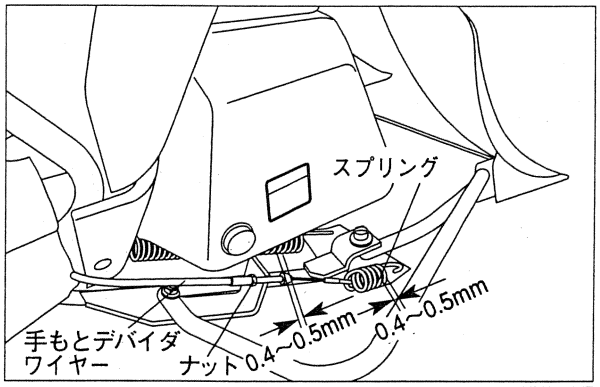
補　足

- **1、2で調整が出来ないときは、デバイダのボルト、ナットをゆるめて、左右移動距離が100mmになるように調整します。**



VMA-0146

下側



VMA-0147

11.5.8 穀粒排出クラッチワイヤ（G型）

グレンタンクベルトの点検と調整、及び脱穀関係・
作業機のベルトの点検と調整を参照してください。
（☞ 106,107ページ）

11.5.9 刈取クラッチワイヤ

刈取ベルトがスリップした場合に調整してください。

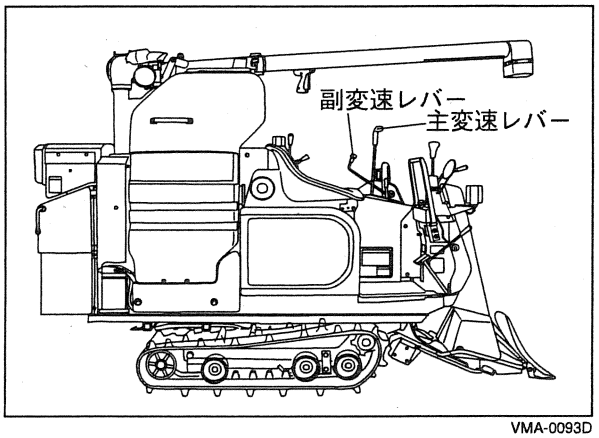
■調整のしかた

刈取ベルトの点検と調整を参照にしてください。
（☞ 104ページ）

11.5.10 主変速（HST）レバー

補 足

- **主変速レバーが「中立（「●」位置）」なのに機械が「前進」または「後進」してしまう場合は、調整が必要です。お買い上げ先に調整を依頼してください。**

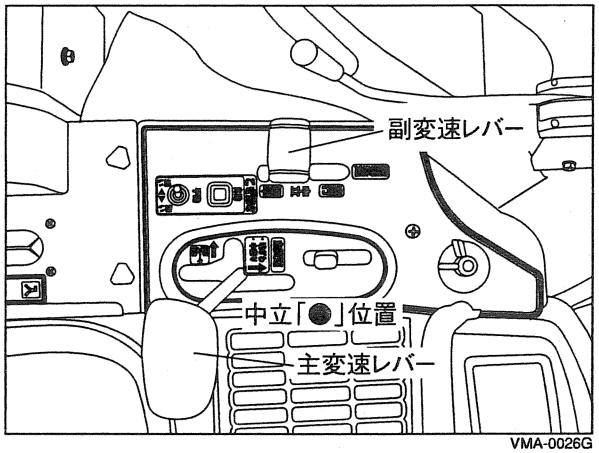


VMA-0093D

11.5.11 副変速レバー

補 足

- **副変速レバーを変速したときに、ラベル表示位置とレバー位置がズレている場合は、調整が必要です。お買い上げ先に調整を依頼してください。**



VMA-0026G

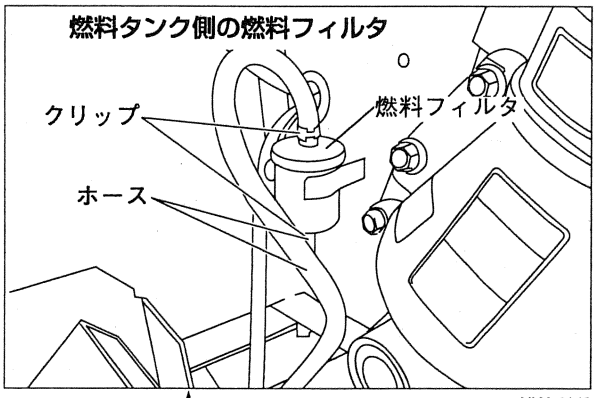
11.6 その他の点検と調整のしかた

11.6.1 燃料フィルタの清掃と交換

燃料タンク側の燃料フィルタは、100時間ごとに交換してください。
エンジン側の燃料フィルタは400時間ごとに交換します。

■燃料タンク側の燃料フィルタの交換のしかた

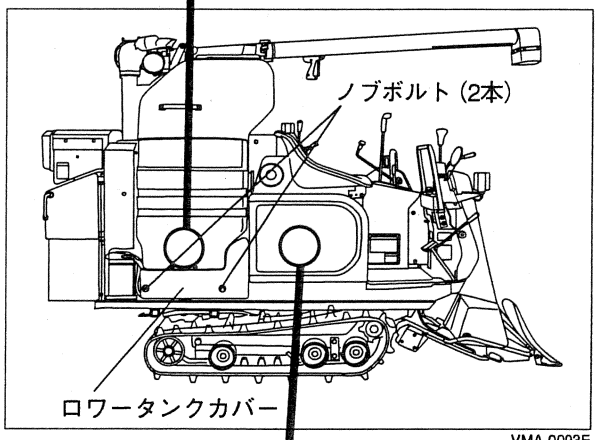
1. グレンタンクを外します。(☞ 91ページ)
2. クリップ（2箇所）を外し、ホース（2本）を抜きます。
3. ステーから燃料フィルタを取り外します。
4. 組付は逆の手順で行います。



VMA-0149

■エンジン側の燃料フィルタの清掃のしかた

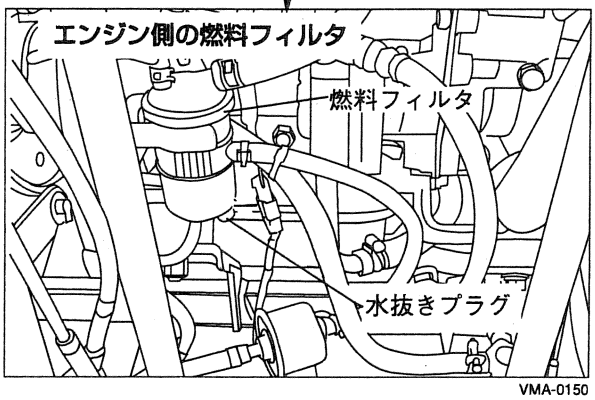
1. グレンタンクを外します。(☞ 91ページ)
2. エンジンカバー(後)を外します。(ボルト(4本))
3. 燃料フィルタ透明部に水やホコリが沈澱している場合は、水抜きプラグを抜き、不純物を出してから確実に締めます。
4. 組付は逆の手順で行います。



VMA-0093E

■エンジン側の燃料フィルタの交換のしかた

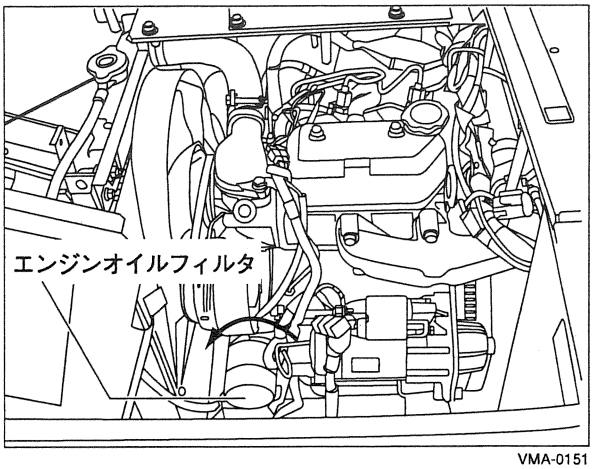
1. グレンタンクを外します。(☞ 91ページ)
2. エンジンカバー(後)を外します。(ボルト(4本))
3. クリップ（3箇所）を外し、ホース（3本）を抜きます。
4. ステーから燃料フィルタを取り外します。
5. 組付は逆の手順で行います。



VMA-0150

11.6.2 エンジンオイルフィルタの交換

エンジンオイルフィルタは、1回目50時間、2回目からは100時間ごとに交換します。



VMA-0151

■交換のしかた

1 エンジンカバーを開けます。(☞ 86ページ)

2 専用工具を使ってオイルフィルタを矢印方向に回して外します。

3 新しいフィルタと交換するときに、フィルタのゴムシール部にオイルを薄くぬり、元のように締め付けます。

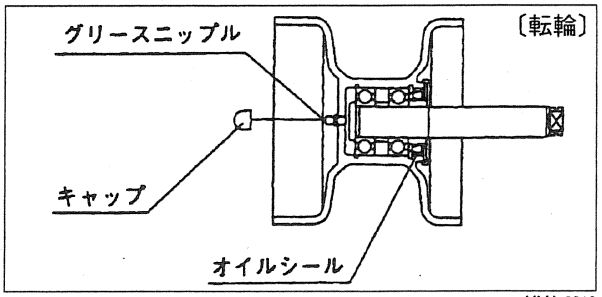
4 エンジンカバーを閉めます。

補 足

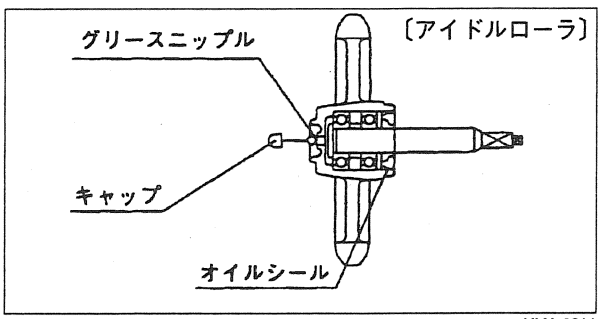
- **交換後エンジンを始動すると、オイルフィルタに入っていた量だけエンジンオイルが減ります。規定量までエンジンオイルを補給してください。**
  オイルの種類、検油のしかたは97ページを参照してください。
- **取り外し、取り付けかたや専用工具については、お買い上げ先にご相談ください。**

11.6.3 転輪・アイドルローラのグリースアップ

シーズン終了時、格納時には必ずグリースアップしてください。



VMA-0210



VMA-0211

■注入のしかた

1 キャップを外して、グリースガンでグリースを注入してください。
(リチウムグリスNo.2)

2 裏側のオイルシールからグリースがわき出るまで封入します。

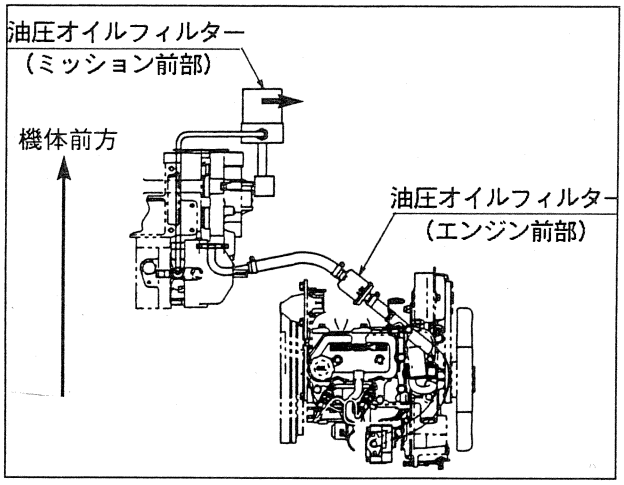
3 キャップを取り付けます。

補 足

- **輪転が泥につかる湿田作業をしたときも、グリースアップをしてください。**

11.6.4 油圧オイルフィルタの交換

油圧オイルフィルタは、1回目50時間、2回目からは100時間ごとに交換します。



VMA-0152

■交換のしかた（エンジン前部）

1 オイルフィルタはバンドをゆるめて外します。

2 新しいフィルタと交換するとき、フィルタのゴムシール部にオイルを薄く塗り、元のように取り付けます。

3 オイルフィルタをバンドで締め付けて取付けます。

■交換のしかた（ミッション前部）

1 オイルフィルタを矢印方向にねじって外します。（反時計まわり）

2 新しいフィルタと交換するとき、フィルタのゴムシール部にオイルを薄く塗り、元のように締め付けます。

補　足

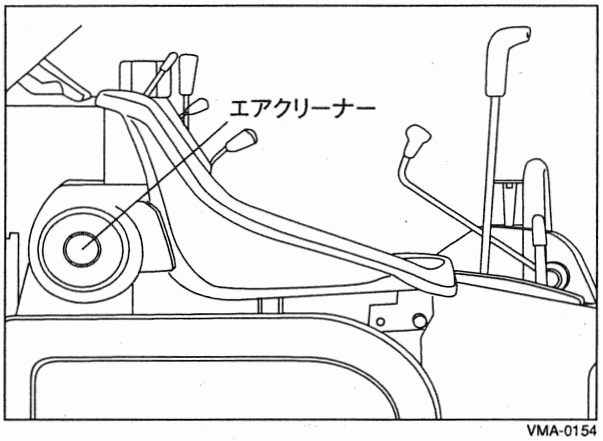
- **交換後エンジンを回すと、オイルフィルタに入っていた量だけ油圧オイルが減ります。規定量だけ油圧オイルを補給してください。**
  オイルの種類、検油のしかたは97,98ページを参照してください。

11.6.5 エアクリーナ（エレメント）の清掃と交換

注意

エレメントのホコリ溜りは、エンジン馬力低下の原因となります。ホコリが多い刈取作業時にはこまめに清掃してください。
エレメントを装着するまえにエアクリーナ本体・カバー内側の汚れをきれいに拭きとってください。
カバーの「↑UP」を上にしてください。

エアクリーナは、作業前に清掃し、100時間ごとにエレメントを交換します。



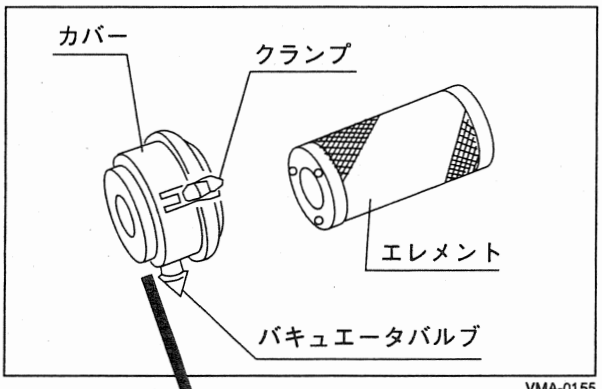
VMA-0154

■清掃・交換のしかた

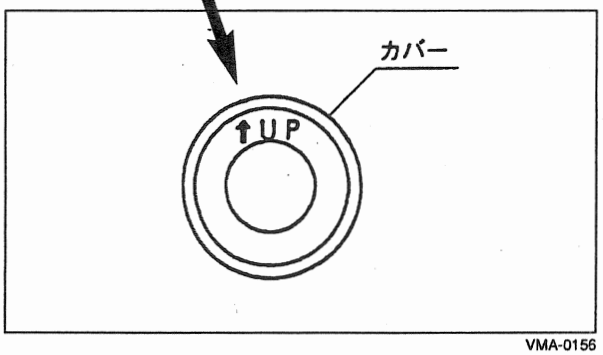
1 カバーを外し、エレメントを抜き取ります。（クランプ 2 ヵ所）

2 エレメントを手で持ち、軽くたたいてホコリを落します。
ホコリがひどい時はエメレント内部より空気を吹きつけます。

3 取り付けは、逆の順序で行います。



VMA-0155



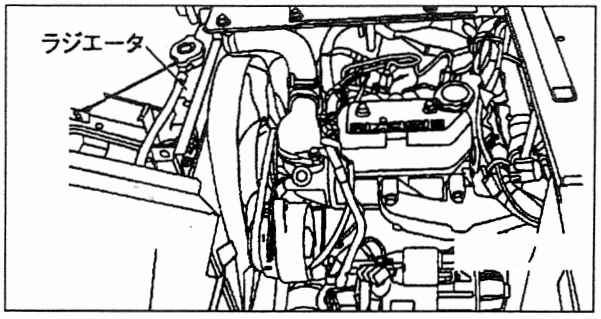
VMA-0156

11.6.6 ラジエータの清掃

1 エンジンカバーを開けます。(☞ 86ページ)

2 ラジエータ前面の防塵フィルタを外し、軽くたたいてホコリを落とします。

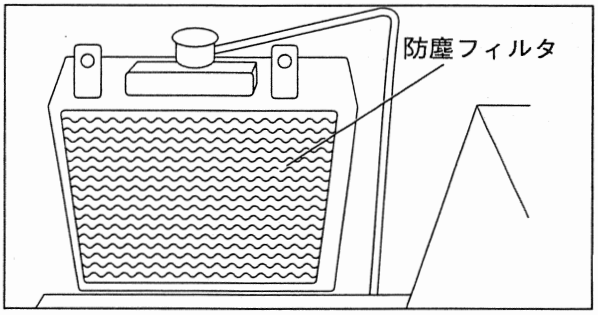
3 エンジンカバーを閉めます。



VMA-0019A

補 足

- **エンジン周辺へのゴミ溜りはオーバーヒートの原因となりますので毎作業ごと清掃してください。**

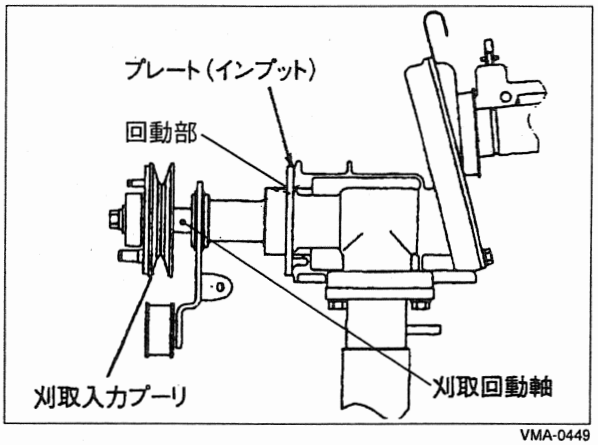


VMA-0021A

11.6.7 刈取回動軸部の注油

■注油のしかた

シーズン前に、オイル差しで、プレート（インプット）の回動部に注油します。



VMA-0449

11.6.8 ホース類の点検と交換

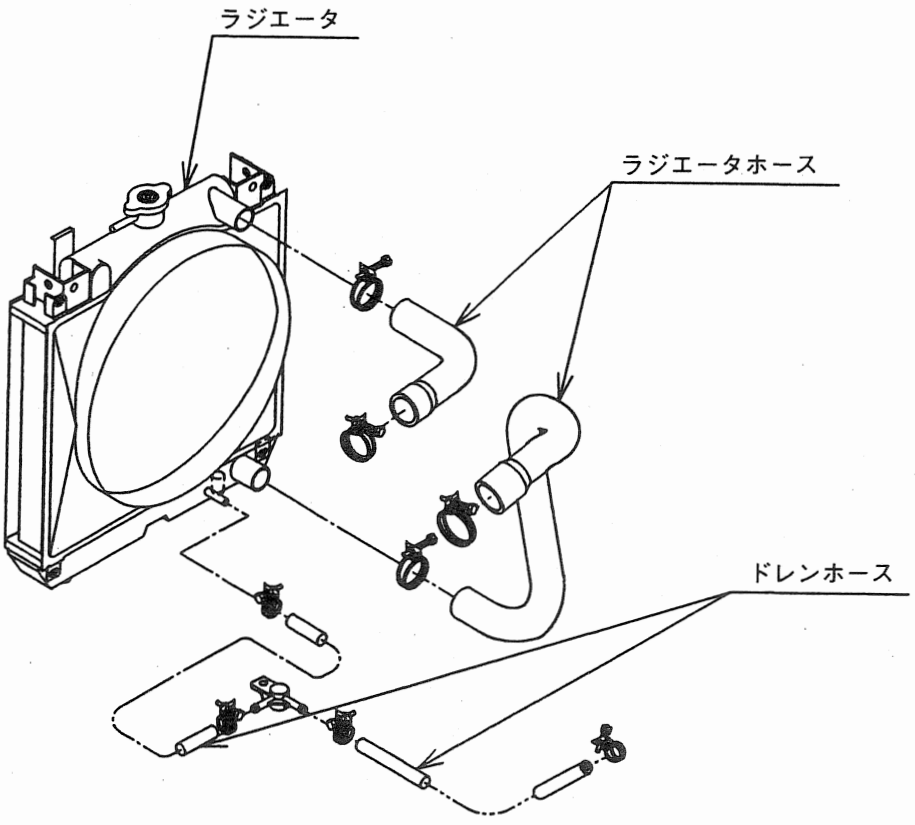
⚠危険

シーズン前には、締付バンドのゆるみ、ホースの傷を必ず点検し、2年ごとにお買い上げ先で交換してください。
燃料ホース、ラジエータホース等のゴムホースは使わなくても劣化します。
※ 守らないと、爆発や火災などを引き起こす原因となります。

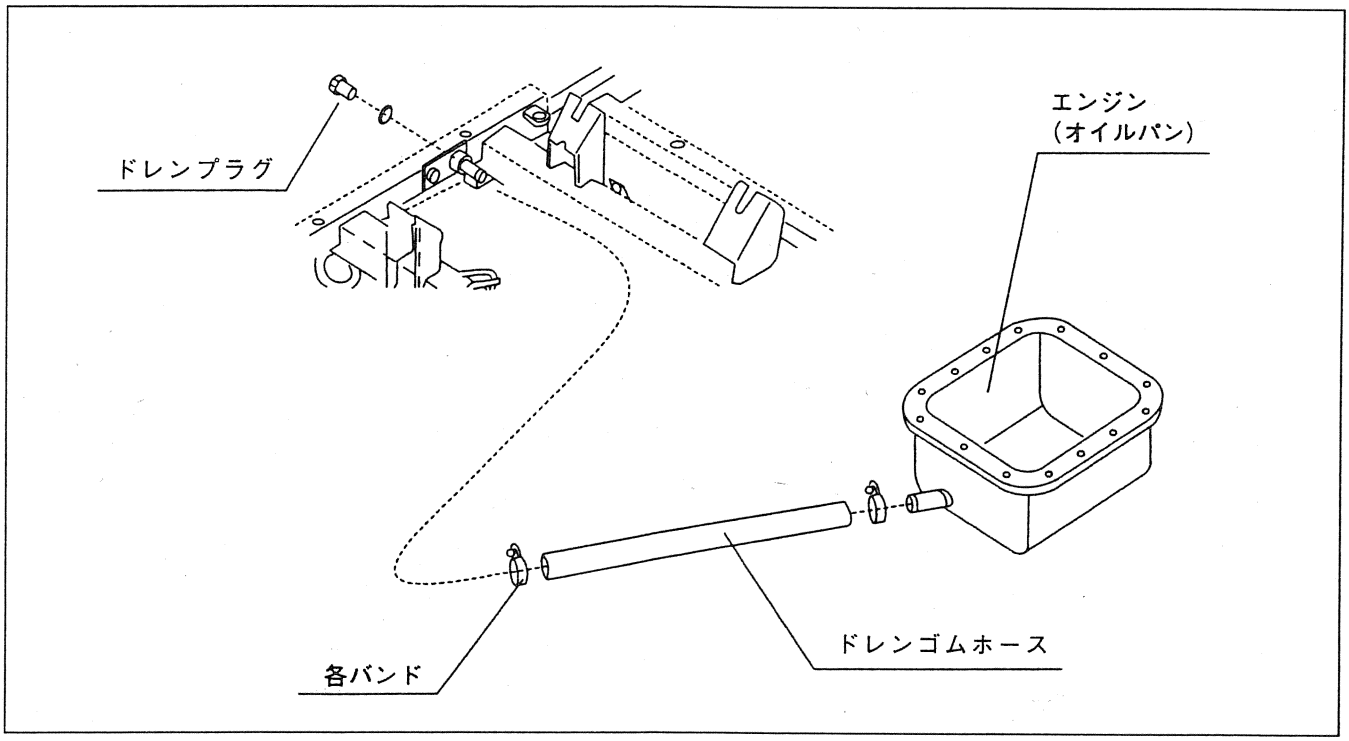
運転中にラジエータホースが破損すると熱湯が吹き出します。
※ 守らないと、やけどなどの原因となります。

注意

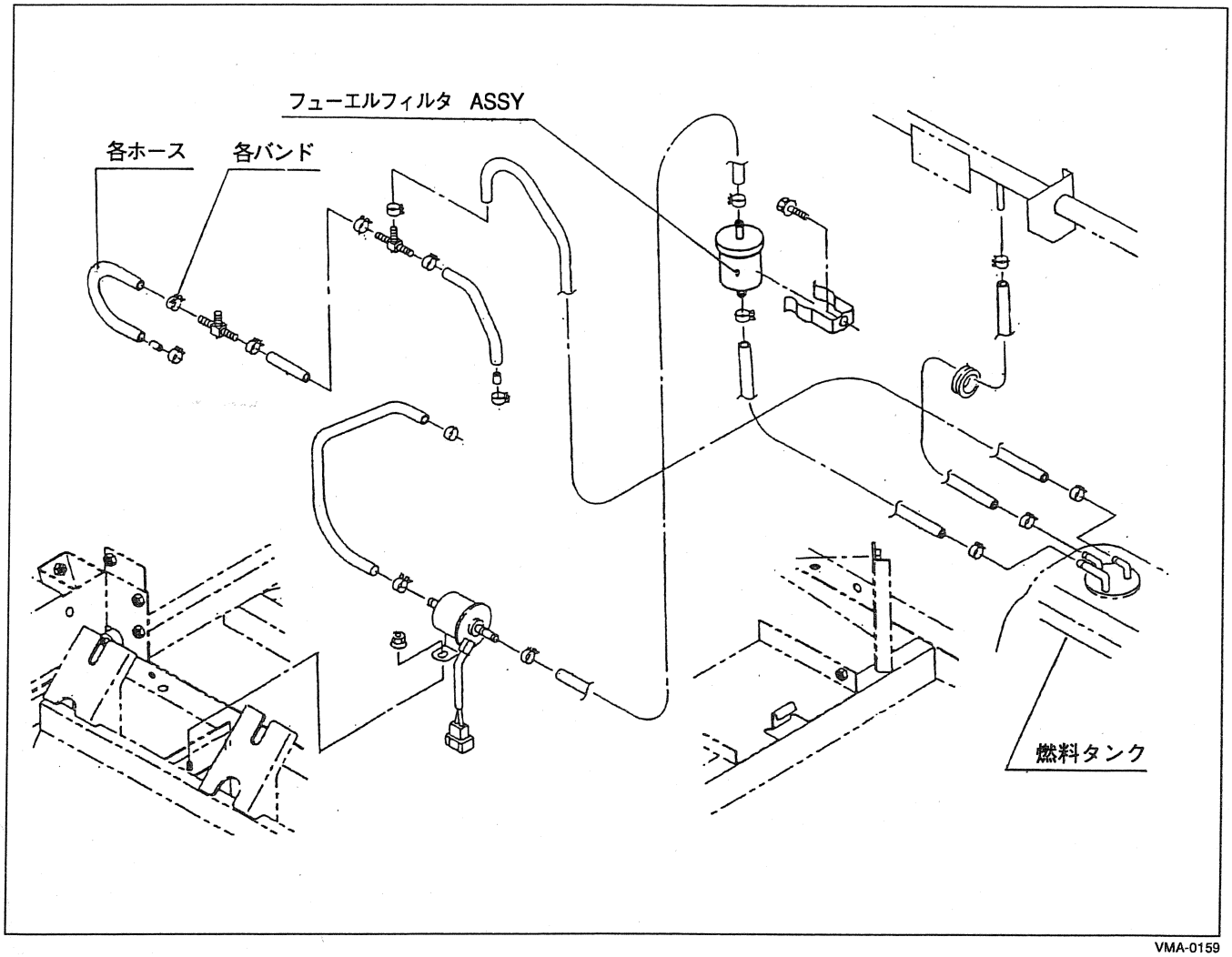
燃料ホースを交換する場合は、ホース内を軽油で洗ってから組み付けしてください。
※ 守らないと、故障するおそれがあります。



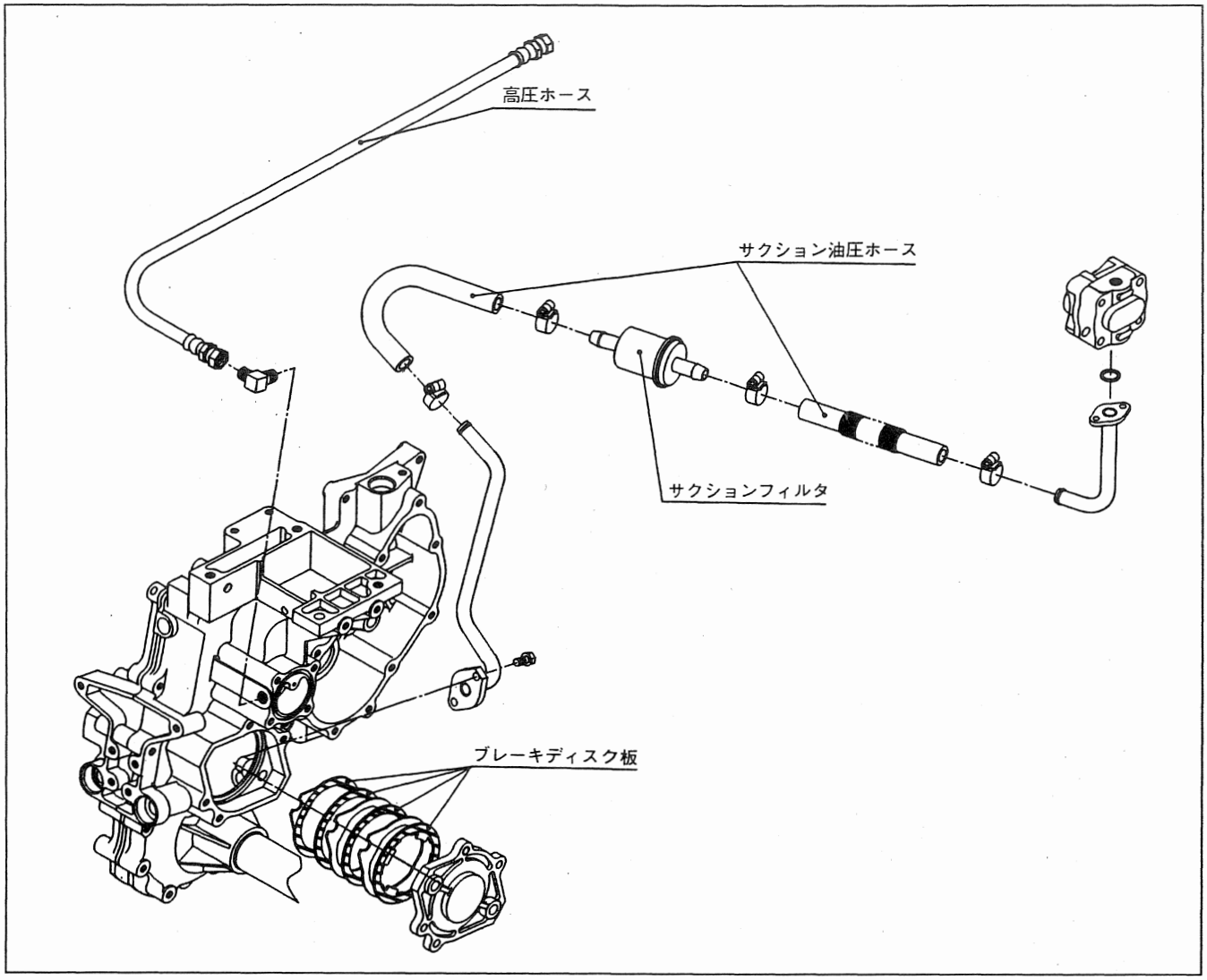
VMA-0157



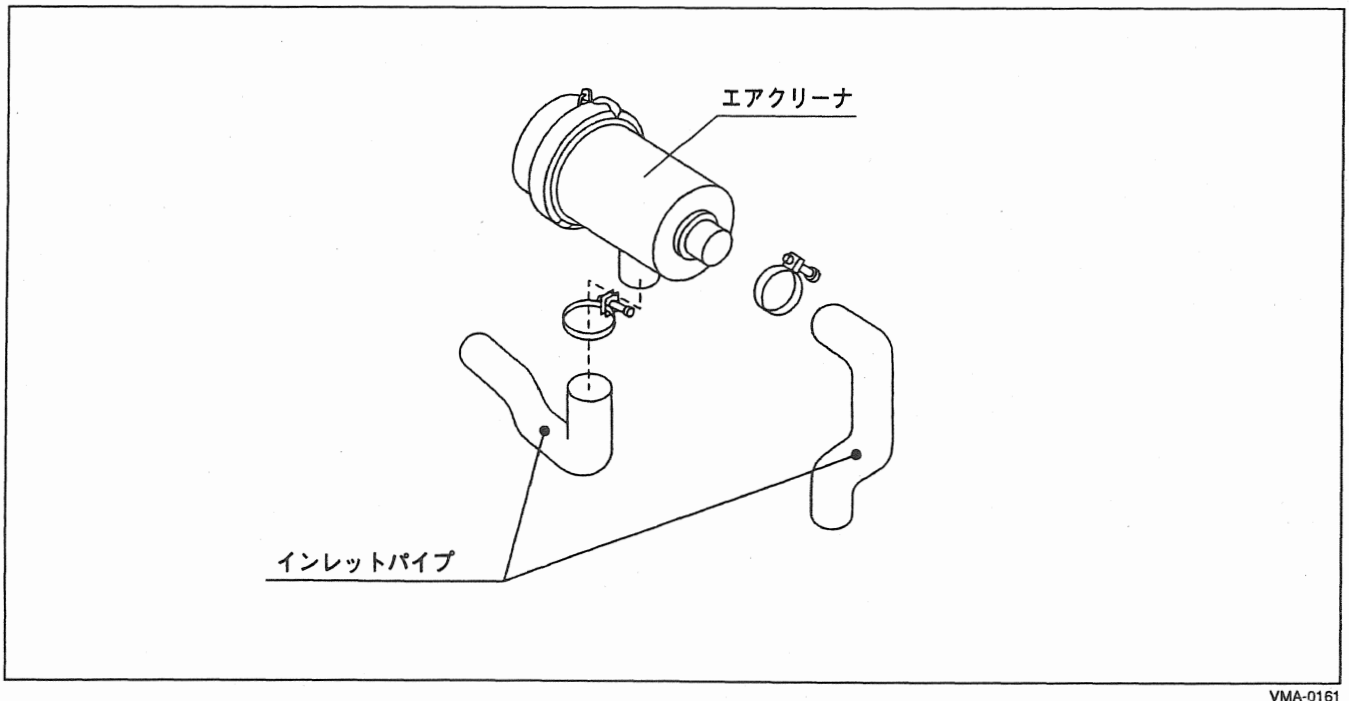
VMA-0158



VMA-0159



VMA-0160



VMA-0161

11.6.9 バッテリの点検

⚠危険

バッテリ液を身体や衣服に付けないでください。
バッテリ液は希硫酸（劇物）です。万一体や服に付いた場合は、すぐ大量の水で洗ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

充電や作業は通風のよいところで行い、火気を近づけないでください。
※ 守らないと、引火爆発の原因になります。

バッテリを乾いた布などで清掃しないでください。
※ 守らないと、静電気により引火爆発の原因になります。

急速充電はしないでください。
※ 守らないと、破裂（爆発）の原因になります。

ハイドロメータの色が透明のとき、補充電をしてエンジンを始動させないでください。
※ 守らないと、エンジン始動時にバッテリ内に火花が出て、バッテリ容器内のガスに引火し、破裂（爆発）の原因になります。

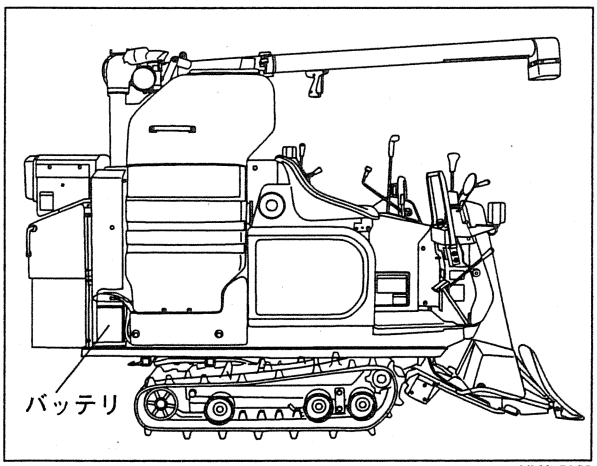
⚠注意

バッテリを外すときは必ず⊖コードから取りはずしてください。
※ 守らないと、ショートして、火災のおそれがあります。

バッテリを取り付けるときは、⊕コード、⊖コードを確認して、必ず⊕コードから取り付けてください。
※ 守らないと、ショートして、火災のおそれがあります。

(1) バッテリは、シーズン前に、点検してください。
新品のバッテリと交換する場合は、必ず指定した型式のバッテリを使用してください。

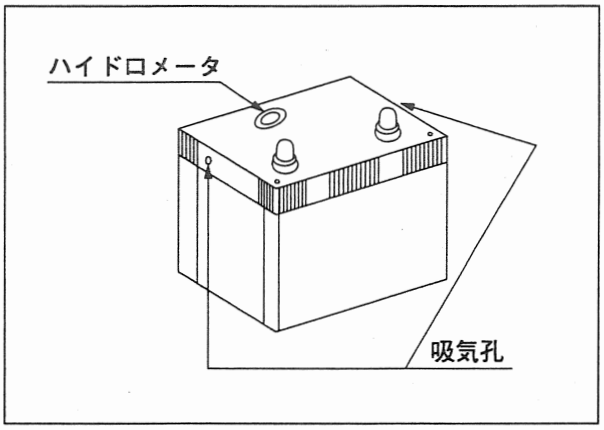
- 44B19L



VMA-5162

■点検のしかた

バッテリの状態をハイドロメータの色で点検します。



HF-0344

補足

- **ハイドロメータを見るときは機体が水平になる場所で、真上から見てください。**
- **ハイドロメータの色が、透明または薄い緑のときは、念のため軽くたたいて気泡がついていないことを確かめてから、再度見てください。**

ハイドロメータの色	充電状態	必要処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電が必要
透明	液減り	寿命ですのでバッテリを交換してください。(補充電はできません)

■バッテリの取り扱い

(1) 本機に使用しているバッテリは、補水の必要のないバッテリです。(密閉型で、寿命まで補水不要)
(2) 気温が低下するとバッテリの性能も低下します。冬期は特にバッテリをこまめに点検してください。
(3) バッテリは使用しなくても自己放電するので、ハイドロメータの色が黒のときは、補充電を行ってください。
(4) コンバインを長期格納する場合は、バッテリを取りはずし、日光の当たらない乾燥した場所に保存してください。
コンバインに取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側(⊖側)端子を取りはずしてください。

補足

- **バッテリを河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。廃棄するときは、「お買い上げ先」または、「産業廃棄物処理業者」等に相談して、所定の規則に従って処理してください。**

11.6.10 配線・ヒューズの点検と交換

⚠危険

ヒューズを交換する場合は、必ずメインスイッチを「切」にしてください。
※ 守らないと、部品の損傷や火災の原因になります。

ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は他のもので代用せず、お買いあげ先で点検、修理をしてください。
※ 守らないと、部品の損傷や火災の原因になります。

傷んだ配線は、ただちに交換してください。
※ 守らないと、部品の損傷や火災の原因になります。

配線の端子やバッテリコードの接続部のゆるみはただちに修理してください。
※ 守らないと、部品の損傷や火災の原因になります。

バッテリ、配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミなどはきれいに取り除いてください。
※ 守らないと、火災の原因になります。

1年に1回、お買い上げ先での定期点検を受けてください。
※ 守らないと、部品の損傷や火災の原因になります。

⚠警告

点検・整備・清掃するときは、平たんな場所にコンバインに止めて、駐車ブレーキをかけエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注意

メータパネル、バッテリ、エンジンまわりの配線・電装品および電子油圧操作部には圧力水をかけないでください。
※ 守らないと、電気部品の故障の原因になります。

■配線の点検のしかた

(1) 配線類やバッテリコードが、ねずみのかじりや自然劣化による損傷がないか、配線のクランプのゆるみがないか点検してください。
(2) 配線がクランプよりはずれているときは、所定のクランプで配線を固定してください。
(3) 異常がある場合は、お買い上げ先にご相談ください。

ヒューズは、シーズン前に点検してください。

■点検のしかた

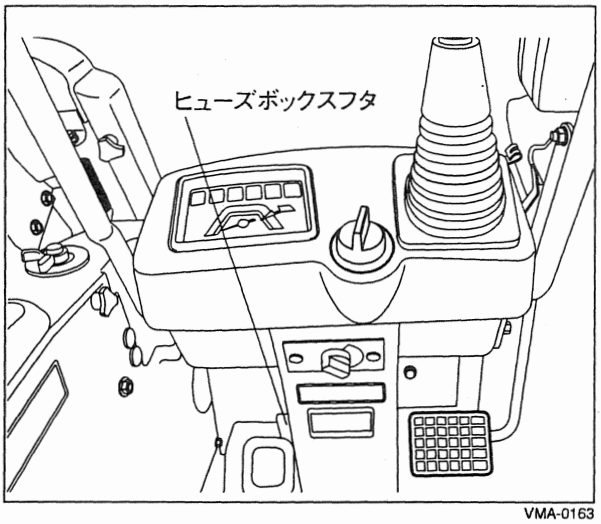
1 ヒューズボックスは運転席足もと左側にあります。

2 ヒューズボックスフタを開けます。

3 各ヒューズが切れていないかどうかを確認します。

4 ヒューズが切れている場合は、表示アンペア数の等しいヒューズに交換します。

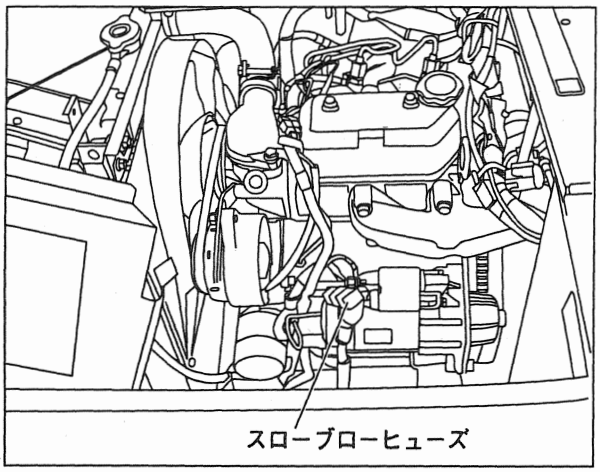
5 ヒューズボックスフタを閉めます。



VMA-0163

■スローブローヒューズ

スローブローヒューズはハーネスに1個入っています。スローブローヒューズは、配線を保護するための部品で、切れるとすべての回路へ電流が流れません。
必ず切れた原因を調べて純正部品のスローブローヒューズと交換します。



VMA-0164

11.6.11 クローラの点検と調整

⚠ 警 告

ジャッキアップは地面が硬く、平たんで水平な場所で作業してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

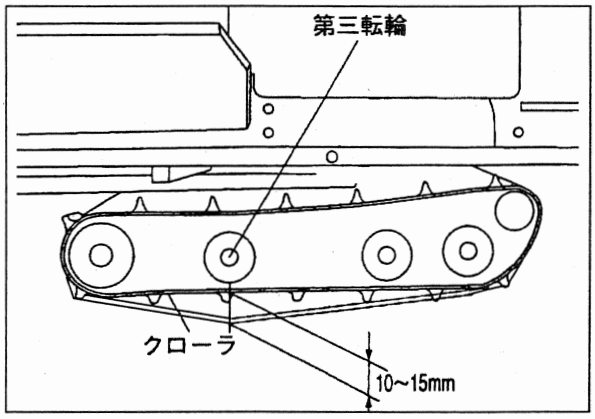
ジャッキは揚力1ton以上の物を使用してください。
※ 守らないと、傷害事故や機械の損傷のおそれがあります。

ジャッキを架ける所は滑らないように注意してください。又、機体下側には体を入れないでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

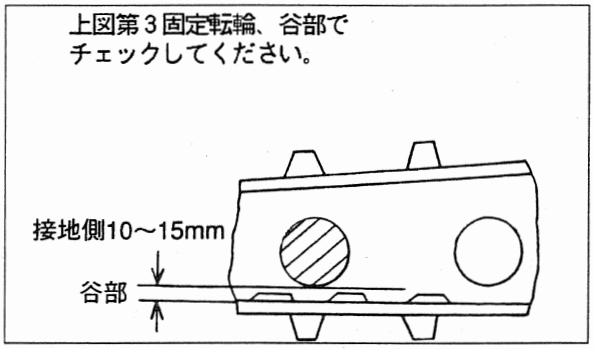
クローラの張りは、シーズン前および200時間ごとに点検・調整してください。

■点検のしかた

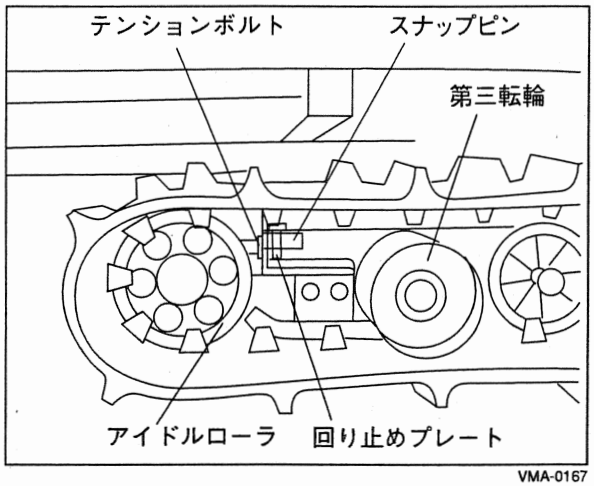
1. 機体を前進させ、クローラの接地側をゆるみ状態にします。
2. 左右1箇所ずつ、サイドフレーム後部をジャッキアップし、機体を浮かせたとき、第三転輪で転輪とクローラのスキマが10～15mmあるか点検します。規定量でない場合は調整します。
3. スナップピンと回り止めプレートを外します。
4. テンションボルトを回し、転輪とクローラのスキマを規定量に調節します。
5. ジャッキアップを解除し、機体を降ろして回り止めプレートとピンを取付けます。



VMA-0165



VMA-0166



VMA-0167

11.6.12 冷却水の点検と交換

⚠ 警告

ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止後に十分冷えるまで開かないでください。運転停止後よく冷えてから注意しながら開けてください。
※ 守らないと、熱湯が噴き出してやけど等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

冷却水は、作業前に点検し、シーズン終了後格納時には交換します。

補 足

- **交換した冷却水（不凍液）は、地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。環境汚染につながります。廃棄するときは、「お買い上げ先」または、「産業廃棄物処理業者」等に相談して、所定の規則に従って処理してください。**

1 エンジンカバーを開けます。
（☞ 86ページ）

2 ラジエータキャップを外して冷却水があるか確認します。冷却水が少ないときは、補給します。汚れがひどい場合は交換します。

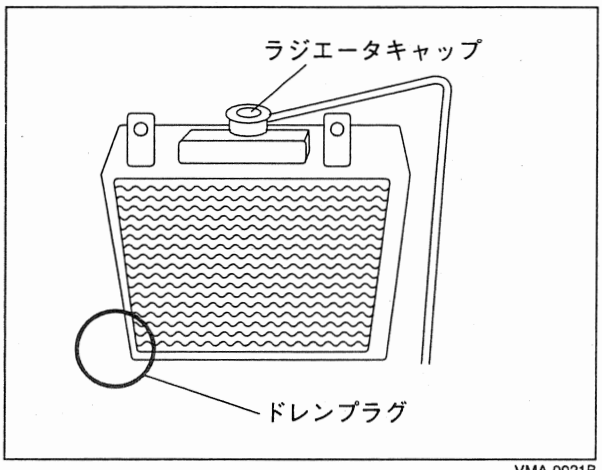
3 ラジエータキャップを外した後ドレンプラグを外して、冷却水を完全に抜きます。

4 きれいな水を給水口より入れ、ゴミやサビが出なくなるまで、ラジエータ内部を洗います。

5 ドレンプラグを締め付け、あらかじめ混合した不凍液を給水口からあふれるまで入れます。

6 ラジエータキャップをし、エンジンを5分程度運転後、エンジンを停止し、10分以上たち、よく冷えてから、ふたたびラジエータキャップを開け水位が下がった場合は補充します。

7 補充が終りましたらラジエータキャップを取付けエンジンカバーを閉めます。



VMA-0021B

冷却水量 3.5L

■不凍液について

(1) 工場出荷時には不凍性冷却液（ロングライフクーラント）を注入しておりますので、そのまま作業します。
(2) 冷却水交換時には、新たに不凍性冷却液を入れます。
(3) 不凍液の混合比は気温やメーカにより異なりますので、不凍液メーカの説明書に従います。

11.6.13 刈刃の点検と調整

⚠危険

刈刃の調整後、本機取り付け前に刈刃を手で動かし、作動が重くないことを確認してください。
※ 守らないと、発熱してワラ等に着火し、火災の原因になります。

⚠警告

必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、機体が動き出し、衝突事故などを引き起こすおそれがあります。

刈取部を上げて点検・調整するときは
(1) 刈取ロック装置（☞ 59ページ参照）をかけ、
(2) さらに刈取部の下にスタンド等の台を置き、安全を確認して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

刈刃で手を切らないよう、手袋をして作業してください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

2人で作業してください。
※ 守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

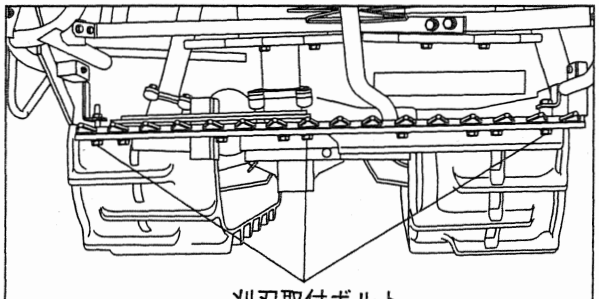
刈刃を左右に動かすときは、刃部にふれないでください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

刈刃は、シーズン前および100時間ごとに点検、さらに200時間ごとに交換してください。

■外しかた

1 刈取部を上げます。

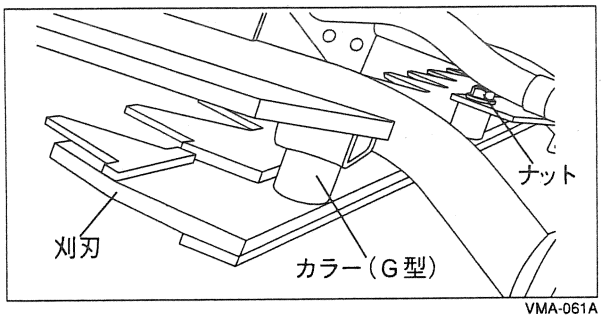
2 左右及び中央の刈刃取付ボルトを外し、刈刃を外します。（☞ 60ページ）


刈刃取付ボルト

VMA-0060

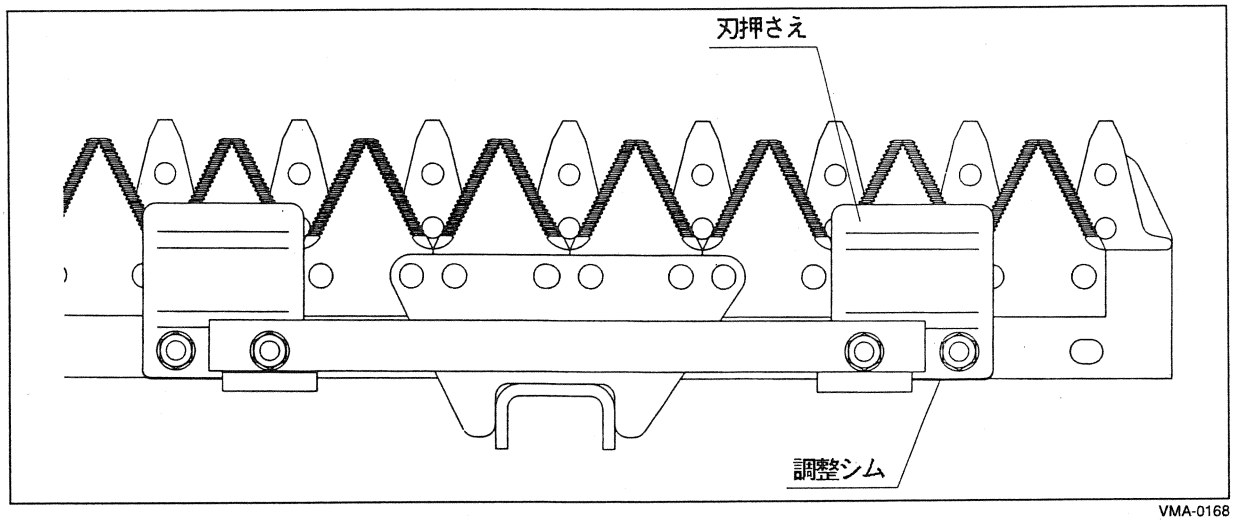
■点検・調整のしかた

1 刈刃を止めているボルト・ナット・カラー（G型）を外します。



VMA-061A

2 刃押えの下にある調整シムを取り除いて調整します。

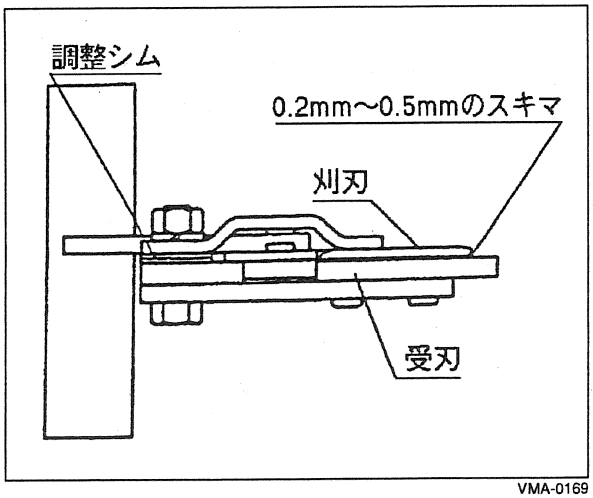


VMA-0168

調整シム（3カ所）にて刈刃と受刃のスキマが0.2～0.5mmになるよう調整します。

補　足

- **調整後刈刃を手で動かし作動が重くないことを確認します。**



VMA-0169

■取り付けかた

外すのと逆の手順で組み付けます。

11.6.14 かき込みスターホイルの調整と交換

かき込みスターホイルがすべるときには、締付ナットで調整してください。

■調整のしかた

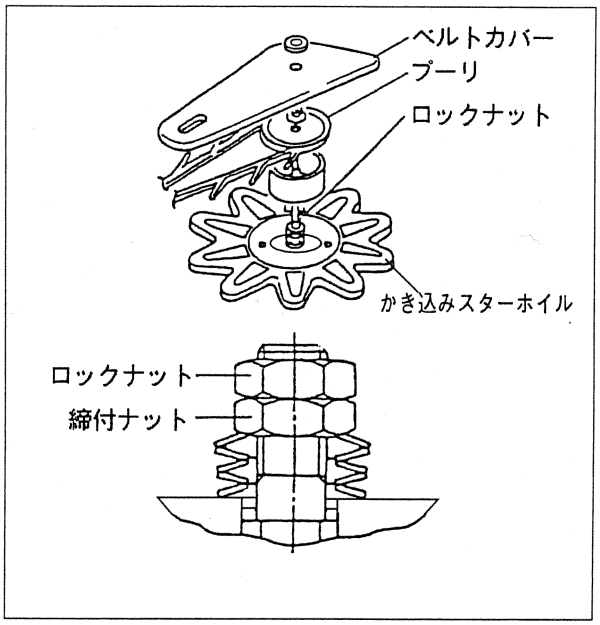
1 ベルトカバー・プーリを外します。

2 かき込みスターホイルのロックナットをゆるめます。

3 締付ナットを一杯締め込んだ後、半回転戻します。

4 ロックナットで固定します。

5 ベルトカバー、プーリを元のように取付けます。



VMA-0170

補 足

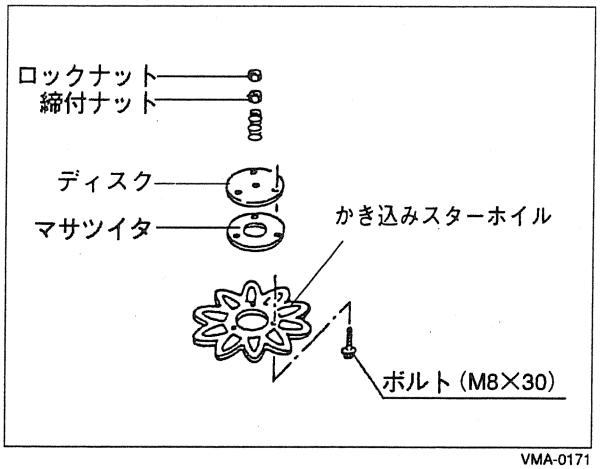
- **締付ナットを調整しても、かき込みスターホイルがすべる場合には、マサツイタを交換します。**

■交換のしかた

1 ロックナット・締付ナットを外します。

2 かき込みスターホイルの取付ボルト（3本）を外します。

3 マサツイタを交換して、組付後、再調整します。



VMA-0171

11.6.15 脱穀切刃の点検と交換

⚠警告

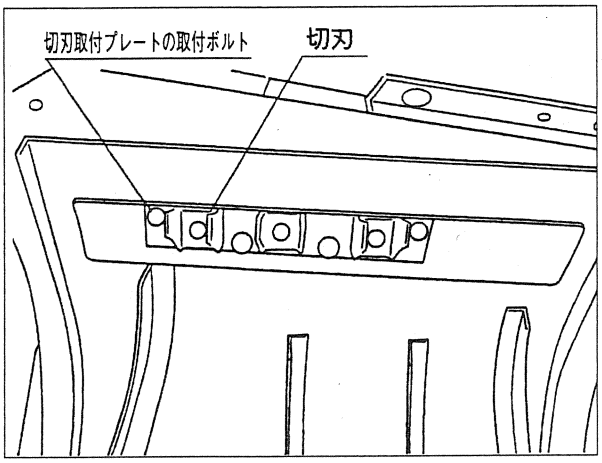
切刃で手を切らないよう、手袋をして作業してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

切刃の刃部に触れないようにしてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注意

切刃は正しい方向で取り付けてください。
※ 方向を間違えると、こぎ胴・こぎ歯が変形するおそれがあります。

脱穀切刃はシーズン前に点検し、200時間ごとに交換します。



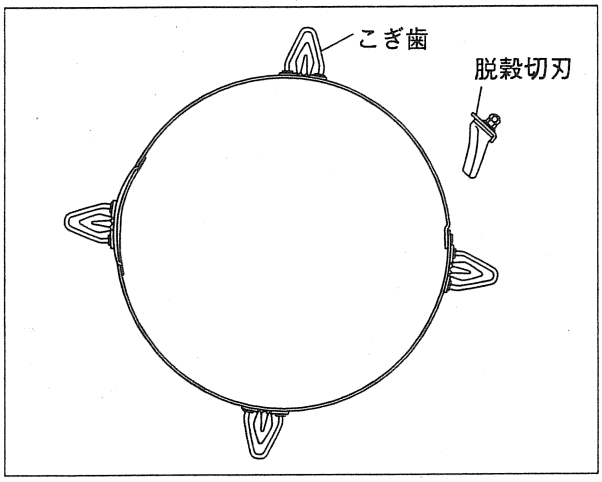
VMA-0501

■取り外しかた

1 こぎ胴カバーを開けます。
（☞ 90ページ）

2 切刃取付プレートを切刃が付いたまま外します。（ボルト４本）

3 取付ナットを外し、切刃を取り外します。



VMA-0502

■切刃の取付け方向

1 切刃は、刃面が下側になるように取り付けます。

11.6.16 伸縮ラセンの点検と清掃（G型）

⚠警告

必ず平たんな場所でエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いて行ってください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

注意

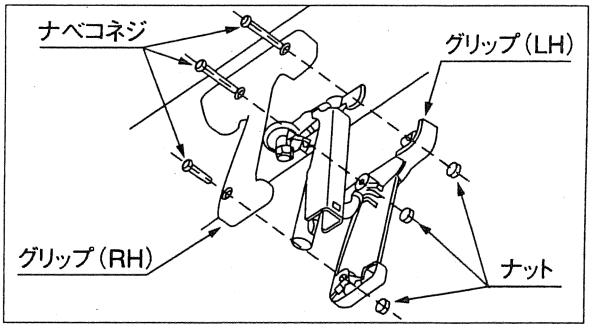
アウターチューブを外すときや伸縮ラセンを動かすときは、駆動シャフトが曲らないように注意してください。
※ 守らないと、機体部品の破損、変形などを引き起こすおそれがあります。

排出オーガの伸縮荷重が重くなったとき（解除レバーを奥までしっかり握った状態で5kg以上）は、伸縮ラセン部の清掃を行ってください。

■清掃のしかた

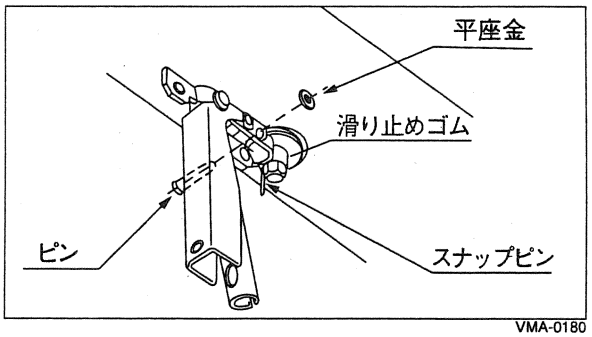
コンバインを水平な場所に設置し、排出オーガを後方へ張出して、5cm程度伸ばした状態で水平まで下げた状態にします。

1 ナベコネジ3本とナット3個を外し、グリップ（ＲＨ）とグリップ（ＬＨ）を取り外します。



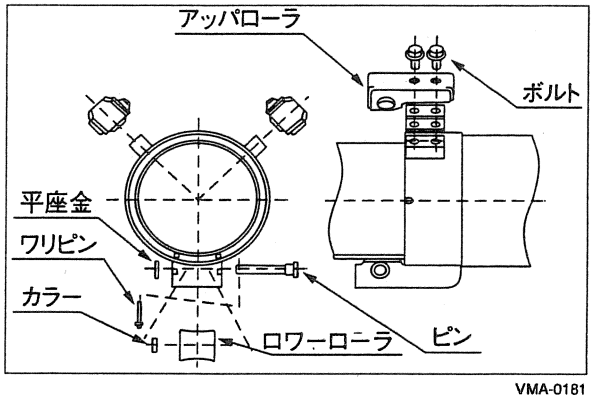
VMA-0179

2 スナップピンを外し、滑り止めゴムを開放します。



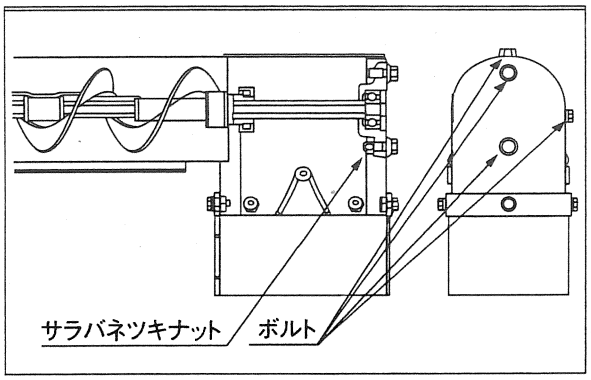
VMA-0180

3 ボルト4本を外してアッパローラを外します。次にワリピンを外してピンを抜き、ロワーローラを外します。



VMA-0181

4 オーガ先端部のボルト4本とサラバネツキナットを外します。

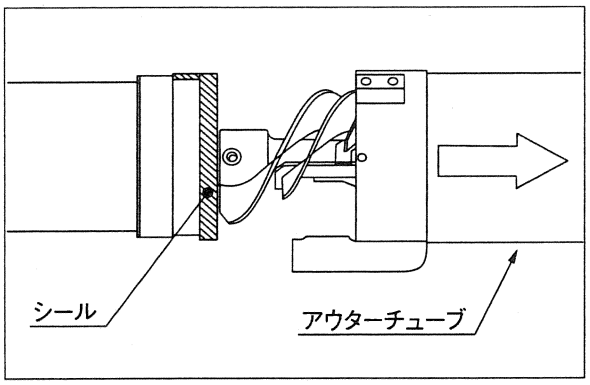


VMA-0182

5 アウターチューブを前方へ抜きます。

補　足

- **取り付け、取り外し時に、シールがめくれない様に注意してください。**

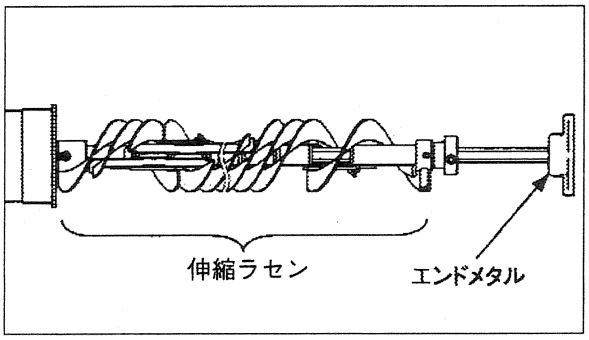


VMA-0183

6 先端のエンドメタルを持って、伸縮ラセンを前方へ約30～40cm引き出します。

7 伸縮ラセンをうごかしながら、伸縮ラセン・駆動シャフトに付着したホコリなどを取り除きます。

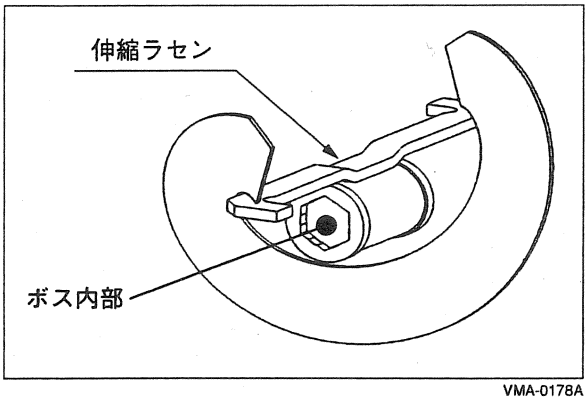
8 エンドメタルを持って、数回、伸縮ラセンを伸縮させます。このとき、伸縮ラセンがスムーズに動くか確認します。また、ホコリなどが残っている場合は取り除きます。



VMA-0176

9 伸縮ラセンを一番縮めた状態にしてから、外したときと逆の手順で組み立てます。

※　上記を実施しても伸縮荷重が重いときは、伸縮ラセンを分解し、ラセンのボス部内部に溜まったホコリを除去してください。（お買いあげ先に整備の依頼をしてください。）



VMA-0178A

11.6.17 滑り止めゴムの清掃（G型）

注意

インナーチューブ下側のロッドで挟まれた部分やロワーローラ周辺にグリス等の油分が絶対に付かないように注意してください。

※ 守らないと、機体部品の破損、変形などを引き起こすおそれがあります。

■清掃のしかた

1 コンバインを水平な場所に置き、排出オーガを後方へ張出して、オーガを一番縮めた状態で水平まで下げます。

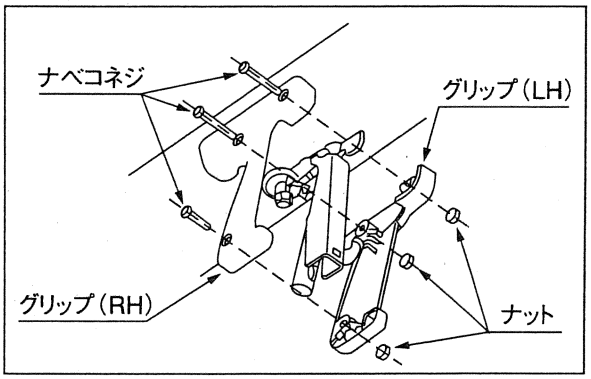
2 ナベコネジ3本とナット3個を外し、グリップ（RH、LH）を取り外します。

3 スナップピンを外し、滑り止めゴムを開放します。

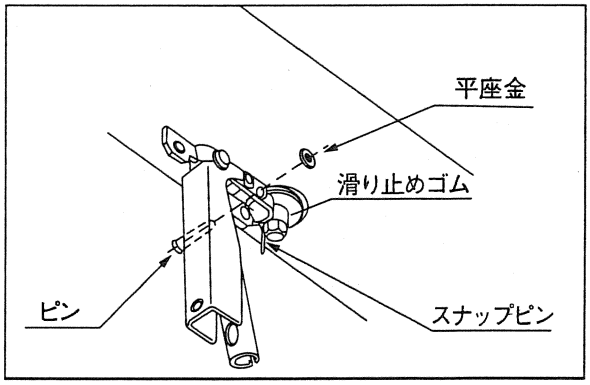
4 滑り止めゴムの表面に付いたゴミやホコリなどを完全に取り除きます。

5 インナーチューブ下側の2本のロッドで挟まれた間のゴミ・ホコリなどを完全に取り除きます。

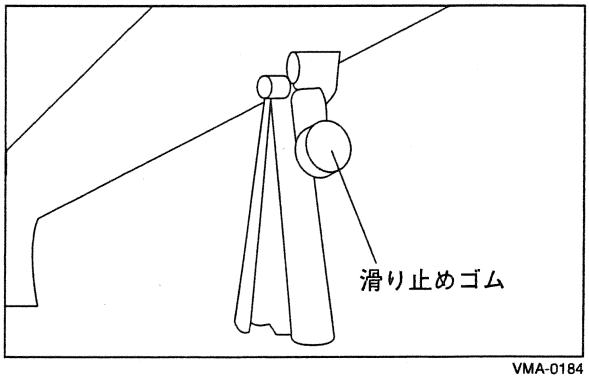
6 外すのと逆の順序で組み立てます。



VMA-0179



VMA-0180



VMA-0184

11.6.18 カッタ刃の交換

⚠警告

平坦な場所で必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

カッタ刃で手を切らないよう、手袋をして十分注意して作業してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1人作業は危険です。2人で作業してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

直接カッタ刃には触れないでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

カッタ刃の刃先が摩耗したり欠けていないか、また、ワラの巻き付がないか点検してください。
カッタ刃はシーズン前に点検し、200時間ごとに交換してください。

■交換のしかた

1 カッタを開けます。（☞93ページ参照）

2 プーリ、ギヤーなどの伝動部をギヤーのかみ合い部にドライバーなどをはさみ込んで外します。

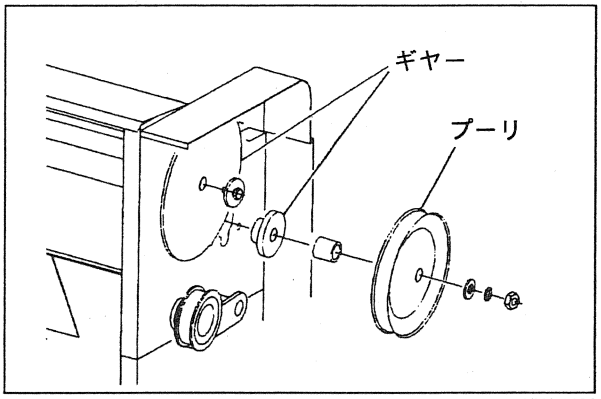
3 カバー（フロント）とカバー（R）を外します。

4 左右のセットボルト各3個をゆるめます。右側の3個を外した後で、軸左端を支えながら左側の3個をはずします。軸両端を2人で支えながら左側を矢印方向に移動させ抜き取ります。

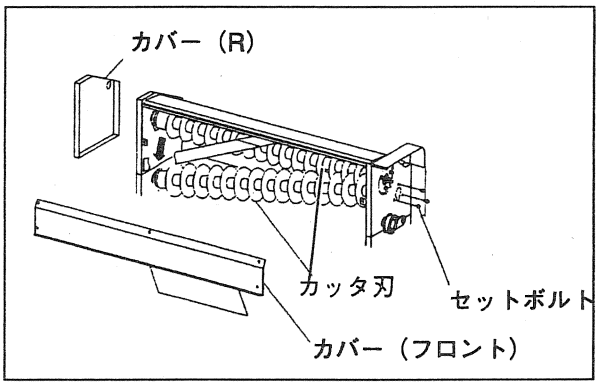
5 ロックナット、締付ナットを取り外し、カッタ刃を交換します。

6 次ページの軸の構成を参照して分解・組立を行います。

7 組み付けは逆の手順で行います。



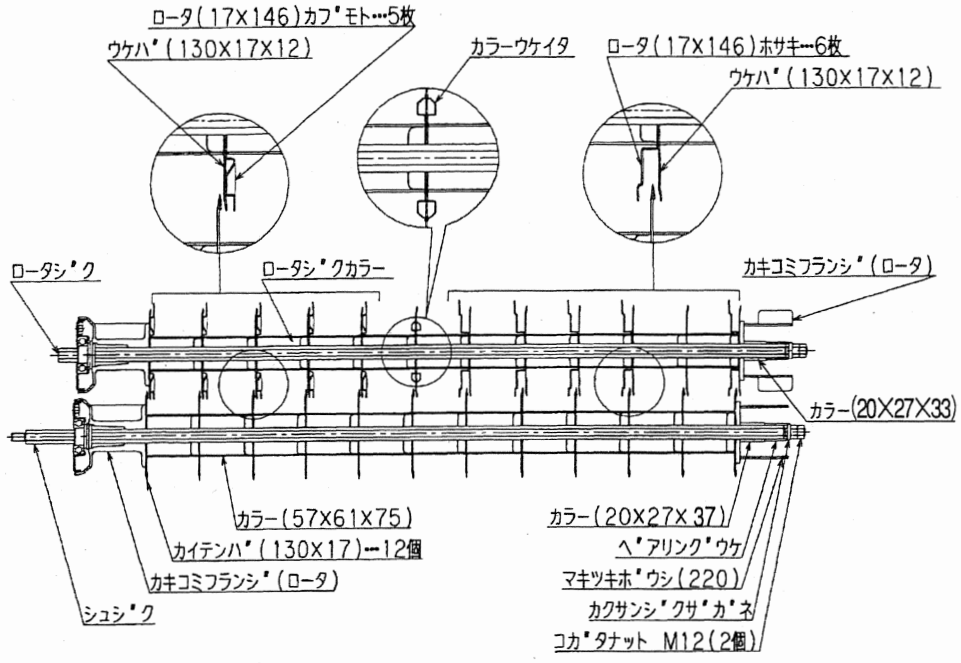
VMA-0185



VMA-0186

- 軸の締付トルクは下記の通りです。
  締付ナット：39.2N・m～44.1N・m（400～450kgf・cm）
  ロックナット：68.6N・m～73.5N・m（700～750kgf・cm）
- 規定トルクで締め付けてください。
- お買い上げ先に交換の依頼をしてください。

〈切断部の構成〉



VMA-0187

12. 格納時の手入れ

機械を長持ちさせるため、必ず手入れをしてください。

12.1 日常の格納

12.1.1 清掃について

動力散布機やコンプレッサ等を使い、きれいに清掃します。

⚠危険

機体カバーは、エンジン、マフラーが冷えてからかけてください。
※　守らないと、爆発や火災などを引き起こす原因となります。

⚠警告

清掃する場合は、必ず、平たんな場所エンジンを停止し駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いて行ってください。
※　守らないと、回転部にはさまれる等、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

格納は平たんな場所を選び、コンバインが動かないように車止めしてください。
※　守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

⚠注意

各部脱着、開閉を行うときは本機を路面等平たんな場所に止めて行ってください。
※　守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

取外した各部のカバー類は、忘れずに取り付けてください。
※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

空運転を行うときは、カバー類を取り付けてください。
※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

12.2 脱穀部の清掃のしかた

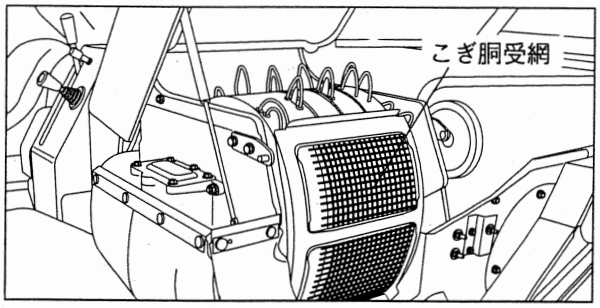
- 異なる品種の混合、稲・麦の混合を避けたい時や、シーズン終了後長期格納するときは脱穀部内の穀粒を取り除きます。
- コンプレッサーや動力散布機などを使ってきれいに清掃します。
- 各掃除口からエアーを吹きかけ、残粒、ワラ屑を上側から下側に順序よく取り除きます。

12.2.1 こぎ胴受網の抜きかた

注意

こぎ胴受網を組付けるときは、フックを確実にクリップに引掛けてください。
※ 守らないと、機体部品の破損、変形などを引き起こすおそれがあります。

1 こぎ胴カバーを開け、フィードチェンを外します。(☞ 90ページ、92ページ)



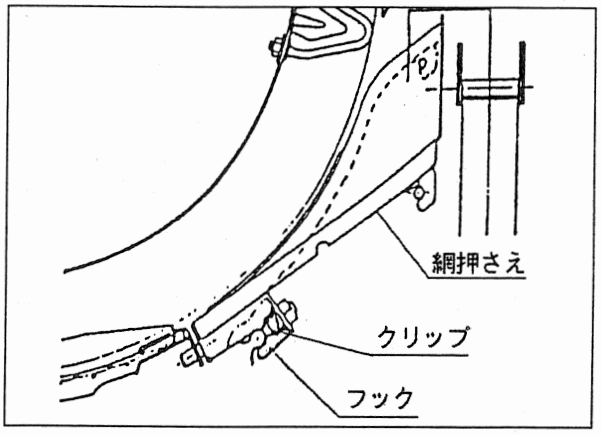
VMA-0188

2 網押さえを外します。

3 こぎ胴受網をこぎ胴下側より取り出します。

補 足

- **網押さえを取付ける場合は、前後4ヵ所のピンにフックを掛けてクリップは確実にピンに引掛けてください。**



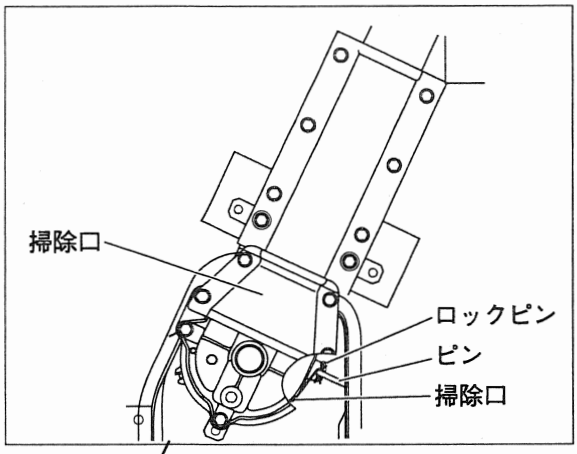
VMA-0189

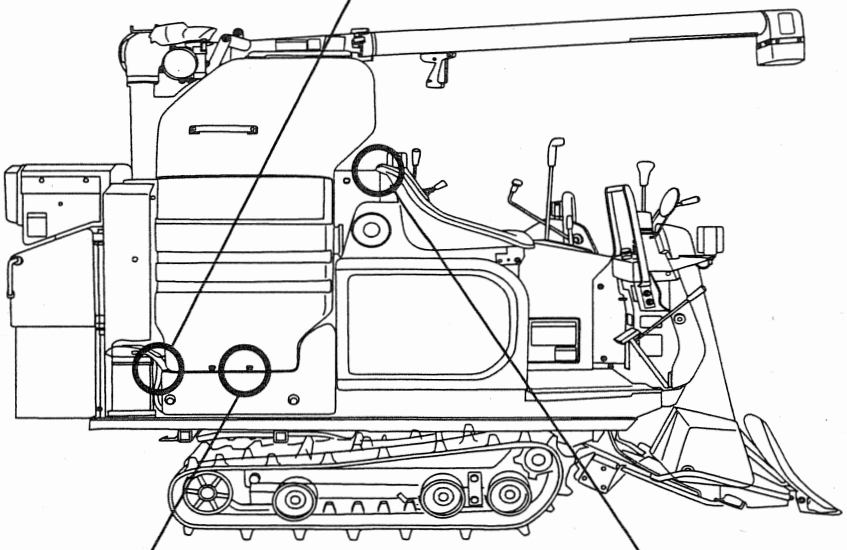
4 組み付けは、逆の手順で行います。

12.2.2 掃除口一覧

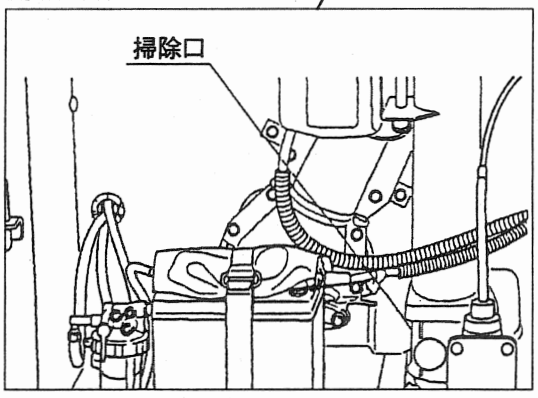
各掃除口を開け、清掃します。
清掃後は各掃除口を確実に閉めます。

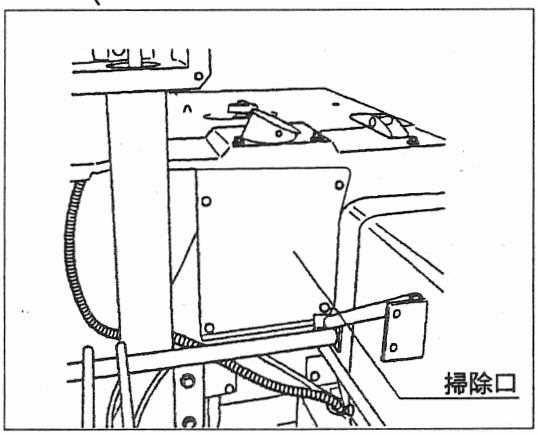
2番揚穀筒掃除口





揚穀筒掃除口

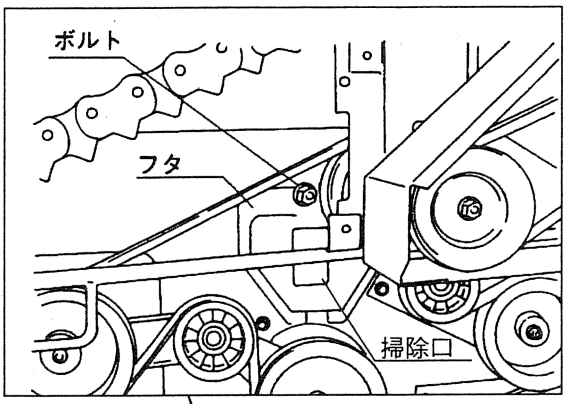




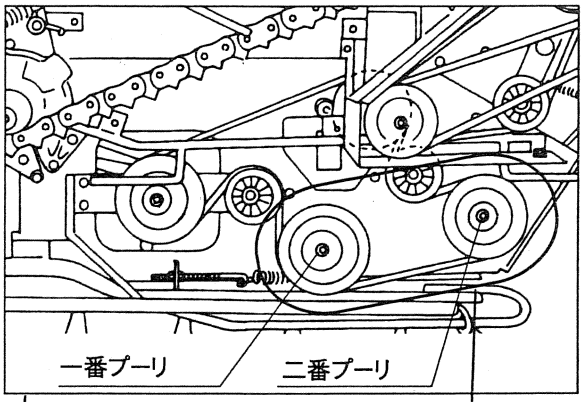
2番揚穀筒出口に詰まった場合は、
この掃除口を開けて掃除します。

VMA-0191

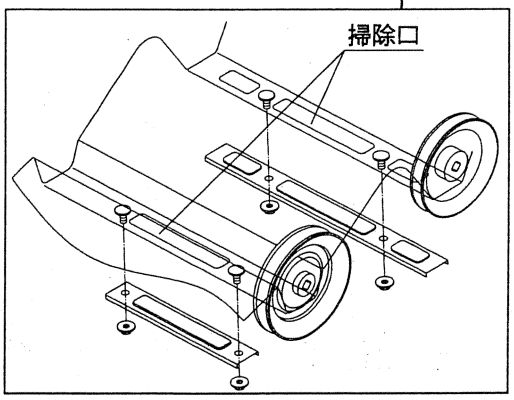
側板（左）掃除口



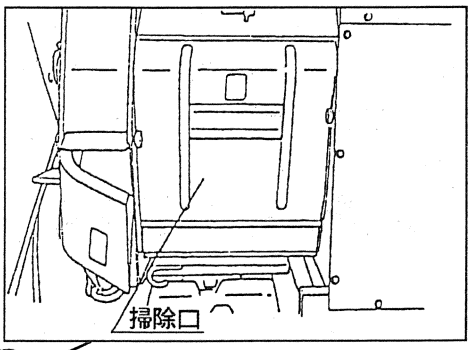
1番ラセン・2番ラセン掃除口

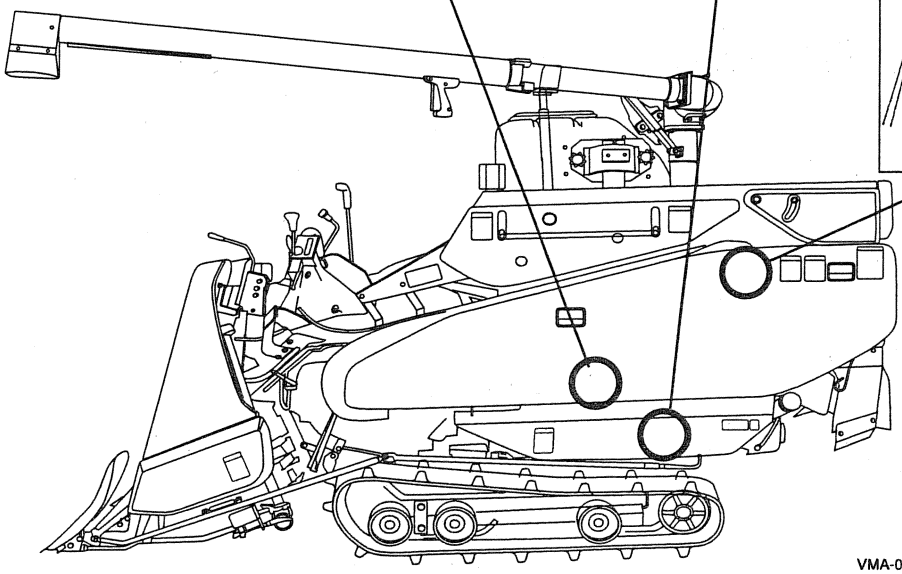


脱穀部後方掃除口



脱穀部後方掃除口





VMA-0192

12.3 長期の格納

各部についた泥やワラクズを取り除きます。

注意

脱穀内部、エンジン部、電装品などには、圧力水が直接かからないように注意してください。

※ 守らないと、機体部品の破損、変形などを引き起こすおそれがあります。

12.3.1 エンジン関係の手入れのしかた

(1) 燃料タンクは、満タンにしてタンク内の錆の発生を防ぎます。
(2) アクセルレバーは、必ず「低」側に一杯戻します。
(3) 冷却水は、冬期は完全に抜くか、不凍液を満タンに入れます。

12.3.2 バッテリの保管

(1) バッテリを取りはずし、乾燥した日光の当たらない場所に保管します。
(2) バッテリのハイドロメータが黒色の場合には補充電をします。

12.3.3 長期格納時の注油

下記の箇所に注油します。
(1) 刈取各部のチェンおよび刈刃。(オイル差しで注油します。)(☞ 54ページ)
(2) 脱穀各部のチェンおよび排ワラチェン。(オイル差しで注油します。)(☞ 54ページ)
(3) その他各レバーの支点部や各ベルトのテンションアーム支点部にも注油します。
(ベルトに油がかからないよう注意してください。)

12.3.4 長期格納時のグリースアップ

次の箇所に、グリースガンでグリースアップしてください。（☞ 120ページ）

(1) 転輪
(2) アイドルローラ

12.3.5 格納のしかた

(1) 湿気の少ない風通しの良い水平な場所に板をしいて、機械をのせます。
(2) 各レバーは「切」にします。
(3) 作業機切換レバーは「カッタ」位置にします。
(4) ナローガイド（左）を収納します。
(5) 燃料を満タンにします。
(6) バンパを取り付け、刈取部を一杯下げます。
(7) 車止めをかけ、駐車ブレーキレバーを解除します。
(8) メインスイッチを抜き取り、機体カバーを掛けます。

13. 不調時の診断と処置

⚠警告

点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてから行ってください。
※　守らないと、回転部等に手や衣服が巻き込まれ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検・整備は、広くて平たんな場所で行ってください。
※　守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

点検・整備で取り外したカバー類は、必ず元のとおり取付けてください。
※　守らないと、巻き込まれ、挟まれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

現　象	原　因	処　置	参照ページ
エンジンがかからない（セルモータが回らない場合）	ブレーキペダルを踏み込んでますか。	ブレーキペダルを踏み込んでください。	38
	脱穀クラッチレバーは「切」位置になっていますか。	脱穀クラッチレバーを「切」位置にしてください。	38
	バッテリが放電してハイドロメータが黒色または透明に変色していませんか。	黒色の場合は補充電、透明の場合はバッテリ交換する。	127
	バッテリの端子がゆるんでいませんか。	端子を清掃し、締め付けてください。	129
	スローブローヒューズが溶断していませんか。	交換して下さい。	131
エンジンがかからない（セルモータは勢い良く回るが、かからない場合）	燃料はありますか。	燃料を入れエアー抜きをしてください。	28, 40
	燃料系統に水が混入していませんか。	燃料フィルタの水を抜いてください。	119
	ヒューズがきれていませんか。	ヒューズを交換してください。	131
株の引抜きがある	デバイダが株の根元に突込んでいませんか。	マルチステアリングレバーでデバイダの先端を少し上げてください。	42
		デバイダを条間に合わせてください。	73
	作業速度が速すぎませんか。	作物、ほ場の条件に合わせて適正な速度で刈ってください。	68
	刈刃がよく切れますか。	刈刃と受刃のスキマを調整してください。	134

現　象	原　因	処　置	参照ページ
作物を搬送しない・搬送姿勢が乱れる	泥や草などが通路にたまっていませんか。	取り除いてください。	—
	株が抜かれていませんか。	デバイダが地面にささらないように刈ってください。	62,73
	刈取ベルトがすべっていませんか。	刈取クラッチワイヤを張るか、交換してください。	104
	こぎ深さが深すぎか浅すぎになっていませんか。	こぎ深さ指示マークに正しく合わせてください。	58
刈あとが悪い	刈刃部に泥や草がたまっていませんか。	取り除いてください。	27
	刈刃が浮き上がっていませんか。	調整してください。	133
	刈刃がすり減っていませんか。	刈刃を交換してください。	133
	刈刃が折れていませんか。	刈刃を交換してください。	133
選別が悪い （青葉や稈切れが多い）	エンジンの回転が低すぎませんか。	回転計の「作業」ゾーンで使用してください。	67
	トウミの風胴にワラ屑や籾がたまっていませんか。	ベルトカバーを開けて取り除いてください。	—
	吸引ファンの回転が低くないですか。	吸引ファンの回転を上げてください。	57
	作物が濡れていませんか。	乾いてから刈ってください。	—
	シーブ調節レバーの位置は適正ですか。	作物条件に合わせてシーブ調節レバーを調節してください。	56
	こぎ深さが深すぎませんか。	こぎ深さ指示マークに正しく合わせてください。	58, 84
	レールガイドがフィードチェンから浮き上がっていませんか。	フィードチェンに接するまで下げてください。	—

13. 不調時の診断と処置

現　象	原　因	処　置	参照ページ
脱プ粒が多い	エンジンの回転が高すぎませんか。	回転計の「作業」ゾーンで使用してください。	67
	シーブ調節レバーの位置は適正ですか。	シーブ調節レバーを「開く」側に動かしてください。	56
	吸引ファンの回転が高くないですか。	吸引ファンの回転を下げてください。	57
	籾排出時のエンジン回転数が高すぎませんか。（G型）	回転計の「作業」ゾーン下限で使用してください。（脱穀を「入」にして確認してください。）	67
	グレンタンクのシャッタの開度は適正ですか。（G型）	グレンタンクのシャッタの開度を狭める方向に調節してください。	51
枝梗付着粒が多い	エンジンの回転が低すぎませんか。	回転計の「作業」ゾーンで使用してください。	67
	シーブ調節レバーの位置は適正ですか。	シーブ調節レバーを「閉じる」側に動かしてください。	56
	排じん調節レバーの位置は適正ですか。	排じん調節レバーの位置を「少なくなる」側に動かしてください。	58
もみの飛散が多い	排じん調節レバーの位置は適正ですか。	排じん調節レバーの位置を「少なくなる」側に動かしてください。	58
	エンジンの回転数が高すぎませんか。	回転計の「作業」ゾーンで使用してください。	67
	シーブ調節レバーの位置は適正ですか。	シーブ調節レバーを「開く」側に動かしてください。	56
	吸引ファンの回転が高くないですか。	吸引ファンの回転を下げてください。	57
	作物が濡れていませんか。	乾いてから刈ってください。	—
こぎ残りが多い	こぎ深さが浅すぎませんか。	こぎ深さ指示マークに正しく合わせてください。	58, 84
	エンジンの回転が低すぎませんか。	回転計の「作業」ゾーンで使用してください。	67

現　象	原　因	処　置	参照ページ
こぎ室でゴトゴト音がして能率があがらない	作物が濡れていませんか。	乾いてから刈ってください。	—
	こぎ深さが深すぎませんか。	こぎ深さ指示マークに正しく合わせてください。	58, 84
	排じん調節レバーの位置は適正ですか。	排じん調節レバーの位置を「標準」または「多なくなる」側に動かしてください。	58
	レールガイドがフィードチェンから浮き上がっていません	フィードチェンに接するまで下げてください。	—
	脱穀切刃が摩耗していませんか。	切刃を交換してください。	136
	エンジンの回転数が低すぎませんか。	回転計の「作業」ゾーンで使用してください。	67
	こぎ胴カバーは完全に閉まっていますか。	こぎ胴カバーを確実に閉めてください。	90
自動こぎ深さ調節が正常に作動しない （自動こぎ深さ調節が作動しない場合）	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	130
	センサやスイッチが正常に作動していますか。	センサやスイッチを点検してください。	82,83
自動こぎ深さ調節が正常に作動しない （浅すぎ、深すぎになる場合）	株元センサ、穂先センサに草やワラが引っ掛かっていませんか。	取り除いてください。	82,83
ワラが切れない（カッタ）	カッタ刃が摩耗、損傷していませんか。	カッタ刃を交換してください。	140
	こぎ深さが深すぎ、または浅すぎませんか。	こぎ深さ指示マークに正しく合わせてください。	58, 84
	カッタ刃、ロータにワラが巻きついていませんか。	取り除いてください。	140
	カッタベルトがすべっていませんか。	カッタベルトを張るか、交換してください。	107
警報ブザーがならない	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	129
	配線が外れていませんか。	配線類を点検してください。	129

13. 不調時の診断と処置

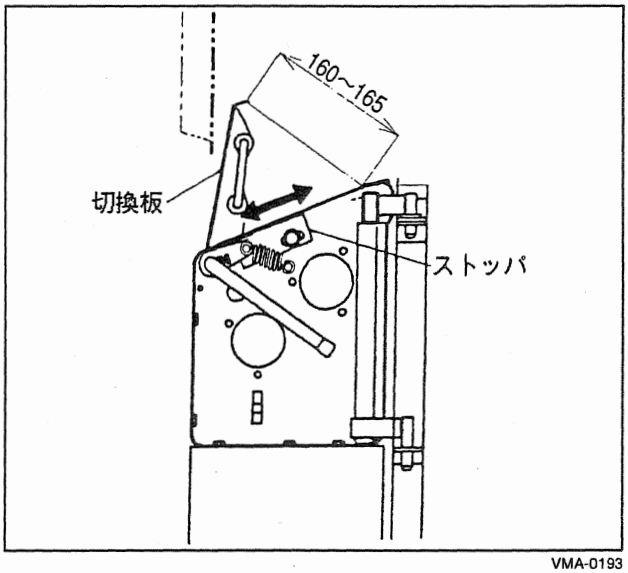
現　象	原　因	処　置	参照ページ
籾排出時に詰まる（G型）	グレンタンクベルトがすべっていませんか。	グレンタンクベルトを張るか、交換してください。	106
	グレンタンクカウンタベルトがすべっていませんか。	グレンタンクカウンタベルトを張るか、交換してください。	106
	グレンタンクのシャッタの開度は適正ですか。	グレンタンクのシャッタの開度を狭める方向に調節してください。	51
	エンジンの回転が低すぎませんか。	回転計の「作業」ゾーン下限で使用してください。	67
排出時間が長い（G型）	グレンタンクベルトがすべっていませんか。	グレンタンクベルトを張るか、交換してください。	106
	グレンタンクカウンタベルトがすべっていませんか。	グレンタンクカウンタベルトを張るか、交換してください。	106
	タンク内やオーガ内にワラ屑がたまっていませんか。	取り除いてください。	91,137
	エンジンの回転が低すぎませんか。	回転計の「作業」ゾーンで使用してください。	67
排出オーガが動かない（G型）	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	130
	センサやスイッチが正常に作動していますか。	センサやスイッチを点検してください。	82,83
	配線がはずれていませんか。	ハーネス、端子を点検してください。	129
排出オーガが異常に振動する（G型）	エンジンの回転数が合っていますか。	回転計の「作業」ゾーンで使用してください。	67
	グレンタンクベルトが摩耗していませんか。	グレンタンクベルトを張るか、交換してください。	106
	グレンタンクカウンタベルトが摩耗していませんか。	グレンタンクカウンタベルトを張るか、交換してください。	106

13.1 カッタが不調のとき

⚠警告

不調時の点検・調整は、エンジンが停止し回転が確実に止まったことを確認してから、注意して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

ここを点検して	こう処置します
●ベルトはスリップしていませんか。	カッタベルトのテンションの調整をしてください。（☞ 107ページ）
●こぎ深さは適正ですか。	こぎ深さ指示マークに穂先が合うように調節してください。（☞ 58, 84ページ）
●キリカエバンの開き高さは適正ですか。	キリカエバンが下図の寸法になるように、ストッパを調整してください。



VMA-0193

●カッタ刃は摩耗していませんか。	交換してください。（☞ 140ページ）
●カッタ刃へのワラの巻き付きはありませんか。	切断部を掃除してください。（カッタオープンのしかた；☞ 93ページ）

13.2 バラ落としが不調のとき

ここを点検して	こう処置します
●切換板は完全に閉まっていますか。（キリカエバンとフレームの間にワラ等がはさまっていませんか）	ワラ等を取り除き、キリカエバンを完全に閉めてください。（☞66ページ）
●ワラ通路にワラクズ、草等のゴミはありませんか。	ワラの通路を掃除してください。

14. 付表

14.1 推奨潤滑油一覧表

区分		商品名	SAE	API	容量	出荷時充填油
ディーゼルエンジンオイル		ディーゼルエンジンオイル	10W-30	SD/CC	20L	○
					4L	
ギヤオイル	走行メインギヤケース	U・T・Hオイル	80W		20L	
					4L	
		ドナックスTD（シェル石油）				○
	こぎ胴ギヤケースオイル	ハイポイドギヤオイル	90		20L	○
					4L	
一搬グリース		ユニルーフNo.2（協同油脂） 他有名メーカのリチューム系一般グリース				○
燃料		ディーゼル軽油 JIS2号～特3号（3号は厳寒時）				○
不凍液		モービルロングライフクーラント（L.L.C.）（モービル石油）				○
		アンチフリーズ（シェル石油）				
		他有名メーカー品を使用				

14.2 純正オイル一覧表

区分		商品名	SAE	API	容量
ディーゼルエンジンオイル		スーパーマルチGDオイル	10W-30	SL/CF	20L
					4L
		スーパーディーゼルCF-4	10W-30	CF-4	20L
					4L
ギヤオイル	走行メインギヤケース	スーパーマルチGBオイル	80W	GL-4	20L
					4L
	こぎ胴ギヤケースオイル	スーパーマルチSHPオイル	90	GL-5	20L
					4L

14.3 主要諸元

名称				三菱 VMA211		三菱 VMA211G
区分				KC	WKC	GKC
機体寸法	全長 (mm)			2,535		2,690
	全幅 (mm)			1,530		1,540
	全高 (mm)			1,680	1,685	1,820
機体質量(重量)(kg)				705	710	835
エンジン	型式名			E269		
	種類			水冷4サイクル2気筒立型ディーゼル		
	総排気量 (L{cc})			0.688 {688}		
	出力／回転数 (kW{PS}/min⁻¹)			8.1 {11.0} ／2600		
	使用燃料			ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量 (L)			10		
	始動方式			セルモータ式		
	バッテリー (V·Ah)			12・32		
走行部	クローラ	幅×接地長 (mm)		300×830	360×830	330×950
		中心距離 (mm)		715		765
		平均接地圧 (kPa{kgf/cm²})		13.9 {0.142}	11.7 {0.119}	13.1 {0.133}
	変速方式			HST（油圧無段変速）		
	変速段数 (段)			前進無段＋副変速2段、後進無段＋副変速2段		
	走行速度(m/sec)（エンジン定格回転速度時）		前進	0～0.55　0～1.45		
			後進	0～0.45　0～1.07		
刈取部	刈取条数 (条)			2		
	デバイダ先端間隔 (mm)			750～850		
	刈取装置形式			往復動刃式		
	刃幅 (mm)			750		
	変速段数			1（車速同調）		
	刈高さ範囲 (mm)			45～150		50～150
	こぎ深さ調整方式			電動式（自動・手動併用）		
脱穀部	脱穀方式			下こぎ軸流式		
	こぎ胴	径×幅 (mm)		400×350		
		回転数 (min⁻¹)		560		
	揺動板の幅×長さ (mm)			365×675		
穀粒処理部	穀粒処理方式			ホッパ付袋詰方式		グレンタンク方式
	容量 (L)			160		330
	吐出口数 (口)			1		－
	排出高さ (mm)			－		610～3625
	排出距離 (mm)			－		2450～3200
排ワラ処理装置				カッタ（C-VMA211）		
諸装置	警報装置			エンジンオイル、バッテリチャージ、水温、籾タンク、排ワラ詰まり		
	自動化装置	自動こぎ深さ制御		○		
		オーガ自動張出・収納		－		
	安全装置			バックブザー、エンジン始動セーフティスイッチ、排ワラ詰まり自動停止、手こき時緊急エンジン停止スイッチ、レセルダマチック		
	その他の装置			手もとデバイダ、定点停止、パワステ		
適用作物全長 (mm)				550～1200		
倒伏適応性 (度)				追い刈り85・向い刈り70		
作業能率 (min/10a)				56～102（稲）		
型式検査合格番号				－		
安全鑑定番号				30132		32155
小型特殊型式認定番号				農3082		申請中
運転免許				小型特殊自動車免許		

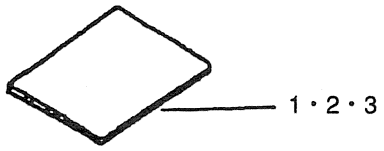
注. 作業時の機体寸法はカッタ作業時の寸法を示す。　この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

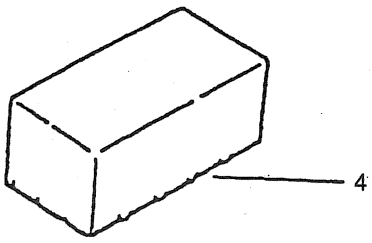
■主要諸元

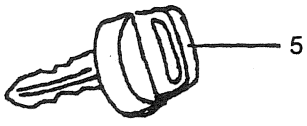
型　　式		C-VMA211
機体寸法	全　長（mm）	370
	全　幅（mm）	1320
	全　高（mm）	カッタ作業時　850　　バラ落とし作業時　770
カッタ質量（重量）（kg）		39
切　断　方　式		両刃及びカキコミロータの併用
刃の径（mm）	主　軸	φ130
	ロータ軸	φ130
刃の枚数（枚）	主　軸	12
	ロータ軸	12
カキコミロータの径（mm）		ロータカブモト……φ146　　ロータホサキ……φ146
カキコミロータの枚数（枚）		ロータカブモト……5　　ロータホサキ……6
切　断　長　さ（mm）		77
ワラの排出方式		切断排出及びバラ落とし

14.4 付属品一覧表

		品　　名	付属個数	備　　考
サービス品	1	取扱説明書	1	
	2	部品内容明細書	1	
	3	保証登録カード（保証書付）	1	
付属部品	4	機体カバー	1	
	5	スペアーキー	1	
	6	ボックススパナ（19）	1	



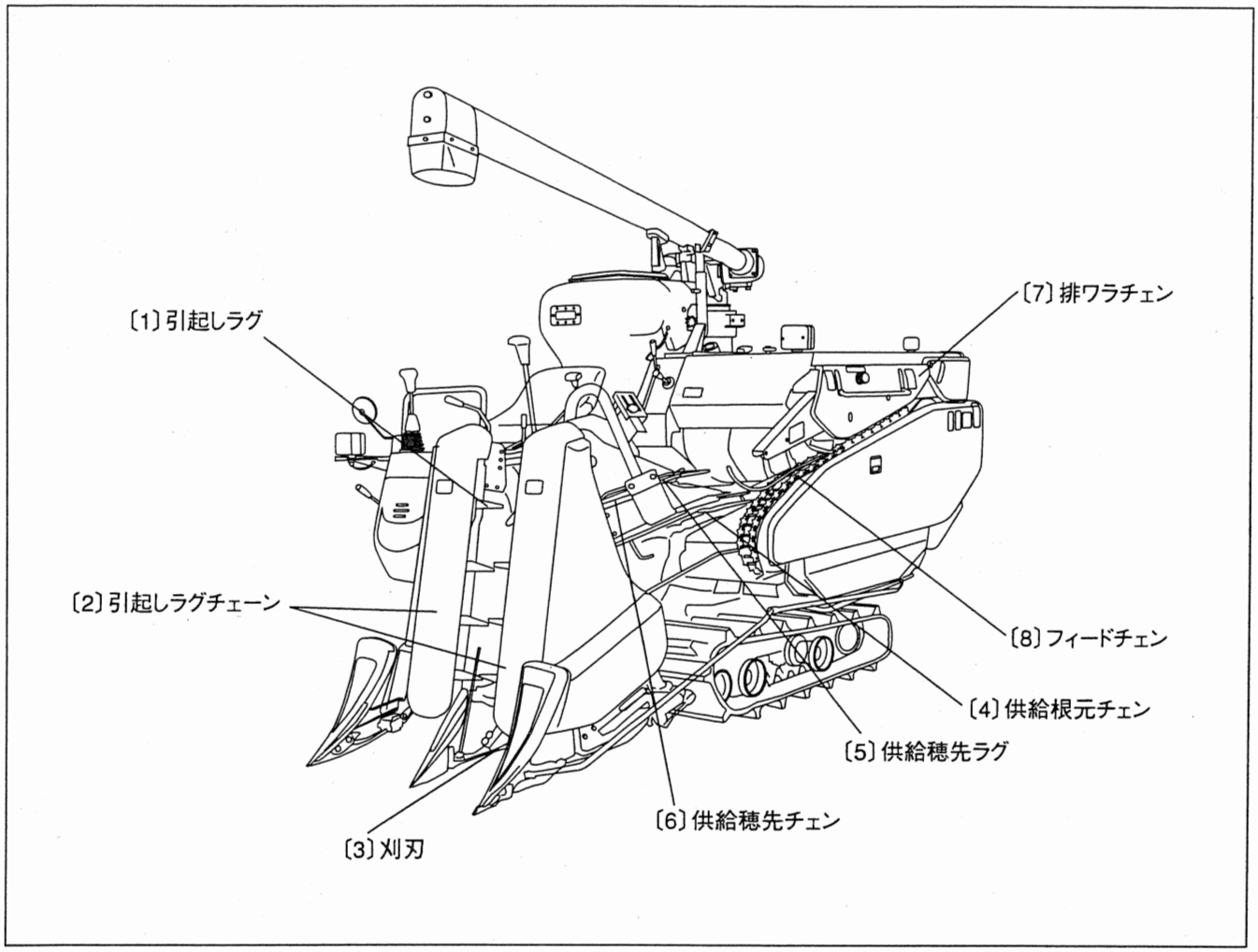






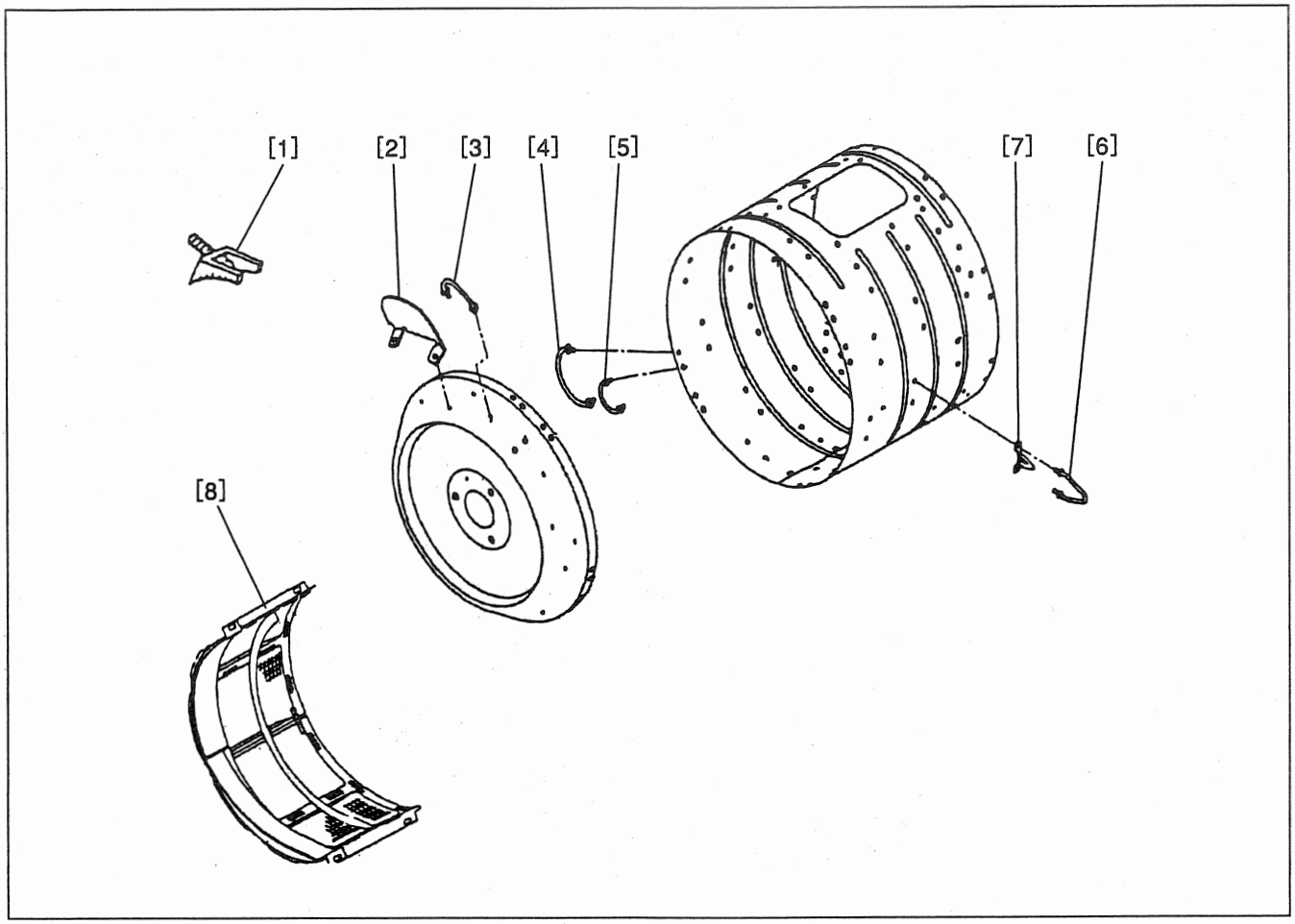
VMA-0194

14.5 主要消耗部品



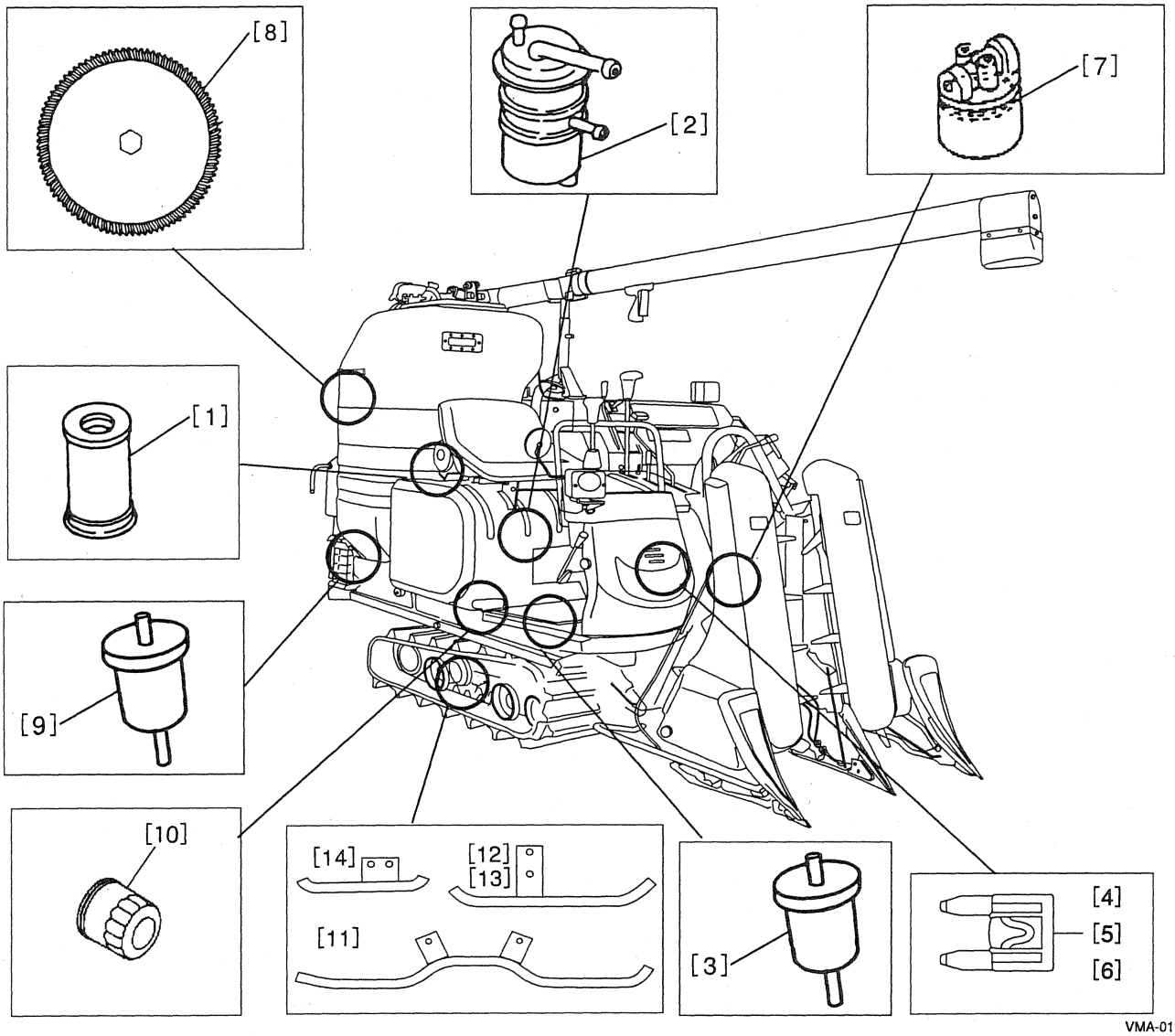
VMA-0195

No.	品　　名	注文コード番号	使用個数／台
[1]	タイン（ヒキオコシ）	9731-0000-240	18
[2]	ラグ（ヒキオコシ）ASSY	9731-0000-510	2
[3]	ナイフASSY	9731-0000-400	1
[4]	チェン（フィード/33×48）ASSY	9731-0000-520	1
[5]	タイン	9731-0000-590	8
[6]	ラグ（ヘッド）ASSY	9731-0000-420	1
[7]	チェン（フィード/33×61）ASSY	9731-0000-340	1
[8]	チェン（フィード/33×88）ASSY	9731-0000-550	1（G型）
[8]	チェン（フィード/33×78）ASSY	9731-0000-440	1（ホッパ型）



VMA-0196

No.	品　　名	注文コード番号	使用個数／台
[1]	キリハ　COMP	9731-0000-630	3
[2]	ツース　(No.2)	9731-0000-300	4
[3]	コギハ　(No.1)	9731-0000-060	4
[4]	コギハ　(No.3)	9731-0000-280	4
[5]	コギハ　(No.6)	9731-0000-290	4
[6]	コギハ　(No.5)	9731-0000-260	48
[7]	コギハ　(ナカ)	9731-0000-270	28
[8]	コンケーブ (9.2) COMP	9731-0000-430	1



VMA-0197

No.	品　　名	注文コード番号	備　　考
[1]	エレメント　ASSY	9911-0000-750	エンジン側
[2]	フィルタ（ヒューエル）　ASSY	9731-0000-040	燃料タンク側
[3]	フィルタ　ASSY	9731-0000-020	
[4]	ヒューズ（ブレード／32V／10A）	9911-0000-830	
[5]	ヒューズ（ブレード／32V05A）	9950-0001-910	
[6]	ヒューズ（ブレード／32V20A）	9731-0000-580	
[7]	オイル（フィルタ）　ASSY	9731-0000-010	
[8]	カイテンバ（130×17）	9731-0000-680	
[9]	フィルタ（フューエル）ASSY	9731-0000-030	
[10]	カートリッジ（オイルフィルタ）	9911-0000-660	
[11]	ガイド（クローラ）	9731-0000-230	ホッパ型
[12]	ガイド（クローラ/F/LH）COMP	9731-0000-460	G型
[13]	ガイド（クローラ/F/RH）COMP	9731-0000-470	G型
[14]	ガイド（クローラ/リヤ）COMP	9731-0000-480	G型

14.6 オプション一覧

No.	作業機名称	注文コード番号	品名
[1]	スーパーデバイダ	37813 30010	SP-HS211 SET
[2]	ドロッパ	37801 40010	ドロッパ（S-H211D）ASSY
[3]	セーフテイーチャージャー	9731-0000-050	チャージャー（バッテリ/A）SET
[4]	排ワラ延長部品	9731-0000-560	バラオトシ/ワラダシSET
[5]	注油部品	9731-0000-530	チュウユ（ハイカン）SET
[6]	電動給油ポンプ	9731-0001-650	ポンプ（キュウユ）SET

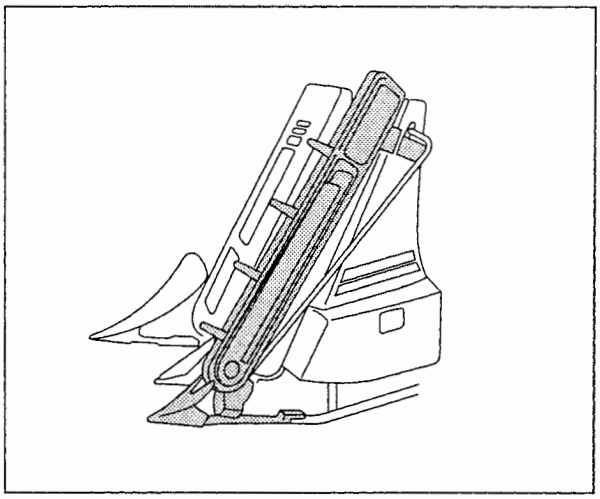
14.7 注文部品の紹介

◆スーパーデバイダ

●倒れた稲も、スイスイ作業できます。

●ラグ作用高さのワンタッチ切換レバーで
簡単にラグ作用高さが換えられます。

注文部品名	注文コード番号
SP-HS211 SET	37813 30010

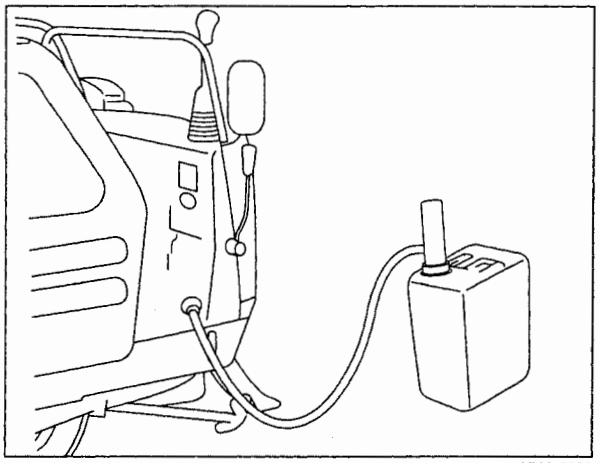


VMA-0198

◆電動給油ポンプ

●電動給油ポンプでらくに給油ができます。

注文部品名	注文コード番号
ポンプ（キュウユ）SET	9731-0001-650

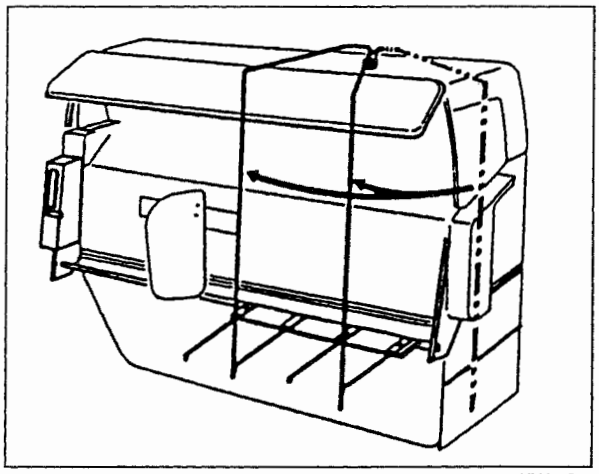


VMA-0199

◆ドロッパ（単体）

集 束 量	3～7kg

注文部品名	注文コード番号
ドロッパ(S-H211D) ASSY	37801 40010

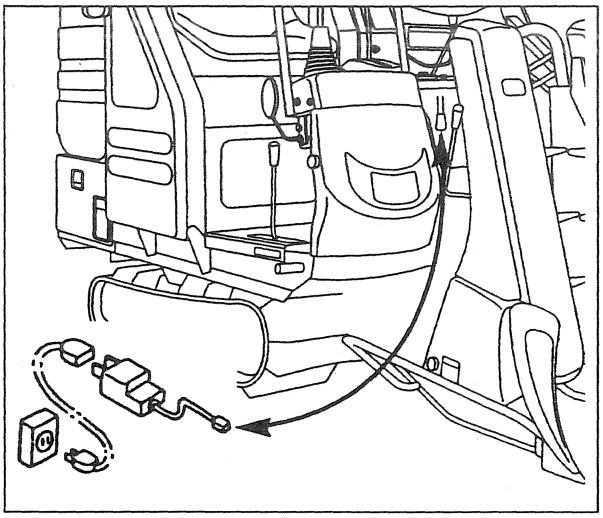


VMA-0200

◆セーフティーチャージャー

●本格収納時、家庭用電源（AC100V）を使用してバッテリに電流を供給し放電防止および補充電ができます。

注文部品名	注文コード番号
チャージャー(バッテリ/A)SET	9731-0000-050

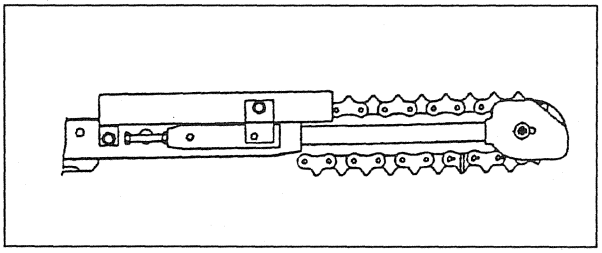


VMA-0201

◆排ワラ延長部品

長ワラ落下作業でワラ落下位置を右によせることができます。

注文部品名	注文コード番号
バラオトシ/ワラダシSET	9731-0000-560

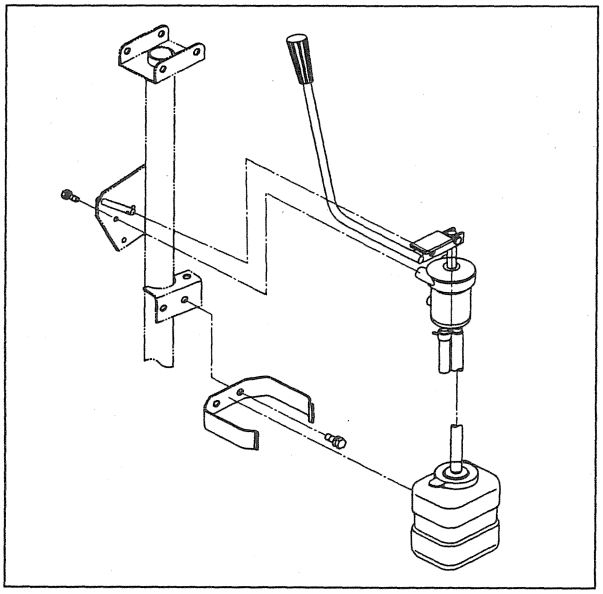


VMA-0204

◆注油部品

レバー操作で刈取部のチェンと刈刃部に注油できる様になります。

注文部品名	注文コード番号
チュウユ（ハイカン）SET	9731-0000-530



VMA-1104

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式

機械番号(製造番号)

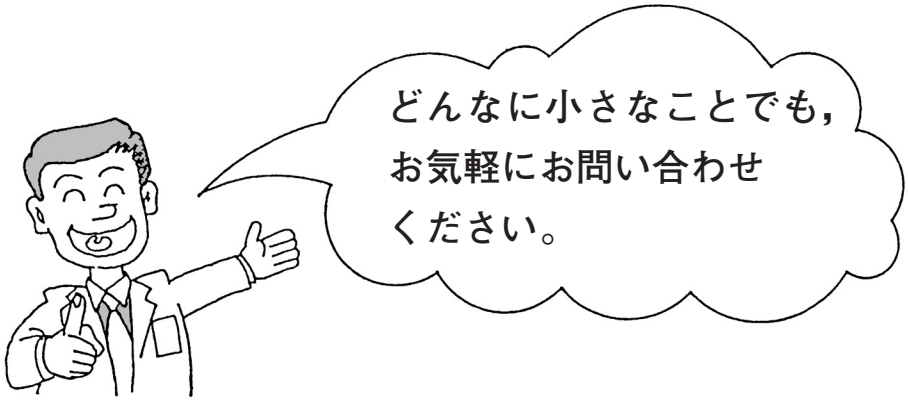
●ご使用状況は…？

(どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)